

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道(末吉財部IC～国分IC間)の建設を計画し、事業区域内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育委員会、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所、鹿児島県立埋蔵文化財センターとの間で協議を行い、工事予定区内の埋蔵文化財の分布調査を行うこととした。分布調査は平成6年10月と平成7年5月に実施した。

その結果、工事予定区域内に13か所の遺物散布地や確認調査の必要な地点の所在することが判明した。そこで、再度協議を行い、平成8年4月から用地買収等の条件が整った区域を対象として、順次確認調査を実施することとなった。

確認調査は、桐木遺跡を平成8年4月22日～7月21日に、耳取遺跡を平成8年5月24日～7月5日と平成9年1月28日～1月29日に実施した。

確認調査の結果、旧石器時代から縄文時代晩期の遺物包含層が残存することが判明し、再協議を経て鹿児島県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査の組織

平成8年度 確認調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長

尾崎 進

主任文化財主事兼調査課長

戸崎 勝洋

主任文化財主事兼課長補佐

新東 晃一

主任文化財主事兼第三調査係長

池畠 耕一

調査担当者

文化財主事

宮田 栄二

"

寺師 孝則

文化財研究員

寺原 徹

文化財調査員

松村 智行

事務担当者

主 査

成尾 雅明

主 査

前屋敷裕徳

主 事

追立ひとみ

平成9年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長

尾崎 進

主任文化財主事兼調査課長

戸崎 勝洋

主任文化財主事兼課長補佐

新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長

立神 次郎

調査担当者

文化財主事

宮田 栄二

"

大保 秀樹

事務担当者

主 査

前屋敷裕徳

主 査

政倉 孝弘

主 事

追立ひとみ

平成10年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長

尾崎 進

主任文化財主事兼調査課長

戸崎 勝洋

主任文化財主事兼課長補佐

新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長

立神 次郎

調査担当者

文化財主事

長野 真一

"

大保 秀樹

"

濱崎 一富

"

立部 剛

事務担当者

主 査

長野 真一

主 査

政倉 孝弘

主 事

滝池 佳子

平成11年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長

黒木 幸宰

主任文化財主事兼調査課長

戸崎 勝洋

主任文化財主事兼課長補佐

新東 晃一

主任文化財主事兼第二調査係長

立神 次郎

主任文化財主事

長野 真一

調査担当者(桐木遺跡)

主任文化財主事

長野 真一

文化財主事	立部 剛	企画・調整 施設島県教育庁文化財課
文化財研究員	宗岡 克英	調査責任者
文化財調査員	切通 雅子	施設島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
(耳取遺跡)		調査企画者
主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎	次長兼総務課長 黒木 友幸
文化財主事	大保 秀樹	主任文化財主事兼調査課長 新東 真一
"	溝口 学	課長補佐 立神 次郎
"	濱崎 一富	主任文化財主事兼第二調査係長 強榮 久志
文化財研究員	今村 敏照	主任文化財主事 長野 真一
"	藤野 義久	調査担当者
"	山崎 克之	文化財主事 鶴田 静彦
"	宇都 俊一	" 岩澤 和徳
"	有馬 孝一	" 山崎 省一
文化財調査員	松村 智行	文化財研究員 永瀬 功治
"	徳田有希乃	" 桑波田 武
事務担当者		文化財調査員 稲渡将太郎
総務係長	有村 貢	立神 勇志
主査	政倉 孝弘	事務担当者
主事	溜池 佳子	総務係長 前田 昭信
平成12年度 本調査		主査 萩山 和己
事業主業者 日本道路公団九州支社施設島工事事務所		主事 池 珠美
調査主体者 施設島県教育委員会		
企画・調整 施設島県教育庁文化財課		
調査責任者		
施設島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文		
調査企画者		
次長兼総務課長 黒木 友幸		
主任文化財主事兼調査課長 新東 真一		
課長補佐 立神 次郎		
主任文化財主事兼第二調査係長 強榮 久志		
主任文化財主事 長野 真一		
調査担当者(桐木日遺跡)		
主任文化財主事 長野 真一		
文化財主事 溝口 学		
文化財研究員 宇都 俊一		
文化財調査員 萩山 葉子		
(耳取遺跡)		
文化財主事 大保 秀樹		
" 松尾 魁		
文化財研究員 西園 勝彦		
文化財調査員 松本 信光		
事務担当者		
総務係長 有村 貢		
主査 政倉 孝弘		
主事 溜池 佳子		
平成13年度 本調査		
事業主業者 日本道路公団九州支社施設島工事事務所		
調査主体者 施設島県教育委員会		

第3節 発掘調査の経過

平成9年度は桐木遺跡を主体に、職員2名体制で4月21日～平成10年3月23日まで発掘調査を実施(実働200日間)し、主に国道10号線に面した北斜面(A～E-7～12区)を調査範囲とし、第X層までを目標とした。なお、調査面積は約2,100m²であった。

V層は縄文時代中期の遺物包含層で、瀬戸内系の縄文土器と貼り付け突堤をもつ尖底条痕文土器が大量に出土し、石器や石器の石器類も大量に製作していた。VI層～VII層は石坂式土器や塞ノ神式土器等の早期の遺物包含層で、広範囲に分布する傾向が窺えた。X層からは草創期の隆線文土器や石器・礫群等が出土し、石器は剥片や碎片の存在から遺跡内で製作した可能性がある。また、遺跡内に国道10号線と平行に水道本管が通っており、調査と平行してこの移設準備も行った。

平成10年度は桐木遺跡の調査を継続し、職員4名体制で4月21日～平成11年3月23日まで調査を実施した(実働191日間)。調査面積は3,827m²である。昨年の調査結果から、重複した遺物包含層が広範囲に広がる可能性が高いことが予想されるため、トレーン調査も並行した。その結果、耳取遺跡に面した斜面(北斜面)に遺物包含層が集中し、重複する状況が判明した。他方、南側では時代・時期毎に個別の選地が認められ、大方の遺跡概要を把握できる結果が得られた。本調査は、前年度の調査区の掘り下げを継続しながら周辺へ調査範囲を拡幅し、調査の進捗を目指した。

X層の縄文時代草創期では集石遺構10基を検出し、X1層からは草創期と重複しさに東方向に展開を示す細石器石器群を検出した。

平成11年度は、桐木遺跡に職員4名、耳取遺跡に職員4名

の調査体制を組み4月21日から平成12年3月23日まで実施した(実働202日間)。

桐木遺跡では、国道10号線の耳取橋建設工事のため迂回路部分の調査が加わることとなった。

耳取遺跡の確認調査では3文化層の存在が確認されていたが、本調査で縄文時代晩期からナイフ形石器文化に至る11文化層の存在が明らかとなった。加えて遺跡の範囲が拡大することとなり、調査期間の延長を余儀なくされた。そのため、12月に職員2名、平成12年1月に職員4名の体制強化を行い、調査体制の強化と調査の進展を図った。

VI層からは、ラッパ状に外に開いた口縁部に耳取突手(半月形)が貼り付けられた独特の大型の塞ノ神臼式土器が出土している。VII層には縄文時代早期の押型文土器が広範囲に分布し、集石造構と共に夥しい礫が発見された。X層からは南九州特有の幅広隆蒂文土器が丸彫型石斧や石鎌と共に出土し、桐木遺跡のX層土器との違いを展開していた。XI層・XII層は細石器石器群の包含層で、細石核形態の変遷が辿れそうな充実した資料が出土した。またXIII層では石器群が環状に残され、台形石器を大量に製作していた。

XVII層の剥片尖頭器石器群と平行する礫群が桐木、耳取両遺跡で確認され、礫群の構造・配置構成から有機的に展開した同時期の所産として取り扱った。調査終了直前には線刻礫が出土し、耳取ヴィニースと命名した。

平成13年度の調査は、末吉財部I～大隅Iのエリアを調査対象に取り込み、桐木B遺跡と呼称して調査を継続した。耳取遺跡では、XVII層を中心とした調査を継続し、3遺跡の礫群総数は90基に達している。

調査体制は桐木B遺跡を職員4名で実施し、遺物包含層の把握と本調査を実施した。9月からは調査の終了した耳取遺跡の職員2名を合流し、遺跡面積は2,400m²に達している。

平成14年度は桐木B遺跡の調査を実施し、職員7名を投入、平成15年3月全ての調査を終了した。

第4節 整理・報告書作成の組織

平成14年度

事業主体者 日本道路公团九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文

作成企画者

次長兼統務課長

総務係長

前田 昭信

主 査

栗山 和己

主 事

池 珠美

平成15年度

事業主体者 日本道路公团九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

作成企画者

次長兼総務課長

田中 文雄

調査課長

新東 晃一

課長補佐

立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長

彌栄 久志

主任文化財主事

長野 真一

作成担当者 (桐木遺跡)

主任文化財主事

長野 真一

文化財主事

鶴田 静彦

"

吉井秀一郎

文化財研究員

馬籠 亮道

(耳取遺跡)

文化財主事

大保 秀樹

文化財研究員

真鍋雄一郎

事務担当者

総務係長

平野 浩二

主 査

福山恵一郎

主 事

池 珠美

平成16年度

事業主体者 日本道路公团九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

作成企画者

次長兼統務課長

賞雅 彰

調査課長

新東 晃一

課長補佐

立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長

彌栄 久志

主任文化財主事

長野 真一

作成担当者 (桐木遺跡)

主任文化財主事

長野 真一

文化財主事

松尾 勉

"

八木澤一郎

"

岩戸 孝夫

"

元田 順子

文化財研究員

馬籠 亮道

文化財調査員

鮫嶋 伸吾

"

山元真美子

事務担当者

(耳取遺跡)	整理作業員
文化財主事	赤塚涼子、有村貴子、石坂きくえ、伊藤ひとみ、今西ゆかり、今村智子、岡島明子、音堅晴美、乙藤直美、加藤明子、
文化財研究員	真鍋雄一郎
事務担当者	飯屋涼子、川野高子、川畑淳子、肝付まゆみ、久保可代、児玉さつ子、小蘭裕子、小村幸子、追間洋子、駿崎みどり、猿川美和子、猿渡初美、砂田せつ子、瀬戸口良子、大王美代子、高岡真由美、竹之下ハルミ、立野里沙、徳重真子、長澤みどり、永野愛子、花野教子、林江理子、瀧畠かづえ、東国原ゆかり、平岡増子、藤田みどり、堀切祥子、宮原美子、宮田麻衣子、山下瑞恵、雪松幸子
報告書作成検討委員会	平成16年12月27日所長他10名
報告書作成指導委員会	平成16年12月24日調査課長他4名

第5節 整理・報告書作成の経過

平成14年度から整理・報告書作成業務を開始し、14年度は耳取遺跡、15年度に桐木遺跡、耳取遺跡、16年度に桐木B遺跡を取り込み、桐木耳取遺跡として報告書作成に努めた。

指導者・協力者

日本道路公团九州支社	
日本道路公团鹿児島工事事務所	
末吉町教育委員会	
財部町教育委員会	
阿部芳郎(明治大学文学部助教授)	
安藤政雄(明治大学文学部教授)	
安斎正人(東京大学大学院人文社会系研究科助手)	
泉 拓良(京都大学)	
稻田孝司(岡山大学文学部教授)	
大塚達郎(南山大学教授)	
岡村道雄(独立行政法人奈良文化財研究所)	
織笠 昭(東海大学文学部助教授) 故人	
加藤真二(文化庁記念物課文化財調査官)	
木崎康弘(熊本県装飾古墳館)	
小田静夫(東京都教育委員会)	
小畑弘己(熊本大学文学部助教授)	
坂本嘉弘(大分県教育庁文化課)	
佐藤宏之(東京大学大学院人文社会系研究科助教授)	
白石浩之(愛知学院大学教授)	
鈴木正博(早稲田大学文化遺産デジタルアーカイブ研究所 顧問)	
高橋信武(大分県教育庁文化課)	
橋 昌信(別府大学文学部教授)	
藤野次史(広島大学文学部助教授)	
峰 和治(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科応用解剖学分野助手)	

助言者

阿部敬、雨宮端生、井ノ上秀文、岩永哲夫、岩永雅彦、岩谷史記、川道寛、切通雅子、倉元良文、栗山葉子、桑波田武志、立神勇志、立部剛、堂込秀人、萩原博文、藤木聰、古森政次、松本茂、吉留秀敏、綿貫俊一
--

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と特色

桐木遺跡は、曾於都末吉町諏訪方字桐木に、そして耳取遺跡は、曾於都財部町南俣字耳取に所在する。

二つの遺跡が所在する末吉町及び財部町は、県の北東部、大隅半島の最北端に位置する。財部町、末吉町は、両町が属する曾於郡の北部をなすと同時に、県境に位置し、宮崎県都城市と接している。鹿児島県北部から大隅半島北半部にかけてのこの地域の地形を概観すると、東西の山地とこれらに挟まれた低地帯から構成されていることが分かる。東西の山々は、東の鶴塚山地、西の高隈山地に連なり、いずれも九州山地の中長をなし、それらの間の低地帯は、都城盆地とその南の志布志溝及び鹿屋に向かうものである。さらに、こうした基盤の地形の上に、入戸火砕流堆積物の非溶結部が厚く堆積することで、いわゆるシラス台地が広く分布し、桐木耳取遺跡の位置する段丘もシラス台地に相当する。両町の河川はこの台地群をねうように見られる。これらの諸河川は、財部町及び末吉町北部から東部にかけてを大淀川水系、末吉町中部から南部の境界付近にかけてを菱田側水系にそれぞれ属しており、これらの河川に沿うように集落や水田が散在する。地質は大部分がシラス、ボラなどの火山灰土壌となっている。年平均気温は15.8度、年降水量は2400mm程度である。

さて、桐木耳取遺跡は財部町及び末吉町の町境に位置し、東西の山地から東部の都城盆地に漸移する標高200~360mの丘陵性台地が卓越する地域である。この丘陵性台地は、大淀川水系に属する諸河川により侵食を受け、小台地群に分離されているが、桐木耳取遺跡は今別府川右岸に発達した同一の小台地群の一つに立地する。

◇遺跡を取り巻く地形・水文環境

まず、5万分の1地形図図幅の範囲において行った地形分類によって、遺跡のおかれた地形を概観すると、図幅中央をほぼ南北に走る山地があつて、東側の都城盆地に傾く地域と西側の国分低地へ傾く地域を分かれている。南部は隣接する岩川図幅と同じく、西岸に高隈山地があり、その東に東へ傾く牧之原台地が付着し、西高東低の地形を形成している。(第1図)

まず山地は北部より南部に向かって、瓶巖山(543m)、黒石岳(524.7m)、白鹿岳(604m)、荒磯岳(538.7m)と標高500~600mの山々をもつとして中生代後期から新生代前期になる小起伏山地が連なるが、瓶巖山や白鹿岳を中心とした山地には中起伏山地も見られる。これら山地は九州を構成する大地形の枠組みの中で見ると、西南日本外帯西縦にあたる九州山地とひと続きの地質構造をもち、南の大隅半島側が大きく屈曲することによって、琉球外弧の北端をなすにいたった地域である。さらに九州山地の延長は、宮崎平野から南南西に続く都城盆地により、東側の鶴塚山地と西側の高隈山地に分けられ、本図幅に見られる山地群は西側の高隈山地から種子島・屋久島へと連なっていく。また、この山地群の西は、

火山フロント及び琉球内弧にある鹿児島地溝の東縁の断層崖によって明確に区分される。

次に山地群に付着するような形で分布するのが、丘陵地である。上述した山地群は約2.8~2.5万年前に噴出した入戸火砕流堆積物によって、その谷が埋められて緩傾斜の丘陵地形を形成したものと思われる。さらに、この火砕流堆積物によって形成された台地も広範囲に分布する。この台地は本図幅中央部の山地群を境に、東西にいずれも約300m程の標高を示し、河川による侵食・開析が進んでいるが、その様相は東西で異なる。台地原面を比較的広く残す西側の台地(牧園・春山原・須川原・上野原)に対し、東側は台地を侵食した河谷の斜面が広い部分を占め、台地原面は局部的に残存するに過ぎない。近接する河谷との比較でも西側では200~250mに達するに対し、東側では100m未満であることが多い。

台地に小規模ながら付着するのが段丘面である。本分類では中位段丘面として取り扱った。大淀川水系に属する横市川、後川などが都城盆地の西縁をなす財部町市街地付近に集まる部分に比較的まとまって見出せる。これらは、いずれもシラス台地に多く見られる河成侵食段丘であると思われ、入戸火砕流堆積後、極めて短期間に形成されたであろうことが報告されているが、詳細は後述する。

最後に地底だが、台地や丘陵間の河谷沿いに見られる小規模な谷底平野を除けば、図幅西縁の国分低地が最大である。この低地を含めた始良カルデラ北縁地域には完新世段丘が認められるが、その詳細な地形発達史については、ここでは省略する。図幅東縁は、都城盆地西縁をなす低地が見られ、財部町市街地にあたる。

さて、以上の地形の概観をふまえて、桐木耳取遺跡周辺の地形に統合みると、遺跡は黒石岳、白鹿岳、荒磯岳といった山地群から、都城盆地に向かって下る小台地群や中位段丘面に移行する緩やかな斜面上に立地する。両遺跡は国道10号線によって分けられ、現在、別々の町に属しているものの、同一の台地上にあり、遺跡内の遺構、遺物の分布からもひと続きの遺跡であることが分かる。桐木耳取遺跡が立地する台地は、大淀川水系に属する今別府川と村山川によって挟まれており、いずれも東流して大淀川に合流することから、これらによって南北に分断され、東西の細長い形状をなす。遺跡周辺の地形の基盤をなすのは、山地の主体となっている四十万層群であると思われるが、入戸火砕流堆積物によつて、その低所が埋積された。さらに、その後の侵食・開析過程によって、現在の地形を形成している。

この侵食・開析過程については、その大半が入戸火砕流堆積後、無植生のうちに、流水による激しい侵食・開析が極めて短期間のうちに行われたという説明がある。本地域でも、台地面のみならず、河成侵食段丘の段丘面や地形分類が表れにくい小規模な階段状の地形における平坦面などにおいて、シラス上位に後退する成層した二次シラスが、露頭や近辺の発掘調査で数多く確認された。加えて、二次シラスの上にの

るローム層中に約2.2~2.3万年前の噴出物とされるSz-Tk6(桜島高峰・P17)が見出せることは、少なくとも、このテフラの堆積までには、現地形の大半が形成されたことが推察される。

このようにして、台地の分断や高密度の谷分布が本地域でも形成されたが、ここで現在の水系にも目を移してみたい。現在の大淀川水系の原型は前期更新世中葉から後半というかなり古い時期に想定されており、桐木耳取遺跡において確認されている最も古い遺物、遺構である後期旧石器時代以降の古水系は、現水系とはほぼ同一の流行が想定できる。ただし、志布志溝に向かって南下する菱田川水系が末吉町内を大淀川と並行しており、両水系は末吉町、財部町の町境付近で分水界をなしている点に特徴がある。特に、桐木耳取遺跡より西方に約3kmの地点は、今別府川と菱田川水系に属する佳例川の最上流部にある。この部分については、過去河川の流路変更の可能性がある。菱田川水系に西方から流れる支流や谷については、水系図や接縫面図から見ても、そのまま今別府川に流れ込む方が自然である。おそらく、現在の菱田川水系の上流部は、今別府川に属していたが、その後の菱田川水系によって争奪されたものと思われる。河川争奪の時期の詳細は不明であるが、これまでの先行研究と合わせてみると、入戸火碎流の堆積がその契機であった可能性がある。この河川争奪の原因の一つとしては、侵食基準面すなわち海水面までの距離が考えられる。入戸火碎流堆積後、両河川の開析は旧河谷をなぞるようになされたものと思われるが、仮にこれが同じ速度で進んだとすると、菱田川の方が早く遺跡付近に到達するのは当然である。

さらに、桐木耳取遺跡の属する台地の北を流れる今別府川の継続曲線を見ると、遺跡付近は同河川の遷移点になっていることに気づく。すなわち、緩やかに東流してきた今別府川が遺跡直下で蛇行するとともに蛇路をなす。そして遺跡を通じたところで河川の勾配を増している。これは、後述する砂岩頁岩互層である四四十層群が基盤の高まりとして遺跡付近に見られることで、局地的な侵食基準面となっているためと考えられる。(第1図)

◇遺跡を取り巻く地質環境

地形上の特色は、本地域の地質の相違を反映している。遺跡周辺で見られる最も古い岩石は、砂岩頁岩互層からなる固結堆積物であり、中央部の山地の主体である。これらの岩石は、地質構造的には四十累帯に属し、秩父累帯とともに九州山地の主部をなすが、九州南部において、西南日本外帯の構造が南北に急変し、広く南部九州の基盤となっている。四十累帯は北帯と南帯とに分かれれるが、本地域に見られるものは、主に白亜紀～古代三紀からなる北帯である。こうした岩石は、第1図図福南東部の台地を刻む河谷の中にも小露頭が見られるこにより、図福南東部には基盤岩として広く分布することが予想される。特に桐木耳取遺跡北側は、この砂岩頁岩互層が基盤の高まりとして地表に露出している。これらの基盤の上に、入戸火碎流堆積物が台地を構成するのだ

が、基盤の高まりが見られる部分では火碎流の堆積が薄く、基盤の低所では厚く堆積しているのは言うまでもない。

現地形を構成する入戸火碎流堆積物であるが、その大半は非溶結いわゆるシラスである。灰色～淡黄褐色を呈し、その上部は風化により黄褐色に変色していることがある。無層理で淘汰が悪く、軽石礫の他、多数の外来礫を含む。シラス下位においては、溶結凝灰岩に漸移する場合もある。また、シラス上部には成層した二次的な軽石・火山灰層(二次シラス)が認められることが多い。本遺跡及び周辺の遺跡においてもまた同様であった。これは、先述したように火碎流堆積直後、植生に覆われる前に、流水による激しい浸食・堆積が行われたためであると考えられている。

シラス上位、台地面の最上部を覆って、ローム層が分布する。台地面や平坦面においては、3~4mの厚さを示す。このローム層には多数のテフラが確認される。桐木耳取遺跡においては、上位より、Sz-Ts(桜島大正・P1)、Sz-Bm(桜島文明・P3)、Kr-M(霧島御池)、K-Ah(鬼界アカホヤ)、Sz-Sy(桜島末吉・P11)、Sz-St(桜島薩摩・P14)、Tkn(高野)、Sz-Tk4(桜島高峰・P15)、Sz-Tk5(桜島高峰・P17)といった9枚のテフラが確認されており、基本的層序に違いは見られない。詳細は層序の項を参照されたい。

なお、桐木耳取遺跡の層序に見られる特質の中で、本遺跡IX層(Sz-St・P14)の下位にくるローム層について、顯著な点を2点點れておきたい。

その一つは、本遺跡IX層(Sz-St・P14)の下位にくる厚い細粒火山灰層であるXⅠ層である。本層は、腐植土層であるX層の下位に、非常に厚く堆積した細粒火山灰層であり、乾燥すると白色でガラス質の火山灰が主体であることが分かる。特に、桐木遺跡北半部より耳取遺跡にかけて顯著で、台地全体をプランケット状に覆っていることなどが野外で観察された。鏡下の観察においても多量の火山ガラスからなることが明瞭なため、シラスの火山灰の部分が二次的に堆積して形成されてきた層であるものと思われる。この地層は水流による淘汰は受けられておらず、ラミナも不明瞭なため、近接する台地に何らかの原因で裸地が生じ、ここよりシラスが供給された風成層であると推定される。この層が顯著な箇所では、中間部にやや腐食した層が見られることから、2回に分けて火山灰の供給が行われた可能性もある。台地に裸地が生じた理由については、豪雨に伴う崖崩れや気候の寒冷化などが考えられるが、詳細は不明である。

ローム層中で顯著なもう一つの特質として、暗色帶の形成があげられる。シラス台地上にSz-St直下の暗色帶の形成については、これまでの先行研究の中で、主に腐食の集積によるものとされている。腐食に関わる要因としては、植生、気候、母材の堆積に整理される。これらの要因が何らかの原因で崩れれば、結果として土壤の色調の違くなるものと考えられる。

桐木耳取遺跡については、まずテフラ層の降下堆積が腐食の集積バランスを崩す要因としてあげられる。すなわち、テフラ層の降下による多量の火山細屑物やこれらによって増加

する風成塵によって腐食の集積のバランスがくずれ、結果として暗色帯が形成されないことになる。しかし、テフラ降下から時間が経過し、台地上の植物繁茂などにより、母材の供給量が良好になると腐食の集積バランスも良好になり、暗色帯が形成される。すなわち、P17、P16、P15、Tknという4枚のテフラ層では暗色帯が形成されず、その間に暗色帯が形成されている。具体的に耳取遺跡の層序で見ると、XV層の暗色帯、XIII層下部の暗色帯、XII層上部～XI層下部の暗色帯が該当する。XI層上部～XI層下部の暗色帯と上位のXI層上部の暗色帯の間には、該当する時期にテフラの記載が認められないものの、暗色帯の形成を妨げた要因をテフラに求めることができない。Sz-St直下の黒色土壌層の形成を気候の寒冷化と大陸起源の広域風成塵に求める説明があるが、細屑物の供給が増加した要因は現在のところ不明である。いずれにしろ周辺地域でのローム層中の暗色帯の対比をさらに進める必要があるものと思われる。

第2節 歴史的環境

耳取遺跡と桐木遺跡は、国道10号線を隔てて財部町南俣と末吉町通山に所在する。

末吉町の町名は「往吉から転化したもので、この地に住むように国」といういわわれがある。

古代に日向国が置かれたが、統日本紀に「元明天皇、和銅六年（西暦713年）、日向國から肝坏、囉於、大隅、始羅の四郡を割いて、始めて大隅國を置かれた」とある。この大隅國は都に財部郷があり、その中に末吉は含まれる。

平安時代には島津荘がて（島津というのは古の都城方面のこと）、鎌倉時代の武家政治の時代になると島津氏が守護及び惣地頭に任せられ、軒余曲折はあるものの約七百年に渡り領有することになる。

明治時代になり行政区区分は都城県の嚙噉郡に属し、同6年に鹿児島県所管に移され、同20年には伊佐、大隅、嚙噉郡を6郡に分割して、末吉郷は東嚙噉となる。その後、同22年の市町村制施行により末吉村となり、大正11年10月1日に町制が実施され現在に至る。

財部町の町名は、日光神社に関連する古代「財日奉部」によるとする説がある。「財日奉部」は大和政權の勢力がおよぶ数か所に、日祠に適した処を選び、太陽信仰に基づく日祠の祭りの祭祀や、日迎えを行っていた。「財日奉部」の「財部」に由来する地名は、国内にいくつあったが、現在まで残っているのは本県の財部町だけ、最も古い地名である。

「日祠り」日光神社や白岳周辺で行われたのではないかと考えられ、現在も日光神社に引き継がれている。

古代の行政区区分では日向国諸郡都財部郷に属し、その後は末吉町で前述した通りである。

明治4年の廃藩置県後は鹿児島県や宮崎県に属しながら、明治22年の市町村制施行により財部郷から財部町になり、大正15年に町制が実施され現在に至る。

昨今、全国的に市町村合併が行われつつあり、この両町も平成17年には大隅町と合併して曾於市を結成する予定である。

埋蔵文化財については、昭和58年に鹿児島県教育委員会が実施した大隅地区埋蔵文化財分布調査によって多くの遺跡が確認された。その後も、特殊農地整備事業や東九州自動車道建設に伴って、発掘調査が行われ多大な成果を挙げている。

旧石器時代の遺跡としては、末吉町南之郷の田代谷遺跡で剥片尖頭器が採集されただけであったが、桐木耳取遺跡に隣接する国道10号末吉インターチェンジ関連事業に伴う桐木遺跡（東九州自動車道建設に伴う桐木遺跡と区別するために、以後国土交通省桐木と記述する）の発掘調査では、ナイフ形石器文化期や細石刃文化期の遺構・遺物が出土し、注目を浴びている。財部町の九義岡遺跡では、ナイフ形石器文化期の三稜尖頭器とその製作に関する接合資料が確認され、三稜尖頭器製作技法を窺い知ることができた。この地域は櫻島の火山灰と入戸火碎流が良好に堆積しており、旧石器時代の年代を決める鍵層となっている。

縄文時代では、草創期の遺跡として、国土交通省桐木遺跡で遺構・遺物が、早期の遺跡として高篠坂遺跡・片蓋前遺跡・踊場遺跡・関山西遺跡・関山遺跡等で遺構・遺物が出土している。

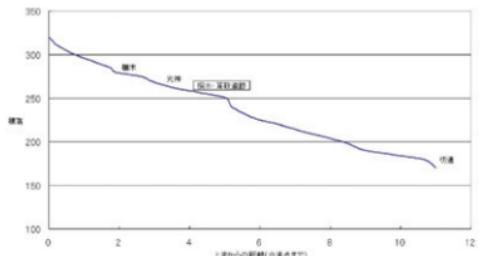
縄文時代晩期の遺跡としては、晩期の入佐式土器の標識遺跡である入佐遺跡が末吉町諭訪方に所在し、住居跡と多くの精製土器・粗製土器が見つかっている。その他長十塚遺跡・踊場遺跡・九日田遺跡・関山西遺跡・関山遺跡等が知られている。

古代から中世にかけての遺跡は、踊場遺跡・高篠遺跡・長十塚遺跡が知られる。踊場遺跡では、墨書き土器と宗教的色彩の強い掘立柱建物跡を検出し、高篠遺跡では石帯や墨書き土器から官衙的な位置づけが、「牧」の墨書き土器や馬具、大量の焼き塩壺からは牧經營が推測される。

参考文献

- 1 「末吉町郷土史」高木秀吉
- 2 「財部町郷土史」財部町郷土史編纂委員会 1997
- 3 「桐木遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書75 2004
- 4 「踊場遺跡・九義岡遺跡・高篠遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書71 2004
- 5 「高篠遺跡・永磯遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書61 2003
- 6 「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報・昭和58年度」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書29 1984
- 7 「長十塚遺跡・石仏段遺跡」財部町埋蔵文化財発掘調査報告書1 1987
- 8 「九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書36 2002

今別府川河川横断曲線

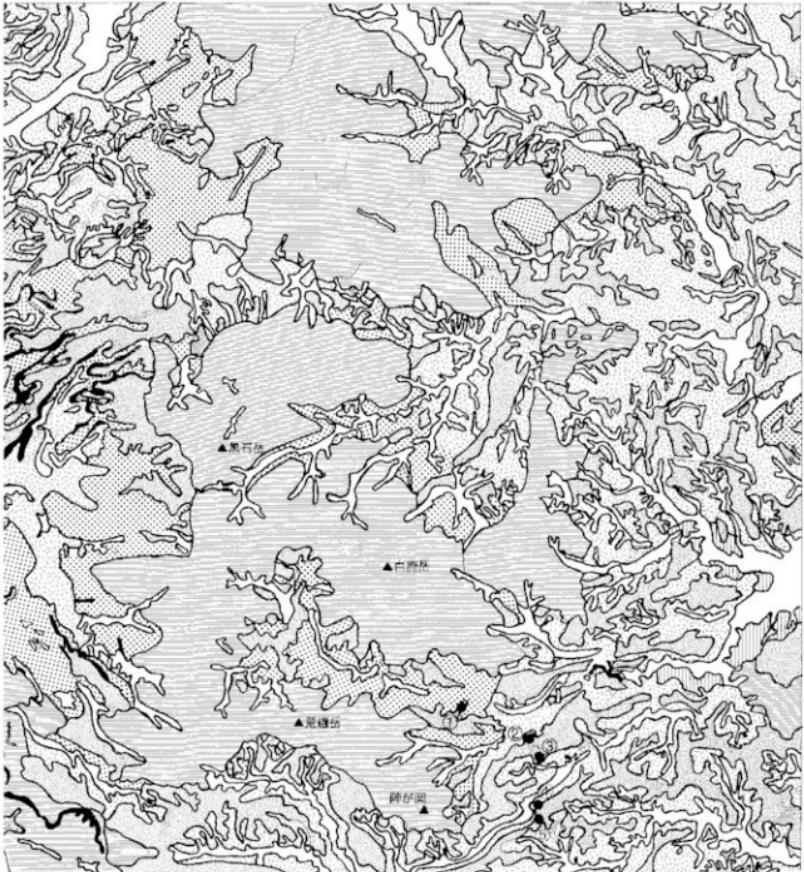


凡例

- [Hatched pattern] 山地
- [Cross-hatched pattern] 丘陵
- [White space] 斜面
- [Light gray shaded area] 台地面（高位段丘面）
- [Horizontal hatching] 中・低位段丘面
- [White space] 谷底平野
- [Dark gray shaded area] 三角州及び海岸平野
- [Dotted pattern] 島状地
- [Hatched pattern] 人工地形
- [Wavy line pattern] 急崖



第1図 2遺跡の周辺の地形



地図中●印は遺跡の位置を表す

①: 高築遺跡 ②: 九養岡遺跡 ③: 踏場遺跡

④: 耳取遺跡

⑤: 桐木遺跡

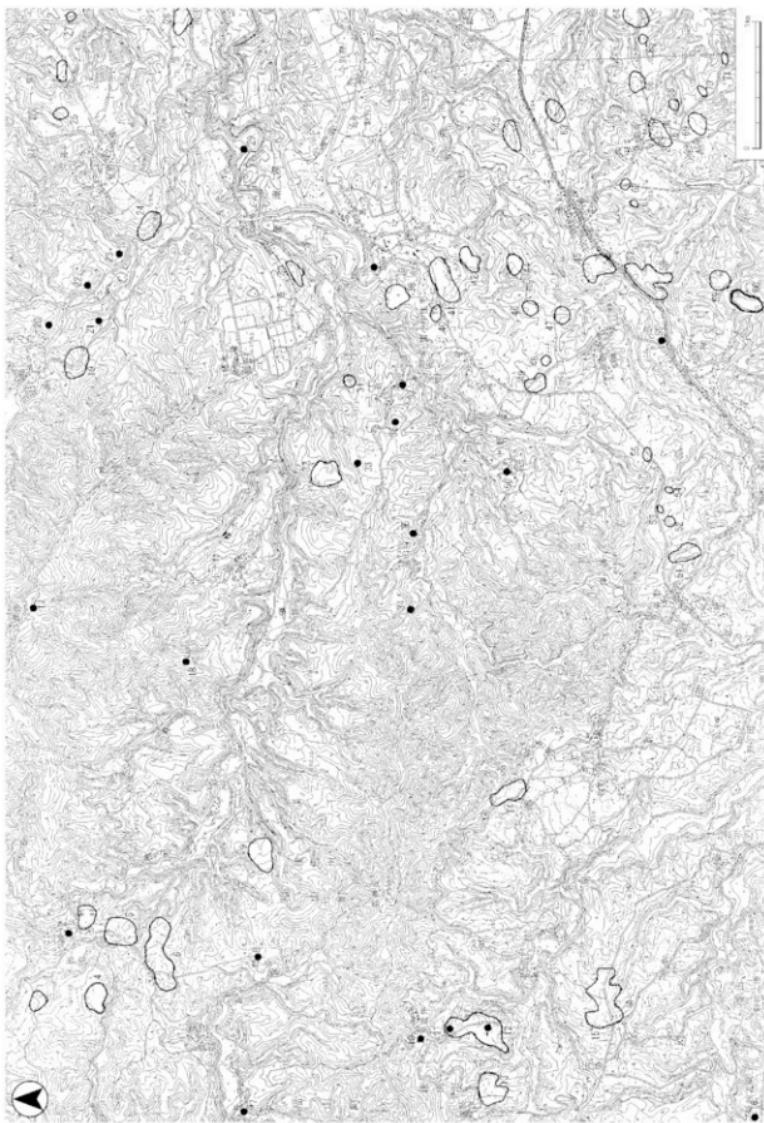
第1表 遺跡地名表（1）

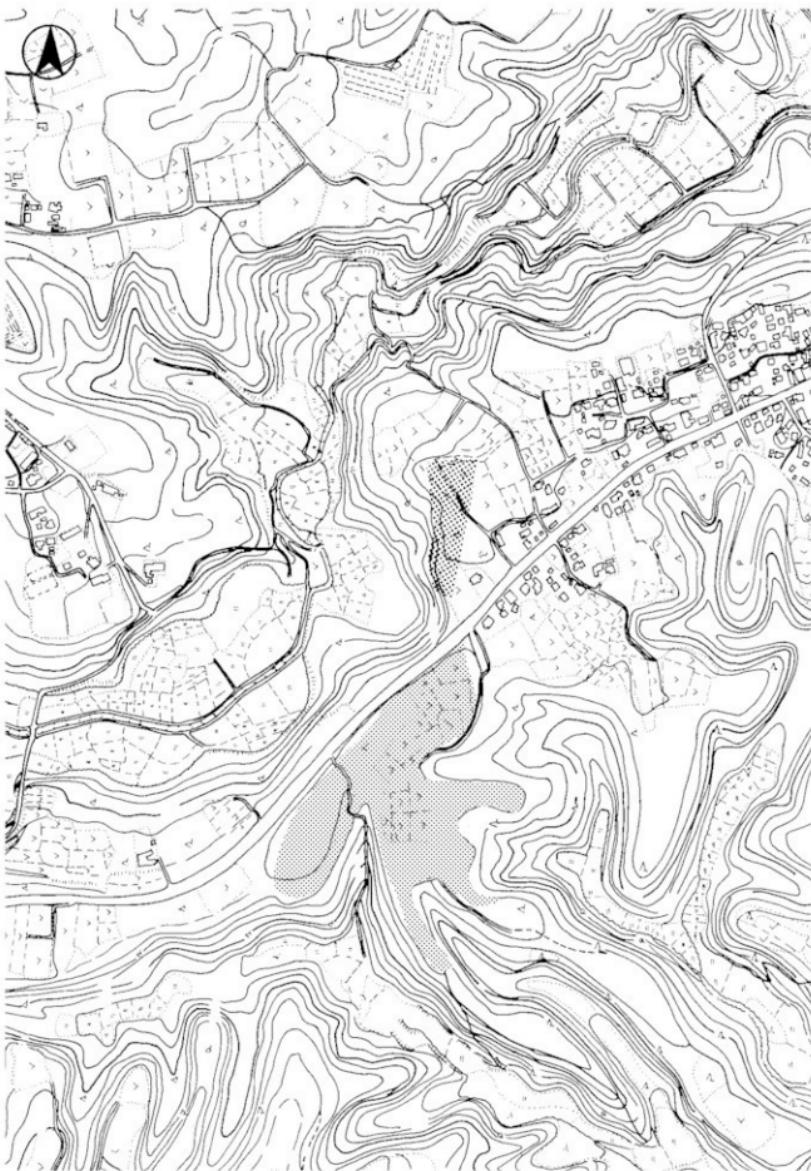
番号	遺跡名	所在地		地形	時代	遺物等	備考
1	小坂元A	福山町	比曾木野	小坂元	縄・古・歴	土器・成川式・土師器	
2	新村	"	"	新村	台地	縄（中）	岩崎式
3	前原	"	"	前原	台地	縄・古・歴	土器・成川式・土師器
4	城ヶ尾	"	"	城ヶ尾	台地	旧・縄・古	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式
5	前原和田	"	"	前原和田	台地	旧・縄（早）	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式
6	供養之元	"	"	供養之元	台地	縄・古	塞ノ神式・成川式
7	長谷	"	"	長谷	台地	弥	大型石斧
8	野谷下	"	"	野谷下		古・歴	成川式・土師器
9	永礎	"	"	永礎	台地	旧・縄・歴	細石器・手向山式・土師器
10	辰伴	福山町	佳例川	辰伴	台地	弥	土器
11	乗ノ脇	"	"	乗ノ脇		縄	土器
12	芹牟田	"	"	芹牟田		縄	土器
13	赤松段	"	"	赤松段		縄	土器
14	山神段	"	"	山神段		縄	土師器
15	一本松	"	"	一本松	台地	縄（中・後）	阿高式・岩崎上層式・指宿式
16	花建原	"	下牧之原	花建原		須恵器	
17	黒柳城根	財部町	南俣	天子馬場			
18	花平陣跡	"	"	丸鶴城ヶ原			
19	黒樋	"	北俣	黒樋	台地	縄（早）・歴	押型文・磨製石斧・土師器
20	松峯	"	"	松峯	台地	歴	内黒土師器
21	下戸越	"	"	下戸越	台地	歴	土師器
22	柳ノ口	"	"	柳ノ口	台地	縄（前～後）	轟式・春日式・阿高式・指宿式・石器
23	古井後ヶ谷	"	"	古井後ヶ谷	台地	縄	
24	西原	"	"	西原	台地	縄（早）・歴	押型文・土師器
25	古井下原	"	"	古井下原	台地	歴	土師器
26	宮後	"	"	宮後	台地	歴	土師器
27	霧島迫日	"	"	霧島迫	台地	歴	
28	田代ノ上	"	南俣	田代ノ上	台地	縄・歴	土師器・須恵器
29	久保谷	"	"	久保谷	台地	歴	土師器
30	八ヶ代上	"	"	八ヶ代上	台地	縄（早・後）・歴	前平式・土師器
31	高塙坂	"	"	高塙坂	台地	縄（早）	前平式・手向山式
32	高塙	"	"	高塙	台地	古代	土師器・須恵器
33	大迫A	"	"	大迫	台地	縄（早・前）	轟式・黒曜石
34	炭山谷	"	"	井牧ヶ平俣追	台地	縄・歴	石斧・土師器
36	大迫B	"	"	大迫	台地	歴	土師器
37	片蓋前	"	"	片蓋前	台地	縄（早・前）	押型文・塞ノ神式・チャート
35	炭山	"	"	炭山	台地	縄（後）・歴	指宿式・土師器

第2表 遺跡地名表（2）

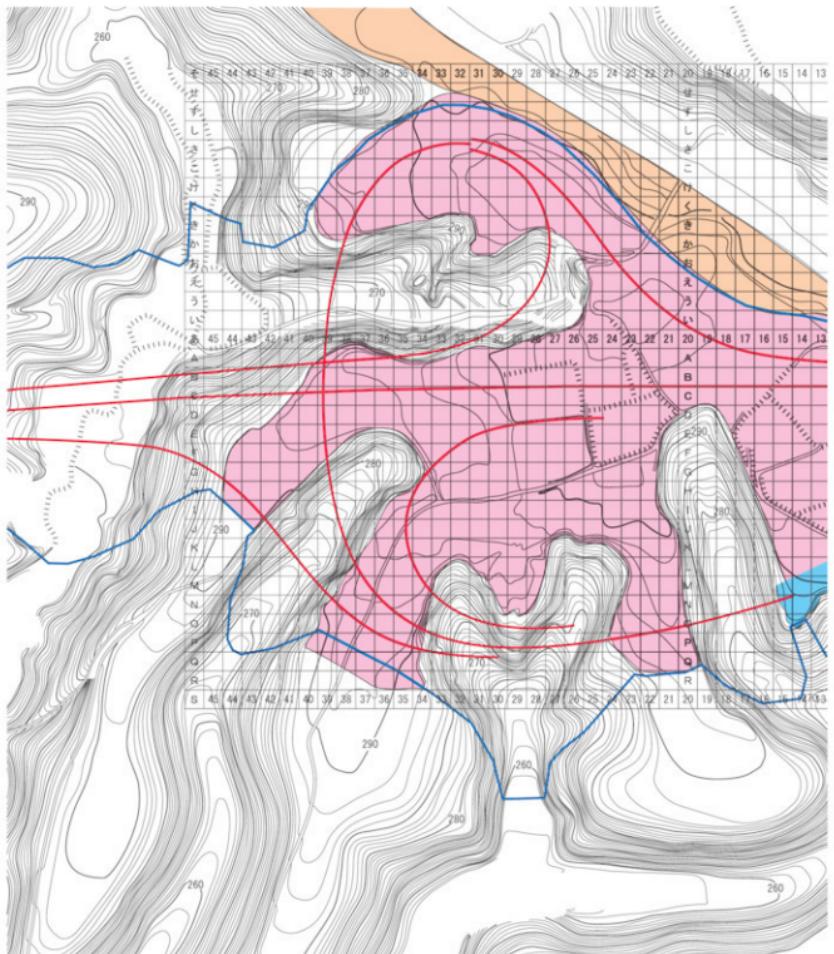
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
38	九養岡	" "	九養岡	台地	旧・縄・歴 三棱尖頭器・手向山式・土師器	H16.3報告書
39	馬立	" "	馬立	台地	歴（奈良） 土師器・須恵器	
40	石仏段	" "	石仏段	台地	縄（晩）・歴 黒色磨研土器・土師器	S61調査
41	長十塚（城ヶ尾）	" "	長十塚	台地	縄・歴 土器・石鏡・土師器・須恵器・土鏡	S61調査
42	躉塙	" "	躉塙	台地	縄（早）・歴 塞ノ神式・土師器・須恵器	H16.3報告書
43	王ヶ平	" "	王ヶ平	台地	歴 土師器・須恵器	
44	九日田	" "	九日田	台地	縄（早・後）・歴 石版式・黒川式・土師器	H14.3報告書
45	耳取	" "	耳取	台地	旧・縄・歴 ナイフ形石器・吉田式・土師器・縁群	本報告書
46	前山2	" "	前山	台地	縄（晩）・歴 黒色磨研土器・土師器	
47	前山1	" "	前山	台地	歴 土師器	
48	芭蕉ヶ迫2	" "	芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴 石皿・敲石・土師器	
49	芭蕉ヶ迫1	" "	芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴 土器・土師器	
50	中野	" "	中野	台地	歴 土師器・須恵器	
51	長田	" "	長田	台地	縄・歴 土器・土師器	
52	梅田	" "	梅田	台地	縄・歴 土器・土師器	
53	荷床2	" "	荷床	台地	歴 土師器	
54	八欝	" "	八欝	台地	縄・歴 土器・土師器	
55	荷床1	" "	荷床	台地	歴 土師器	
56	野方	" "	野方	台地	縄・歴 土器・土師器・内黒土師器	
57	桐木	末吉町 講訪方 桐木	台地	旧・縄・歴 ナイフ形石器・船元式・土師器	本報告書	
58	桐木日	" "	桐木	台地	旧・縄・歴 塞ノ神式・深浦式・土師器・住居遺構	本報告書
59	閑山西	" "	閑山西	台地	縄・弥・中世 土器・土師器・須恵器	H13調査
60	閑山	" "	閑山	台地	縄 土器	H13調査
61	通山上川路	" 深川 五位塚通山上川路	台地	縄（晩）・中世 夜臼式	S59調査	
62	真方入口	" " 真方入口	台地	縄（前・晩） 轟式	S59調査	
63	牛牛牧	" " 牛牛牧	台地	縄（晩）・古代 土師器	S61調査	
64	楠木岡C	" " 楠木岡	台地	縄（晩）・古代 土師器	S61調査	
65	楠木岡B	" " 楠木岡	台地	縄（晩）・古代 土師器	S61調査	
66	楠木岡A	" " 楠木岡	台地	縄（晩）・古代 土師器	S61調査	
67	臼杵	" " 臼杵	台地			
68	下ノ窪	" " 五位塚下ノ窪	台地	縄（晩）・古代 入佐式・土師器		
69	四枝道	" " 四枝道	台地	縄（晩）・古代 土師器	S61調査	
70	饭牧	" " 五位塚饭牧	台地	古代 土師器・須恵器	S60調査	
71	五位塚渡り下	" " 五位塚渡り下	台地	縄（早） 山形押型文	S60調査	

第2圖 周辺道路地図

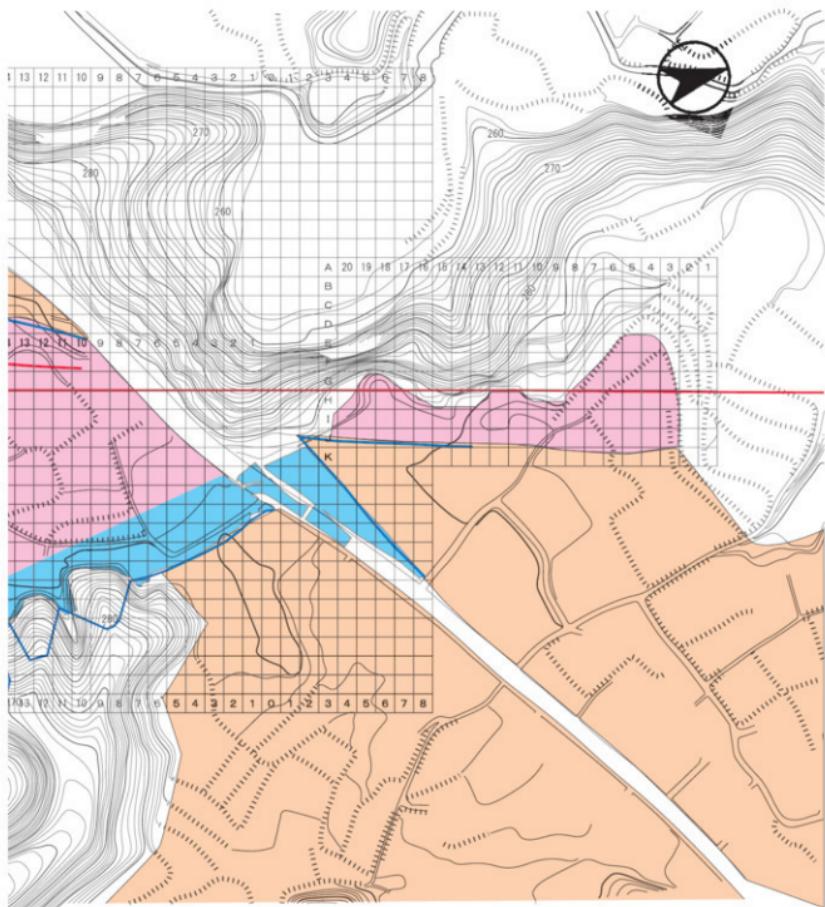




第3図 遺跡と周辺の地形 (1/6000)



第4図 周辺地形と調査区及びグリッド配置図 (1/2500)



■ 桐木・耳取遺跡調査範囲

■ 桐木遺跡(国土交通省)調査範囲

■ 遺跡の広がりが予想される範囲

第Ⅲ章 層位

第1節 遺跡の層位

本遺跡の基本的層序を柱状図で示し、層順・色調・判明しているテフラ・その年代・遺物包含層の時期等を併記した。遺跡内の良好なテフラの噴出源は、始良カルデラ、桜島、鬼界カルデラ、霧島系火山等に由来し、重要な年代判断の指標となった。国土交通省桐木遺跡(鹿児島県埋セ75・2004年)の報告では、より細分化した報告が成されているが、基本的層区分は合致している。

I層 暗褐色土 現表土。
 II層 黄白色輕石層(P-3, Sz-3) 0.5~1.0cm前後の輕石層で、文明ボラ(文明年間1471年)と呼称され、噴出源は桜島(P-3・Sz-Bm)である。平均的に50cmの堆積を見るが、保湿性の低さが耕作に不適切なことから、多くの耕作地で“ボラ抜き”と呼ばれる過酷な除草作業が農家により行われてきた。近年の発掘調査で“畠跡”的発見が報告される事例が増えたが、耕作中の畠をボラが直撃した様子が伝わってくる。躊躇遺跡(鹿児島県埋セ71・2004)の畠もその事例である。

III層 黒褐色土 遺跡全域で観察される。主に中世～古墳時代の遺物包含層。

IVa層 黄褐色土 主に縄文時代晚期及び後期の遺物包含層でIVb層の腐植土と捉えている。国土交通省桐木遺跡ではIIIb層に組み込まれている。

IVb層 黄褐色細粒輕石混硬質土 霧島御池テフラ(Kr-M, 約4200年)に比定される。本遺跡周辺の遺跡ではその堆積がよく観察される。国土交通省桐木遺跡のIV層に該当する。

Va層 暗橙色土 Vb層の腐植土で主に縄文時代中期～前期の遺物包含層。本遺跡を特徴づける文化層の1つである。

Vb層 通称アホヤ火山灰層 遺跡全域に安定して堆積する。約6400年前の鬼界カルデラの噴出物。

VIa層 黄褐色輕石混淡茶褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。

VIb層 黄褐色輕石層(P-11, Sz-Sy) 約7400年前の桜島の噴出物。

VII層 明茶褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。

VIII層 黒褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。

IX層 黄白色火山灰(P-14, Sz-St) 薩摩火山灰で噴出源は桜島(約11000年前)。ほぼ全域に20~25cm程残され、上位は固結した火山灰、下位は3mm前後の輕石で構成され、縱方向にクラックが発達しブロック状の堆積を見せる。

X層 黑褐色土 縄文時代草創期の遺物包含層。

XI層 灰色シルト質細砂粒砂層 シラスの二次堆積(風成堆積物)。細石器文化期の遺物包含層。

XII層 暗茶褐色軟質ローム 細石器文化期の遺物包含層

で、耳取での検出状況が注目される。

XIII層 黄色輕石混褐色土 台形石器や小型ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物包含層で、耳取調査区で確認している。国土交通省桐木遺跡のXIIb層と対比できる。

XIV層 暗褐色硬質土 旧石器時代の遺物包含層で、層中の上部及び下部付近に赤褐色バミス(P-15, Sz-Tk4)が点在する。

XV層 暗褐色硬質土 旧石器時代の遺物包含層。

XVI層 暗褐色硬質土 赤褐色バミス(P-17, Sz-Tk6)が層中に点在する。中部から下部に剥片尖頭器や台形石器等で構成するナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

XVII層 濃黄色砂質土 上部はローム質を下部は砂質を帯びる。礫群を構成するナイフ形石器文化期の遺物包含層で、大型剥片尖頭器の存在が注目される。

シラス 角裸混明黃白色

砂質土 約25000~

28000年前の始良カ

ルデラ起源の噴出物

で、入戸火碎流(シラ

ス)・ATと表示され

る遺跡の基盤層。

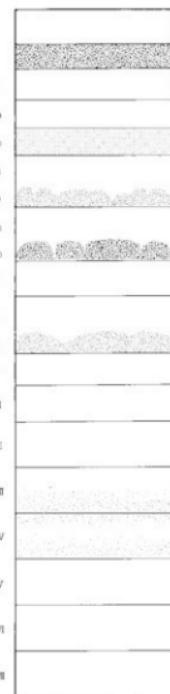
※ P=バミス=輕石

桜島の噴出物はP-1(大

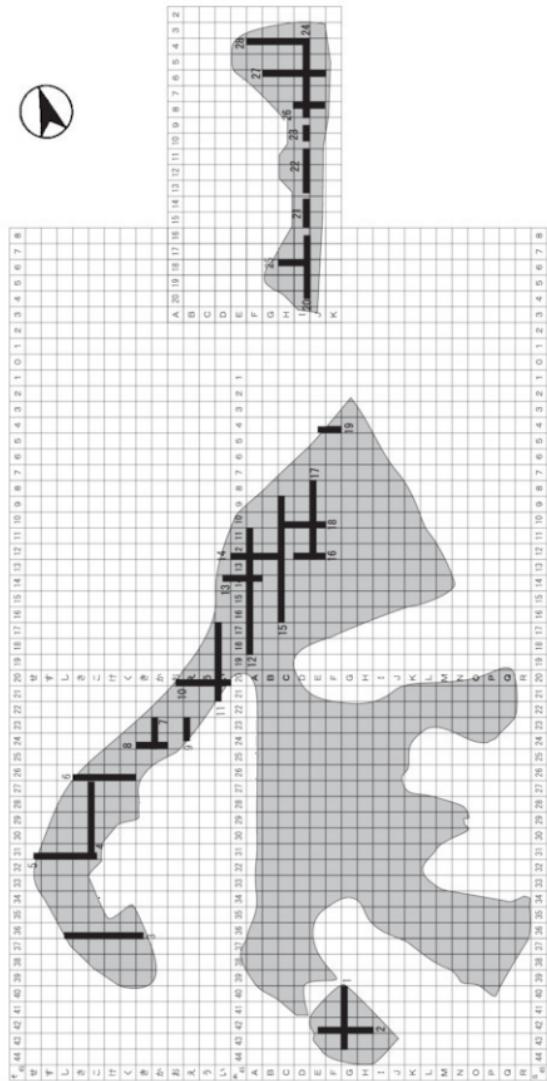
正3年)を基準に、新しい

ものから順に番号を付し

ている。

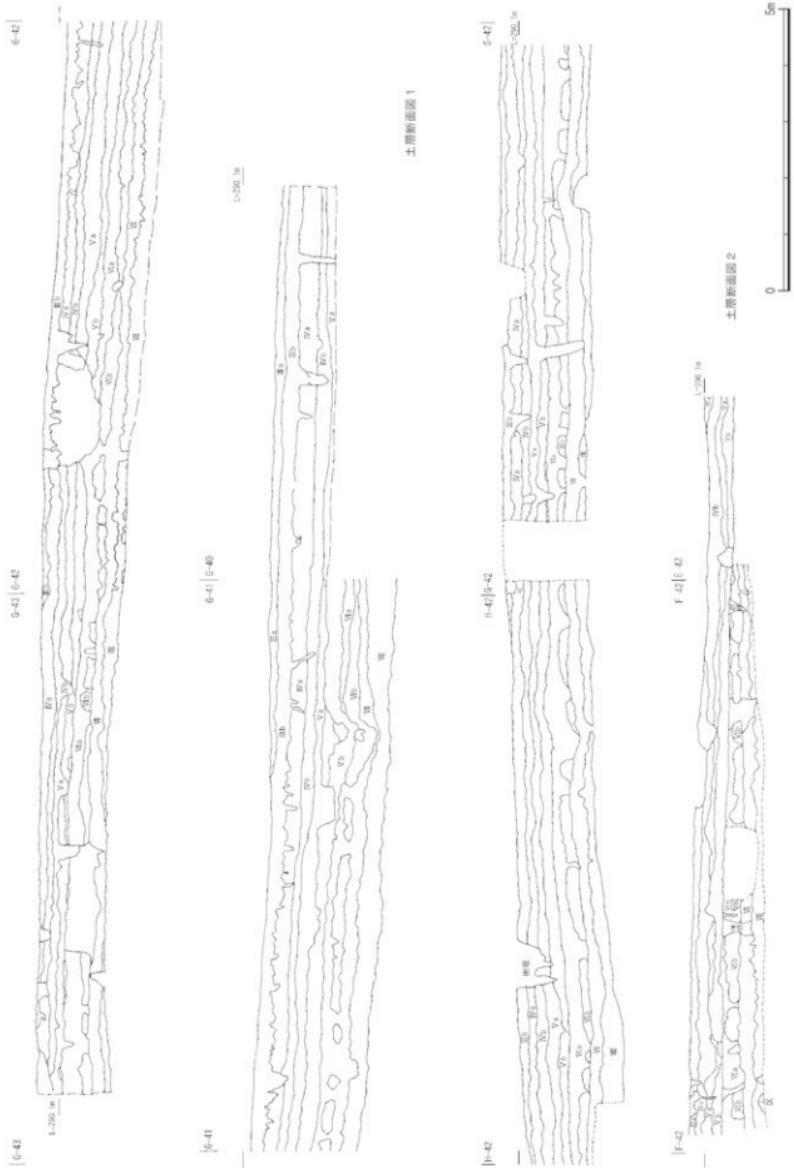


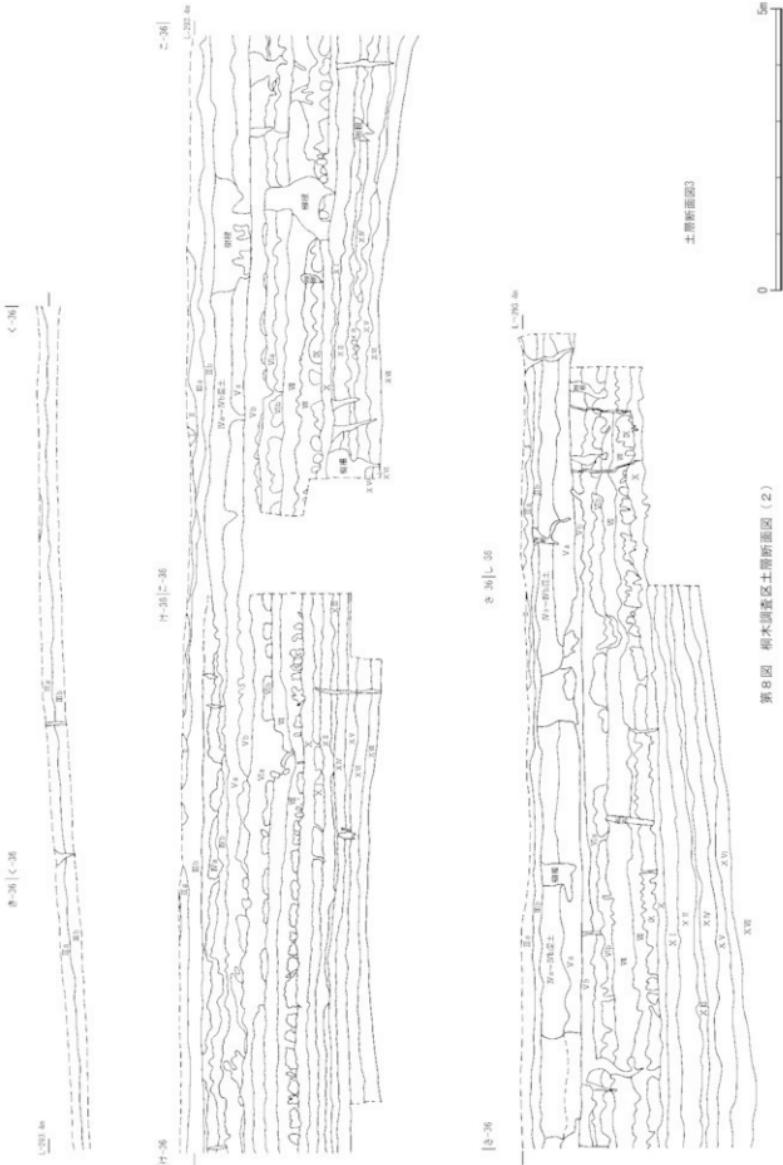
第5図 桐木耳取遺跡標準土層図



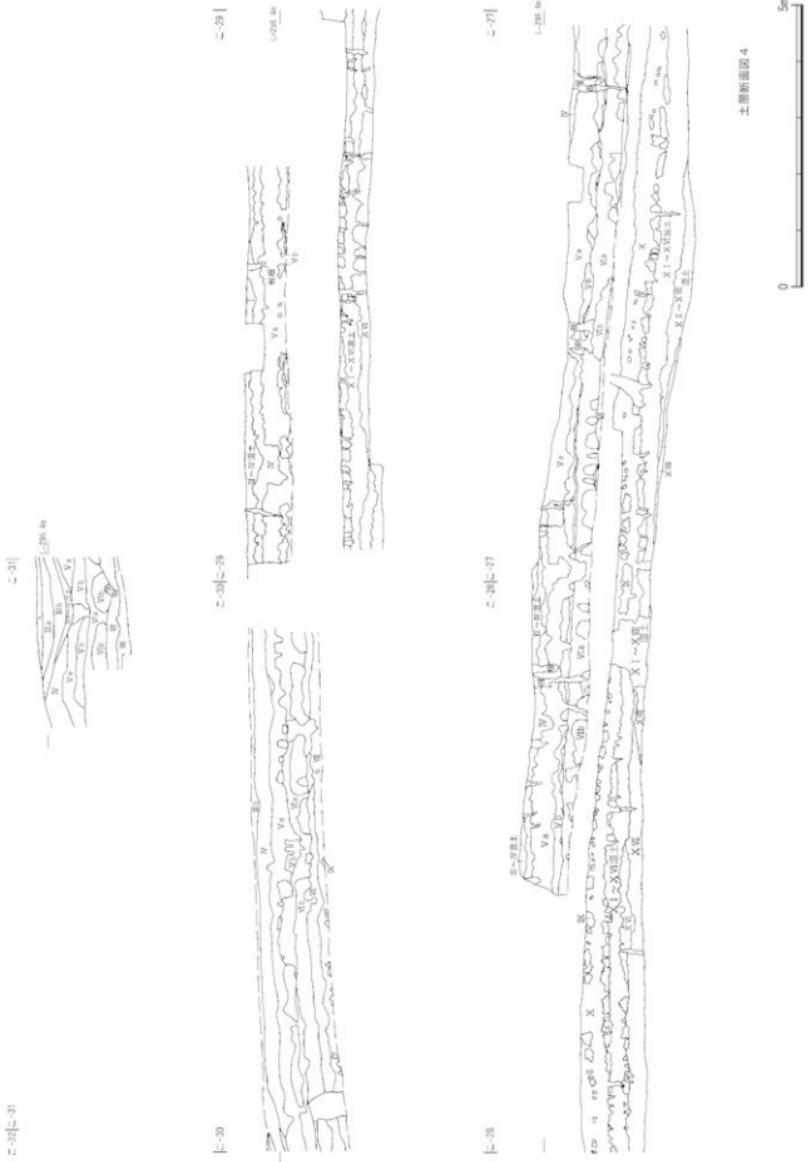
第6図 土層断面配置図 (1/3000)

第7图 桐木调查区土层断面图(1)



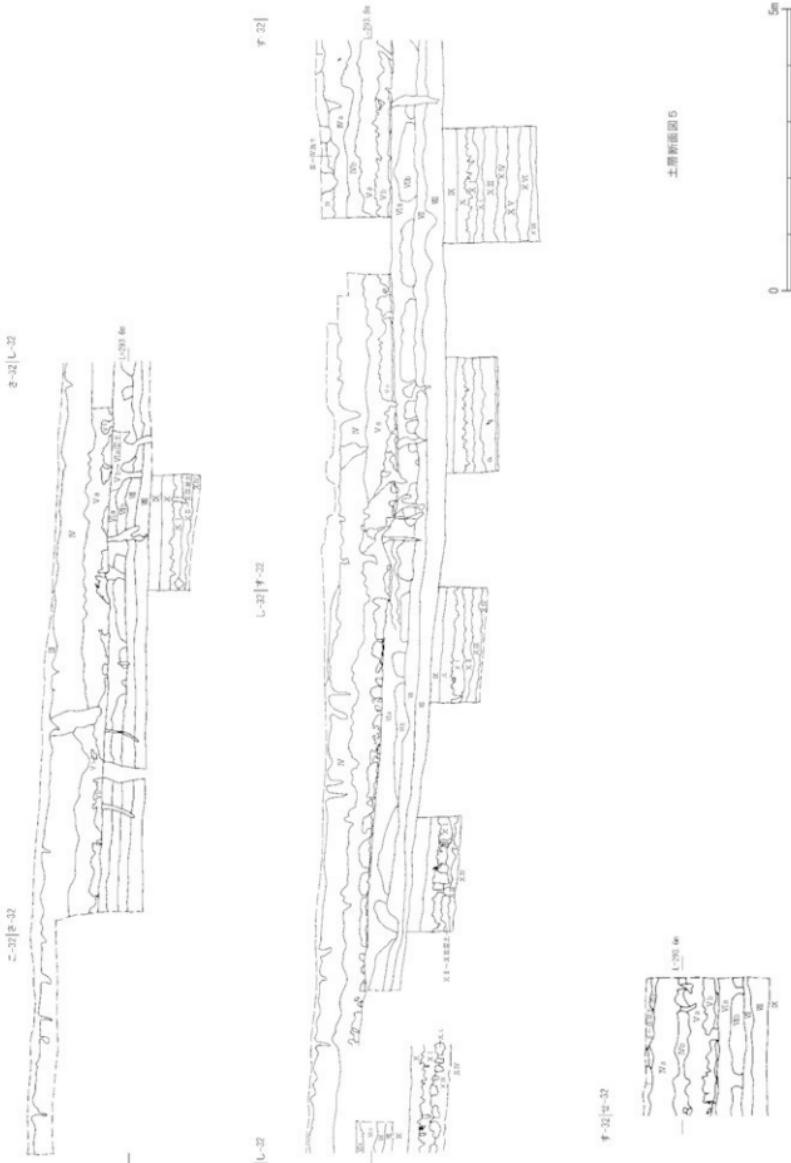


第8図 桐木調査区土層断面図 (2)



第9图 桐木调查区土质断面图(3)

第10图 枫木调查区土层断面图(4)

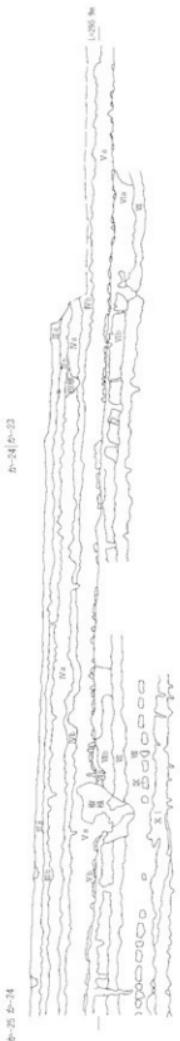


第11图 桐木调查区土质断面图(5)



土质断面图6

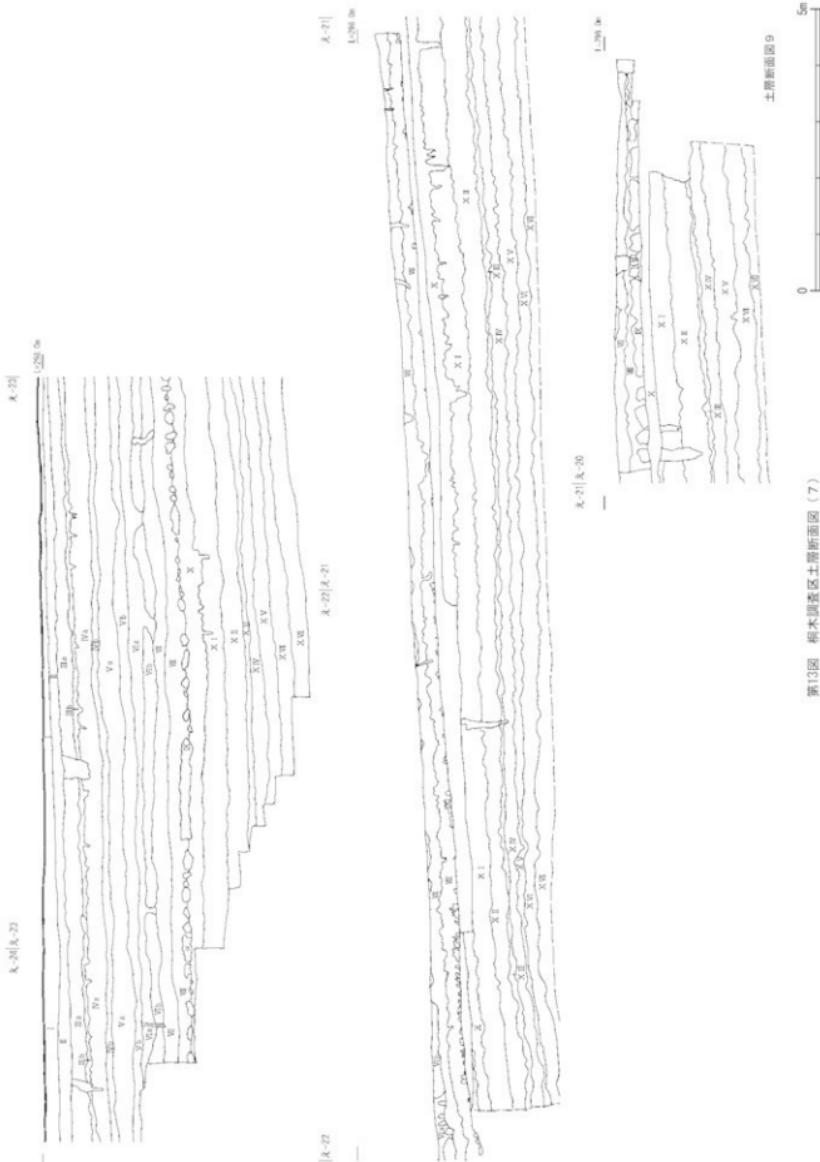




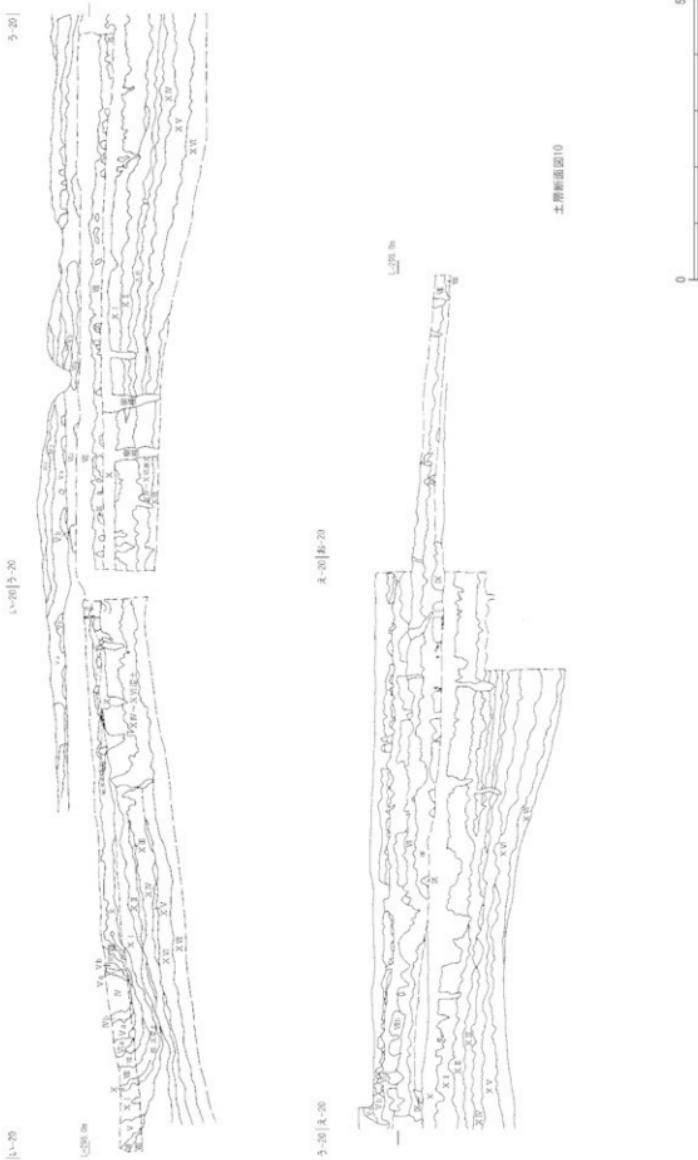
土層斷面圖 7



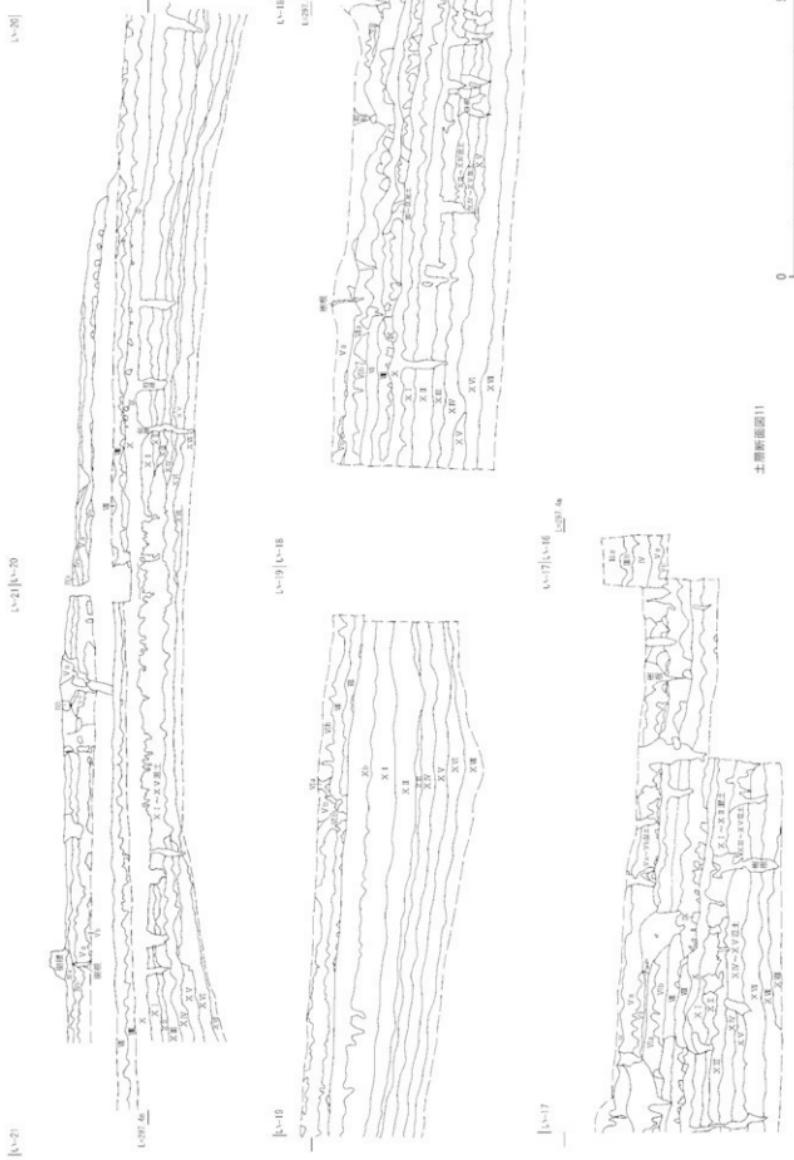
第12圖 桐木調查區土層斷面圖 (6)



第13圖 桐木調查區土層斷面圖 (7)



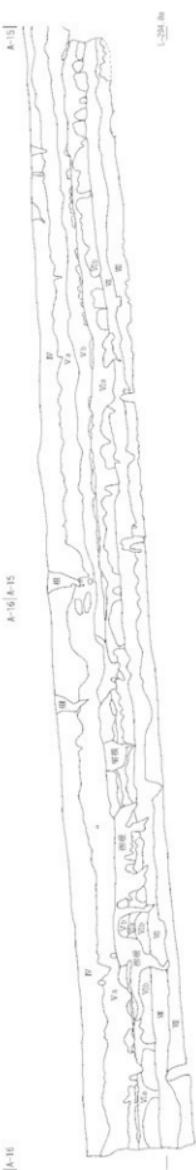
第14図 桐木調査区土層断面図 (8)



第15図 桐木調査区土層断面図 (9)

A-17

17



A-15

15



土層斷面圖12-1

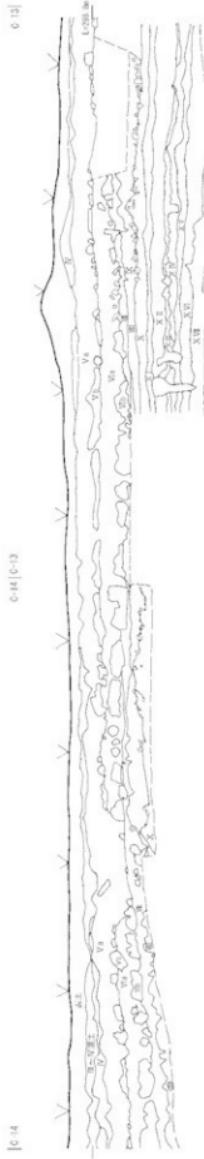
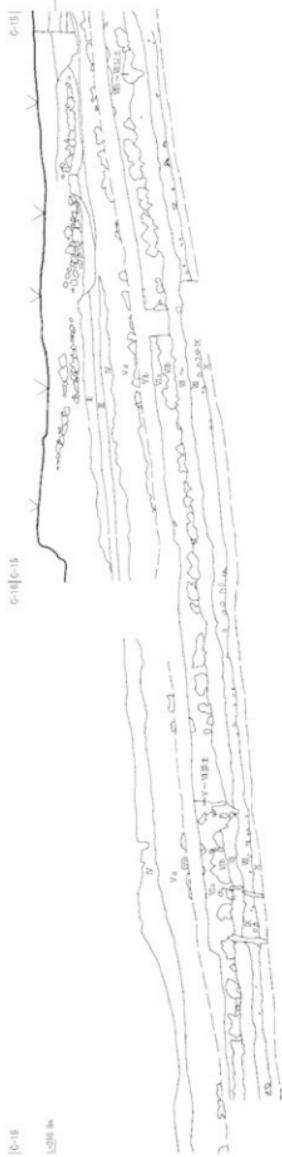
第16回 桐木調査区土層断面図 (10)

第17图 桤木调查区土质断面图(11)



第18图 桦木调查区土壤剖面图 (12)





土质剖面图15.1

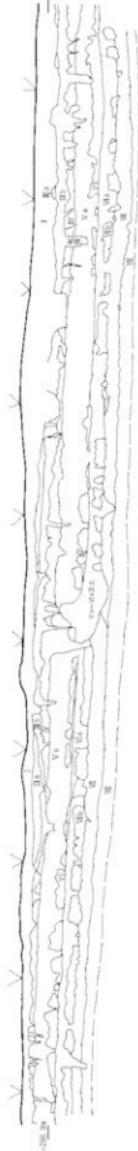


第19图 桐木调查区土壤断面图 (13)

[G-11]

[G-12]

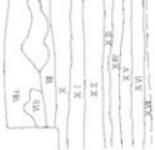
[G-13]



[G-14]

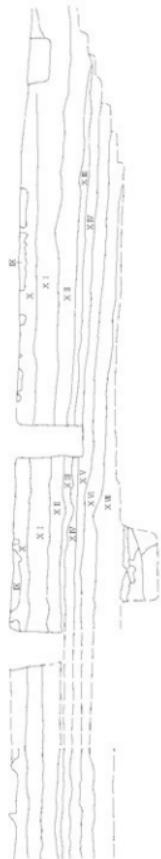
[G-15]

[G-16]



土壤剖面图15_2

土壤剖面图15_1



[G-18]

[G-19]

[G-20]



土壤剖面图16

第20图 桦木调查区土壤剖面图 (14)



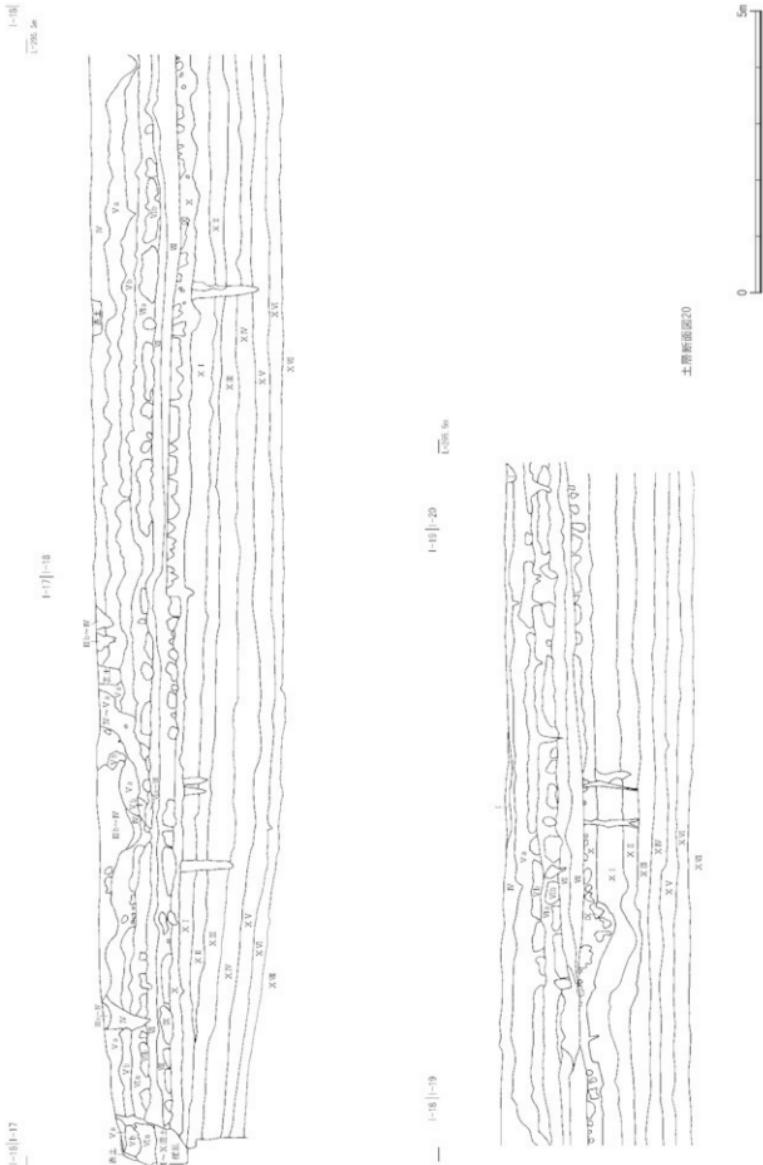
土质断面图17

第21图 桐木调查区土壤断面图(15)





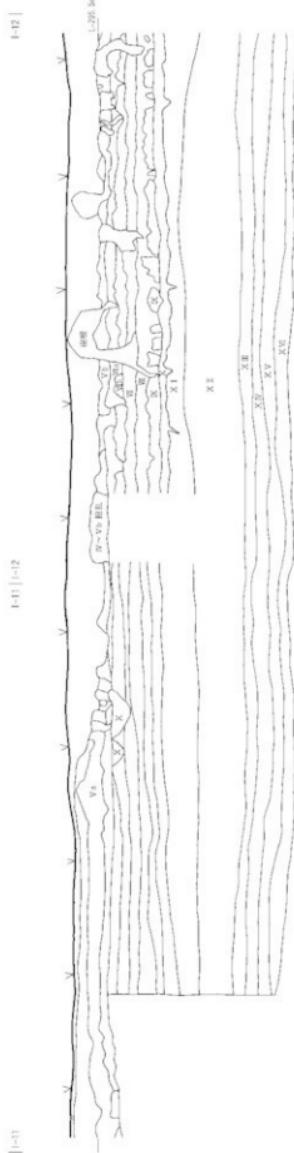
第22图 桦木调查区土层断面图 (16)



第23図 耳取調査区土層断面図(1)



土壤氮图21

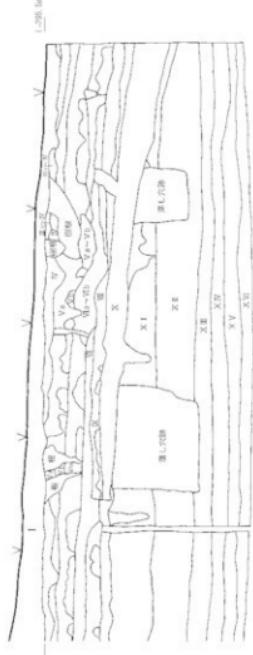


主層斷面圖22_1



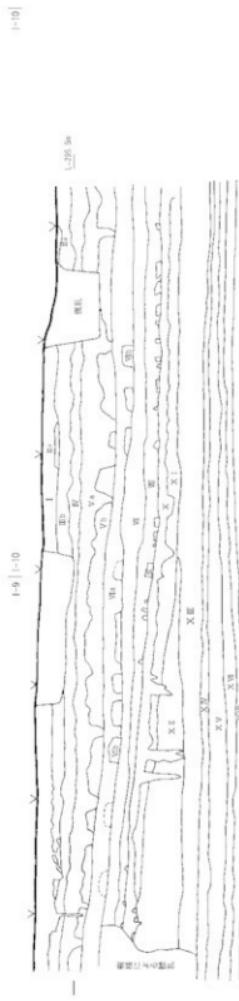
第24図 耳取調査区土層断面図(2)

(-2) | (-1)



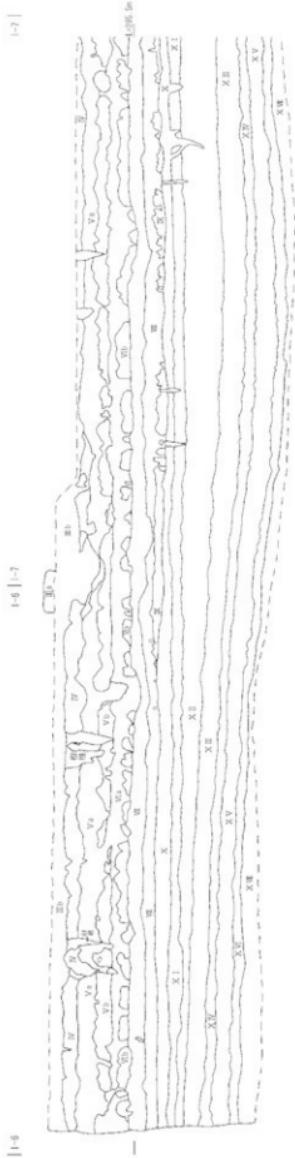
土壤剖面图22-2

(-1) | (-1)



土壤剖面图22-3

第25图 耳町调查区土壤剖面图(3)



145

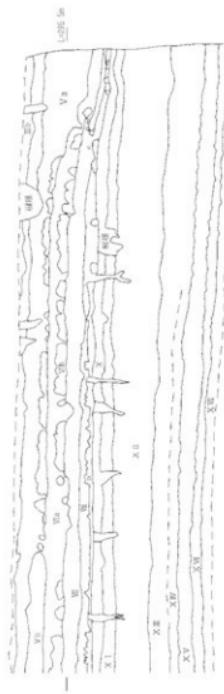


土壤断面图24-1

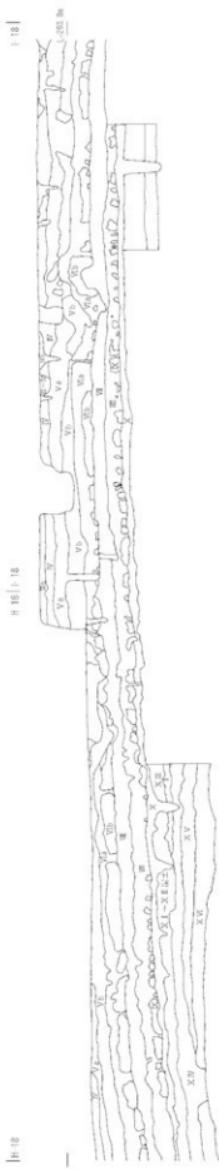
第26図 耳取調査区主断面図(4)

1-1-9

1-1-10



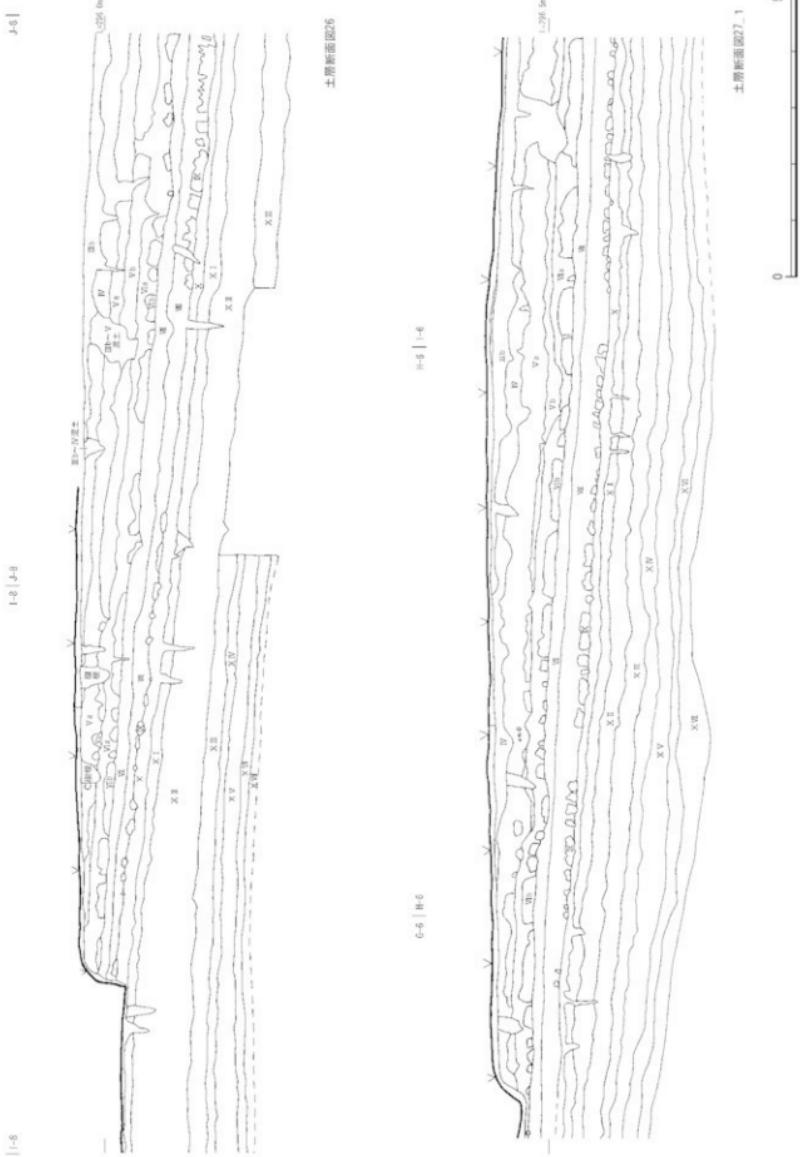
土壤剖面图2

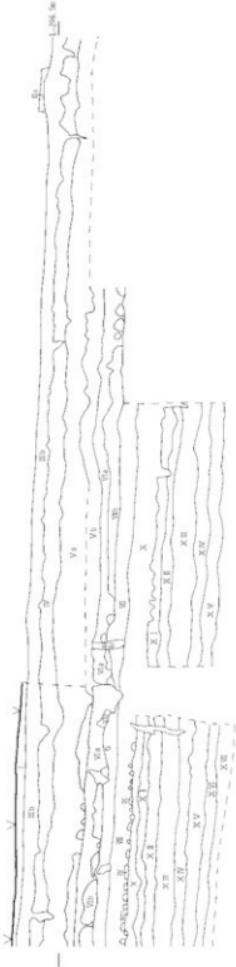


土壤剖面图5

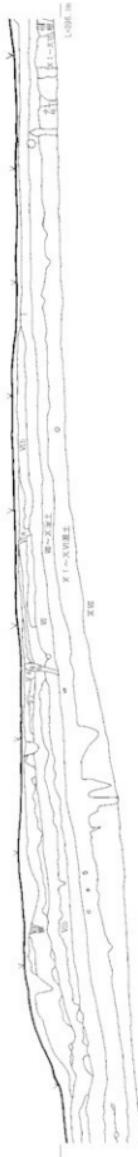
第27图 耳聪调查区土壤剖面图(5)

第26图 耳取調查区土層断面図 (6)

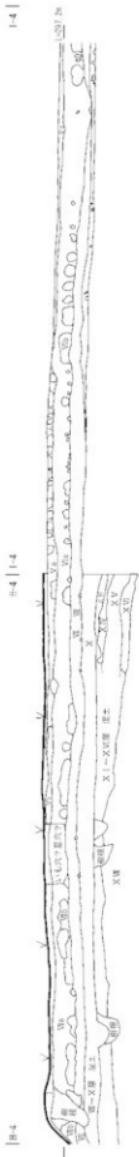




土層断面図27_2



主層斷面圖28_1



主層新圖28_2



第29図 耳取調査区土層断面図(7)

第IV章 ナイフ形石器第I文化層の調査

第1節 概要

ナイフ形石器第I文化層は、本遺跡の基本土層XVII層からXVI層の間に集中して出土し、一部の遺物については、発掘調査時点で、XV層、XIV層出土と取り扱ったものもある。XVII層以下の堆積物は、黄色軽石を含む黄色砂質火砕流堆積物、いわゆる始良入戸火砕流堆積物(シラス)に同定され、それらの互相堆積が確認される。

遺構・遺物は、XVII層上部の黄褐色ブロック混じり褐色土から、XVI層の橙色軽石混じり暗褐色土の間に出土する。なお、XVI層中のオレンジ軽石は、桜島起源のP17(SZ-17)軽石に比定される。したがって、本遺跡のナイフ形石器第I文化層は、始良入戸火砕流堆積後から桜島P-17の火山灰堆積の間で當まれたことになる。なお、XIV層中には、やはり桜島起源のP-15(SZ-15)のオレンジ軽石も確認されている。発掘調査では、XVII層、XVI層出土の石器群として区分して取り扱つたが、遺物集中の上下関係や石器組成・遺物の接合状況等を検討した結果、異なる文化層としての区分は困難であるとの結論に達した。そのため、本遺跡最古の文化層として一括して取り扱うこととし、“ナイフ形石器第I文化層”と呼称することとした。

桐木遺跡のE～J-1～6区を南端に、耳取遺跡のほぼ全域で遺構・遺物の存在が確認されている。

石器群は、ブロックを形成して分布することから、ブロックを設定し、その把握に努めた。なお、ブロックの設定に関しては、遺物集中を石材毎に把握し、平面的集中が認定できる最小単位を“ブロック”と呼んでいる。次に、ブロックの位置関係を平面的に検討した結果、ブロックの集中に一定のまとまりがあることを抽出でき、この単位を“エリア”と呼称した。

遺構は90基の礫群を確認し、その内訳は桐木遺跡12基、耳取遺跡78基となる。なお、平成15年度報告された隣接する“国土交通省桐木遺跡”でも12基が発見され、総数102基の礫群が存在したことになる。なお、国土交通省桐木遺跡では、礫群に隣接し7か所の遺物集中が検出されている。

桐木遺跡の礫群は、え-20区で1基(1号)、A-C-11～14区で7基(2～8号)、F-G-4～6区で4基(9～12号)検出している。残り78基(13～90号)の礫群は、耳取遺跡の台地線先端部(漫食により形成された、遺跡西側に広がる谷を見下ろせる標高280mの台地西線辺部)で発見されている。なお、谷部を流れる今別府川は、遺跡の西側を東流して大淀川に注いでいる。この谷が礫群の形成に深く関わった可能性が高く、桐木遺跡の礫群も、谷を見下ろせる範囲で造られていることからも推測できる。

耳取遺跡の礫群は、17～20区の集中区と4～13区の集中区に二分される。この間には小さな谷状の縦れ地形で分断されたことが、二分された要因と推定される。

礫群の詳細な造営時期については、87号礫群がXVII層からXVII層へ漸移する面、1号・2号・68号・83号礫群の5基に

関しては、XVI層としているが、その判断が難しい。

また、I-10区からは34号礫群の近くで線刻礫が出土した。

第2節 遺構(礫群)

本遺跡礫群と同様の構造を成す礫群が、福山町前原和田遺跡XVII層で18基が発見されている。前原和田遺跡の礫群でも、礫群に伴い炭化物が多量に検出されていることから、本遺跡の調査にあたっては、前原和田遺跡の調査方法及び礫群の認定を踏襲し、炭化物との関係把握に努めた。前原和田遺跡での礫群認定は、礫と炭化物を密接不可分の関係即ちセッティングとして捉え、礫群の掌握に努めた。したがって、礫の多少に問わらず炭化物が礫を取り巻き、それらが一定のエリアを確保すると認識できたものについては、1礫群と認定した。

一方、本遺跡固有の形態の、炭化物と掘り込み遺構だけのものも礫群遺構の一つとして認定した。炭化物及び分布の範囲を、網掛けとドットで以下の様に示した。①一番濃い網掛けは、炭化物による土壤汚染エリアを表示、②二番目の濃い網掛けは、炭化物集中域を表示、③薄い網掛けは、炭化物の分布範囲を表示した。また、ドットは2mm以上と認識できた個々の炭化物の位置を表示した。

なお、特記すべき礫群だけを記述し、礫群の形態は類型化を行い観察表に掲載した。

I類礫群 人為的皿状の掘り込みを伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA、B、Cに細分した。

I A類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかり詰まっている。

I B類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。

I C類 掘り込み遺構を伴い、礫は0～数個。

II類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。

III類礫群 細集中も無い礫群で礫の密粗でさらにA、Bに細分した。

III A類 細の中心が想定できる。

III B類 散在状態。

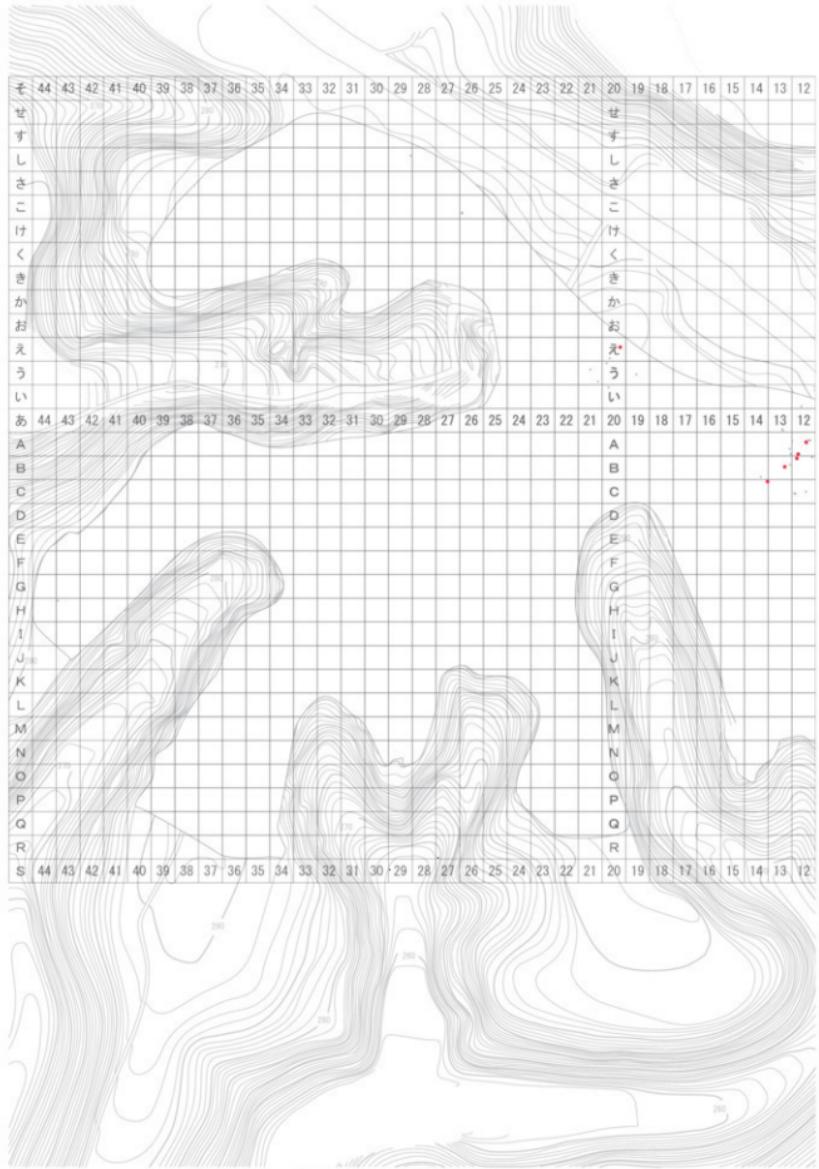
1 桐木遺跡

12基の礫群を検出した。7号礫群で浅い皿状の掘り込み遺構を確認したが、3号・5号・8号・10号・11号・12号礫群では明確な掘り込み遺構を検出していないが、礫の残存状況からは、遺構を伴った可能性が高い。

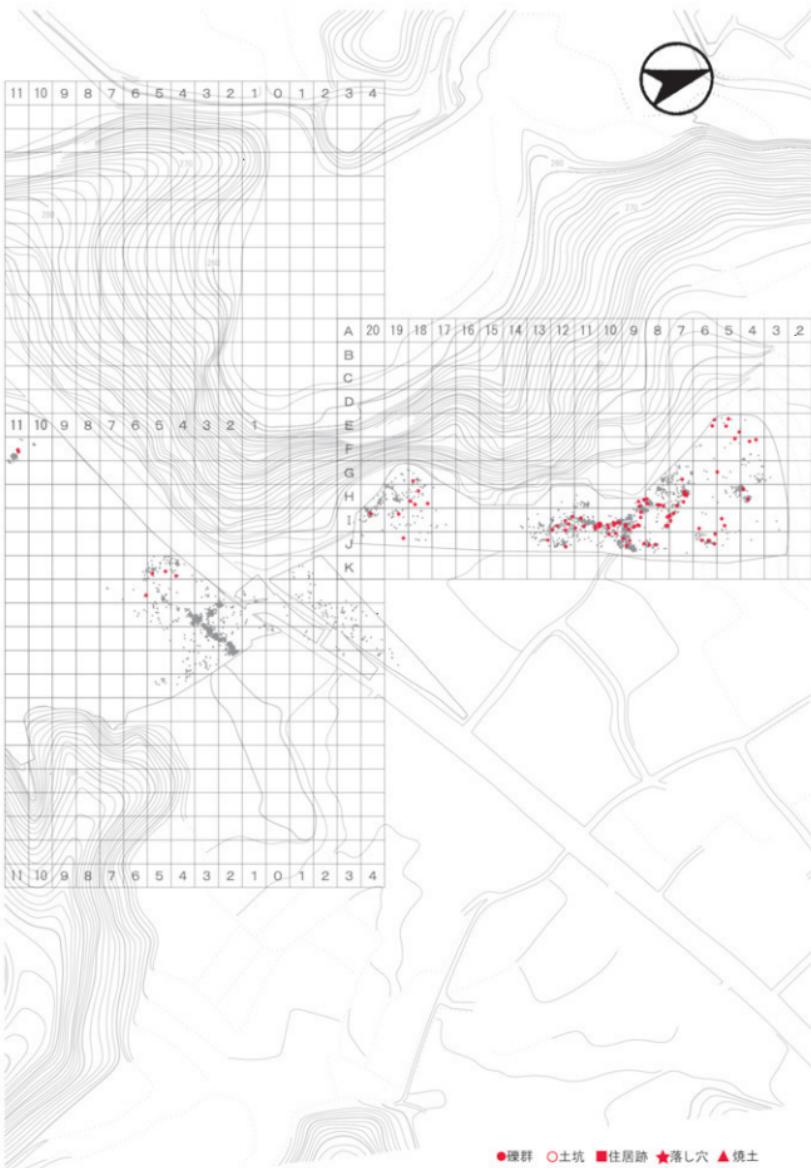
1号礫群は単独で検出したが、2号～8号礫群は今別府川を望める微高地のA-C-11～14区に形成され、9号～12号礫群は、国道10号線寄りのF-G-4～6区に形成されている。

3号礫群(第41図)

B-13区で検出した礫群で、掘り込み遺構は未確認。炭化物



第30図 第Ⅰ文化層全体図（1/2000）



を微量検出。構成礫は全て輝石安山岩で、3割程度が被熱している。分類はⅡ類。

5号礫群(第42図)

A-12区で検出した礫群で、掘り込み遺構は未確認。炭化物は米粒大のものが点在。8個で構成し7個が輝石安山岩、1個が安山岩である。全ての礫が被熱し、分類はⅡ類。

6号礫群(第42図)

A-12区で検出した礫群で、掘り込み遺構は無いと判断。礫は散在。炭化物は多数検出し、網掛けで表示し、ドット表示は2mm以上の炭化物で、分類はⅢB類。

7号礫群(第42図)

A-11区で検出した礫群で、浅い掘り込み遺構を確認。11個の礫で構成し、全て安山岩で、約半数が被熱するが、炭化物は確認できない。分類はⅠA類。

9号礫群(第43図)

G-6区で検された礫群で、浅い掘り込み遺構を確認。表示した薄い網掛けは、礫群周辺にまばらに炭化物が確認された範囲で、構成礫は8割が輝石安山岩で、残りが安山岩である。19個の礫の内、2割程度が被熱していた。分類はⅠA類。

12号礫群(第44図)

F-4区で検出された礫群で、礫集中2か所と散礫で構成されている。掘り込み遺構は未確認。北側の散礫アの散逸状況は、中央の礫群イからの搔き出しとは考えられず、単独で機

能していた可能性が高い。炭化物も多数検出され、分類はⅡ類。

2 耳取遺跡

78基の礫群を検出した。14区から16区の小さな谷を挟んで両側の今別府川が見下ろせる場所に集中している。特に9区から12区は見晴らしの良い場所で、遺構も密集している。

XVI層下面での礫群検出が、86号から90号まで5基あるが、¹⁴C年代測定でのXVII層とXVIII層の違いはさほどない。(付録参照)

13号礫群(第45図)

H-18区で検出した礫群で、深さ6cmの浅い掘り込み遺構の中に丁寧に礫を並べている。遺構内の理は、拳大よりやや小さいもので、その北側に礫が散在している。2mm前後の炭化物が密に観察され、炭化物による汚染エリアが北側に広がる。分類はⅠA類。

14号礫群(第45図)

H-18区で検出し、13号礫群とは1mの距離を置く。一見、散礫の様相を呈すが、周辺土壤が炭化物により黒く汚染され、全ての礫が被熱し破碎していることから礫群と認定した。

17号礫群(第47図)

J-13区で検出し、径約28cm×28cm、深さ約10cmの掘り込み遺構内の礫と、散逸エリアで構成する。遺構内の炭化物検出は希薄で、散在している理周辺で多く確認された。分類はⅠA類。

R-12[8-21]
A-23[8-21]

R-12[8-20]
A-23[8-20]

R-13[8-18]
A-23[8-18]

R-14[8-18]
A-23[8-18]

1号礫群

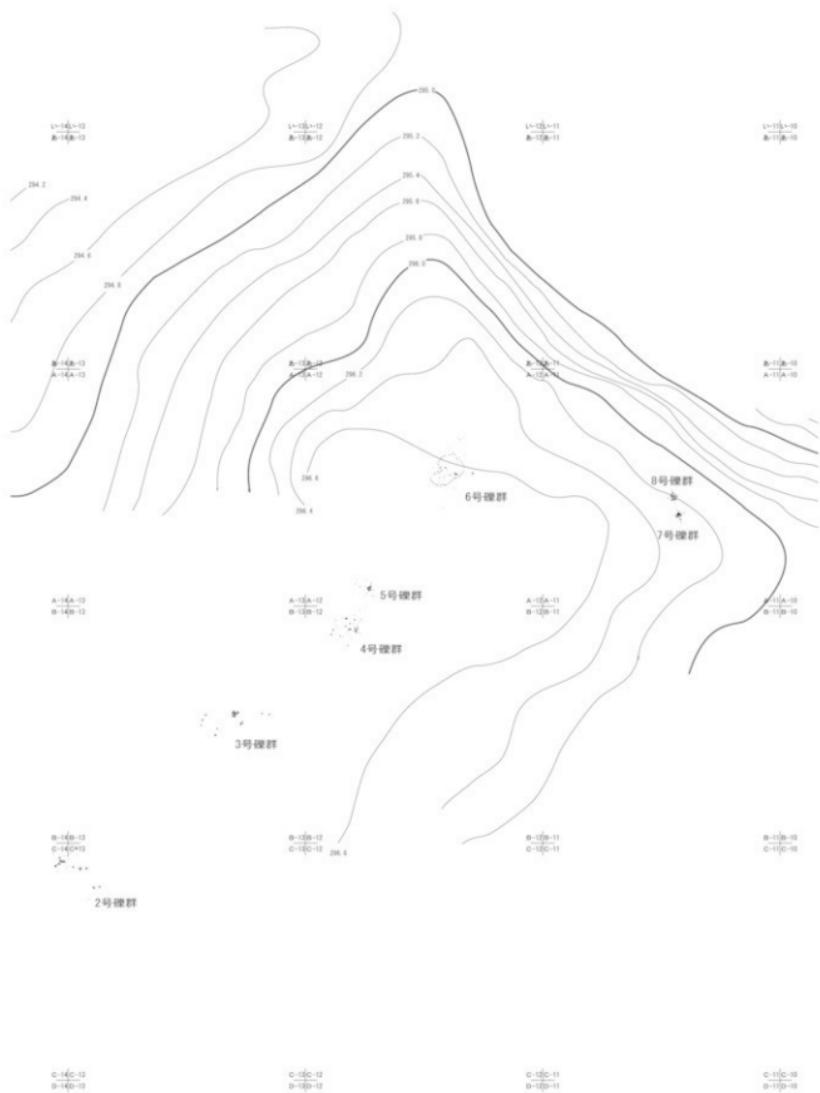
K-12[8-21]
S-23[8-21]

K-12[8-20]
S-23[8-20]

K-13[8-18]
S-23[8-18]

K-14[8-18]
S-23[8-18]

第31図 第I文化層遺構配図1 (1/200)



第32図 第1文化層遺構配置図2 (1/200)



第33図 第I文化層遺構配置図3 (1/200)

21号縫群(第50図)

I-12区で検出し、縫群が密集している区でもある。拳大の縫を約70個使用し、全てが被熱、掘り込み遺構は未確認。炭化物は非常に多く、縫の下に5mm以上の炭化物が付着する状況も確認されている。網掛けのやや濃い部分は、径5mm以上の炭化物が多数残されていた。

28号縫群(第55図)

I-11区で検出した。標高293.53mラインで、炭化物による汚染エリアと小縫3個を確認し、その状況を記録した。実測後の精査で、汚染エリアの下部に掘り込み遺構が存在することが確認され、検出の結果、93cm×67cm、深さ11cmの遺構が確認された。遺構内には縫はまばらに残され、埋土は周辺より多く炭化物を含んでいた。当初記録した汚染エリアと、その後検出した遺構を重ねて図示しているが、ほぼ重なることから一体の施設と認定できる。

29号縫群(第55図)

I-11区で検出し、28号縫群と近接し、その距離約1mである。発見当初は、破碎した縫1個と若干炭化物の汚染が見られる程度であったが、汚染部分をピンボールに因る探索で、下位に縫群があることが判明した。検出の結果、40cm×35cm、深さ約13cmの掘り込み遺構と、遺構内から約10cmの縫38個を確認した。

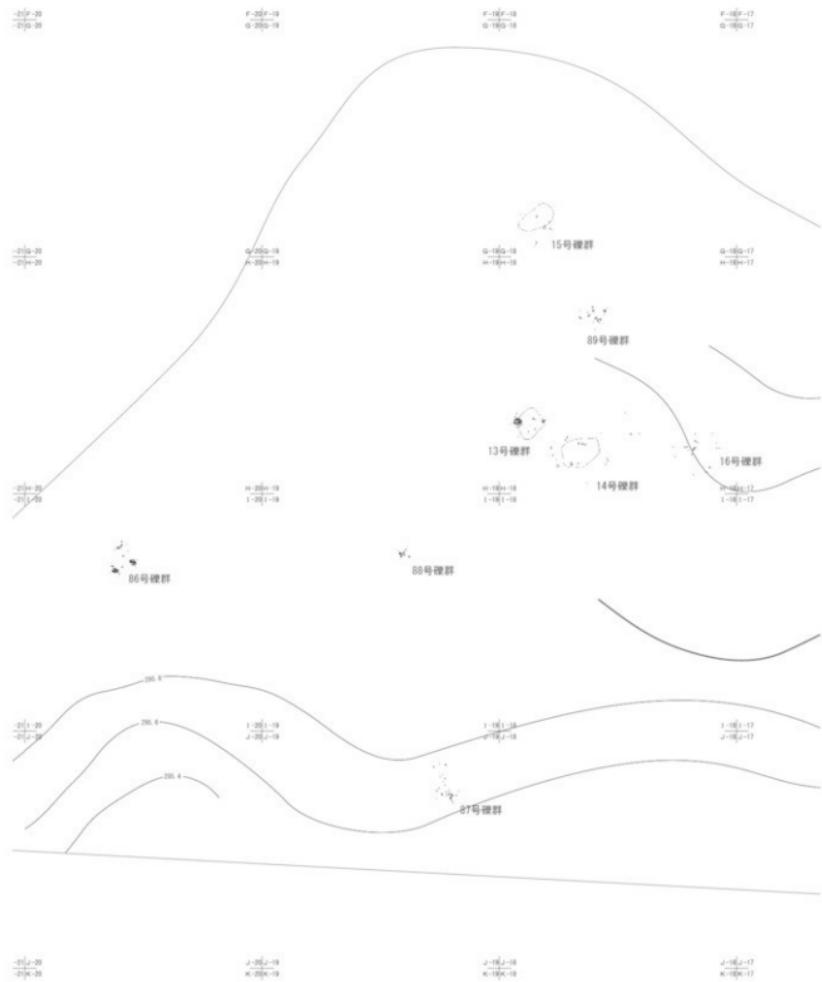
29号縫群の成果を基に、他の該当部分(炭化物汚染エリア)の再調査を実施した結果、見過ごしていた多くの縫群を確認することに成功した。印象深い縫群でもある。

32号縫群(第57図)

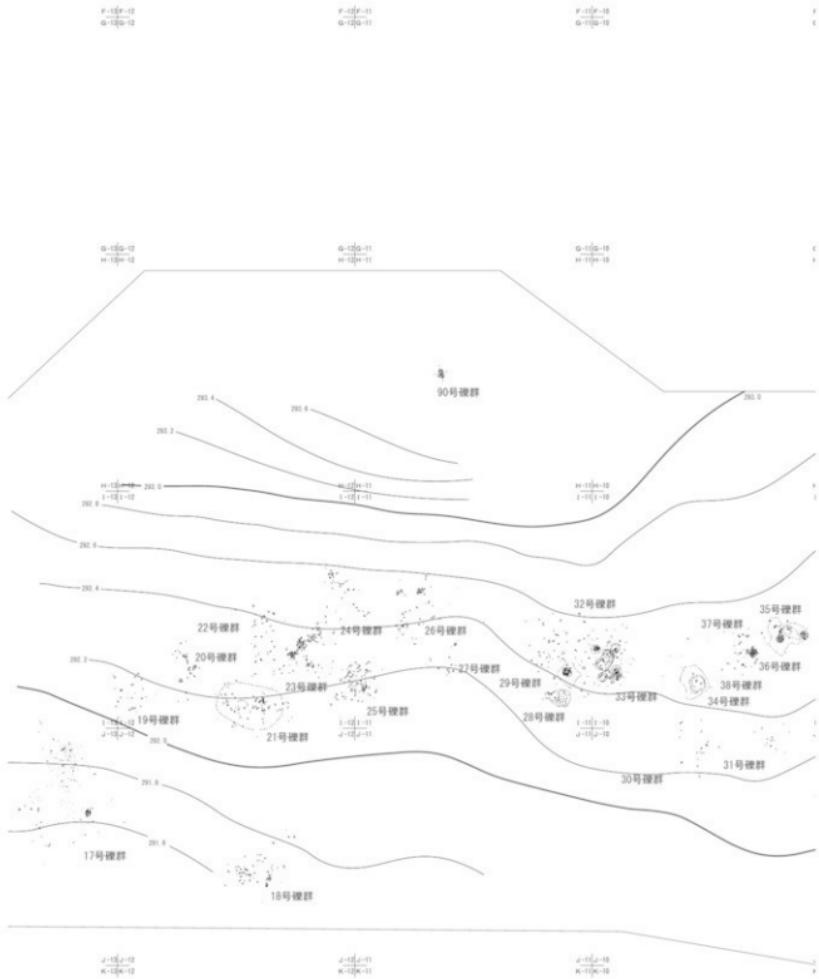
I-10・11区で検出した。径32cm×27cm、深さ7cm弱の掘り込み遺構をもち、遺構内からは10cm前後の縫11個が検出された。南側へ散逸した縫を伴う。炭化物は、2mm大を1個確認したのみである。分類はIA類。

33号縫群(第58図)

I-10区で検出した。5基の掘り込み遺構を伴う小縫群で構成されるが、⑤は32号縫群の掘り込み遺構の跡である。なお、32号縫群の調査時点では、①から④の遺構の存在は判明していなかった。32号縫群の調査後、周辺から破碎縫が確認されたことから、再度掘り下げを行い、33号縫群の検出に成功している。両縫群の検討では、32号縫群の検出が33号縫群より約4cm高くなる。①と④の掘り込み遺構は径約40cm×40cmで、浅い皿状を呈し、10個程度の縫が残される。②の掘り込み遺構は径約90cm×60cmで、2基の遺構が重なる様相が見られたが、検証するには至らなかった。③の掘り込み遺構は径約60cm×50cm、深さ20cmで、10cm前後の縫35個が残されていた。



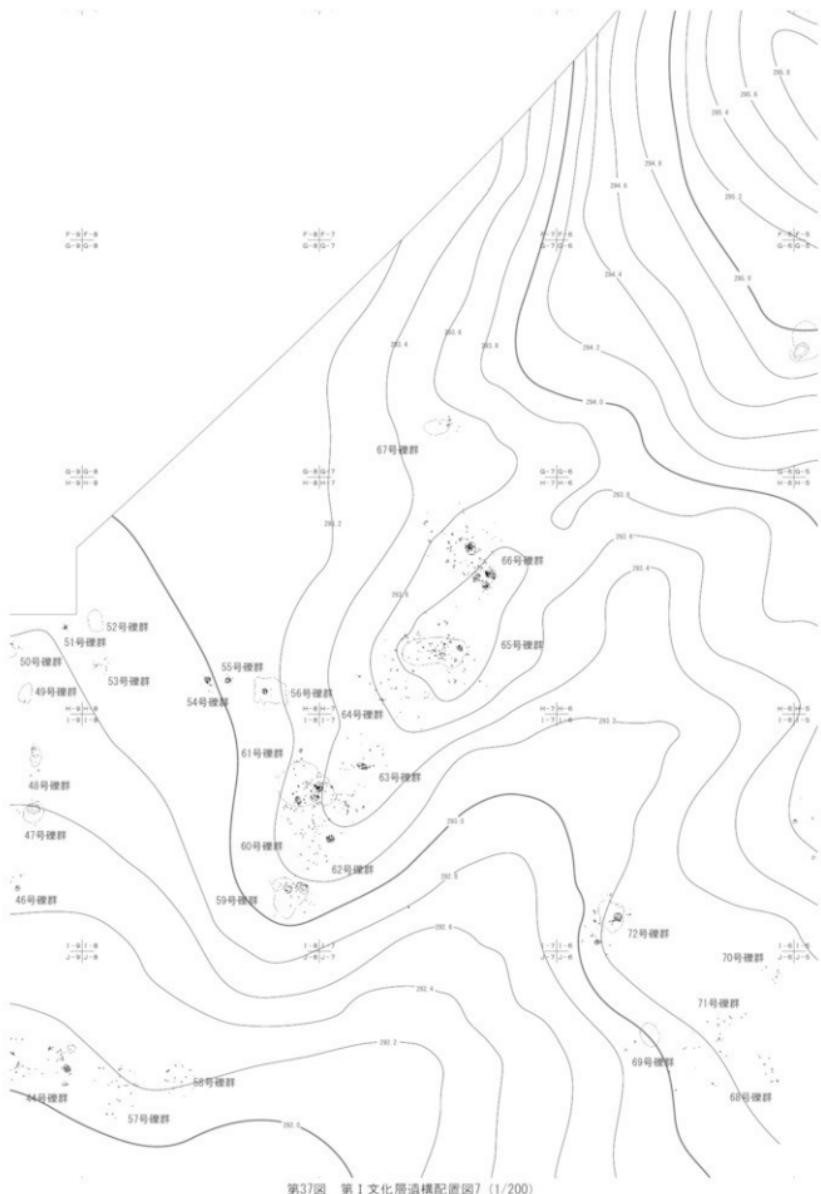
第34图 第I文化层构造配置图4 (1/200)



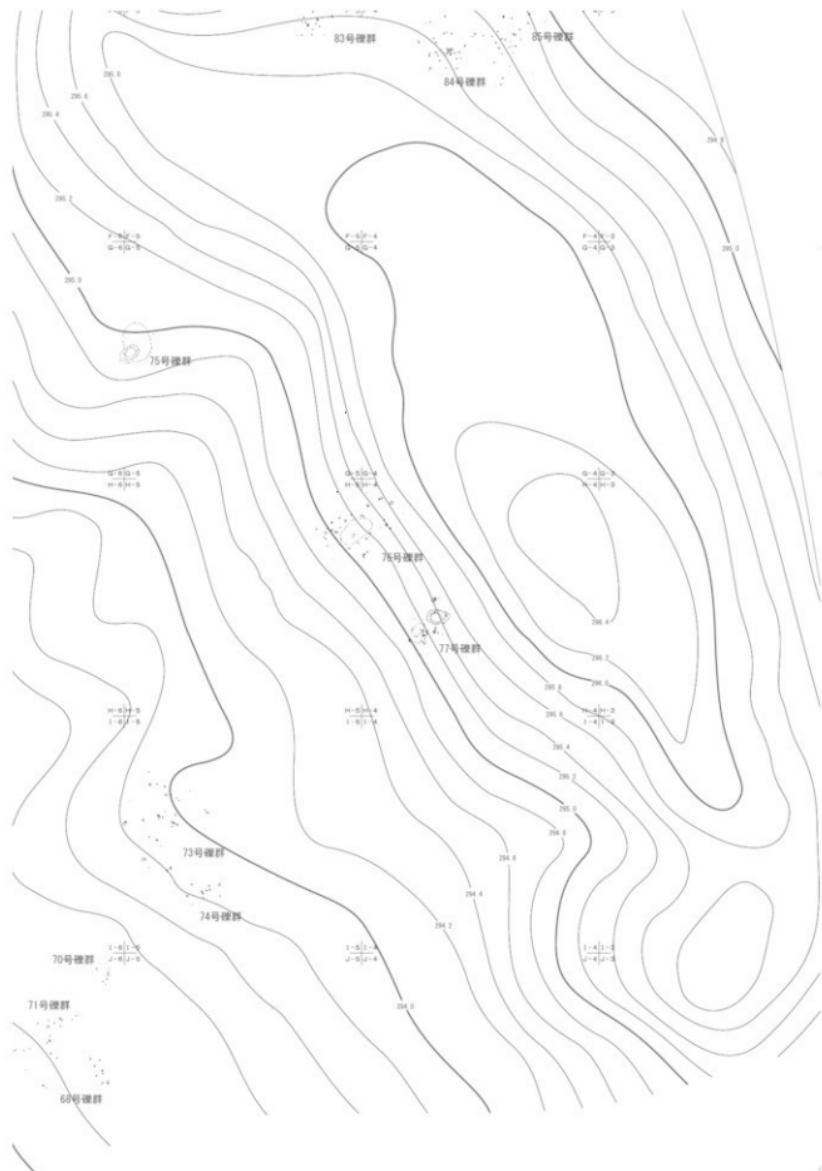
第35図 第Ⅰ文化層遺構配置図5 (1/200)



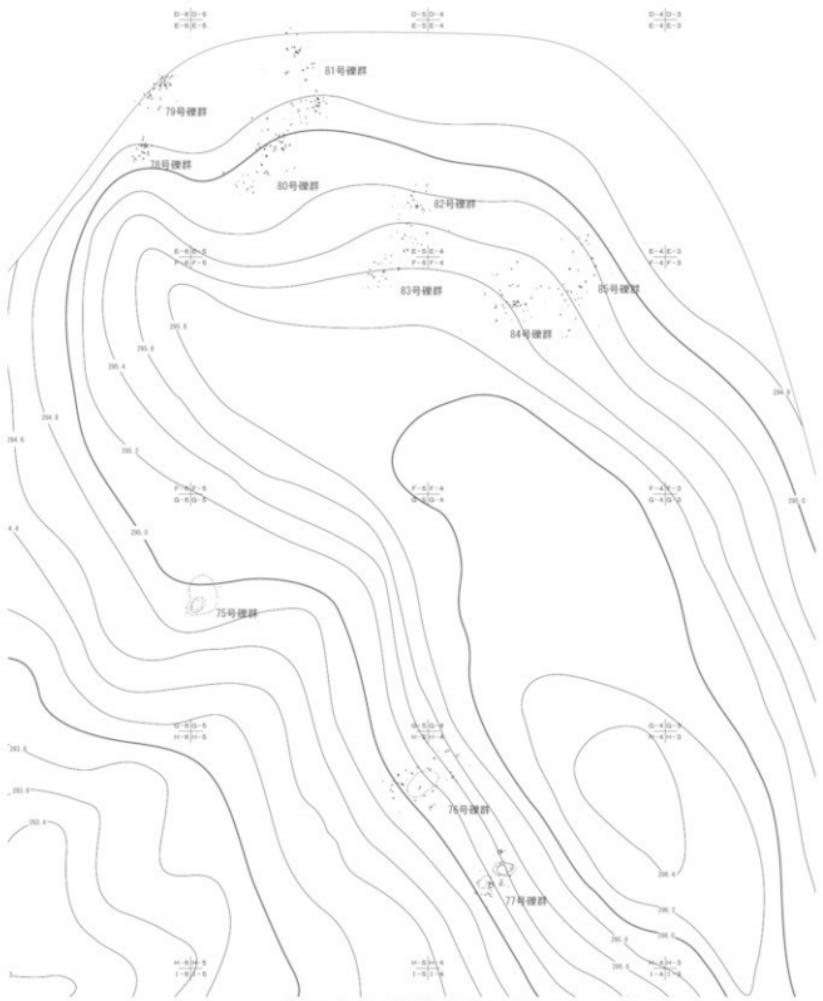
第36図 第1文化層遺構配図6 (1/200)



第37図 第1文化層遺構配置図(1/200)



第38図 第Ⅰ文化層造構配置図8 (1/200)



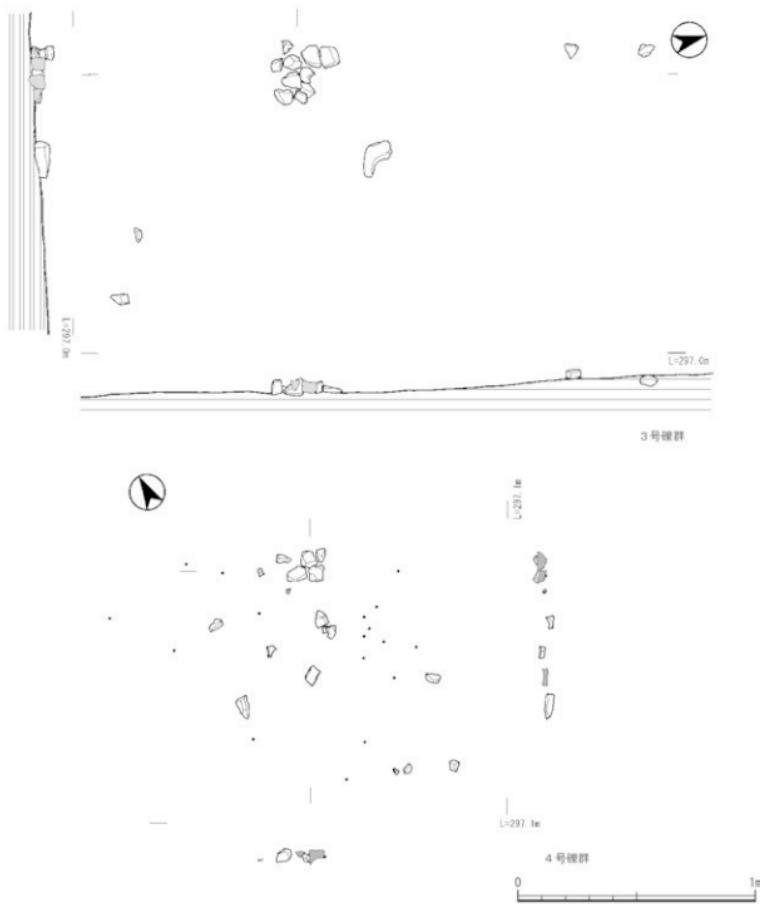
第39図 第I文化層遺構配図9 (1/200)



第40図 X VII層造構実測図(1)

第3表 X VII～X VI層造構観察表(1)

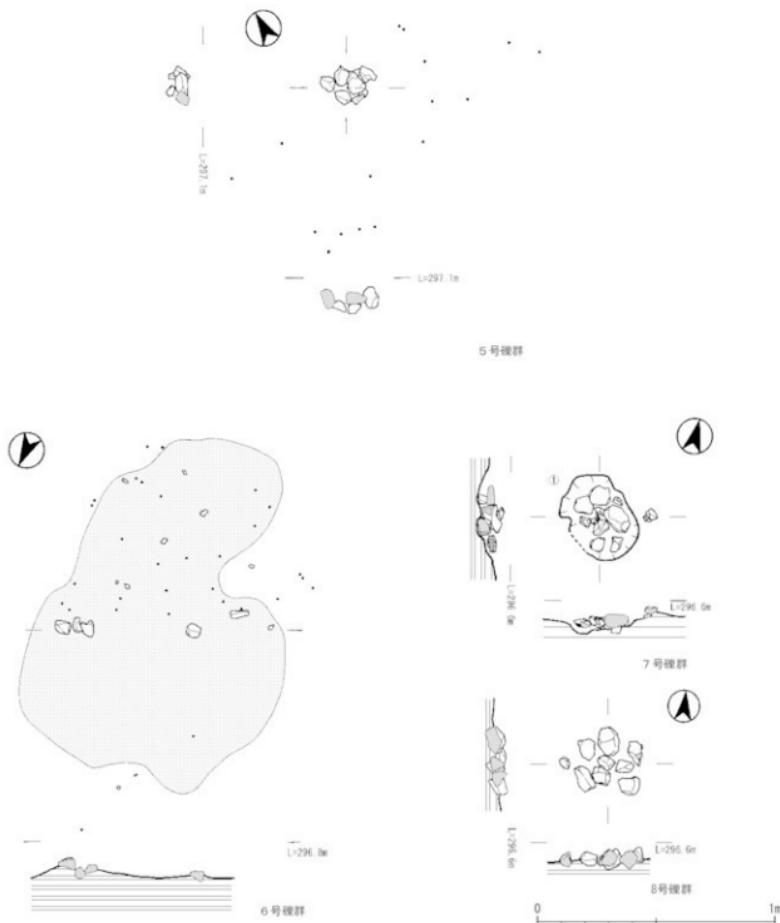
報告書 No	標高(m)	類型	大きさ				炭化物範囲				構成率				小塊群組り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	厚径 (cm)	幅径 (cm)	重量平 均値(g)	純割率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	種数			
1	40	III B	94	88	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	40	III B	208	126	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	



第41図 X VII層遺構実測図 (2)

第4表 X VII~X VI層遺構観察表 (2)

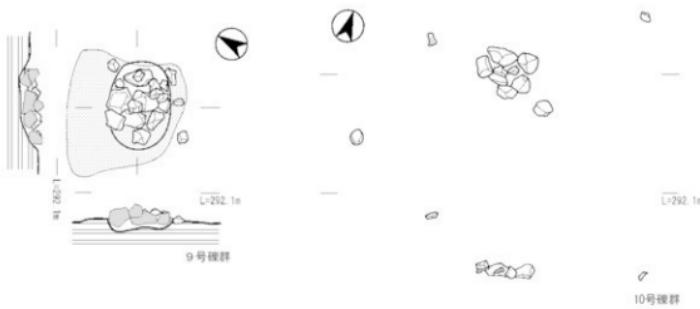
報告番 No	種別 No	類型	大きさ				炭化物範囲				構成比			小標群組込込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 g	被熱率 (%)	破損率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数		
3	41	II	228	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	41	III	106	96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



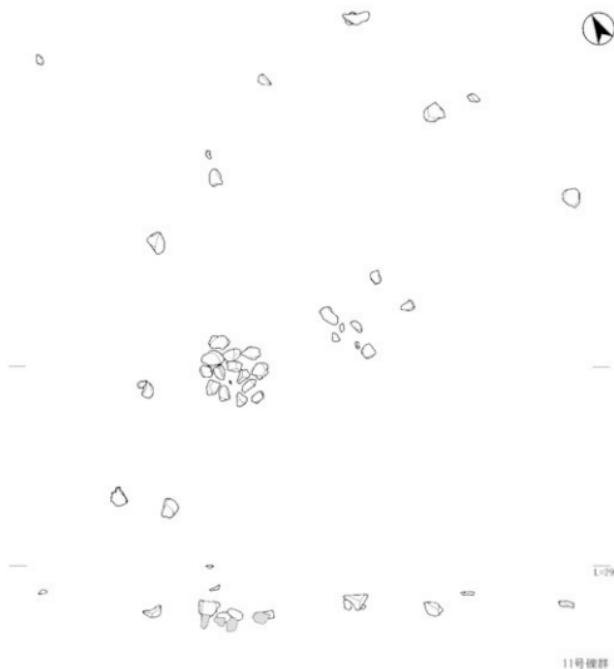
第42図 XVII層造構実測図 (3)

第5表 XVII~XVI層造構観察表 (3)

報告書 No	探査No	類型	大きさ		沈化物範囲			構成層			小埋群組り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数
5	42	II	24	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	42	III	162	110	150	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	42	IA	36	28	-	-	-	-	-	-	①	38	27	6	11
8	42	II	30	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



10号標群



11号標群



第43図 X VII層造構実測図 (4)



第44図 XⅦ層遺構実測図(5)

第6表 X^{II}～X^{VI}層遺構觀察表 (4)

報告書 No.	博(国)名	類型	大きさ						炭化物範囲			種別				小形標本込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量 g	被熟率 (%)	鉛錆率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数					
9	43	I A	48	37	64	51	~	~	~	~	①	38	27	10	19					
10	43	II	126	76	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~					
11	43	II	230	208	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~					
12	44	II	175	168	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~					
13	45	I A	134	79	138	112	120	100	100	真岩(100%)	①	40	38	6	23					
14	45	III B	200	184	172	124	229.56	100	100	輝石安山岩(66.7%), 真岩(33.3%)	~	~	~	~	~					
15	46	III B	108	90	158	88	67.43	100	100	輝石安山岩(28.6%), 穴岩(71.4%)	~	~	~	~	~					
16	46	III B	172	176	~	~	8.67	100	100	真岩(100%)	~	~	~	~	~					

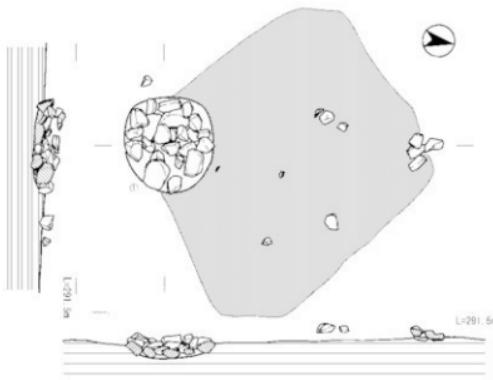
34号碟群(第59図)

I-10区の礫群集中区で検出した。XVII層上面で礫1個と炭化物による汚染エリアを確認し、炭化物汚染エリアのボーリング探査により、掘り込み造構と少量の礫を検出した。造構は85cm×77cmで深さ12cm、埋土は暗褐色砂質土で炭化物の小片を多量に含む。分類はI類。

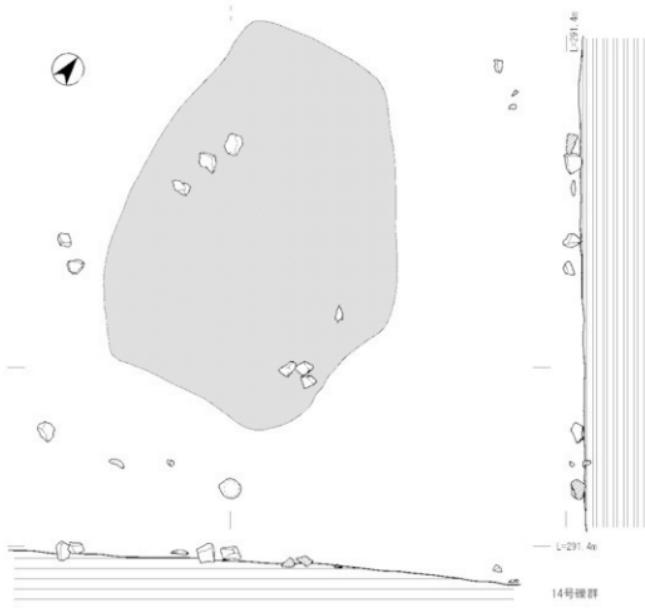
35号碑群(第59図)

I-10区の健群集中区で検出した。遺構配置図では、36号

穀群と棟及び炭化物エリアが重なっているが、36号穀群が先行して検出されている。35号穀群と36号穀群の検出は、約10cmのレベル差があり、35号穀群が先行して使用されたと判断できる。掘り込み道構造は幅38cm×36cm、深さ10cmで、礫13個を内包し、南側へ4個が散逸する。敷造跡周辺に炭化物汚染エリアがあり、その部分の掘り下げを試みたが、道構等の施設は確認できなかった。



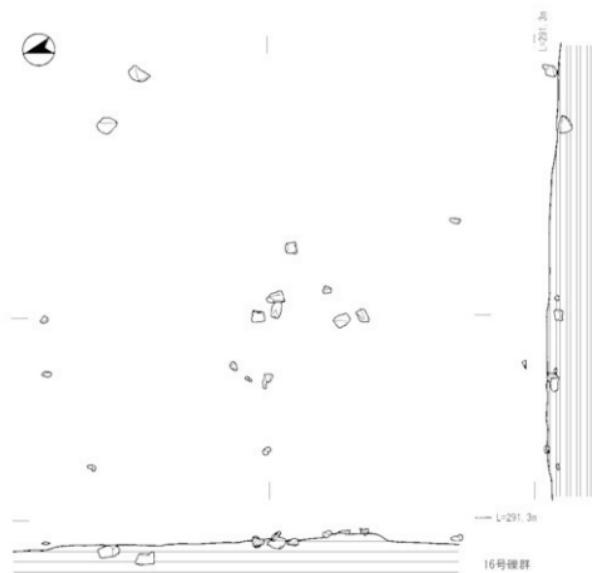
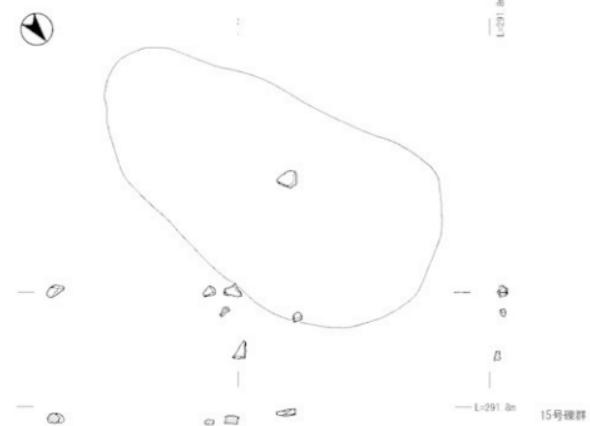
13号罐群



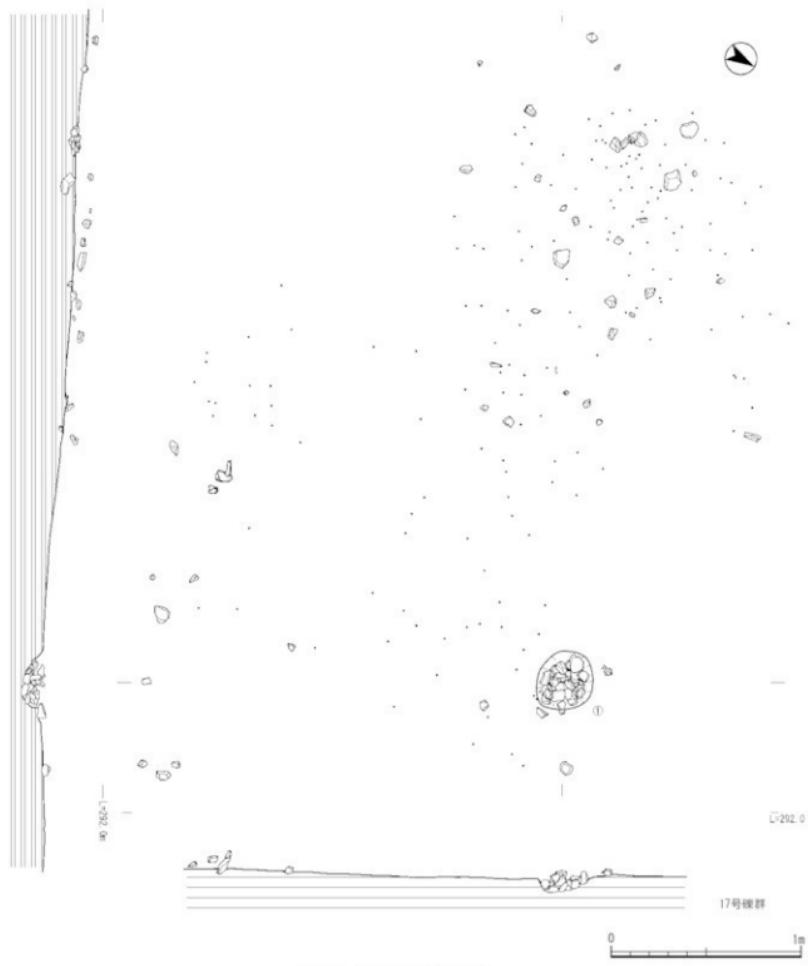
14号罐群

第45図 XVII層造構実測図 (6)





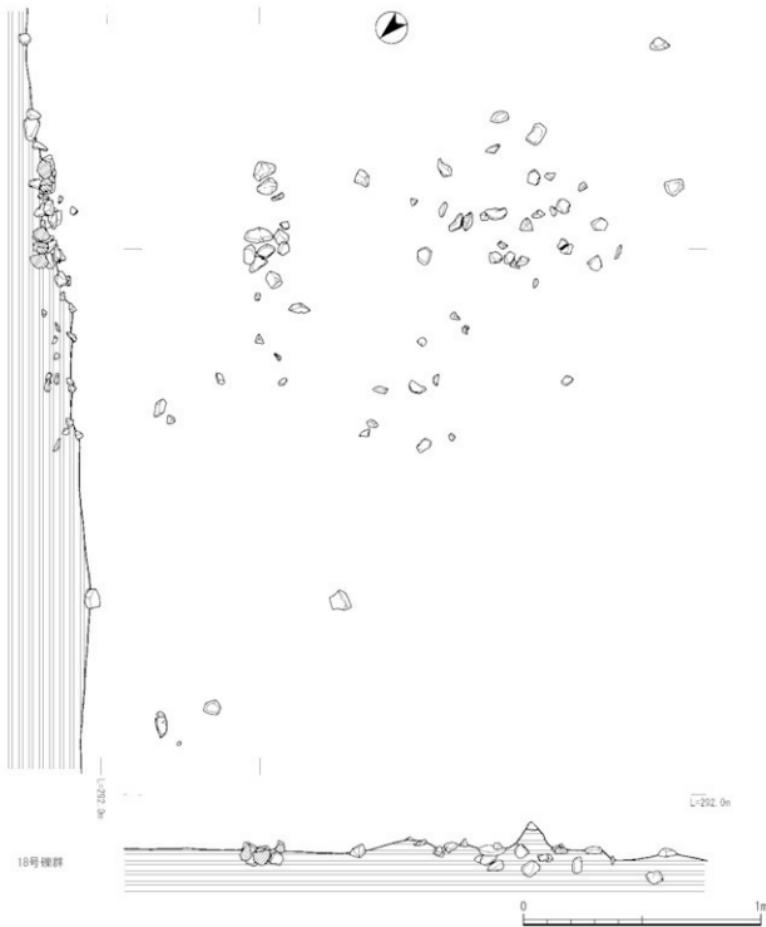
第46図 X VII層造構実測図 (7)



第47図 X VII層構造実測図 (8)

第7表 X VII～X VI層構造観察表 (5)

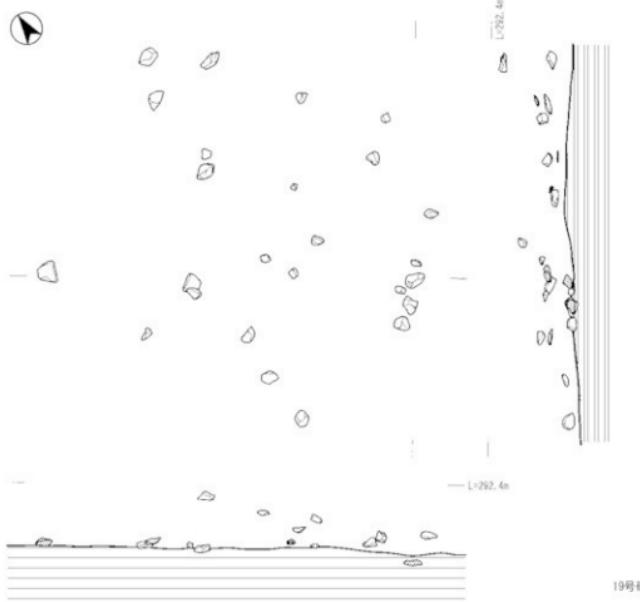
報告書 No.	探査No.	種型	大きさ				炭化物範囲				構成				小様件面込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均値(g) (%)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数			
17	47	IA	314	260	-	-	111.44	98.6	97.3	麻石安山岩(9.7%)砂岩(38.4%)頁岩(21.9%)	①	28	28	10	21			



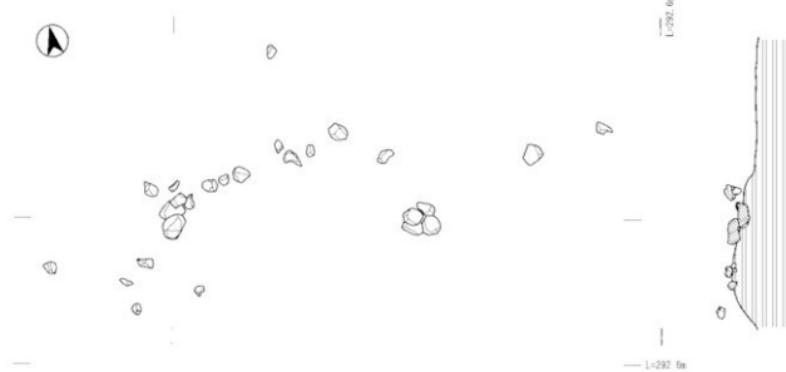
第48図 XVII層追模実測図 (9)

第8表 XVII～XVI層造構観察表 (6)

報告書 No	地図No	類型	大きさ				灰化物範囲			構造				小塊群振り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	高径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 内積(g)	被熟率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数		
18	48	III A	296	224	-	-	104.81	100	100	輝石安山岩(47.8%), 硫黄(37.3%), 长英岩(14.9%)	-	-	-	-	-		



19号砾群



20号砾群



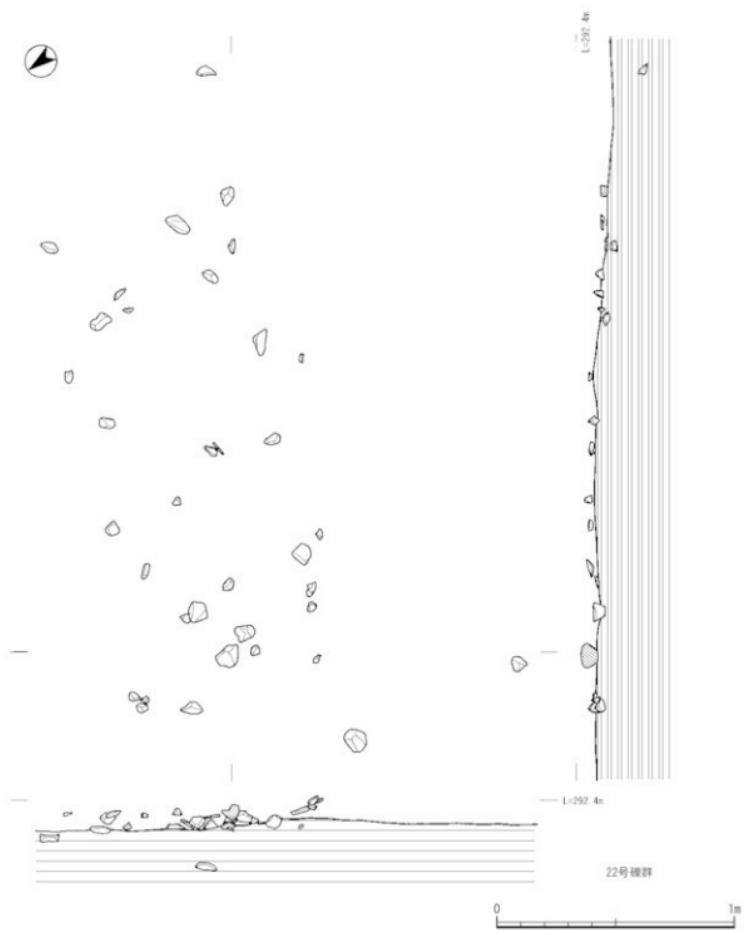
第49図 XVII層造構実測図 (10)



第50図 X VII層造構実測図 (11)

第9表 X VII～X VI層造構観察表 (7)

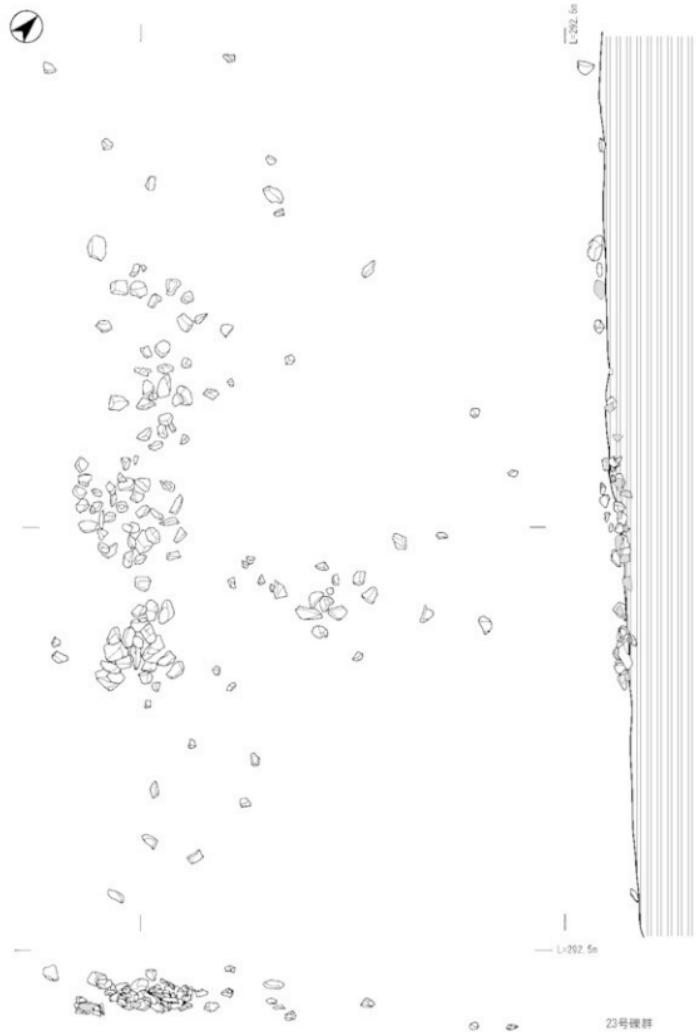
報告書 No	地層 名	類型	大きさ		炭化物範囲				構成層				小群群団り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均重(g)	破壊率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	種数	
19	49	III B	168	160	-	-	64.01	93.8	87.5	輝石安山岩(50%)、砂岩(19%)、頁岩(31%)	-	-	-	-	-	
20	49	III A	242	116	-	-	181.39	100	93.1	輝石安山岩(51.7%)、砂岩(41.4%)、頁岩(6.9%)	-	-	-	-	-	
21	50	III A	308	196	276	185	107.76	100	85.7	輝石安山岩(52.4%)、砂岩(23.8%)、頁岩(16.7%)、不明(7.1%)	-	-	-	-	-	



第51図 XⅦ層造構実測図 (12)

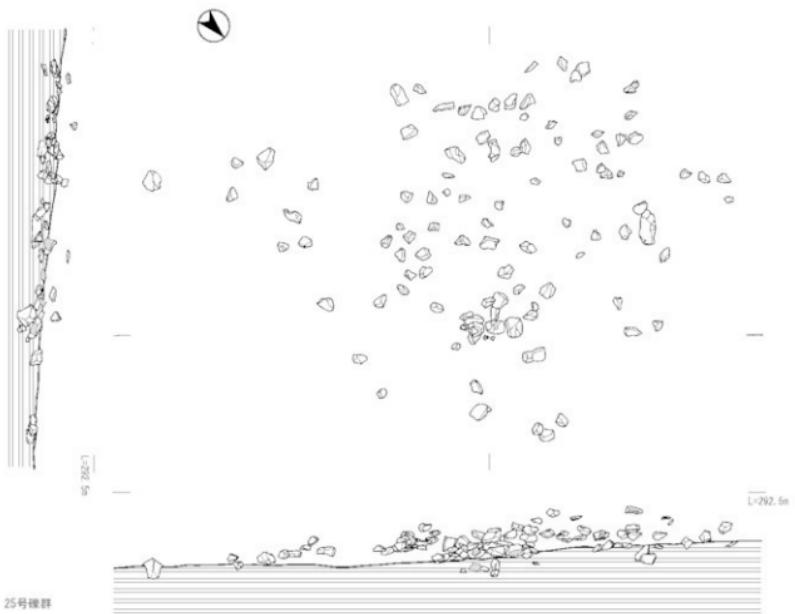
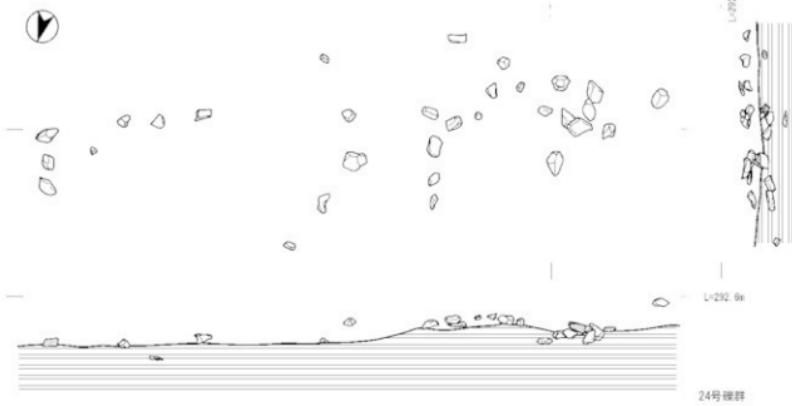
第10表 XⅦ～XVI層造構観察表 (8)

報告書 No.	採因No.	類型	大きさ		炭化物範囲			構成率		小様目盛り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均値(g)	被點率 (%)	被率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数
22	51	Ⅷ	290	204	-	-	90.29	100	87.1	輝石安山岩(48.4%), 砂岩(41.9%), 黄岩(9.7%)	-	-	-	-	-
22	52	Ⅸ	358	196	-	-	90.19	100	94.9	輝石安山岩(35.1%), 砂岩(27.7%), 黄岩(37.2%)	-	-	-	-	-

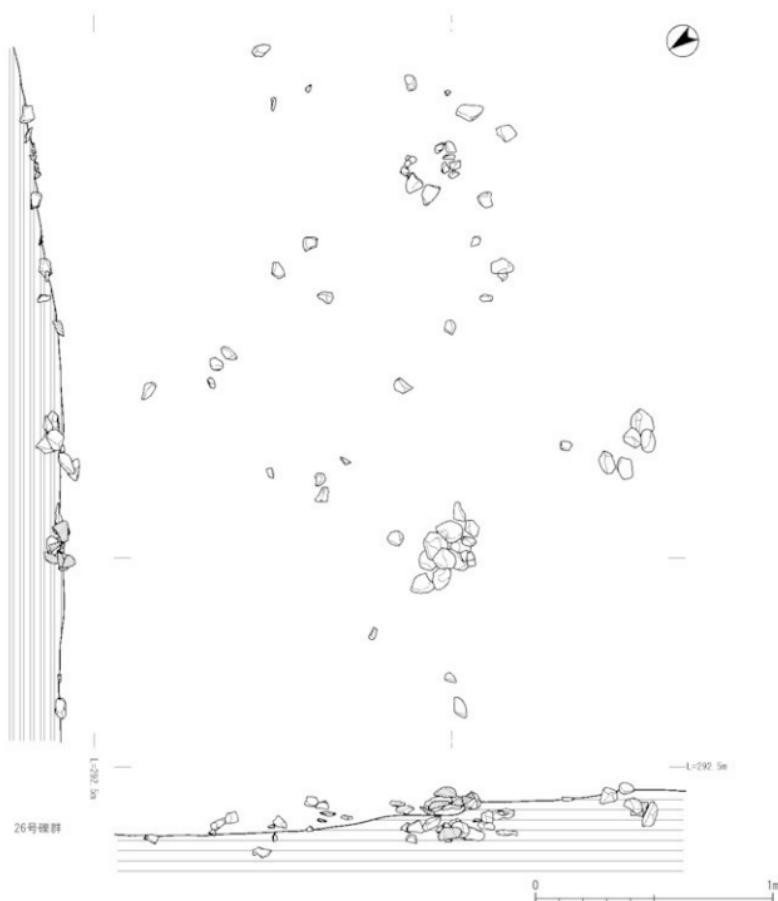


第52図 XVII層遺構実測図 (13)





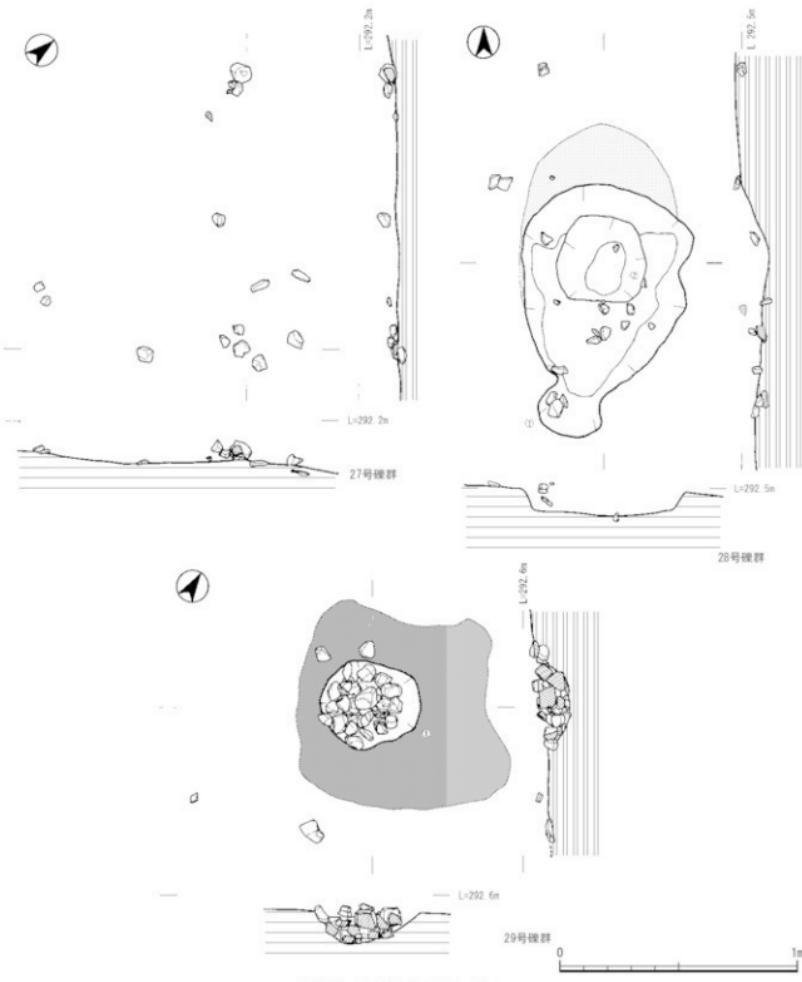
第53圖 XⅦ層造構實測圖 (14)



第54図 X VII層造構実測図(15)

第II表 X VII～X VI層造構観察表(9)

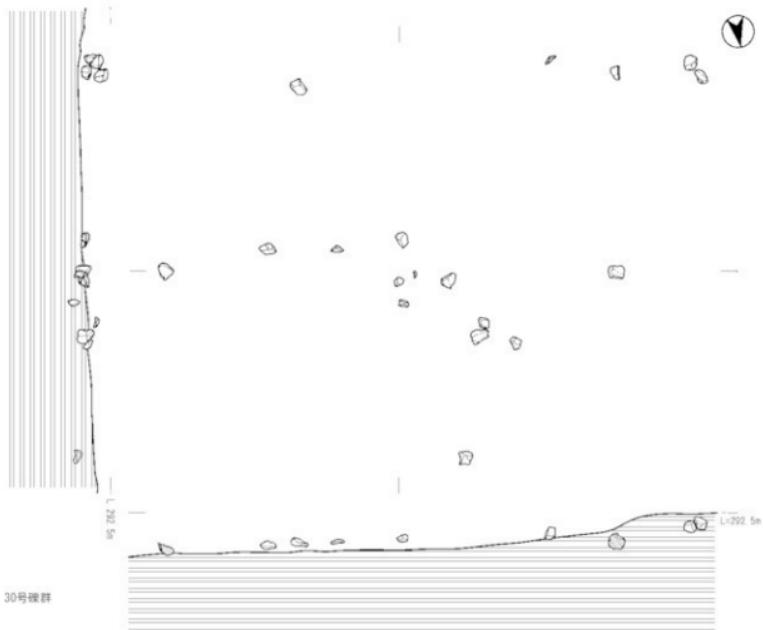
報告書 No	探因No	類型	大きさ				炭化物範囲				構成層				小塊群掘り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均値(g)	破壊率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	標数			
24	53	III-B	264	102	-	-	98	100	88.9	輝石安山岩(59.3%), 砂岩(7.4%), 真岩(33.3%)	-	-	-	-	-	-		
25	53	III-A	248	164	-	-	61.4	100	99	輝石安山岩(18%), 砂岩(51%), 黄鐵(21%)	-	-	-	-	-	-		
26	54	II	264	216	-	-	168.88	98.2	94.6	輝石安山岩(48.2%), 砂岩(33.9%), 真岩(17.9%)	-	-	-	-	-	-		



第55図 XIVA層造構実測図 (16)

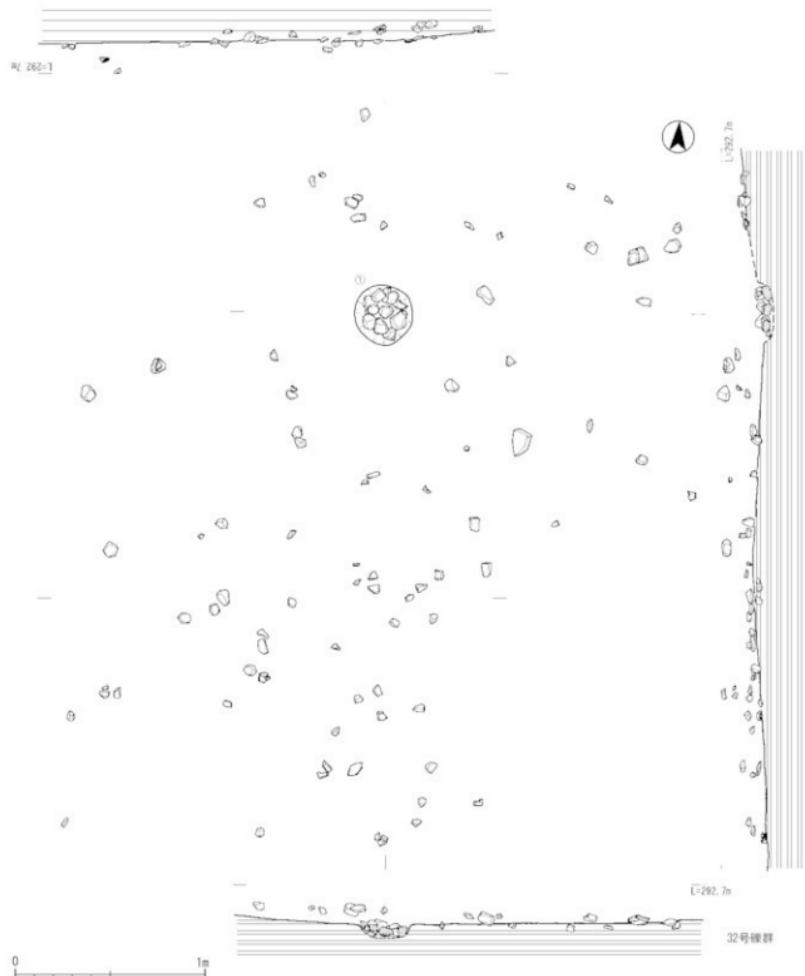
第12表 XIVA~XVII層造構観察表 (10)

報告書 No.	探査No.	類型	大きさ				風化物範囲	構成率				小樣品盛り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	高さ (cm)	幅理 (cm)		重量 平均 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
27	55	ⅢB	130	116	-	-	116.63	100	93.8	-	-	-	-	-	-
28	55	ⅠB	150	70	95	66	220.86	100	97.2	輝石安山岩(56.3%), 砂岩(12.5%), 黄岩(31.2%)	①	93	67	11	15
										輝石安山岩(94.4%), 砂岩(2.8%), 黄岩(2.8%)	②	42	37	11	2
29	55	ⅠA	90	86	-	-	105	92	-	-	①	40	35	13	38



第56図 XVII層造構実測図(17)





第57図 XⅦ～XVI層造構実測図 (18)

第13表 XⅦ～XVI層造構観察表 (11)

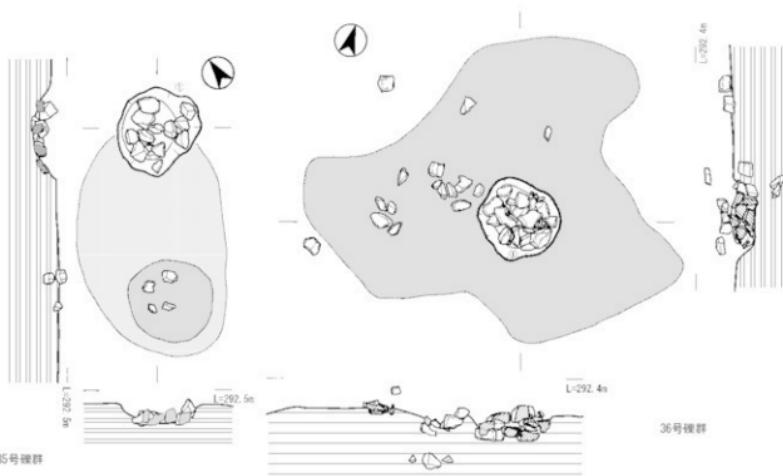
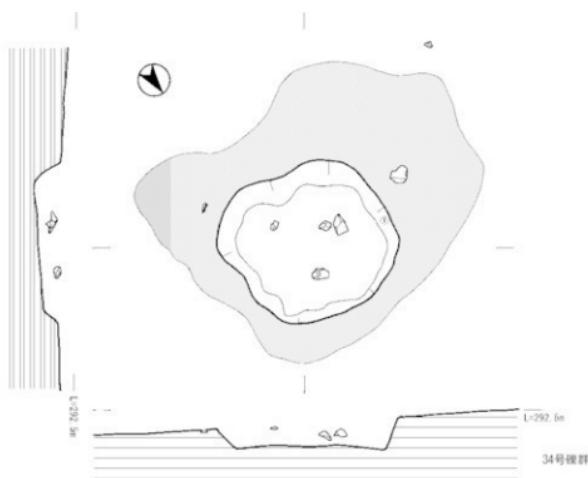
相名 No.	採取No.	相型	大きさ				変化物範囲				構成率				小様群盛り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 値(g)	被點率 (%)	被點率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数			
30	56	ⅢB	230	172	-	-	111.39	100	100	輝石安山岩(5.2%), 砂岩(34.8%)	-	-	-	-	-	-	-	
31	56	ⅢB	144.8	102	-	-	75.89	100	100	輝石安山岩(63.2%), 砂岩(26.3%), 黄鐵(10.5%)	-	-	-	-	-	-	-	
32	57	1A	390	335	-	-	114.61	97.3	94.6	輝石安山岩(45.5%), 砂岩(33.1%), 黄鐵(21.4%)	①	32	27	7	11			



第58図 X VII層造構実測図 (19)

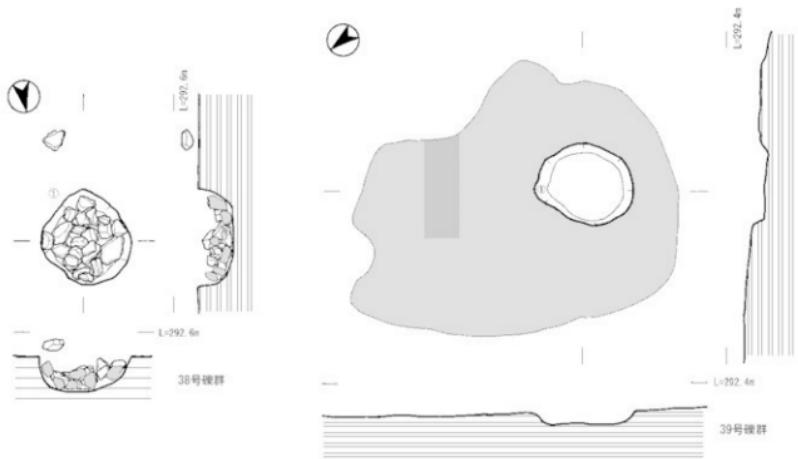
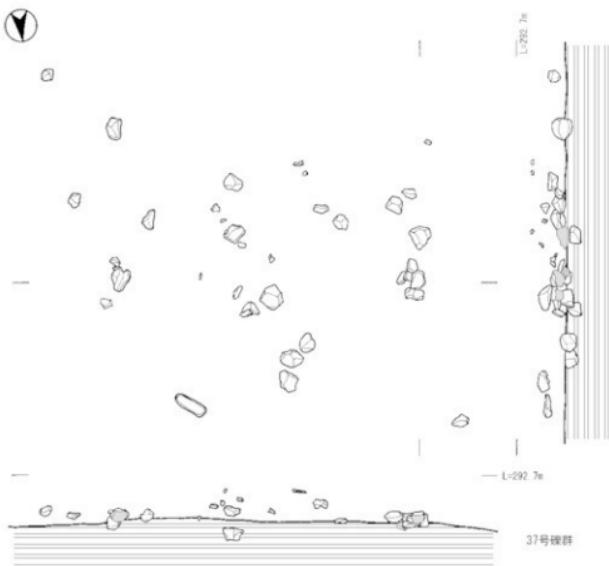
第14表 X VII～X VI層造構観察表 (12)

報告書 No	探査No	類型	大きさ			沈化物範囲			構成率			小礫群組り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	高径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数
33	58	IA	164	158	174	112	156.58	100	97.7	輝石安山岩(45.5%), 砂岩(23.9%), 黄岩(29.5%), 不明(5.3%)	①	40	40	8	9
											②	90	60	12	25
											③	60	50	20	35
											④	40	40	6	10
											⑤	40	34	4	0



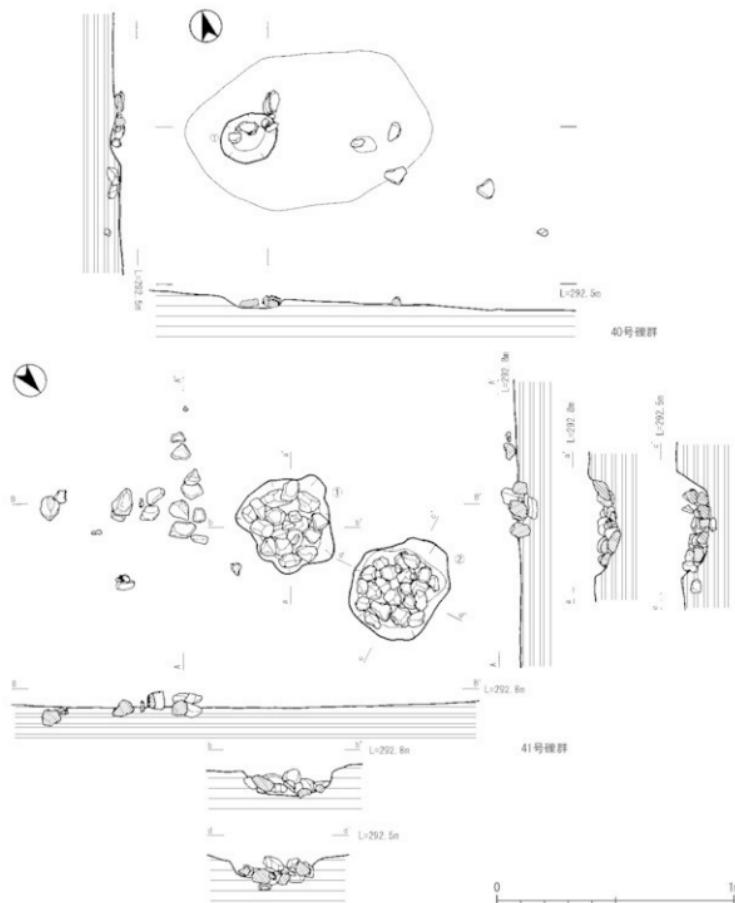
第59圖 XⅦ層造構實測圖 (20)





第60図 XⅦ層遺構実測図(2)

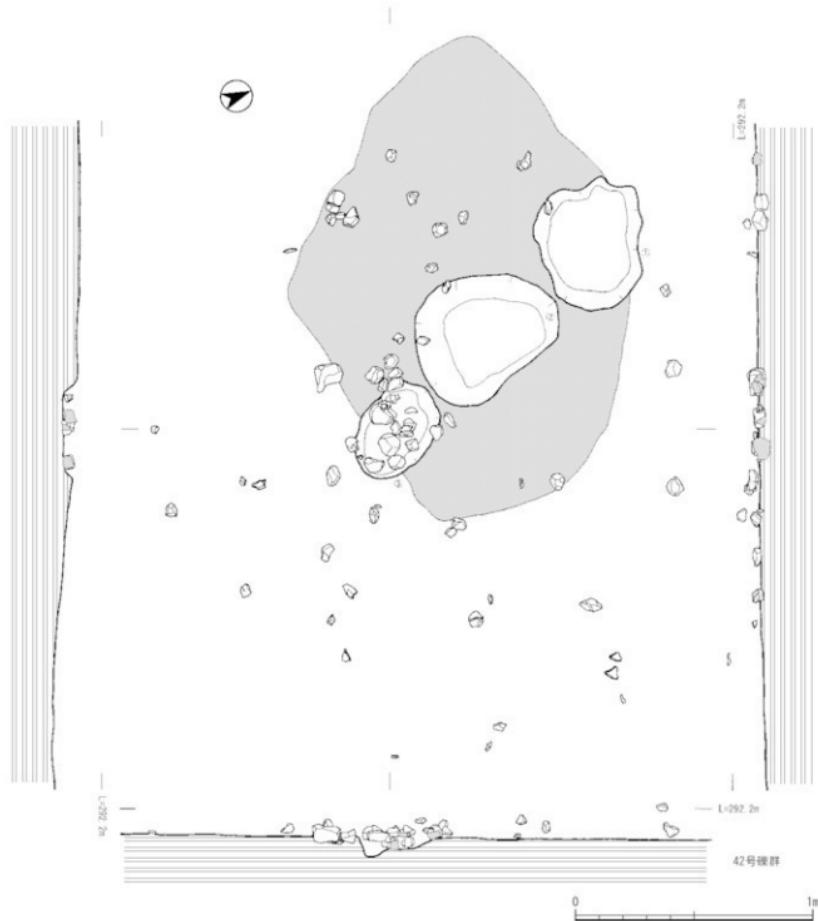




第15表 XVII~XVI層造構観察表 (13)

報告番 No	採集場 所	種型 No	大きさ				炭化物範囲				構成				小樣剖面込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数			
34	59	1C	101	97	146	122	52.4	100	100	輝石安山岩(40%)、砂岩(20%)、頁岩(40%)	①	85	77	12	4			
35	59	1A	90	30	96	66	-	-	-	-	②	38	36	10	13			
36	59	1A	106	76	162	120	-	-	-	-	③	34	34	8	25			
37	60	2B	190	-	-	-	193.2	96.6	94.3	輝石安山岩(61.4%)、砂岩(32.9%)、頁岩(15.7%)	-	-	-	-	-			
38	60	1A	66	38	-	-	-	-	-	-	④	40	38	14	23			
39	60	1C	-	-	146	114	-	-	-	-	⑤	42	34	6	0			

第61図 XVII層造構実測図 (22)



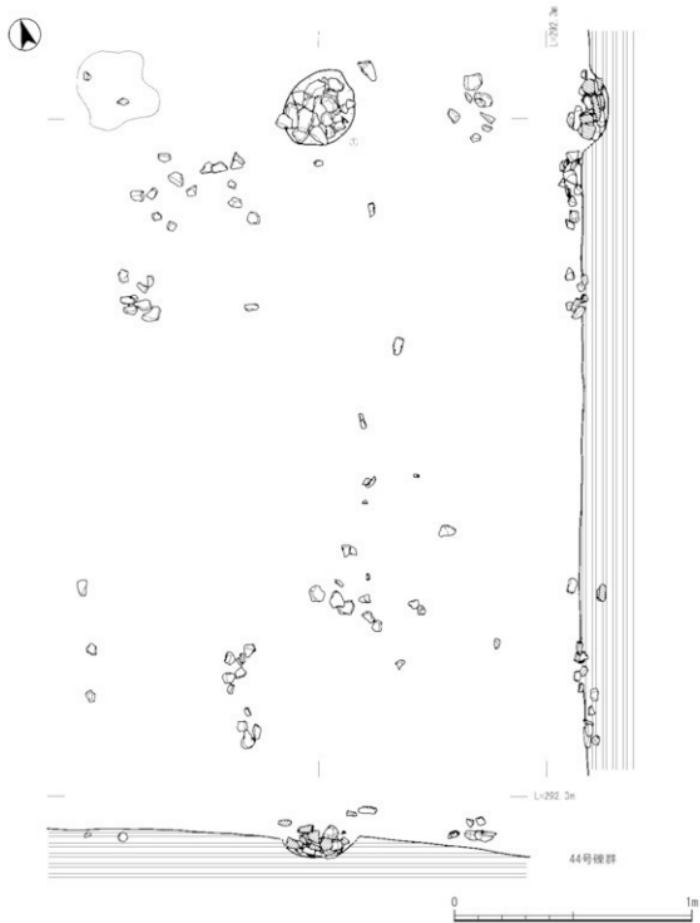
第62図 X VII層構造実測図 (23)

第16表 X VII～X VI層構造観察表 (14)

報告書 No	探因No	類型	大きさ						炭化物範囲				構成比				小砾群割り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数					
40	61	1B	134	64	104	66	91.65	100	100	輝石安山岩	①	24	20	4	6	42号礫群	42号	42	42	
41	61	1A	168	88	-	-	275.05	98.5	98.5	輝石安山岩	②	42	40	12	20					
42	62	1B	256	224	202	144	114.11	100	100	輝石安山岩	③	46	42	14	24					
										輝石安山岩	①	56	44	10	1					
										輝石安山岩	②	64	50	6	2					
										輝石安山岩	③	46	30	8	19					



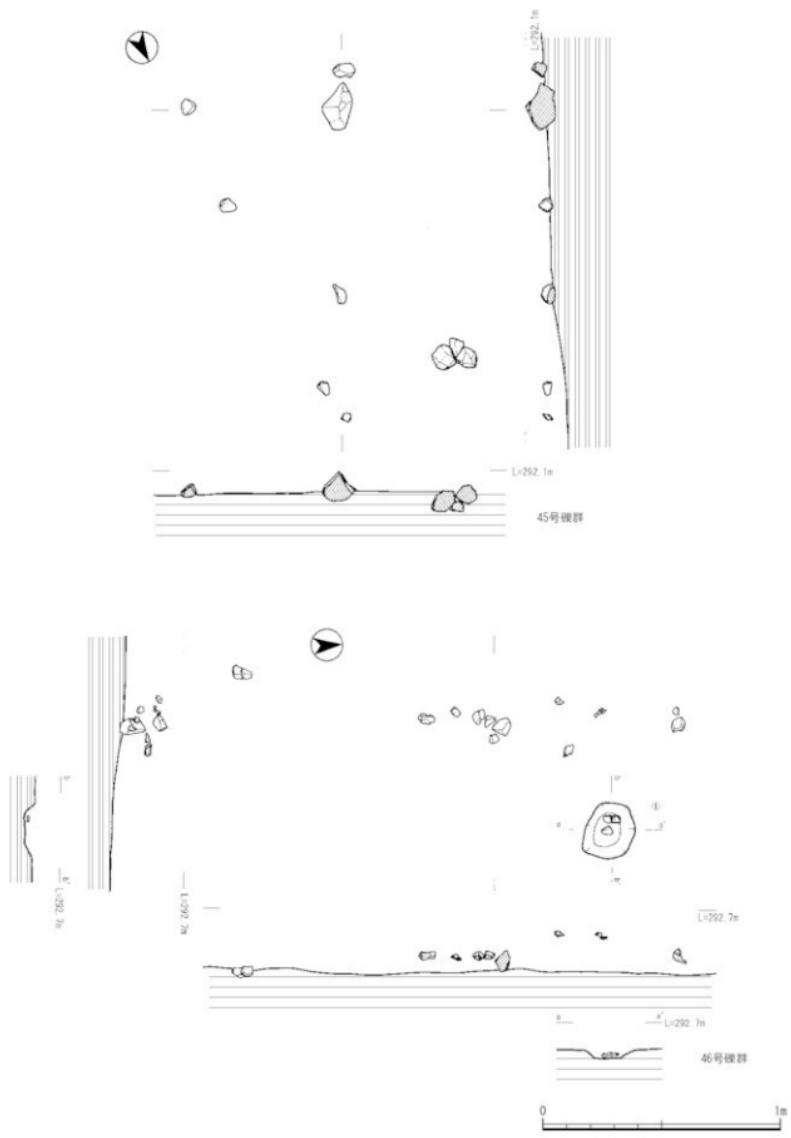
第63图 XVII层构造实测图 (24)



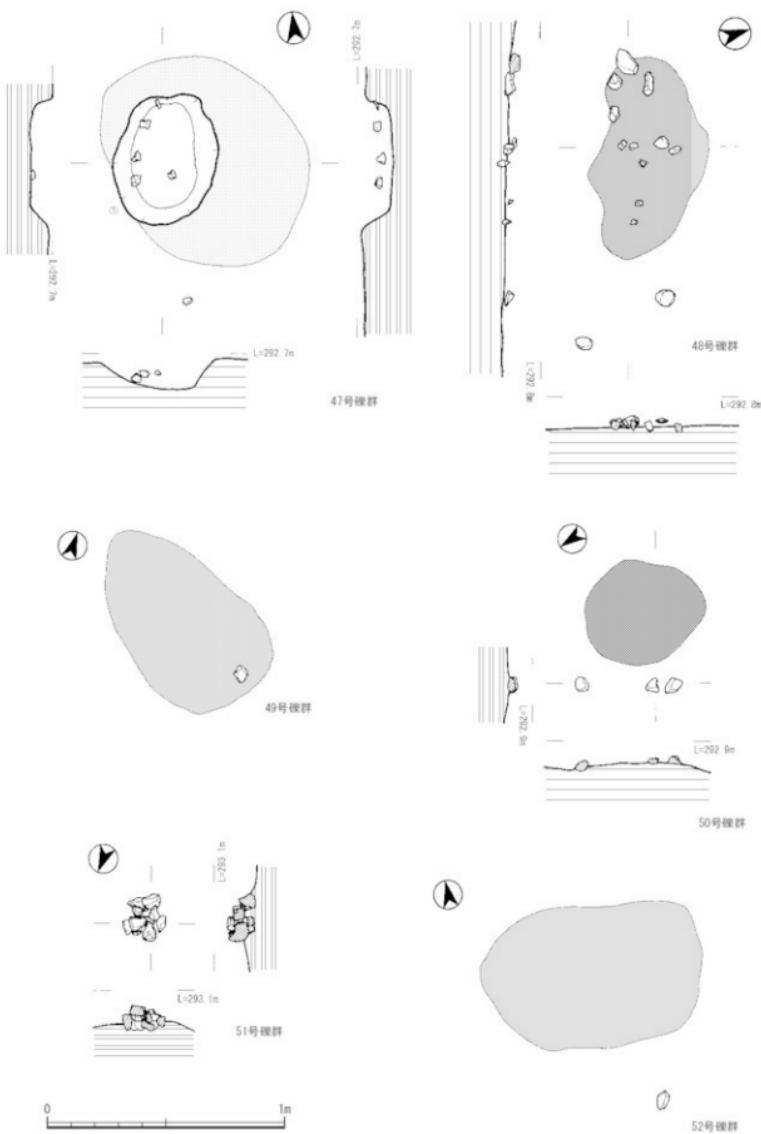
第64図 XⅦ層遺構実測図 (25)

第17表 X VII~X VI層遺構觀察表 (15)

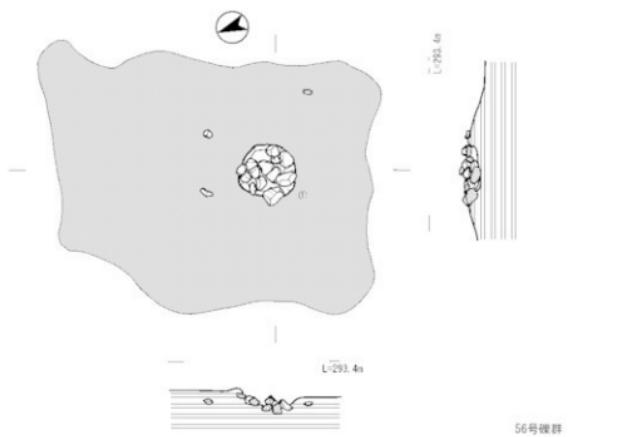
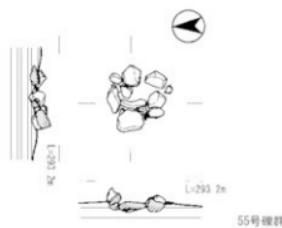
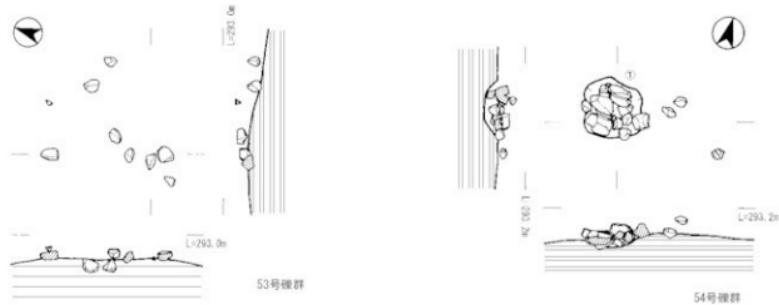
報告書 No	障害箇 所	類型	大きさ				成化物範囲		構成比				小標群割引込み			
			長径	短径	高さ	幅	重量(g)	熱吸収率(%)	燃焼率(%)	石材	No	長径	短径	深さ	幅	
43	63	1B	325	180	100	36	119.52	190	93.5	碧玉山石岩(45.7%)	9	22	17	4	5	
44	64	1A	290	176	36	36	100.21	180	100	碧玉山石岩(36.9%)	34	28	26	12	24	



第65圖 XVII層造構實測圖 (26)

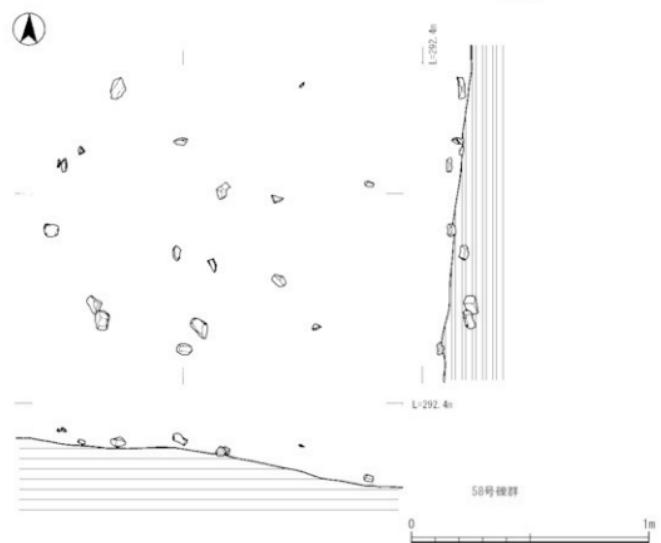
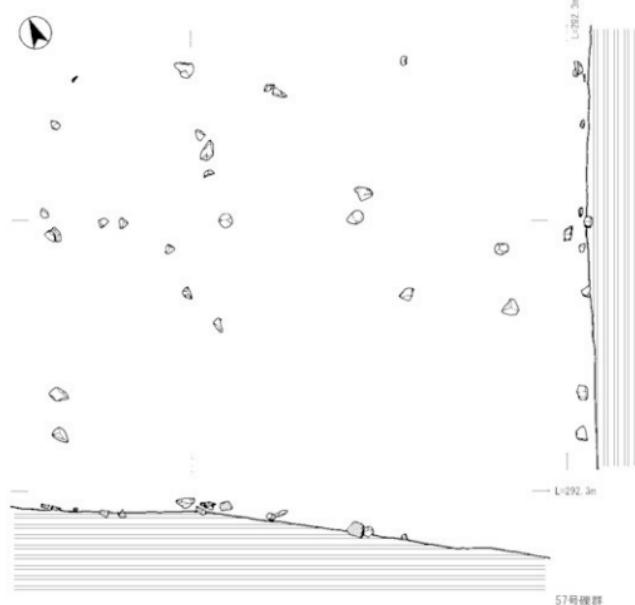


第66图 X VII层造模实测图 (27)



第67図 XVII層造構実測図 (28)





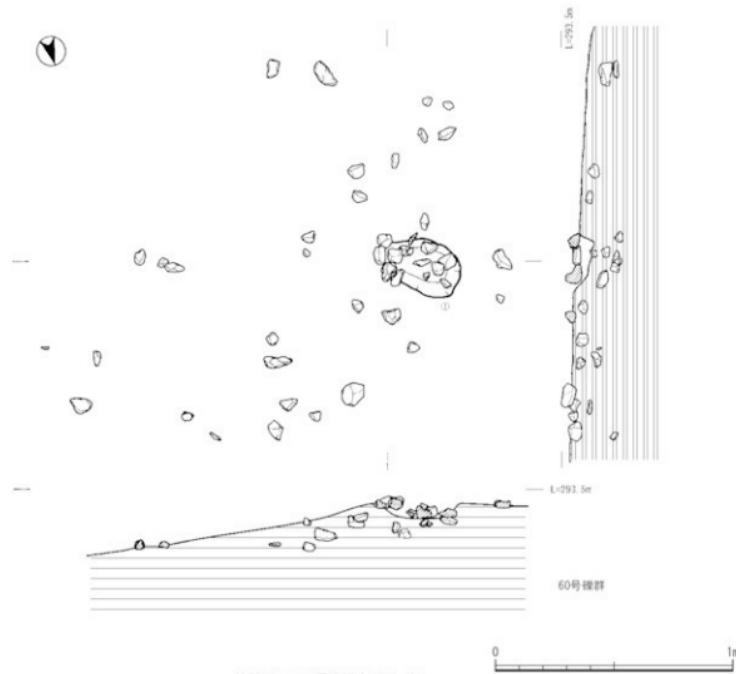
第68図 X VII層造構実測図 (29)



第69図 XVII層造構実測図 (30)

第18表 XVII~XVI層造構観察表 (16)

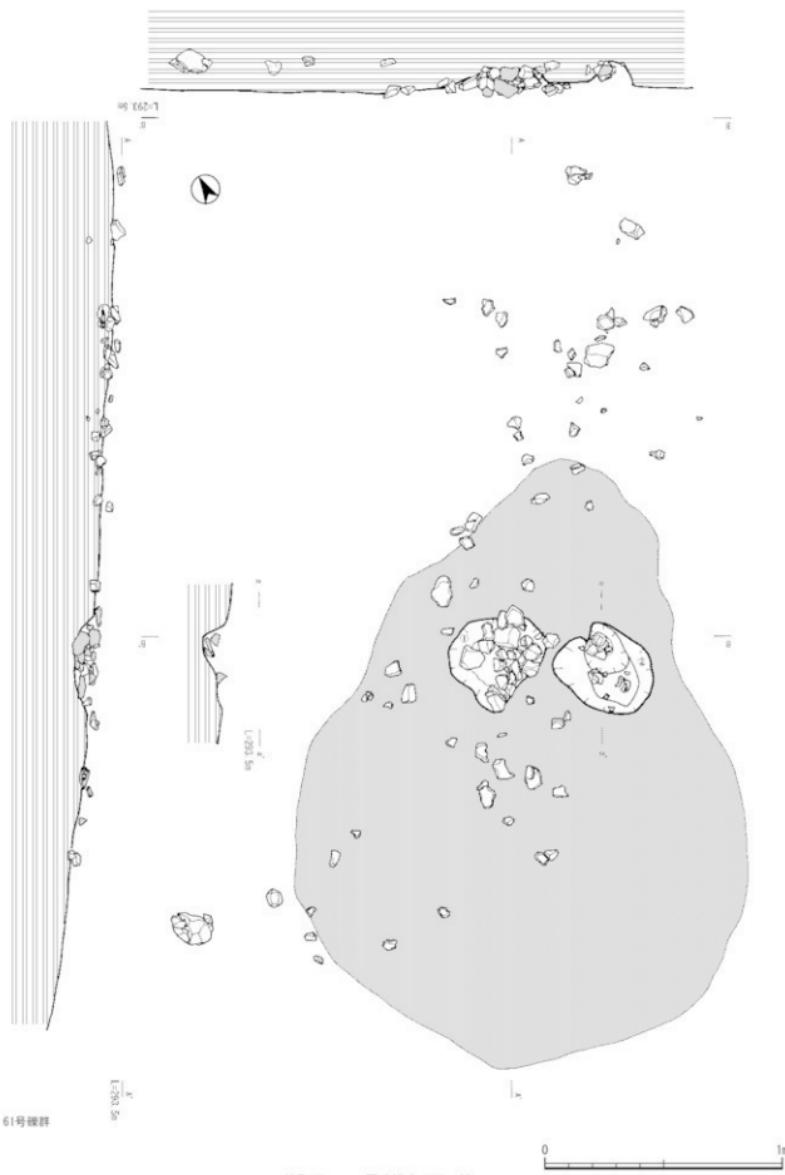
報告書 No.	採集No.	類型	大きさ				炭化物範囲				構成				小様目盛り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	真径 (cm)	幅 (cm)	重量平均 値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数				
45	65	ⅢB	152	126	-	-	348.95	100	95	輝石安山岩(0%), 真岩(2%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
46	65	ⅠB	188	68	-	-	61.56	100	100	輝石安山岩(5%), 砂岩(44%)	①	26	20	6	3	-	-	-	-
47	66	ⅠB	88	26	98	78	26.71	100	100	輝石安山岩(42%), 砂岩(29%), 真岩(29%)	①	56	42	12	5	-	-	-	-
48	66	ⅢB	126	44	86	48	87.27	100	100	輝石安山岩(27.3%), 砂岩(45.4%), 真岩(27.3%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
49	66	ⅢB	-	-	86	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50	66	ⅢB	44	6	51	45	100	100	80	輝石安山岩(40%), 砂岩(40%), 真岩(20%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
51	66	Ⅱ	20	38	-	-	194.3	100	100	輝石安山岩(90%), 砂岩(10%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
52	66	ⅢB	-	-	92	60	180	100	100	砂岩(100%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
53	67	ⅢB	56	54	-	-	82.43	100	92.9	輝石安山岩(84.3%), 砂岩(21.4%), 真岩(14.2%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
54	67	ⅠA	60	32	-	-	152.67	100	100	輝石安山岩(83.3%), 砂岩(11.1%), 真岩(5.6%)	①	26	24	6	12	-	-	-	-



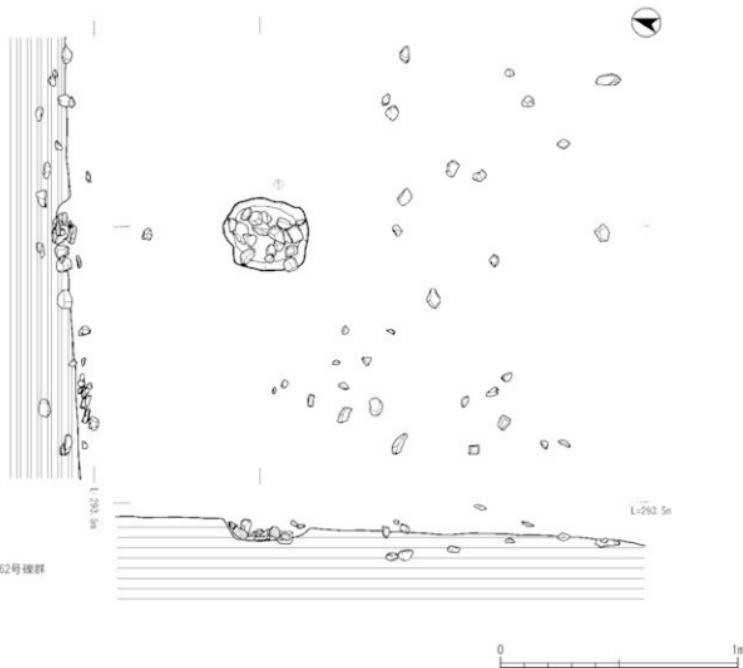
第70図 X VII～X VI層造構実測図 (31)

第19表 X VII～X VI層造構観察表 (17)

報告書 No	標因No	類型	底化物範囲					構成率	小標群組り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	重慶平均 均値 (d)	破壊率 (%)		No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	標数	
55	67	II	28	28	-	-	-	-	①	24	22	6	13	
56	67	IA	46	44	142	100	109.44	100	-	-	-	-	-	
57	68	III B	164	200	-	-	85	100	-	-	-	-	-	
58	68	III B	136	118	-	-	107.17	94.4	100	-	-	-	-	
59	69	IB	152	96	174	136	138.47	100	輝石安山岩 (100%)	①	38	34	6	6
60	70	IB	198	162	-	-	97.16	98.3	100	②	56	38	14	1
61	71	IA	336	224	258	190	130.08	100	輝石安山岩 (44.5%)、砂岩 (30.5%)、頁岩 (24.0%)	①	32	34	6	15
62	72	IA	202	172	-	-	136.91	95.7	91.3	②	40	38	8	25
63	73	IB	200	176	-	-	126.35	100	輝石安山岩 (67.4%)、砂岩 (18.6%)、頁岩 (14%)	③	36	30	7	17
64	74	III B	244	178	-	-	87.43	100	輝石安山岩 (53.8%)、砂岩 (23.4%)、頁岩 (12.8%)	-	-	-	-	-
65	75	IB	310	276	276	126	107.1	100	輝石安山岩 (55.3%)、砂岩 (22.7%)、頁岩 (21.0%)	④	26	34	4	4
66	76	IA	252	230	265	197	149.46	99.36	97.5	⑤	34	28	12	24
									-	⑥	41	33	6	1
									-	⑦	42	36	14	29
									-	⑧	28	26	10	10
									-	⑨	32	20	6	14



第71図 XvII層遺構実測図 (32)



第72図 XVII層造構実測図 (33)

36号礫群(第59図)

I-10区35号礫群の近くで検出した。38号礫群と同様のレベル位置で検出し、掘り込み造構は径34cm×34cm、深さ8cmで、拳大の礫25個を内包していた。造構周辺では、多数の炭化物と炭化物汚染エリアを確認している。

38号礫群(第60図)

I-10区で検出した。検出面が標高292.50mであるが、このレベルでは隣接する35号礫群(約2m)と36号礫群(約1m)は、その存在は知られていない。35号礫群とは約6cm、36号礫群とは約22cmの検出位置の高低差がある。従って、38号礫群が最も遅れて造られたと判断できる。掘り込み造構は、径40cm×38cm、深さ14cmで、造構内で23個の礫が密に残されていた。なお、炭化物の確認は微量である。

39号礫群(第60図)

I-9区で検出し、炭化物に汚染されたエリア内に径42cm×34cm、深さ6cmの浅い掘り込み造構が確認された。造構内

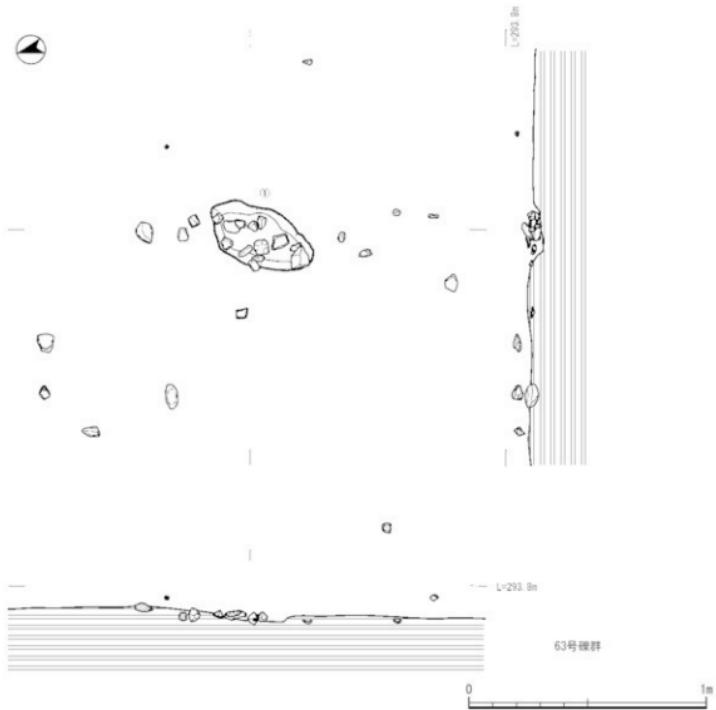
には礫も残されず、浅いが明確な皿状の掘り込みが確認できることから、礫群として取り扱い、造構内の礫は運び出されたと想定している。分類はI C類。

41号礫群(第61図)

I-9区で検出した。小礫群①を検出した段階では、まだ小礫群②の存在は知られていない。(図版40の③段階) 級群①の調査終了後、周辺の掘り下げで段階で③の北側に礫群②を確認し、検出した。(図版40の④段階) その距離約10cmである。極めて類似した形態を呈し、拳大よりやや小さめの礫を内包していた。小礫群①の南側には、造構内から搔き出されたと推測される礫が20個程散逸している。分類はI A類。

42号礫群(第62図)

J-9区で検出し、標高292.10mで炭化物汚染エリアと礫の散逸を確認した。その後、汚染エリアを精査・掘り下げを行い掘り込み造構を確認し、検出した。小礫群①は径56cm×44cm、深さ10cmで、礫1個を含んでいた。小礫群②は径



第73図 XVII層造模実測図 (34)

64cm×50cm、深さ6cmの浅い皿状を成す。小砾群③は径46cm×30cm、深さ8cm、礫19個が入っていた。礫は半数以上が輝石安山岩で全ての礫が被熱し破碎していた。

44号砾群(第64図)

J-9区で検出した。42号砾群同様、散逸した礫と微量の炭化物が確認された後、その下位から深さ約4cmで礫を含む皿状の掘り込み造構を検出している。埋土は弱暗灰色を示すが、炭化物は非常に少ない。

45号砾群(第65図)

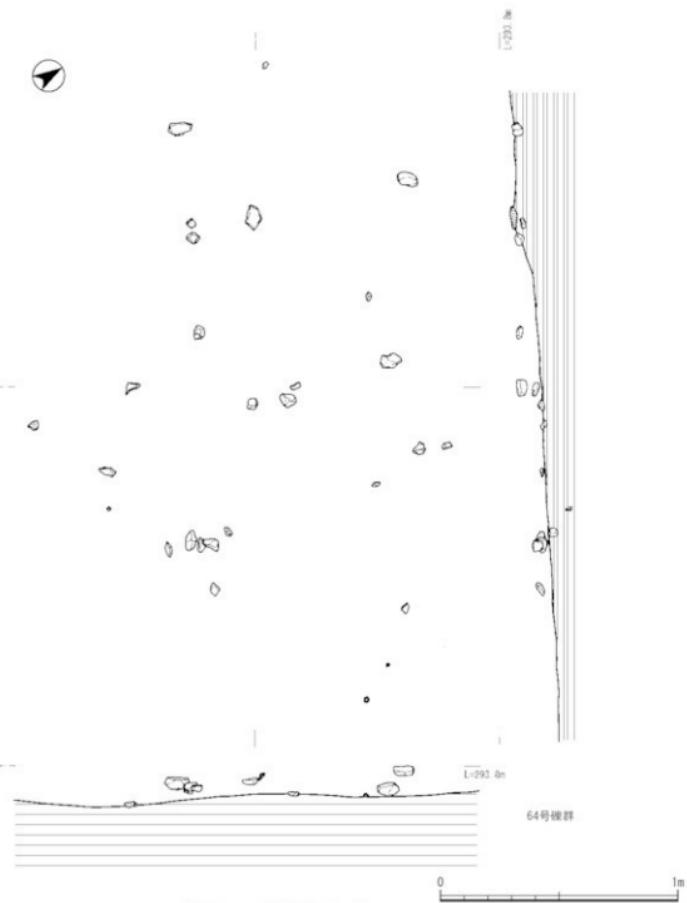
J-9区で検出し、掘り込み造構は径34cm×28cm、深さ12cmで、拳大よりやや小さめの礫24個が密に詰まっていた。小砾群の西側と南側へ礫が散逸して広がり、西側に炭化物エリアが確認できる。

46号砾群(第65図)

I-9区で検出し、当初は標高292.50mで散砾状況を確認した程度であったが、その後の精査掘り下げにより、礫を伴う掘り込み造構、径26cm×20cm、深さ6cmを検出した。炭化物は造構内に1点と小砾群の南側1mの所に3点ほど検出した。

47号砾群(第66図)

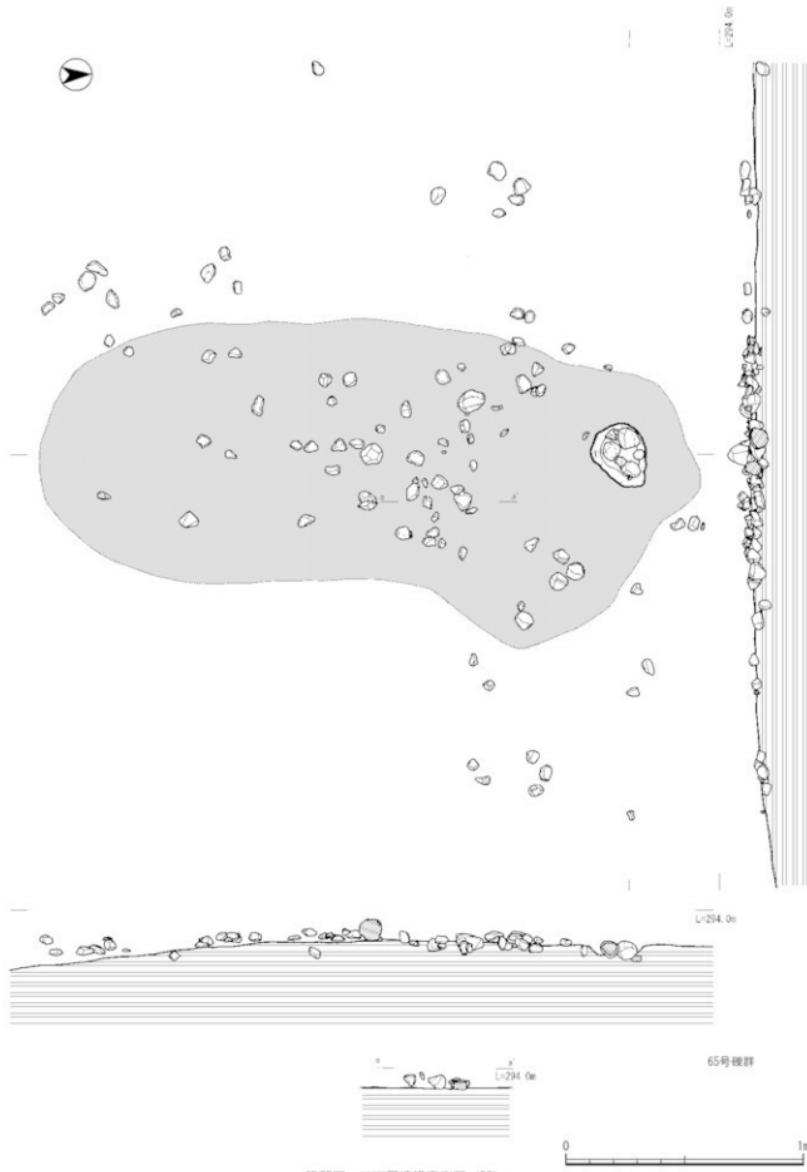
I-9区で検出した。この砾群も当初炭化物エリアだけ検出していたが、その後下部より礫5個を含む掘り込み造構、径56cm×42cm、深さ12cmを検出した。炭化物エリアは、10mm～2mm大の炭化物で、造構内にも炭化物が確認された。全部の礫が被熱し破碎している。

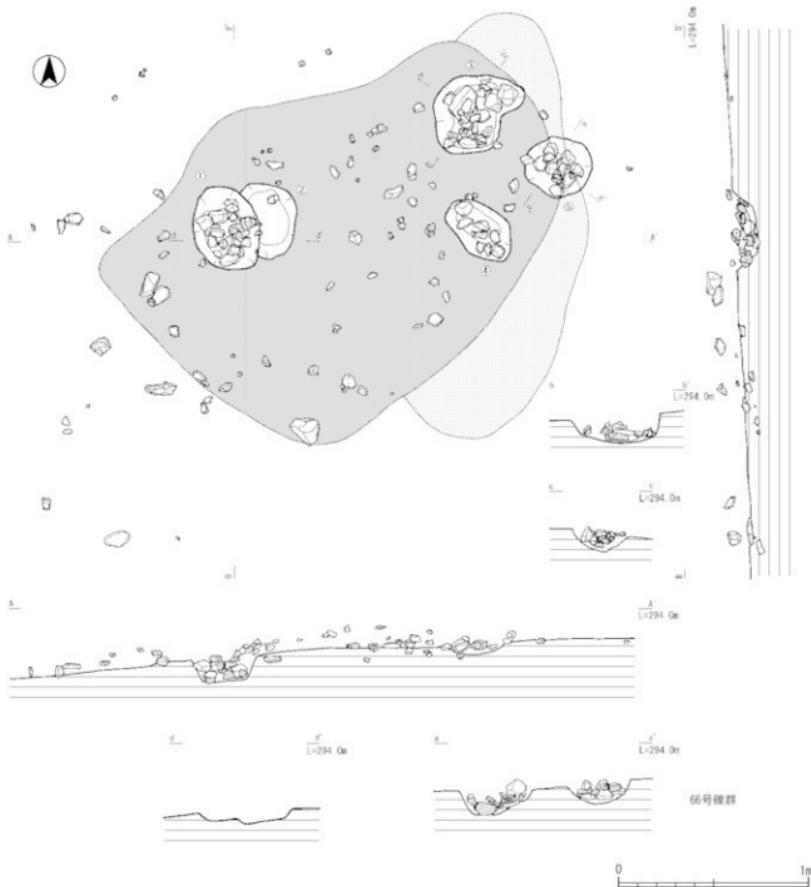


第74図 X VII~X VI層造構実測図 (35)

第20表 X VII~X VI層造構観察表 (18)

報告書 No	探因No	類型	大きさ				炭化物範囲				構成層				小理群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均 均重(g)	被熱率 (%)	磁鉄率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	個数				
67	77	III B	82	62	108	64	43.17	100	100	輝石安山岩(16.7%), 黄鐵(53.3%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
68	77	III B	132	54	-	-	161.89	100	100	輝石安山岩(66.7%), 硫黄(22.2%), 黄鐵(11.1%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
69	77	III B	58	-	103	76	207.7	100	100	輝石安山岩(80%), 硫黄(20%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
70	77	III B	60	52	-	-	95.87	100	93.3	輝石安山岩(66.7%), 硫黄(20%), 黄鐵(13.3%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
71	78	III B	314	310	-	-	115.16	100	93.8	輝石安山岩(59.4%), 硫黄(12.5%), 黄鐵(28.1%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
72	79	I A	214	194	140	106	164.94	100	100	輝石安山岩(56.5%), 硫黄(19.3%), 黄鐵(24.2%)	①	26	20	6	5				
73	80	III B	304	254	-	-	294.7	100	100	輝石安山岩(78.8%), 硫黄(12.1%), 黄鐵(9.1%)	②	36	34	10	12				

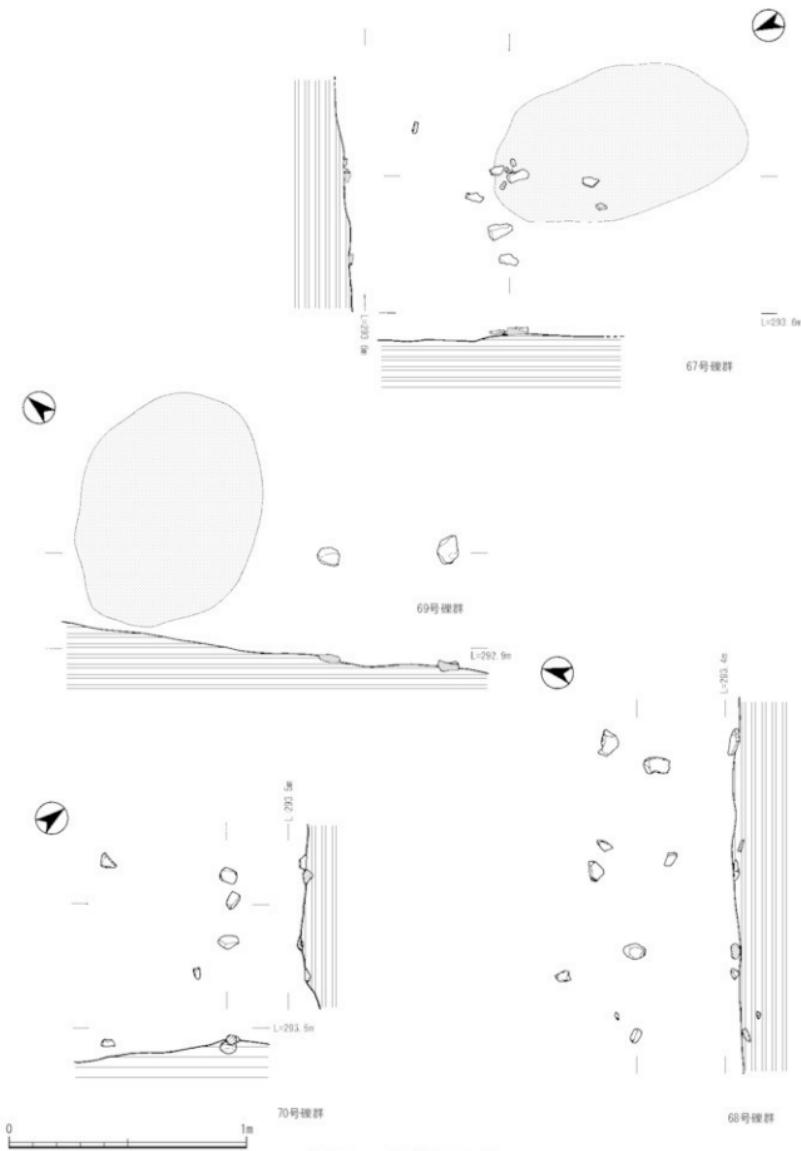




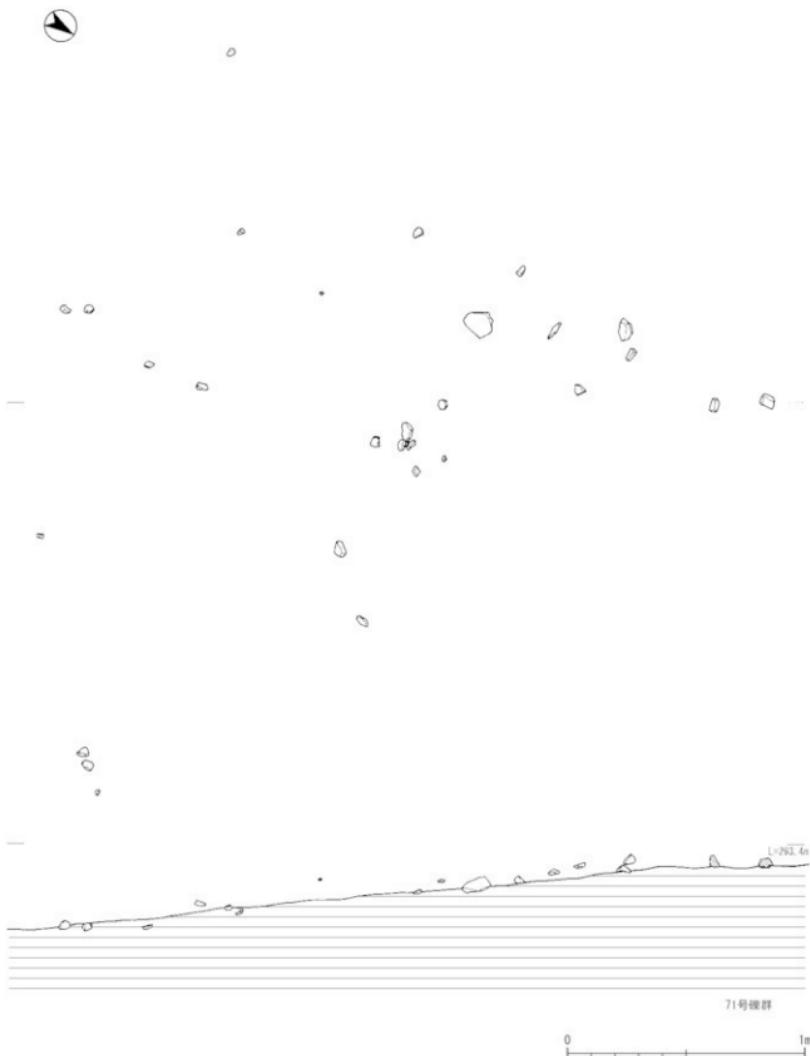
第76図 XVII-XVI層造構実測図 (37)

第21表 XVII-XVI層造構観察表 (19)

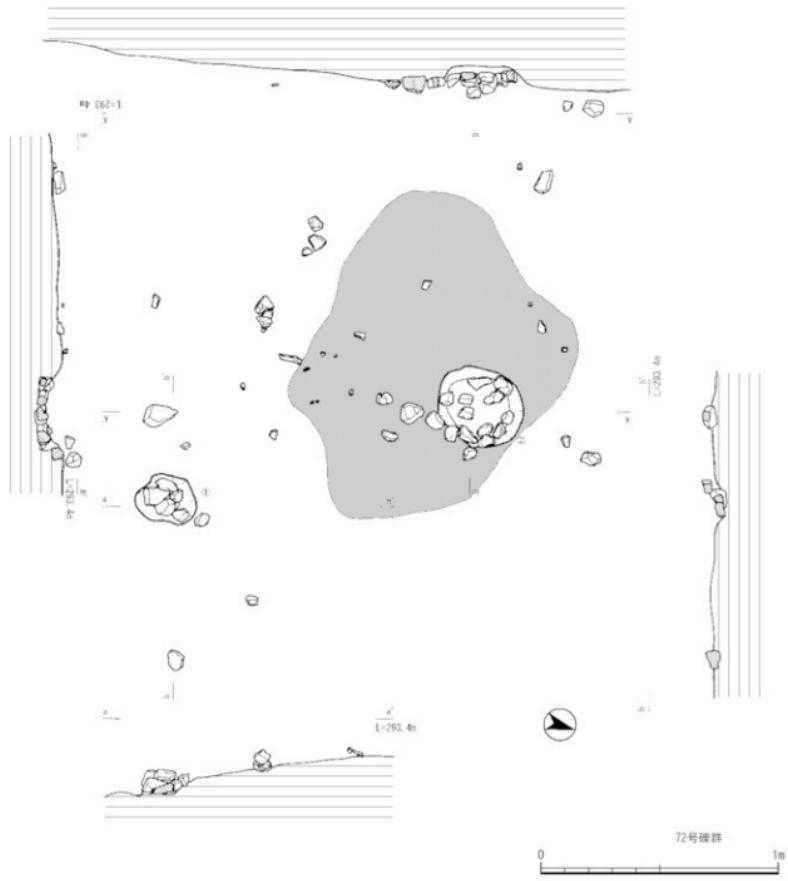
報告書 No	探因No	種類	大きさ	炭化物範囲	様成績					小塊群取り込み							
					長径 (cm)	短径 (cm)	高径 (cm)	短径 (cm)	重量率 均値(g)	被歫率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	塊数
74	81	ⅢB	138	124	-	-	244.58	100	100	0	0	輝石安山岩(82%)、頁岩(17%)	-	-	-	-	-
75	81	1C	-	-	174	124	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
76	82	ⅢB	312	204	150	84	236.29	100	100	0	0	輝石安山岩(69%)、粉岩(16.7%)、頁岩(14.3%)	-	-	-	-	-



第77図 XVII層造構実測図 (38)



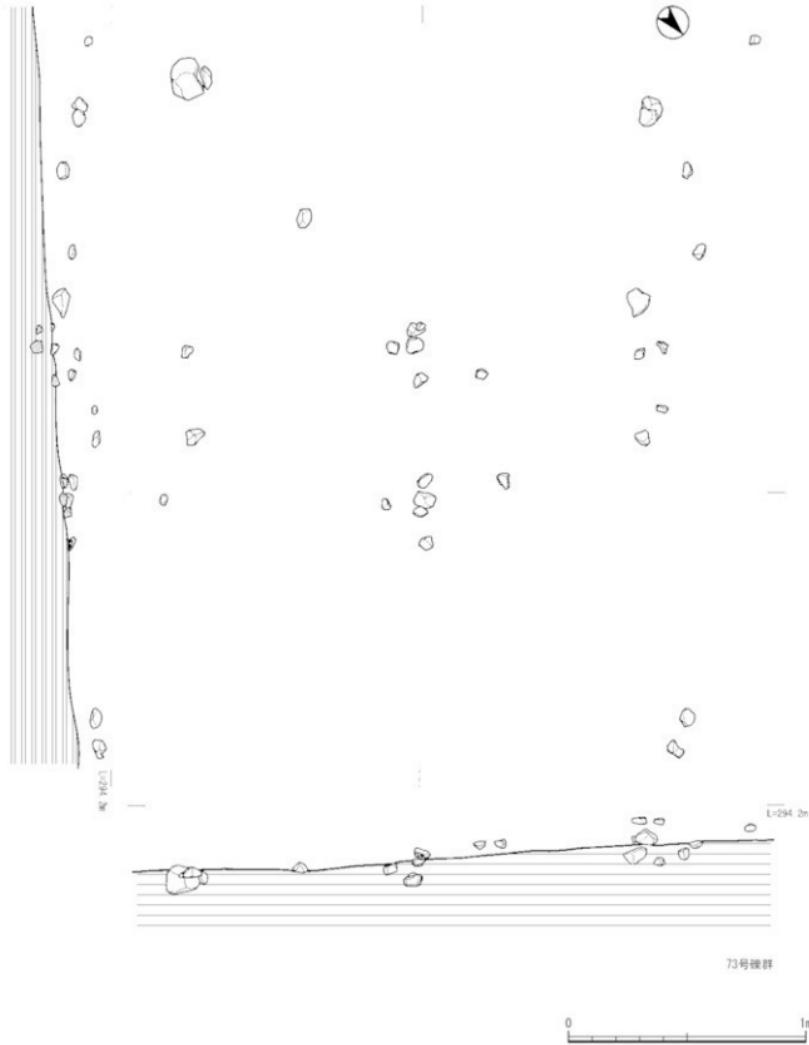
第78図 XⅦ層造構実測図 (39)



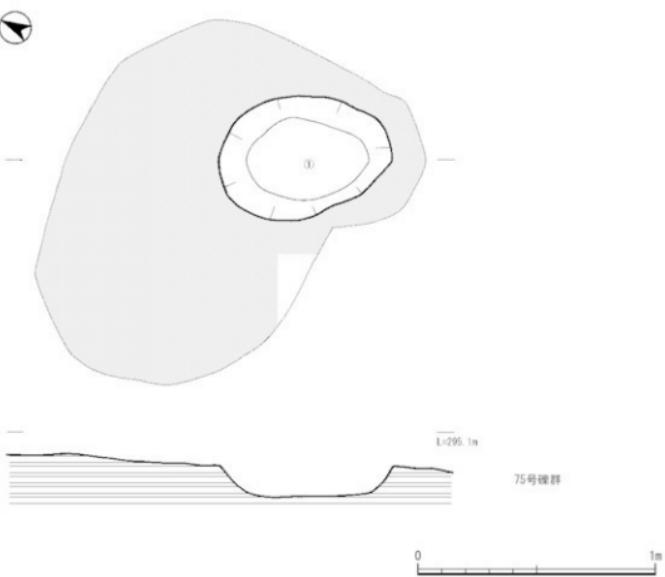
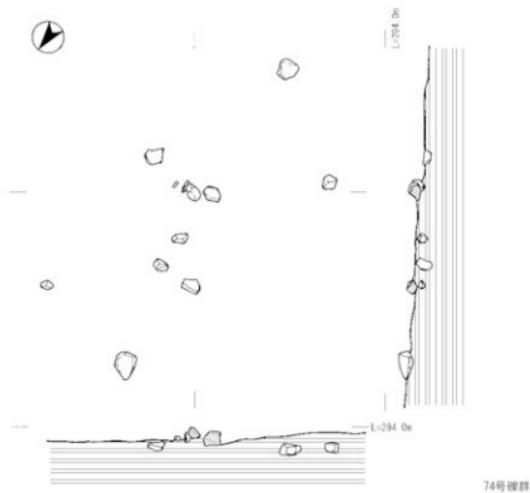
第79図 X^{VII}層造構実測図 (40)

第22表 X^{VII}～X^{XVI}層造構観察表 (20)

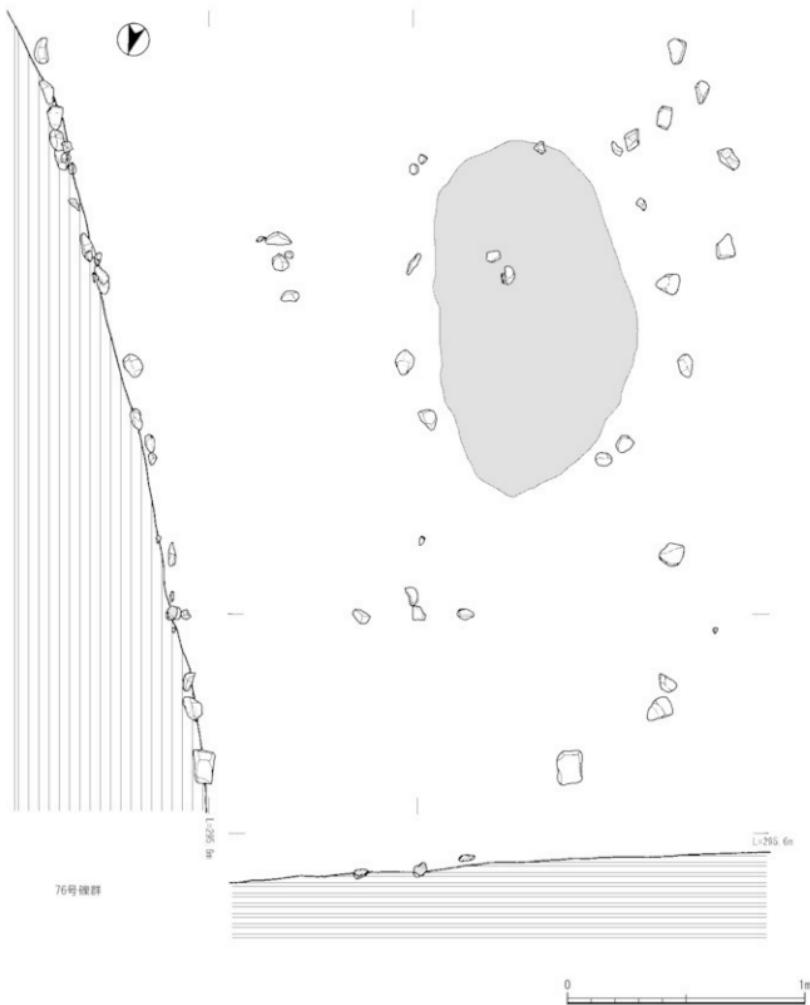
様式番 No.	探査No.	種型	大きさ			成岩物範囲				構成岩			小様母岩込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	幅 (cm)	重量平 均値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	塊数		
77	83	ⅠC	244	110	40	310.77	100	100	輝石安山岩(30.0%)、砂岩(16.1%)、黄岩(3.2%)	①	84	62	16	2		
				64	32					②	16	14	3	2		
78	84	ⅢB	110	72	-	140.76	100	100	輝石安山岩(72%)、砂岩(28%)	-	-	-	-	-	-	
				84	114	-	-	-	輝石安山岩(67.5%)、砂岩(3.3%)、黄岩(30.2%)	-	-	-	-	-	-	
80	85	ⅢB	326	216	-	303.79	100	100	輝石安山岩(78%)、砂岩(14%)、黄岩(8%)	-	-	-	-	-	-	
				164	-	134.64	98.1	100	輝石安山岩(79.2%)、砂岩(5.7%)、黄岩(15.1%)	-	-	-	-	-	-	



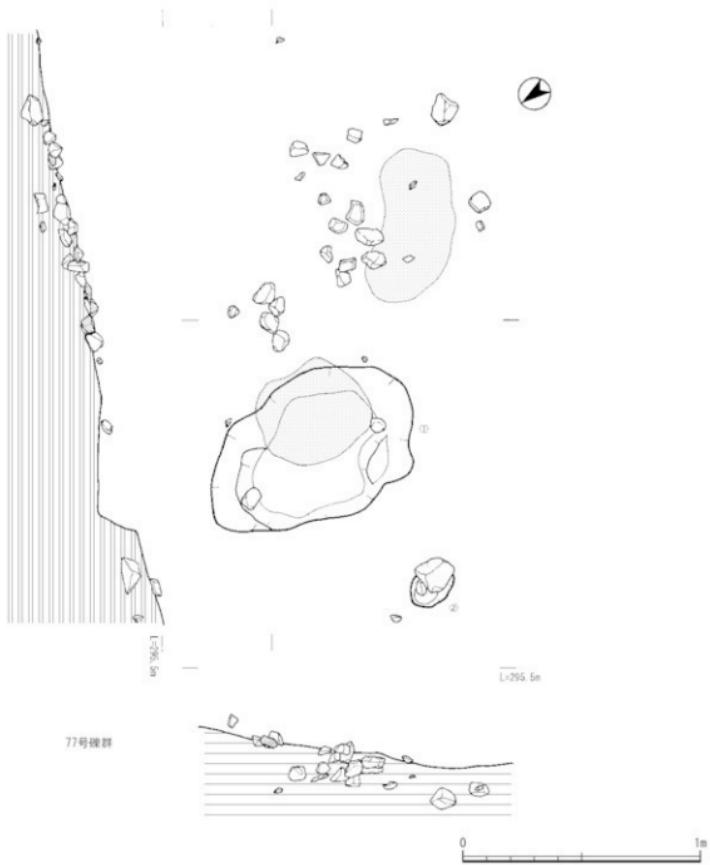
第80図 XVII層造構実測図 (41)



第81図 XVII層造構実測図 (42)



第82図 X VII層構造実測図 (43)



第83図 XVII層造模実測図 (44)

49号礫群(第66図)

H-9区で検出した。炭化物による汚染エリアと輝石安山岩1個で構成し、汚染エリア内の炭化物レベルが292.43mである。汚染エリアを半載し調査したが、下位に新たな造構は確認できなかった。

52号礫群(第66図)

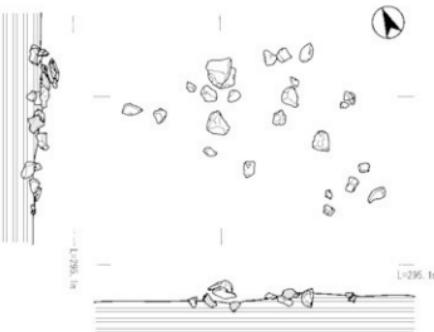
H-8区で検出した。49号と同様炭化物汚染エリアと輝石安山岩1個で構成し、礫の検出レベルは292.99mである。炭化物汚染エリアを半載したが、下位に造構は存在しない。

54号礫群(第67図)

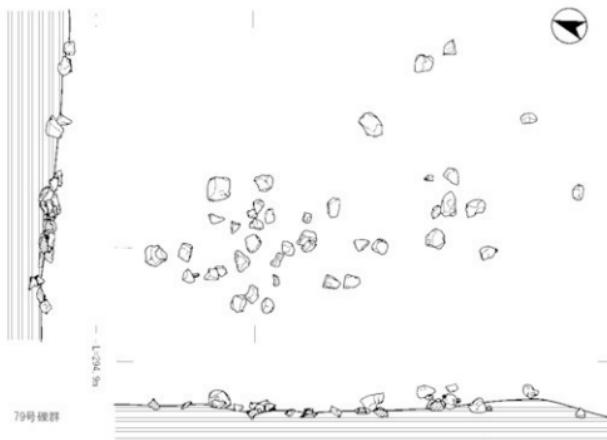
H-8区で55号礫群、56号礫群と同じ様な礫群3基が1m、1.5mの距離で並んで検出された。54号礫群の掘り込み造構は、径26cm×24cm、深さ6cmで、礫12個が密に詰まっていた。全てが被熱し破碎していた。

55号礫群(第67図)

H-8区で検出し、54号礫群と56号礫群の中間に位置する。55号礫群は径、28cm×28cmに集中するが、掘り込み造構の確認には至っていないが、礫の残存状況からは、造構が存在した可能性を強く感じさせる。全てが被熱し破碎し、炭化物はほとんど確認できなかった。



78号櫛群



L-294. 9m

79号櫛群

56号櫛群(第67図)

H-8区で検出し、礫13個を伴う掘り込み遺構は、径24cm×22cmで深さ6cmで、構成礫は輝石安山岩、砂岩、頁岩で、同じ様な割合で使用され全て被熱し破碎している。炭化物は小片が多く、網掛けの部分は若干濁る程度である。

59号櫛群(第69図)

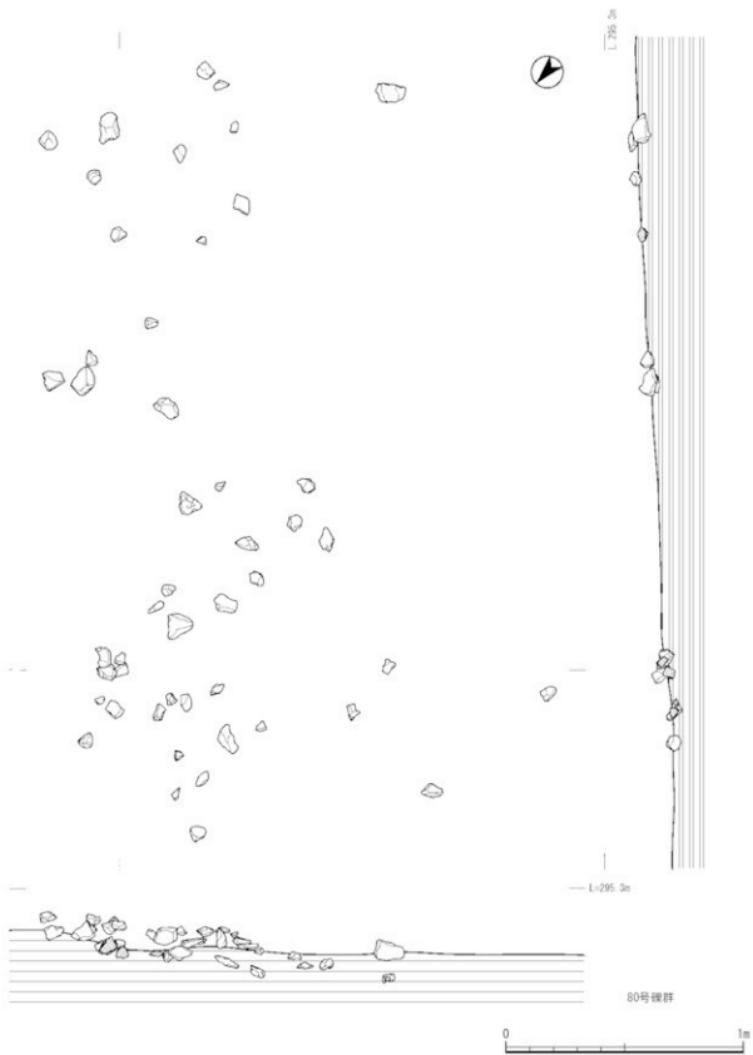
I-8区で検出した。当初、小櫛群①を標高293.15mで炭化物汚染エリアと共に検出した。①の掘り込み遺構は、径38cm×34cm、深さ6cmで、遺構内の櫛は輝石安山岩で、全て被熱し破碎していた。汚染エリア内の炭化物は径10mm~2mm

のものが多い。実測終了後、汚染エリアを半截し、約5cm下位から小櫛群②を検出した。②の掘り込み遺構は、径56cm×38cm、深さ14cmで、遺構内に礫を1個確認した。埋土は炭化物を多く含んだ濁黄灰色砂質土である。

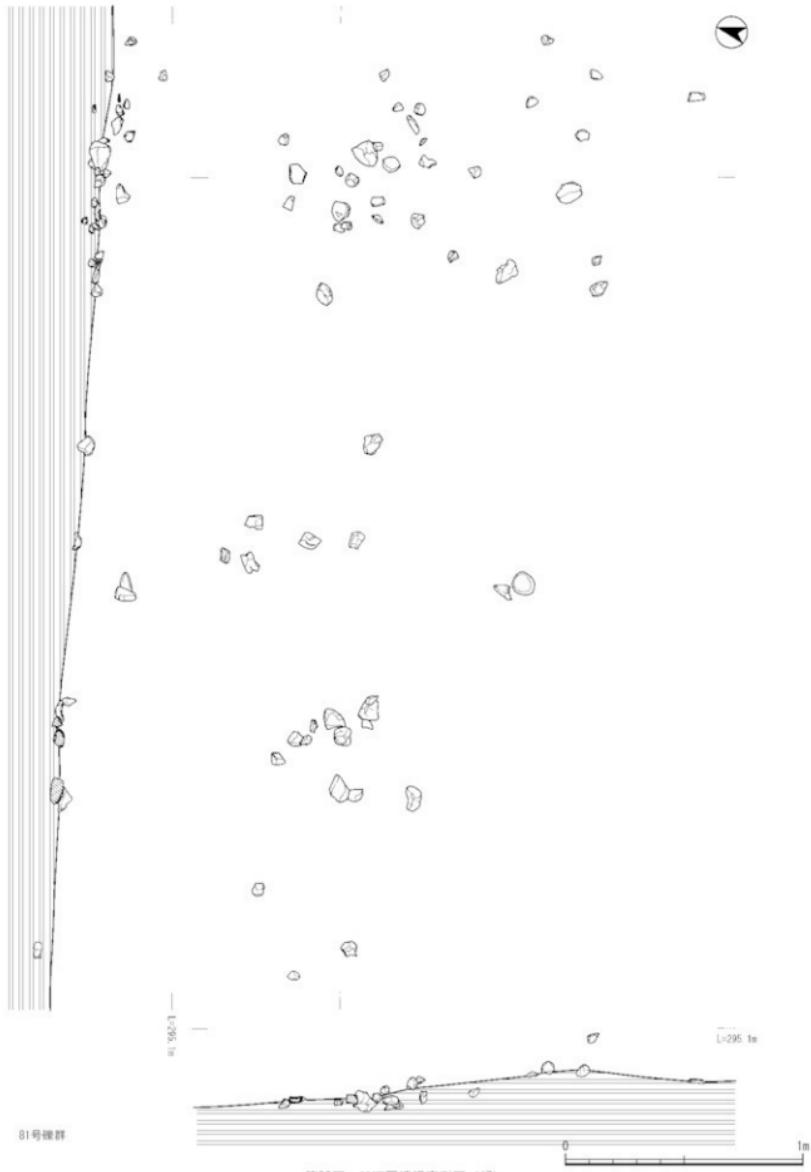
60号櫛群(第70図)

I-8区で検出した。礫15個を内包する掘り込み遺構は、径32cm×24cm、深さ6cmの浅い皿状を呈し、遺構内の櫛全てが破碎している。炭化物は、2mm前後の小さな物が9点確認された。

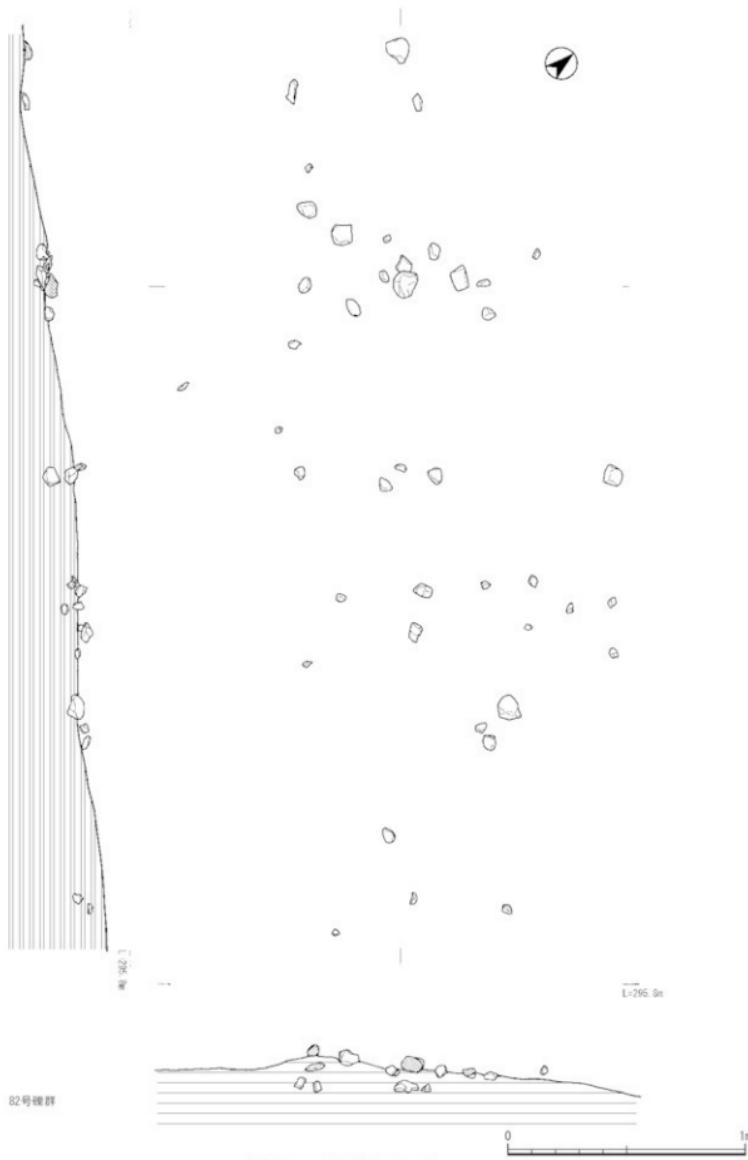
第84図 XⅧ層遺構実測図 (45)

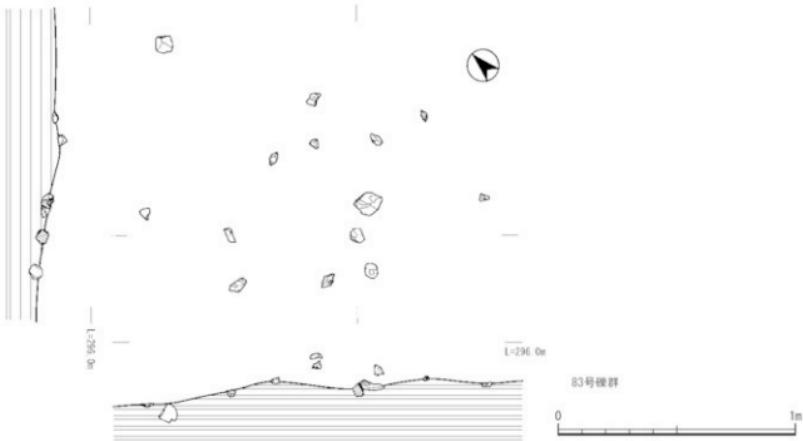


第85圖 XVII層造構實測圖 (46)



第86図 X VII層造構実測図 (47)





第88図 X VII~X VI層造構実測図 (49)

第23表 X VII~X VI層造構観察表 (21)

番号 No.	探査No.	類型	大きさ			炭化物範囲			構成種			小砾群割り込み			
			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	重量平均 均値(g)	熟熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	種数	
82	87	III B	3.76	1.06	-	133.68	100	97.7	輝石安山岩(63.6%)、砂岩(20.5%)、頁岩(15.9%)	-	-	-	-	-	-
83	88	III B	14.6	1.26	-	116.93	100	100	輝石安山岩(35.7%)、砂岩(28.6%)、頁岩(35.7%)	-	-	-	-	-	-
84	89	III A	24.2	2.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
85	90	III B	35.8	2.16	-	123.31	100	97.2	輝石安山岩(50%)、砂岩(44.4%)、頁岩(5.6%)	-	-	-	-	-	-
86	91	II	12.2	1.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
87	91	III B	3.8	2.0	-	334.25	100	100	砂岩(100%)	-	-	-	-	-	-
88	91	III A	46	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
89	91	III B	9.2	0.6	-	188.47	93.3	100	輝石安山岩(53.3%)、砂岩(20%)、頁岩(26.7%)	-	-	-	-	-	-
90	91	II	3.4	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

61号砾群(第71図)

I-7・8区で検出した。①の掘り込み造構は、径40cm×38cm、深さ8cm、②が径42cm×36cm、深さ10cmで、周辺の炭化物汚染エリアと散逸した砾で構成される。小砾群①は砾数25個で、半数が輝石安山岩である。全ての砾が被熱し、破碎している。②の掘り方は、2段掘の可能性もある。

62号砾群(第72図)

I-7区で検出し、微地形の尾根の部分に集中している砾群の一つである。掘り込み造構、径36cm×30cm、深さ7cmの中に砾17個が含まれ、全て輝石安山岩で、9割が被熱し破碎していた。炭化物は造構周辺で2点程、散逸砾周辺で10点ほど確認した。

63号砾群(第73図)

I-7区で検出し、掘り込み造構は径48cm×24cm、深さ5

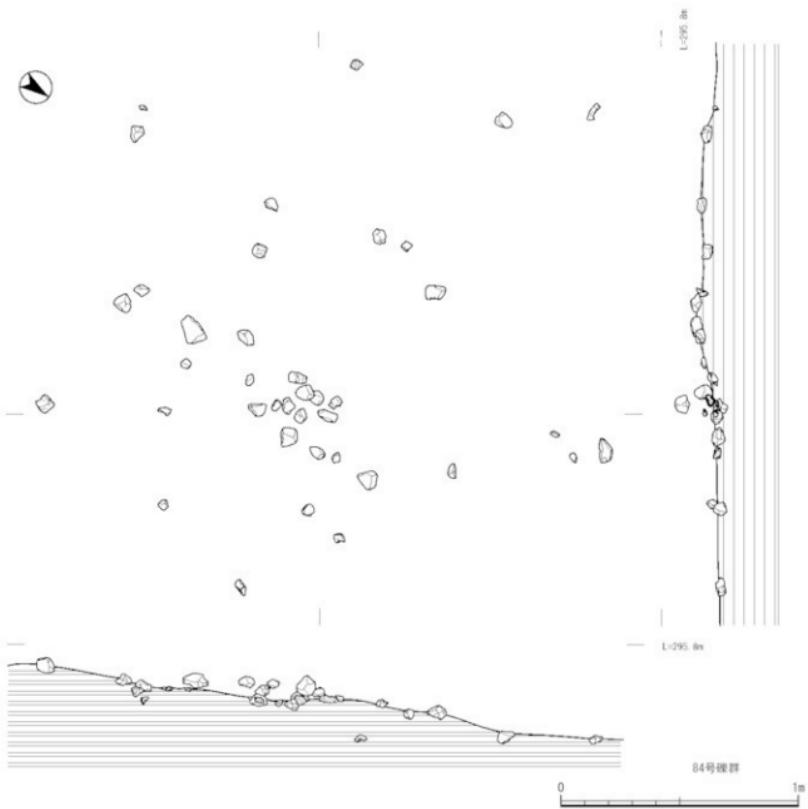
cmで、輝石安山岩13個が入っていた。炭化物は造構内に数点検出した。周辺砾は地形の高い方と低い方の両方に散在している。

65号砾群(第75図)

H-7区で検出し、径26cm×24cmで、深さ4cmの浅い掘り込み造構を伴う。南側の傾斜方向へ炭化物の汚染エリアと砾が広がる。汚染エリア内では、2mm以上の炭化物を多数確認している。

66号砾群(第76図)

H-7区で検出した。微地形の尾根に展開する砾群の中では、一番高い所にある砾群である。当初、散在砾と炭化物汚染エリアを検出し、その後の下層確認で、掘り込み造構を伴う小砾群を検出した。小砾群①の造構は径34cm×28cm、深さ12cmで24個の砾を密に含んでいた。①終了後、10cm下



位で新たに小砾群②を確認している。②は砾がほとんど入っておらず、小砾群①号で切られる。小砾群③は径42cm×36cm、深さ14cmで、中に25個の砾が詰まっており、中には15cm大の砾も使用していた。小砾群④は径28cm×26cm、深さ10cm、8cm前後の砾が10個詰まっていた。小砾群⑤は径32cm×20cm、深さ6cmで、砾14個を含む。周囲には砾が散在し、その中には大型石器も含まれていた。

72号砾群(第79図)

I-6区で検出し、I・J-5・6区の微地形の尾根部分に形成された一群である。小砾群①は径26cm×20cm、深さ6cmで5cm以上の砾が5個詰まっていた。炭化物は、周囲で数点が確認される。小砾群②は径36cm×34cm、深さ10cmで12個の砾が残され、最下面には炭化物の集中も確認される。炭

化物汚染エリアは、この②号小砾群の周囲に広がる。

75号砾群(第81図)

G-5区で検出し、炭化物汚染エリアを半截して掘り込み遺構を検出した。遺構①の埋土は暗茶褐色で、2mm～5mmの炭化物を多数含んでいる。

77号砾群(第83図)

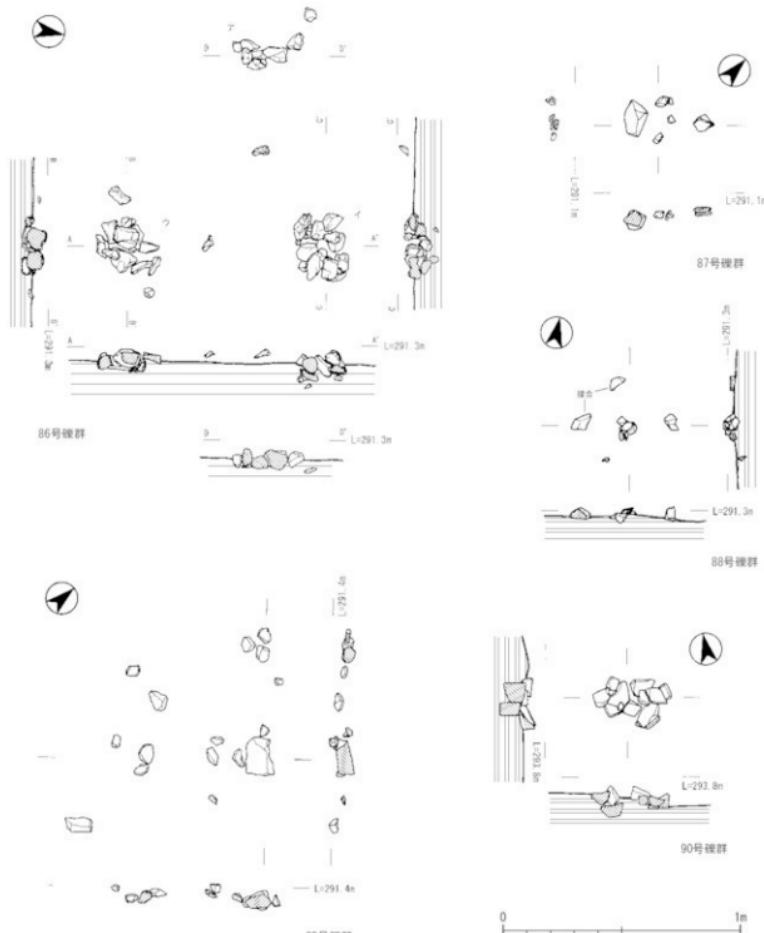
H-4区の傾斜のきつい場所で検出した。小砾群①は径84cm×62cm、深さ16cmで、砾2個を含む。傾斜側に砾が広がっており、搔き出された様相が窺える。

小砾群②は径16cm×14cm、深さ3cm、17cmの砾と5cmの大の砾を含み、明確な掘り込み遺構は確認されていない。

第89図 XVII層造構実測図(50)



第90図 X VII層構造実測図 (51)



第91図 XVI層構造実測図 (52)

86号砾群(第91図)

I~20区のXVI層最下面で検出した。80cm程の距離に、3基が三角形に配置されている。小砾群アは砾8個で構成し、掘り込み造模は確認できていない。小砾群イは砾15個で構成し、掘り込み造模は確認していないが、砾の集合から存在

した可能性は高い。小砾群ウは砾12個で構成し、掘り込み造模は確認していないが、小砾群同様存在していた可能性は高い。個々の砾群はそれぞれが良くまとまっており、独自に機能していた砾群と推測される。

第3節 碓接合資料(第92図～第140図)

1 碓接合状況(第92図)

XVII層で検出された碓群を構成する碓の接合作業を行った結果、272個体の造模内及び造模間で接合する資料が確認できた。その中から複数の造模間で接合し、造模の構成について検討可能と思われる良好な資料として32点を抽出した。これらの資料は同一造模間で接合したものを中心分類し、破損接合で具体的に示している。なお、資料の造模間における接合状況は、第92図に示した。

造模別に見ると、29号・32号碓群間と32号・33号碓群間で接合した資料が5点ずつ、22号・23号碓群間で接合した資料が3点、23号・25号碓群間と21号・25号碓群間に82号・83号碓群間で接合した資料が2点ずつ確認できた。また、1点のみの確証となつたのは23号・64号・66号碓群間、23号・66号碓群間、23号・65号碓群間、23号・33号碓群間、23号・32号・61号碓群間、18号・19号碓群間、65号・66号碓群間、35号・36号・37号碓群間、60号・62号碓群間、68号・71号碓群間、79号・81号碓群間、82号・83号碓群間、41号・63号碓群間で接合した資料である。

これらの資料を、32号碓群を中心とする第1群、23号碓群を中心とする第2群、その他のうち造模間が近いものを第3群、造模間が離れているものを第4群と分類して、造模間の移動経緯について検討した。

2 接合資料第1群(第93図～第103図)

(1) 29号・32号碓群間接合資料

(No. 1～No. 5、第93図～第96図)

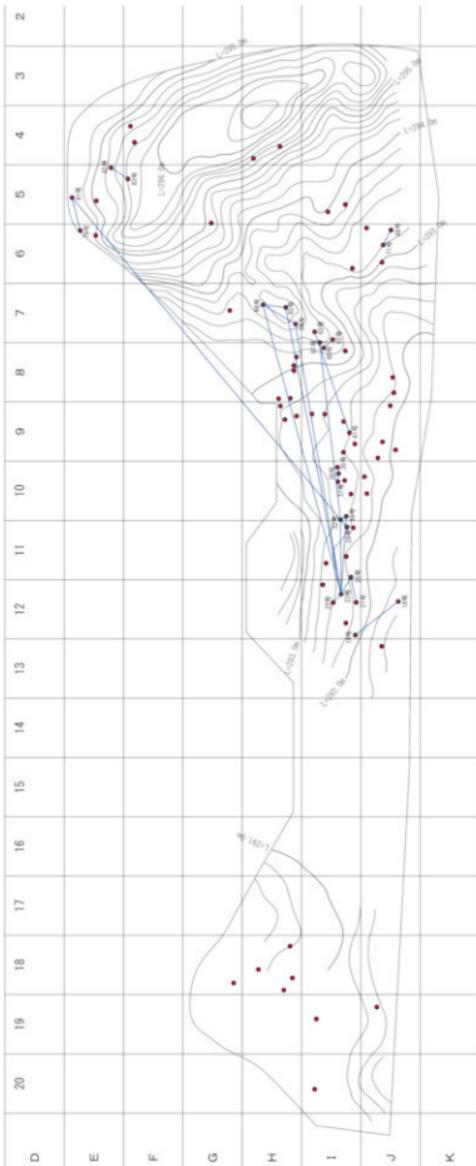
耳取遺跡中央部に近い、I-10区の32号碓群とI-11区の29号碓群間で接合した資料で、5点が確認できた。造模間は約2m離れている。石材は、No. 1～No. 3が輝石安山岩、No. 4が砂岩、No. 5が頁岩である。接合資料を構成する碓は全て被熱している。

接合資料No. 1(第94図)

接合資料No. 1は、表面部で薄く剥離した碓1と碓2が32号碓群から、接合資料の総重量の6割以上を占める碓3が29号碓群から検出された。碓の細片化順序は、碓1が破損した後に碓2と碓3が破碎している。碓1と碓2は、32号碓群の掘り込み造模を取り巻く散在碓として検出されている。他方碓3は、29号碓群の掘り込み造模内の構成碓として造模下部から検出されている。

接合資料No. 2(第95図)

接合資料No. 2は碓1が32号碓群から、接合資料の総重量の7割を占める碓2が29号碓群から検出された。碓1は、32号碓群で接合資料No. 1と



第92図 碓接合状況図

同じく掘り込み遺構を取り巻く散在縞として検出されているのに対し、縞2は、29号縞群の掘り込み遺構内の構成縞として、遺構壁にきっちりはまっている状態で検出されている。

接合資料No. 3 (第95図)

接合資料No. 3は縞1と縞2が32号縞群から、縞3が29号縞群から検出された。縞3は接合資料No. 3の総重量の5割強を占める。縞の細片化順序は、接合資料No. 1と同様、まず縞1が破損した後、縞2と縞3が破碎している。縞1と縞2は、32号縞群の掘り込み遺構を取り巻く散在縞として検出されている。他方縞3は、29号縞群の掘り込み遺構内の構成縞として検出されている。

接合資料No. 4 (第95図)

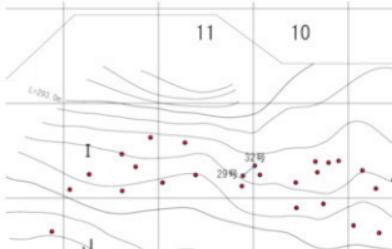
接合資料No. 4は縞1が32号縞群から、縞2が29号縞群から検出された。縞2の重量が接合資料全体の5割強を占めるが、縞の大きさとしては大差はない。縞1は、32号縞群で接合資料No. 1・No. 2同様、縞群の掘り込み遺構を取り巻く散在縞として検出されている。縞2は、29号縞群で接合資料No. 1と同じく、掘り込み遺構内の構成縞として、集中縞の下部から検出されている。

接合資料No. 5 (第96図)

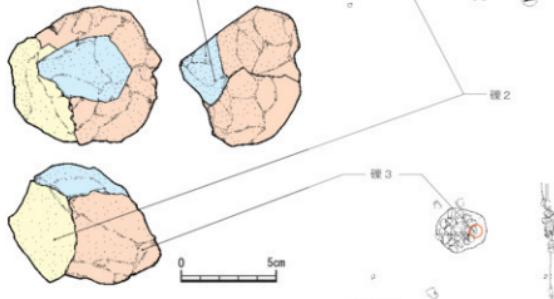
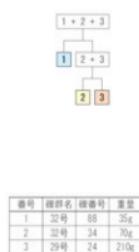
接合資料No. 5は9つの縞が接合できた資料であるが、そ

のうち縞1～縞7の7つが32号縞群から、接合資料総重量の5割以上を占める縞8と小片の縞9が29号縞群から検出された。縞1～縞7は、32号縞群の掘り込み遺構の南方向に4点、北方向に3点、いずれも掘り込み遺構を取り巻く散在縞として検出されている。縞9は、29号縞群で掘り込み遺構の南西方向へ約50cm離れた位置から、掘り込み遺構を取り巻く散在縞として検出されているが、縞8は縞群の掘り込み遺構内の構成縞として検出されている。縞の細片化順序は第96図に記載してある樹系図のとおりであるが、早くから破損したと思われる小片の縞9が29号縞群から検出された点が、これまでの接合資料ではみられなかった傾向である。

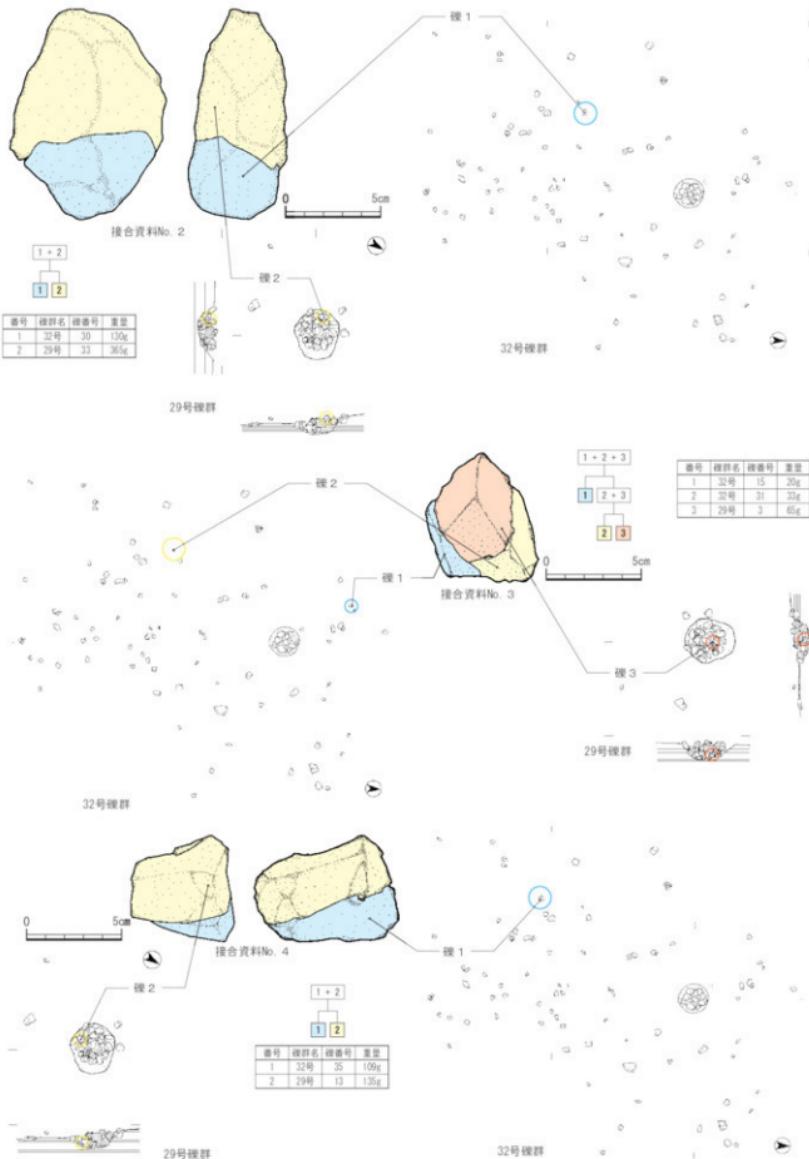
これら5点の接合資料で共通していることは、いずれも破碎した中でもっとも大きな縞が、29号縞群の掘り込み遺構内の構成縞として検出されていることである。接合資料を形成している縞は全て被熱しているが、縞表面及び接合面での明確な色調の変化はみられず、被熱による縞の使用頻度を検討することはできなかった。しかし、掘り込みの底面付近から再利用された縞が検出されていることから、周囲に散在する縞を再利用し、29号縞群が構築されたと理解できる。



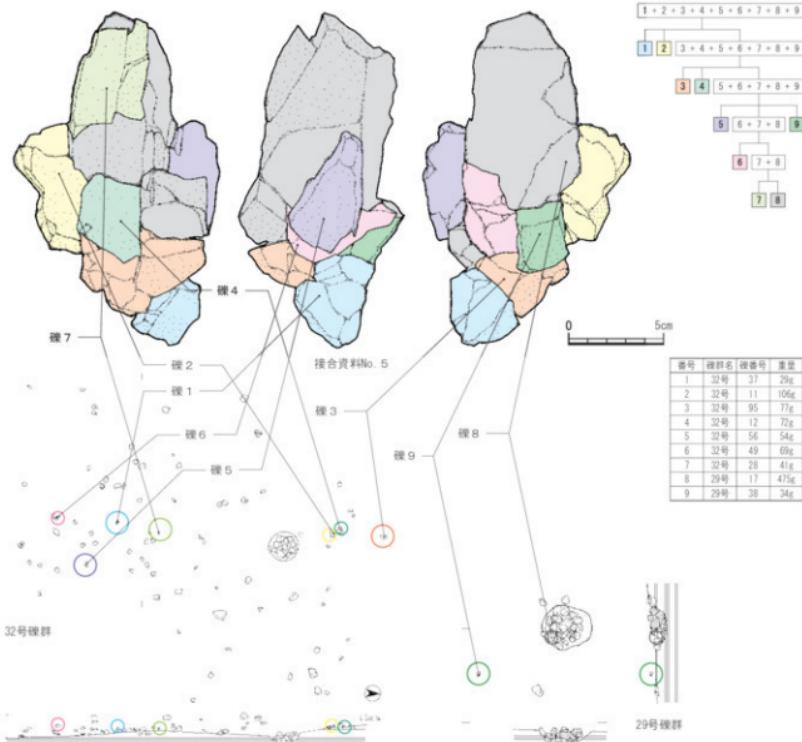
第93図 29号・32号縞群位置図



第94図 接合資料No. 1 実測図及び構成縞検出状況図



第95図 接合資料No. 2～No. 4 実測図及び構成礫検出状況図



第96図 接合資料No. 5 実測図及び構成縫合検出状況図

(2) 29号・32号・81号縫合群間接合資料

(No. 6, 第97図～第99図)

29号・32号縫合群に加え、E-5区の81号縫合群間で接合した資料で1点が確認された。石材は真岩で、接合資料を構成する縫は全て被熱している。また、32号縫合群と81号縫合群は直線距離で70m弱離れている。

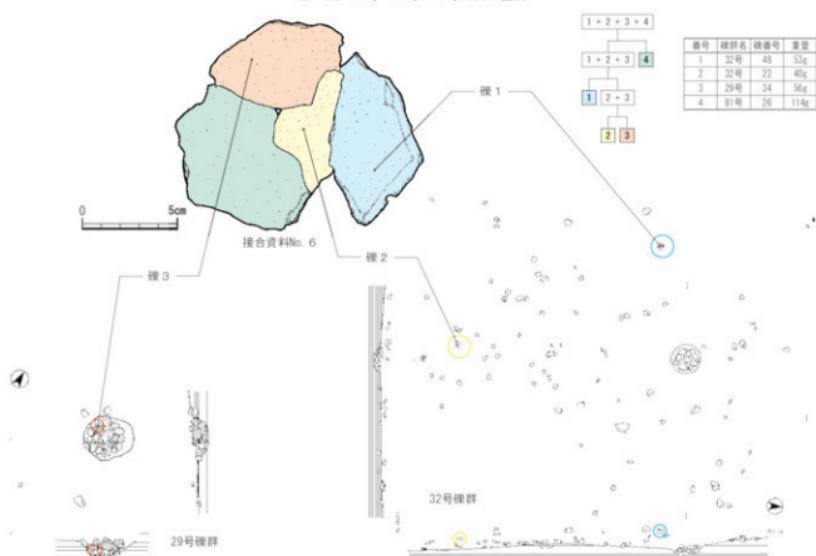
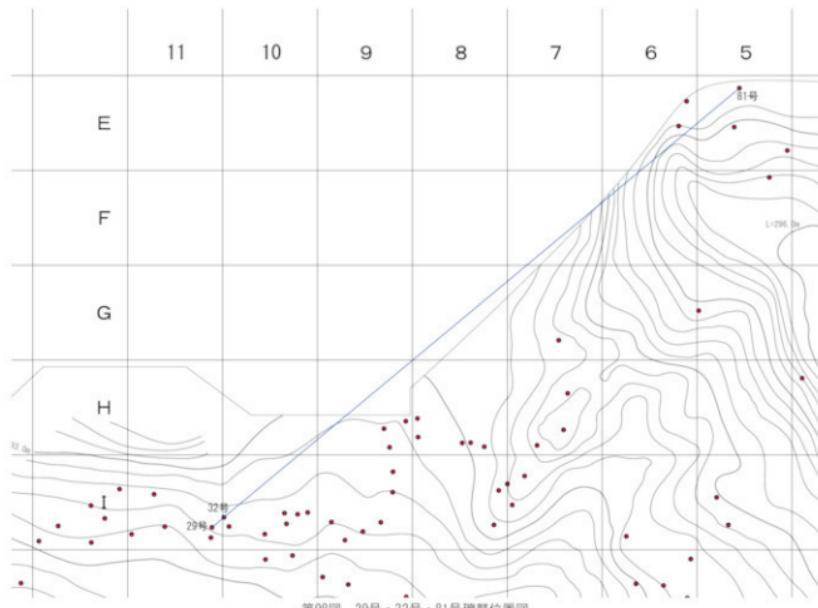
接合資料No. 6 (第97図～第99図)

接合資料No. 6は縫1と縫2が32号縫合群から、縫3が29号縫合群から、縫4が81号縫合群から検出された。細片化順序は、まず縫4が破損し、次に縫1が破損、最後に縫2と縫3が破損している。縫1と縫2は、32号縫合群で縫群の掘り込み遺構の西方向と南方向に、掘り込み遺構を取り巻く散在縫として検出されている。縫3は、29号縫合群で接合資料No. 3と同様、縫群の掘り込み遺構内の構成縫として検出されている。縫4は散在しているが、縫集中部の構成縫として検出されている。被熱部を比較してそれぞれの縫を観察してみると、縫1～縫3は黒みがかった色調が強いのに対して縫4はやや明

る赤みがかった色調であり、繰り返し被熱した可能性がある。縫1～縫3の検出状況は接合資料No. 1～No. 5の状況と共に通しており、32号縫合群で利用され破碎した縫3を、29号縫合群で再利用したと考えられる。ただし、32号縫合群と81号縫合群の相關については、点数が少ないなど十分な資料が得られていないこともあり確認できなかった。



第97図 接合資料No. 6 構成縫検出状況図 (1)



(3) 32号・33号礫群間接合資料

(No. 7～No. 11, 第100図～第103図)

I-10区の32号礫群と33号礫群間で接合した資料で、5点が確認できた。造構間は約1mで隣接している。石材は、No. 7～No. 10が砂岩、No. 11が頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 7 (第101図)

接合資料No. 7は礫1が32号礫群から、礫2と礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損したあとに礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群の掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、33号礫群の掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、上部ではあるが掘り込み造構内の散在礫として、造構壁にきっちりはまっている状態で検出されている。それぞれの礫を観察してみると表面は全て同じような色調だが、礫1と礫3の接合面において礫3に黒い変色が確認できるのに対し、礫1には変化がみられなかった。なお、礫2と礫3の接合面では色調の変化はみられなかった。

接合資料No. 8 (第101図)

接合資料No. 8は礫1と礫2が32号礫群から、礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群の掘り込み造構の北方向、礫2は南方向の離れた位置からそれぞれ掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、33号礫群で掘り込み造構の上位から掘り込み造構内の散在礫として検出されている。いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。

接合資料No. 9 (第102図)

接合資料No. 9は礫1と礫2が32号礫群から、礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群で掘り込み造構の西南西方向、礫2は南東方向の離れた位置からそれぞれ掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されてい

る。礫3は、33号礫群で接合資料No. 7の礫3と同様、上位ではあるが掘り込み造構内の散在礫として、造構壁にきっちりはまっている状態で検出されている。接合資料No. 8と同様、いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。礫1と礫2の接合面がやや摩耗している。

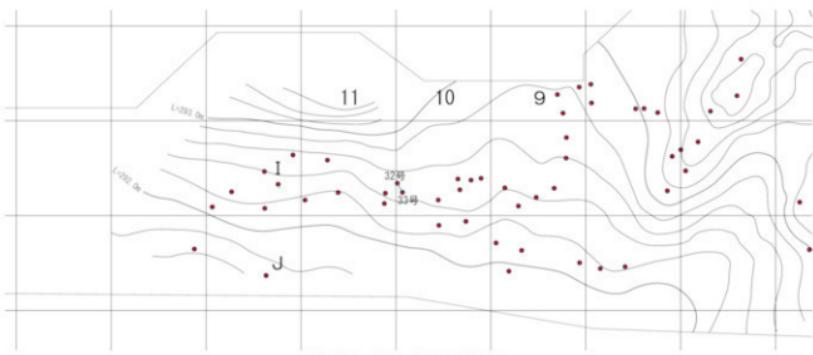
接合資料No. 10 (第102図)

接合資料No. 10は礫1が32号礫群から、礫2が33号礫群から検出された。礫1は、32号礫群の掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、33号礫群で接合資料No. 9の礫3とほぼ同じ、掘り込み造構内の散在礫として、造構壁に近い位置で検出されている。それぞれの礫を観察してみるとどちらも被熱しているが、礫2は礫1に比べ色調が濃く、礫1との接合面も表面と同じ濃い色調である。

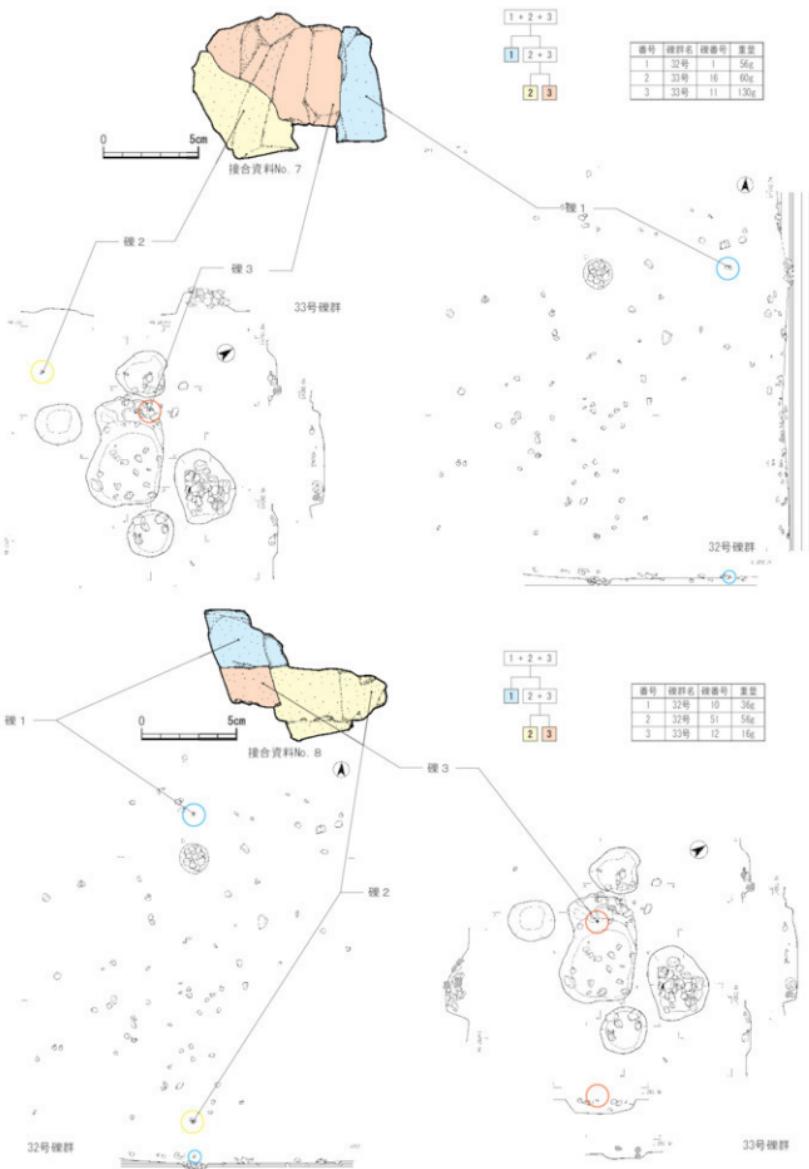
接合資料No. 11 (第103図)

接合資料No. 11は礫1が33号礫群から、礫2が32号礫群から検出された。礫1は、33号礫群で掘り込み造構のほぼ中心且つ上位から、掘り込み造構内の散在礫として検出されている。礫2は、32号礫群で掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。礫1の一部はかなり濃い黒色に変色していて、さらに礫2との接合面には変色は見られないものの、接合面の先には黒色の変化がみられる。これらのことから礫1と礫2以外にも全体を構成する礫が存在したと思われる。礫1は礫2と破損する際は別の礫と接合していくその後、破碎したものと考えられる。

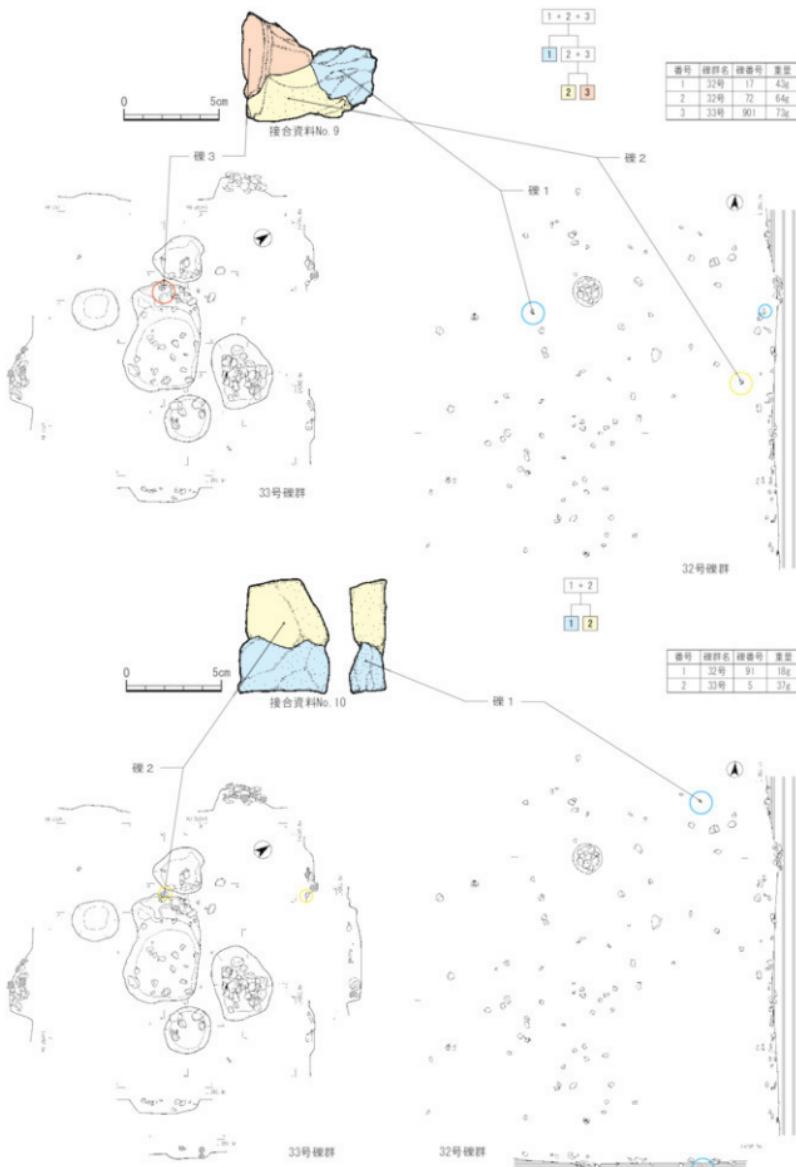
礫接合の判明した5点はいずれも、礫群に伴う散在礫として検出され、検出位置や破損状況に大きな違いが見い出せないことから、礫の接合関係からその先後関係を説明することは困難である。しかし、礫群の検出順位では、32号礫群が上位で検出され、その後下位から33号礫群が検出されていることから、33号礫群が先行したと認定した。



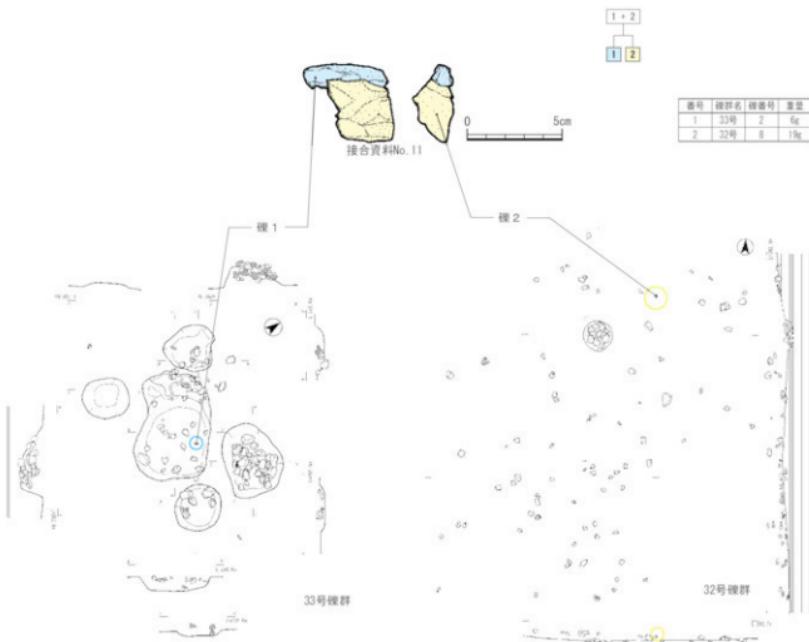
第100図 32号・33号礫群位置図



第101図 接合資料No. 7・No. 8 実測図及び構成理検出状況図



第102図 接合資料No. 9・No. 10実測図及び構成縦検出状況図



第103図 接合資料No. 11実測図及び横成稜検出状況図

3 接合資料第2群(第104図～第123図)

(1) 23号・25号砾群間接合資料

(No. 12・No. 13、第105図・第106図)

耳取遺跡のほぼ中央部であるI-11区の25号砾群とI-12区の23号砾群間に接合した資料で、2点が確認できた。遺構間は約4m離れている。石材は2点とも砂岩で、接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 12(第105図)

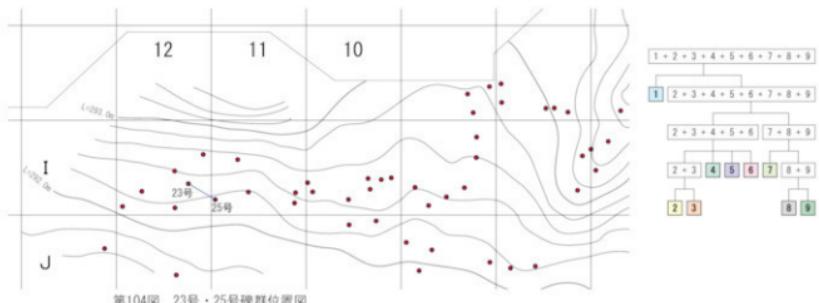
接合資料No. 12は9つの礫が接合できた資料であるが、そのうち礫1・礫4・礫6・礫7の4つが23号砾群から、礫2・礫3・礫5・礫8・礫9の5つが25号砾群から検出された。礫1・礫6は、23号砾群の遺構を取り巻く散在礫として、礫4・礫7は、小砾群の構成礫として検出されている。礫2・礫3・礫5・礫8は、25号砾群の周辺に近い位置に、礫9は、礫の集まりに近い位置に、それぞれ遺構を取り巻く散在礫として検出された。ただし、礫2・礫3・礫5・礫8はまとまっている。礫の細片化順序は、第105図に記載してある樹系図の通りであるが、礫1・礫4・礫5・礫7・礫9の破碎面にはさらに全体を形成する接合礫が存在したと思われる。また、礫1・礫3・礫4・礫7・礫9は接合面も表面と同様の色調であることから、破碎後に再度被熱したものと

考えられる。

接合資料No. 13(第106図)

接合資料No. 13は礫1が23号砾群から、礫2が25号砾群から検出された。礫1は、23号砾群で小砾群の構成礫として検出されている。礫2は、25号砾群で造構を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料No. 12の礫のまとまりからも離れている。接合資料No. 13も接合資料No. 12と同様に、接合面とは異なる破碎面にはさらに全体を形成する接合礫が存在するとと思われる。また、それぞれの接合面も被熱しており、その色調が礫1と礫2では異なることから、破碎後にそれぞれの礫が再度被熱したものと考えられる。

これら2点の接合資料のうち、礫1は小砾群の構成礫として、礫2は集中が見られる位置から検出されるが、砾群を構成する砾の多くが全体的に散在している。また、いずれの接合資料も接合面以外の破碎面からさらに全体を構成する接合礫が存在するとと思われる。さらに、接合資料を構成する礫によっては、破碎後さらに被熱した可能性もある。このことから礫の再利用の可能性については十分考えられるが、23号・25号砾群間の礫の移動方向や砾群の構成順序については確認できなかった。

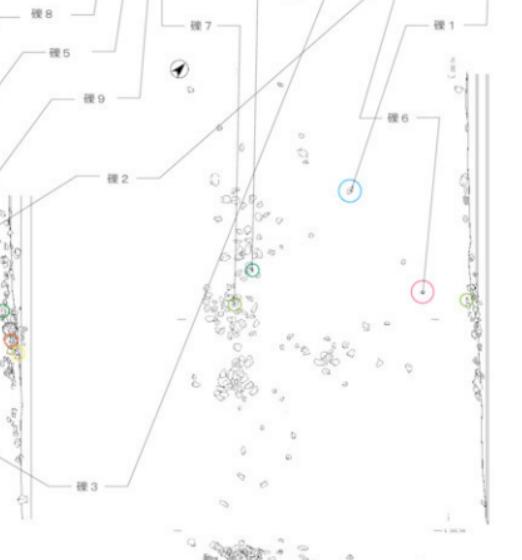


第104図 23号・25号縞群位置図

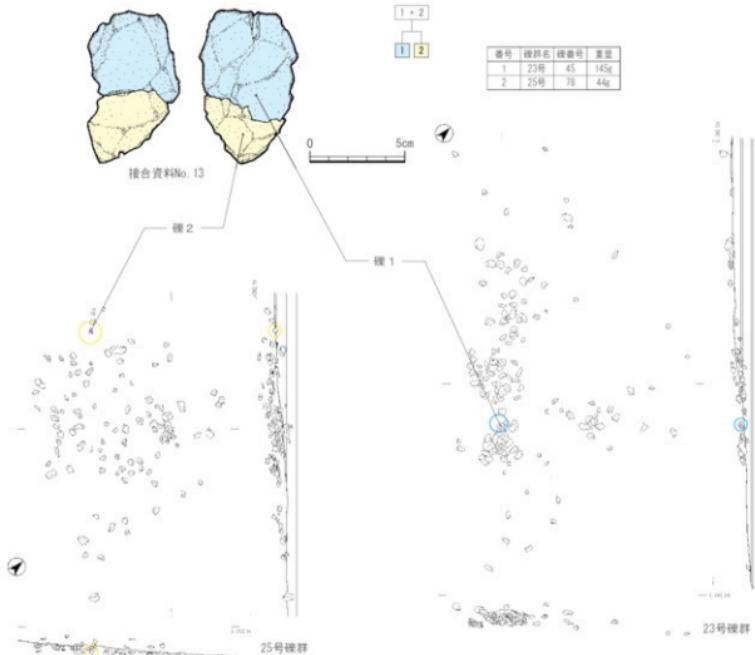
番号	採取名	縞番号	重量
1	23号	99	109g
2	25号	106	40g
3	25号	37	47g
4	23号	116	76g
5	25号	102	13g
6	23号	91	22g
7	23号	70	32g
8	25号	55	66g
9	25号	42	103g

0 5cm

接合資料No. 12



第105図 接合資料No. 12 実測図及び構成縞検出状況図



第106図 接合資料No. 13実測図及び構成縫検出状況図

(2) 22号・23号縫群間接合資料

(No. 14～No. 16、第107図～第109図)

I-12区の22号縫群と23号縫群間で接合した資料で、3点が確認できた。造構間は約2m離れている。石材は、No. 14が輝石安山岩、No. 15・No. 16が砂岩である。接合資料を構成する縫は全て被熱している。

接合資料No. 14(第107図)

接合資料No. 14は縫1が23号縫群から、縫2～縫4が22号縫群から検出された。縫の細部化順序は、まず、縫1が破損した後に縫2が破損し、最後に縫3と縫4が破損している。縫1は、23号縫群で造構を取り巻く散在縫として検出されている。縫2・縫3・縫4は、22号縫群で造構を取り巻く散在縫としてまとまった状態で検出されている。全体を観察すると、縫2・縫3の接合面以外の破損面とさらに接合して全体を形成する接合縫が存在するとと思われる。縫の表面と接合面の色調の変化は特にみられない。

接合資料No. 15(第107図)

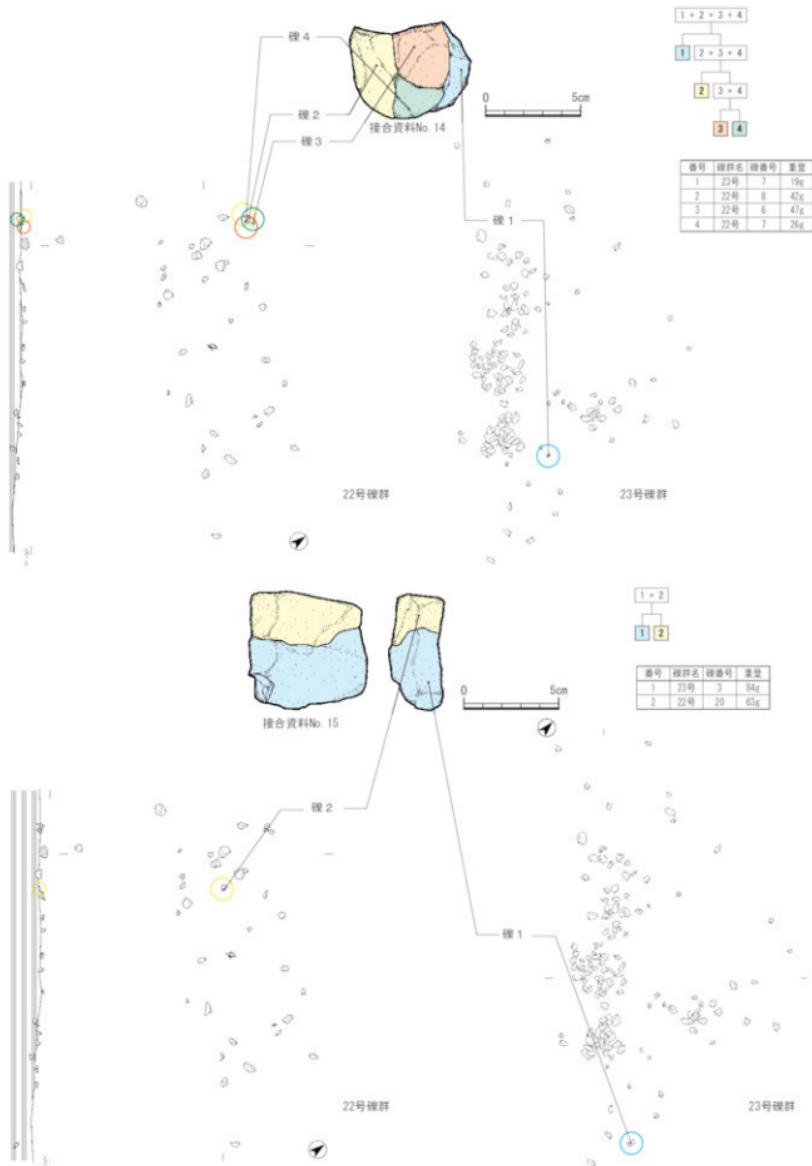
接合資料No. 15は縫1が23号縫群から、縫2が22号縫群から検出された。縫1は、23号縫群で造構を取り巻く散在縫として検出されている。縫2は、22号縫群で造構を取り巻く散在縫

在縫として検出されている。接合資料No. 14と同様、接合資料No. 15も縫1・縫2の接合面以外の破損面には、さらに接合して全体を形成する縫が存在すると思われる。色調は、縫の表面と接合面とともに縫1の方が赤みがかったり。

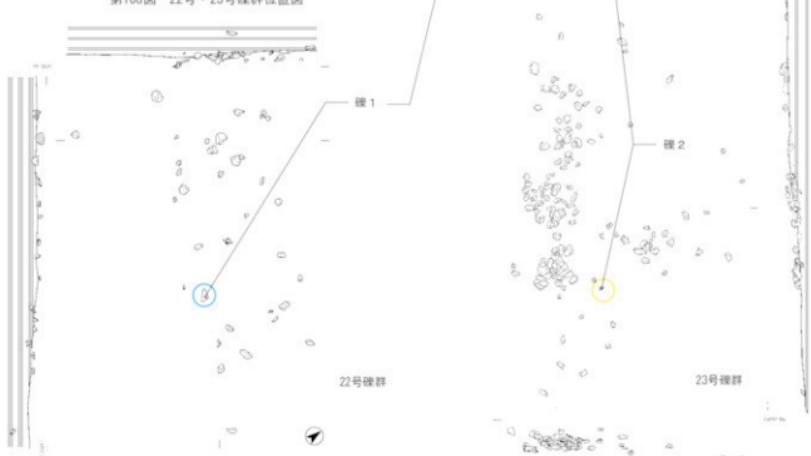
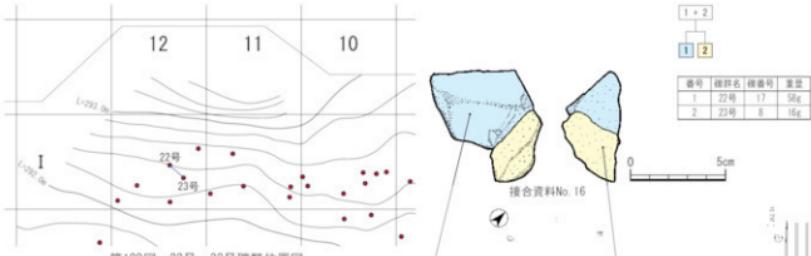
接合資料No. 16(第109図)

接合資料No. 16は縫1が22号縫群から、縫2が23号縫群から検出された。縫1は、22号縫群の縫集中部から少し離れた位置に造構を取り巻く散在縫として検出されている。縫2は、23号縫群の周辺部から造構を取り巻く散在縫として検出されている。接合資料No. 14・No. 15と同様、接合資料No. 16も、縫1・縫2の接合面以外の破損面にさらに接合して、全体を形成する縫が存在すると思われる。縫の表面と接合面の色調の変化はみられない。

これら3点の接合資料は、いずれも4～5cm大的な縫で、接合面以外の破碎面から、さらに全体縫を構成する接合縫の存在が予測される。検出状況も縫が全体的に飛散した状態である。また、接合資料を構成する縫によっては破砕後、更に被熱したと思われるものもあるので、縫の再利用の可能性は十分考えられるが縫の移動については確認できなかった。



第107図 接合資料No. 14・No. 15実測図及び構成確検出状況図



(3) 21号・25号礫群間接合資料

(No. 17・No. 18、第110図・第111図)

接合資料No. 17とNo. 18は、23号礫群から検出した礫から構成されたものではないが、23号・25号礫群間接合資料と同じ区の礫群において接合したことから礫の移動についての資料になると判断し第2群に分類した。確認できた資料は2点、I-I1区の25号礫群とI-I2区の21号礫群間で接合し、道構間は約4m離れている。石材はNo. 17が砂岩、No. 18が頁岩で、接合資料を構成する礫は全て被熱している。

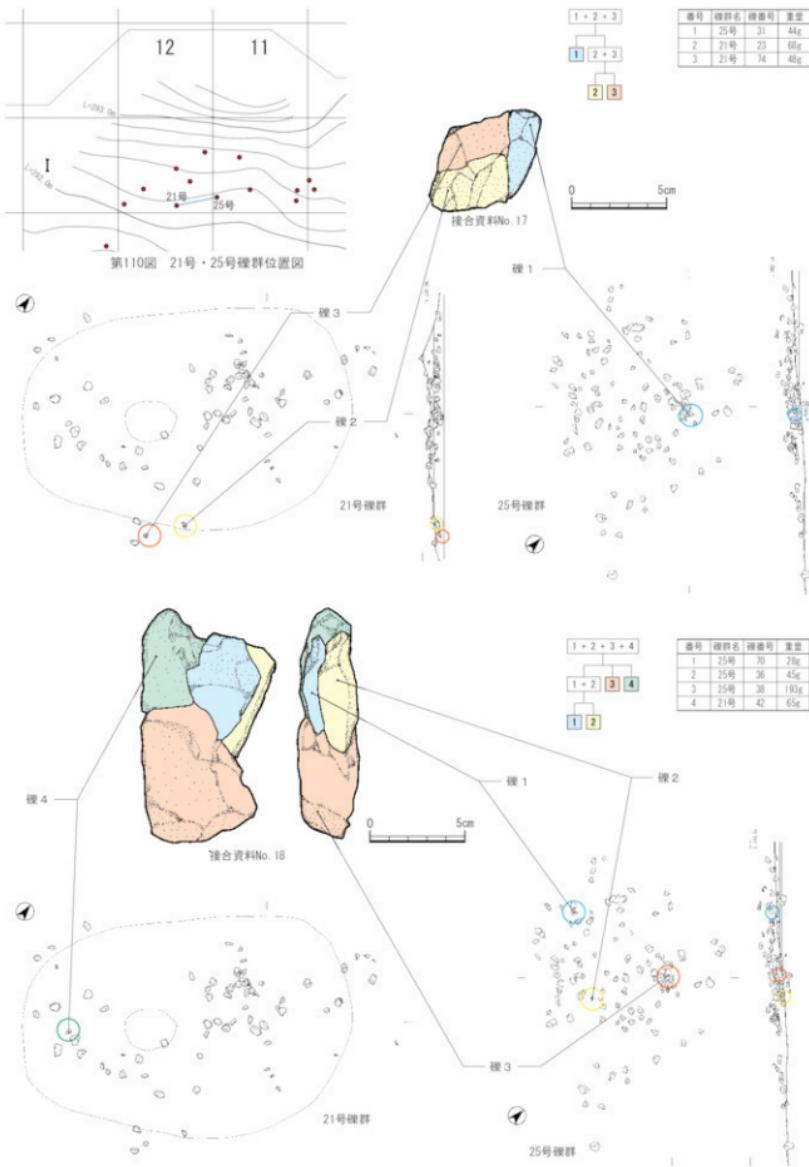
接合資料No. 17(第111図)

接合資料No. 17は礫1が25号礫群から、礫2と礫3が21号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1は、25号礫群で道構の礫集中部に散在して検出されている。礫2・礫3は、21号礫群で共に道構の散在して検出されている。礫1～礫3の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。礫の表面と接合面は、あまり強く被熱していないと思われ、色調の変化も特にみられない。

接合資料No. 18(第111図)

接合資料No. 18は礫4が21号礫群から、礫1～礫3が25号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3と礫4が破損し、次に礫1と礫2が破碎している。礫4は、21号礫群で道構の散在して検出されている。礫1・礫2は、25号礫群で共に道構の散在して検出されているが、礫3は接合資料No. 17の礫1と同様、礫群の礫集中部に散在して検出されている。礫1～礫3の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。礫の表面と接合面は、あまり強く被熱していないと思われ、色調の変化も特にみられない。

これら2点の接合資料から共通していることは、いずれも破碎した礫が25号礫群の礫集中部から検出されている点である。特に、どちらの接合資料でも礫集中部にきっちりはまっている状態で検出されていることから、21号礫群で利用した礫を25号礫群で再利用したと考えられる。



第111図 接合資料No. 17・No. 18実測図及び構成礫検出状況図

(4) 23号・33号礫群間接合資料(No. 19、第112図・第113図)

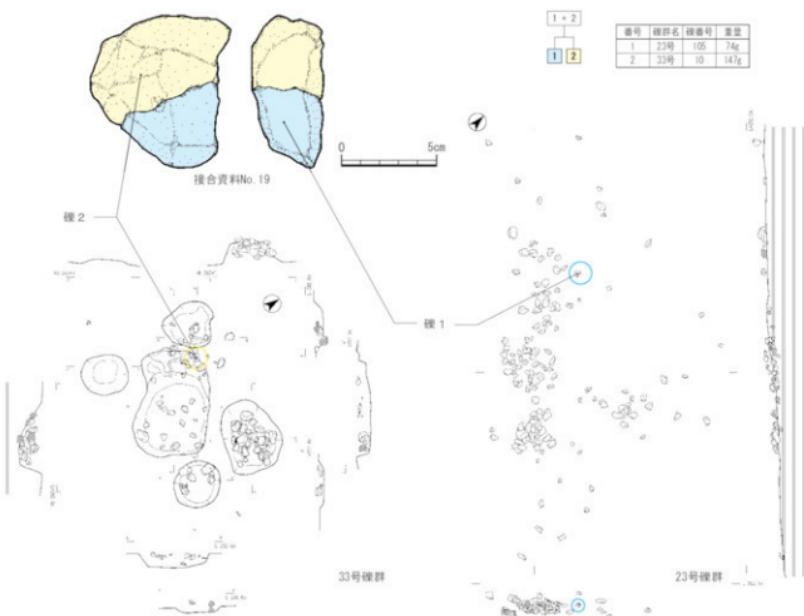
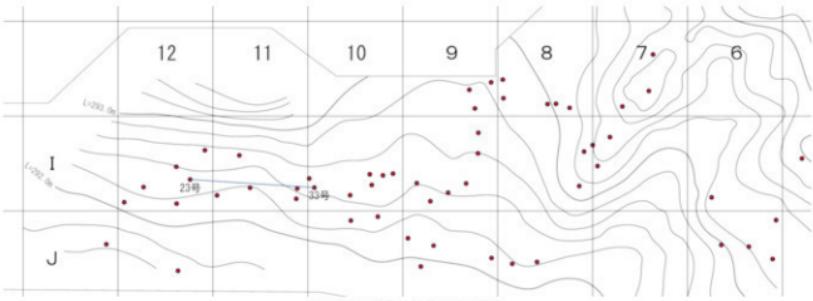
I-10区の33号礫群とI-12区の23号礫群間に接合した資料で、1点が確認できた。道構間は約14m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 19(第113図)

接合資料No. 19は礫 1 が23号礫群から、礫 2 が33号礫群から検出された。礫 1 は、23号礫群の道構を取り巻く散在礫として検出されている。礫 2 は、33号礫群で上位ではあるが掘

り込み道構内の散在礫として、道構壁に近い位置で検出されている。接合資料の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。色調は、表面・接合面共に礫 2 の方が黒みが濃く赤みがかったところもみられるが、再被熱による変色かどうかは確認できなかった。

接合資料は1点ではあるが、No. 19の礫 2 が接合資料No. 7～No. 11の33号礫群から検出された礫とほぼ同じ位置に検出されたことから、23号礫群で利用した礫を33号礫群で再利用したものと考えられる。



(5) 23号・66号礫群間接合資料(No. 20、第114図・第115図)

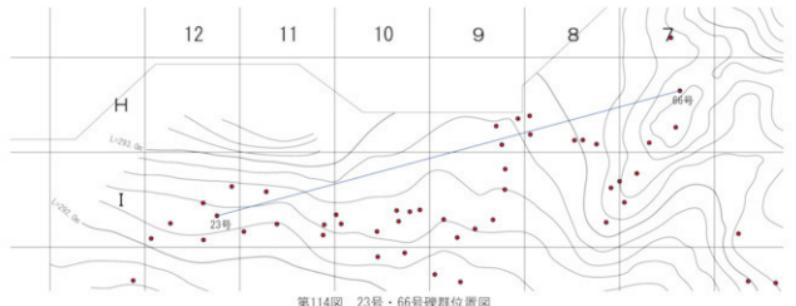
I-12区の23号礫群とH-7区の66号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。造模間は約50m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 20(第115図)

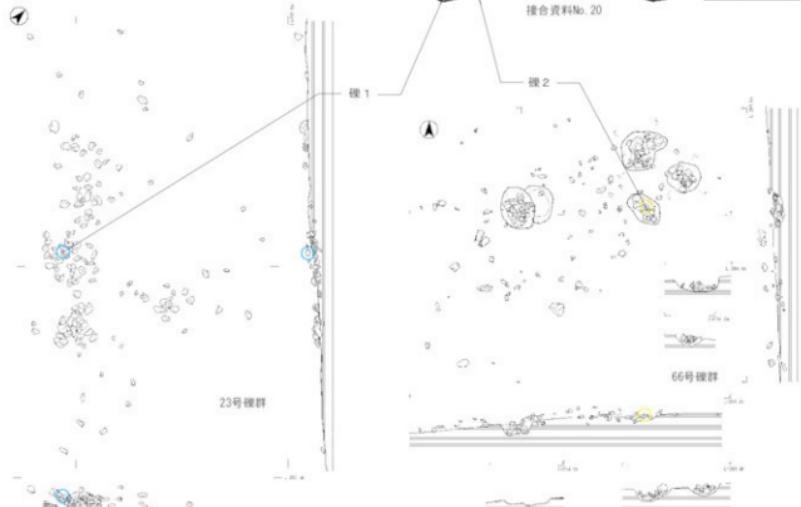
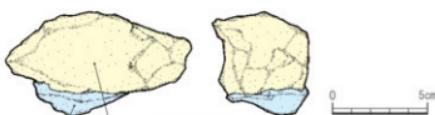
接合資料No. 20は礫1が23号礫群から、礫2が66号礫群から検出された。礫1は、23号礫群の中心に近い小礫群の上部から造模を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、

66号礫群の掘り込み造模中央の下位から、掘り込み造模内の構成礫として検出されている。この接合資料に更に接合する礫の存在については不明である。接合面と表面の色調についても特に変化はみられない。

礫1は薄く剝離した小片で、礫2の重量は接合資料全体の9割近くを占める。また、礫2が掘り込み造模下部から検出されていることからも、23号礫群で利用され破碎した礫2を66号礫群で再利用したと考えられる。



番号	礫群名	礫番号	重量
1	23号	75	2%
2	66号	44	20%



第115図 接合資料No. 20実測図及び横成礫検出状況図

(6) 23号・64号・66号礫群間接合資料

(No. 21, 第116図～第118図)

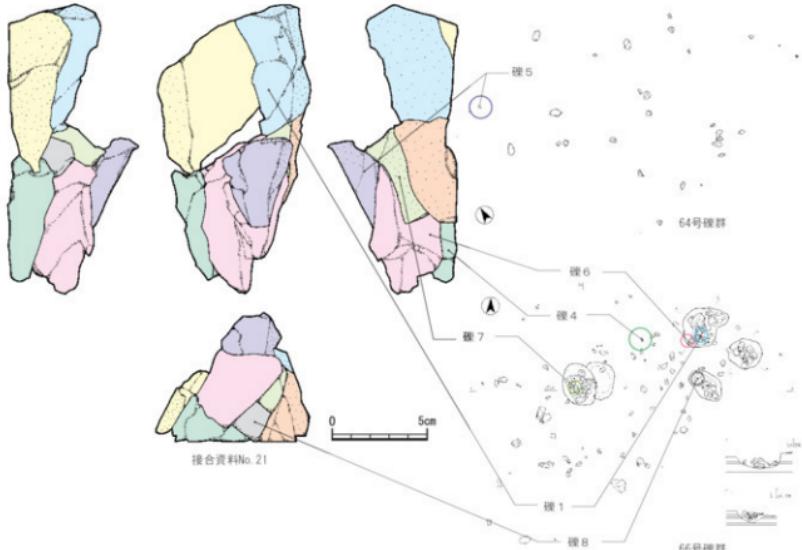
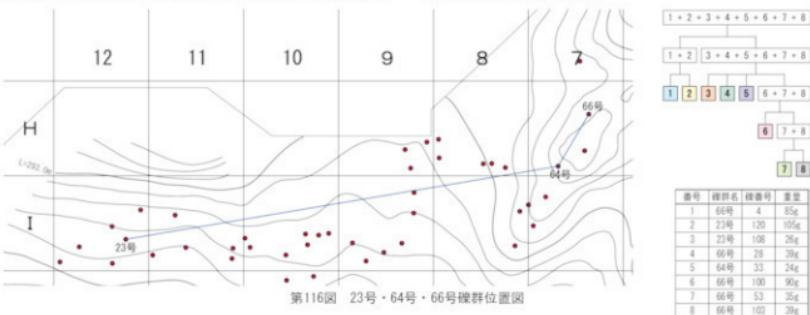
I-12区の23号礫群とH-7区の64号礫群・66号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。64号礫群・66号礫群との造構間は約6m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 21(第117図・第118図)

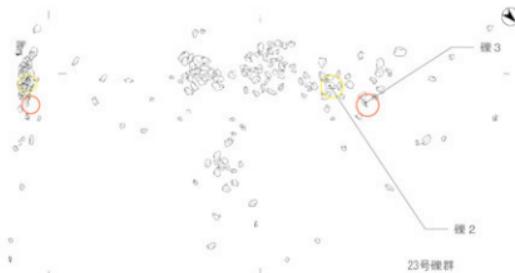
接合資料No. 21は礫2・礫3が23号礫群から、礫5が64号礫群から、礫1・礫4・礫6～礫8が66号礫群から検出された。礫2・礫3は、23号礫群の礫集中部から少し離れた位置から造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫5は、64号礫群の周辺部から造構を取り巻く散在礫として検出され

ている。礫4は、66号礫群の掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されているが、礫1・礫6～礫8は、いずれも掘り込み造構内の構成礫として検出されている。礫1・礫2・礫7・礫8の接合面以外の破損面からは、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。接合資料は全体的によく被熱しており、接合面での色調の差はあまりない。

接合資料No. 21の礫の検出状況からは、礫の再利用や造構間の移動方向について確認できなかった。しかし、23号礫群で検出された礫が集中部から離れた位置にあることと、66号礫群から検出された礫のほとんどが掘り込み造構内の構成礫であることから、23号礫群で利用され破碎した礫を66号礫群で再利用したと考えられる。



第117図 接合資料No. 21実測図及び構成礫検出状況図（1）



第118図 接合資料No. 21実測図及び構成縞検出状況図（2）

(7) 23号・65号縞群間接合資料(No. 22、第119図・第120図)

I-12区の23号縞群とH-7区の65号縞群間に接合した資料で、1点が確認できた。造構間は約50m離れている。石材は真岩である。接合資料を構成する縞は全て被熱している。

接合資料No. 22(第120図)

接合資料No. 22は縞1～縞8が23号縞群から、縞9が65号縞群から検出された。縞1は、23号縞群で小縞群の上部で検出されているが、縞2～縞8は、造構を取り巻く散在縞として検出されている。ただし、縞2・縞5・縞7・縞8と縞3・縞4・縞6はそれぞれまとまった状態である。縞9は、65号縞群の掘り込み造構を取り巻く散在縞として検出されている。接合資料中央部に空白部があることから、更に全体を形成する縞が存在すると思われる。あまり強く被熱しておらず、縞2がやや黒っぽく見える以外は大きな変化はない。接合面の色調も特に変化はみられない。

接合資料No. 22の検出状況だけでは、造構間の縞の移動について考察することは難しいが、同じH-7区検出の接合資料No. 20・21と比較した結果、23号縞群で利用された縞を65号縞群で再利用したことによる縞の移動と考えられる。

(8) 23号・32号・61号縞群間接合資料

(No. 23、第121図・第122図)

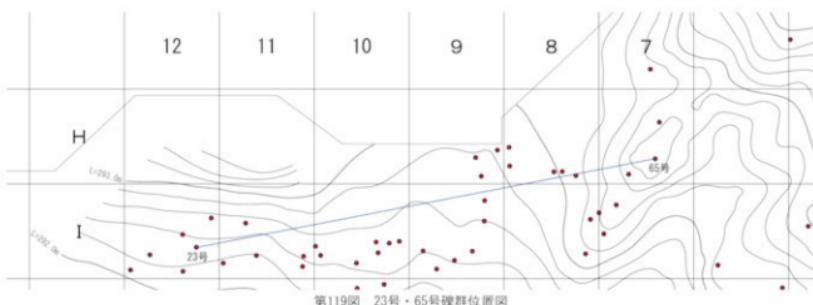
I-12区の23号縞群とI-10・11区の32号縞群、H-7・8区の61号縞群で接合した資料で、1点が確認できた。造構間は

23号縞群と32号縞群間が約13m、32号縞群と61号縞群間が約30m離れている。石材は真岩である。接合資料を構成する縞は全て被熱している。

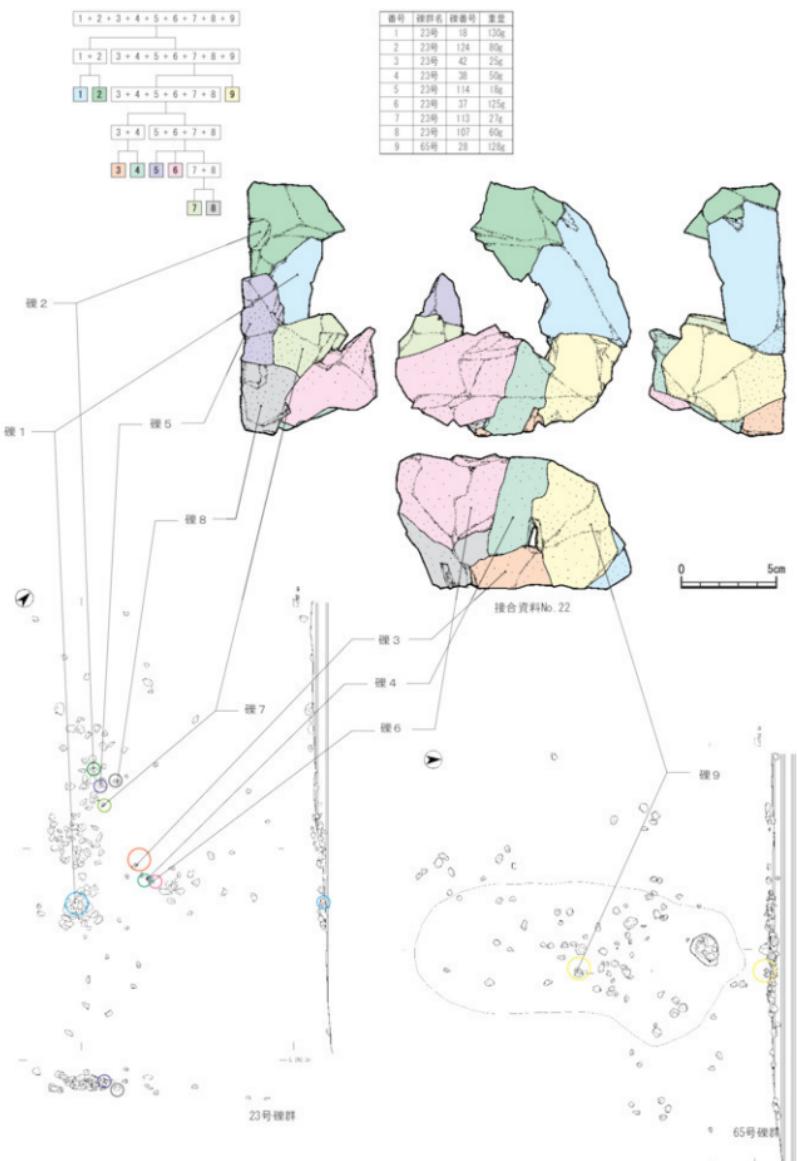
接合資料No. 23(第122図)

接合資料No. 23は縞2が23号縞群から、縞1が32号縞群から、縞3～縞5が61号縞群から検出された。縞の細片化順序は、まず縞1・縞2のグループと縞3～縞5のグループに二分し、縞1と縞2、縞3・縞4と縞5がそれぞれ破壊している。縞1は、32号縞群の掘り込み造構を取り巻く散在縞として検出されている。縞2は、23号縞群の造構を取り巻く散在縞として検出されている。縞3・縞4は、61号縞群の造構を取り巻く散在縞として検出されているが、接合資料No. 23の6割近い重量を占める縞5は、掘り込み造構内の構成縞として検出されている。縞3と縞4は隣り合って検出されているので、散在後破壊したものと考えられる。接合資料を観察すると、更に接合して全体を形成する他の縞が存在が予測される。接合面の色調は特に変化はみられない。

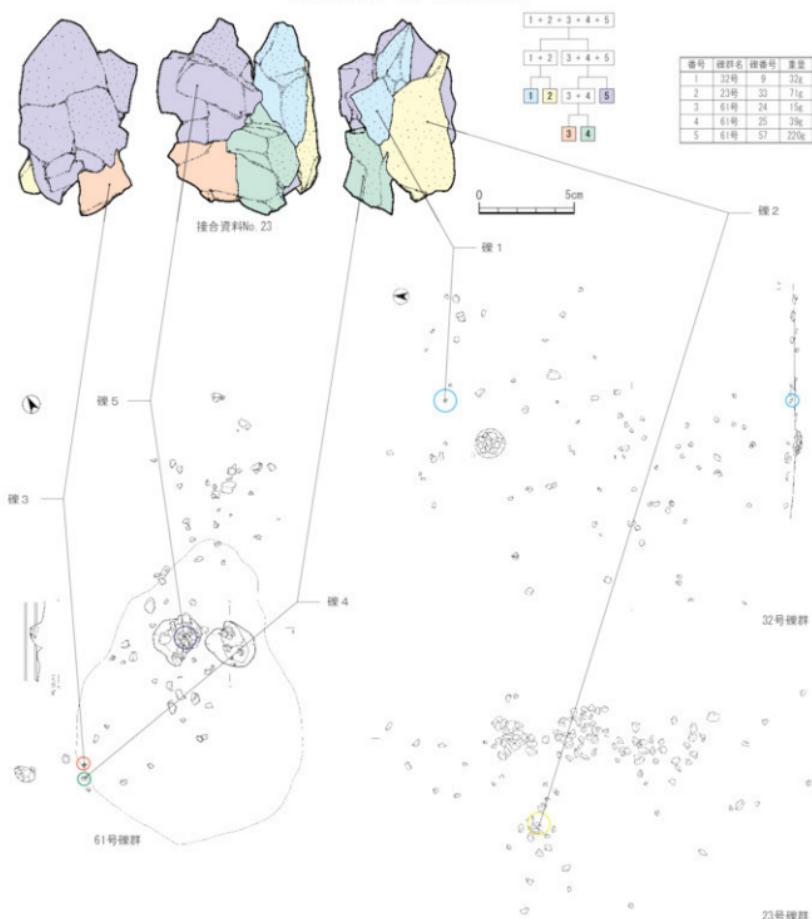
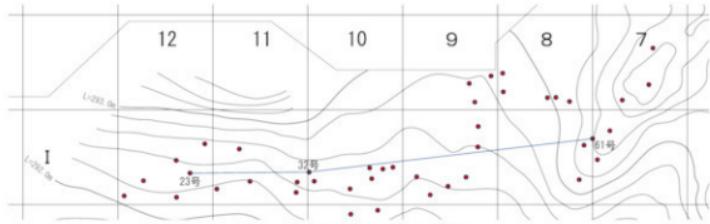
23号縞群と32号縞群で検出された縞1・縞2は、縞集中部及び掘り込み造構から離れており、飛散しているため縞の移動については確認できない。しかし、最も大きい縞5が61号縞群の掘り込み造構から検出されていることから、縞3～縞5の接合縞を23号縞群もしくは32号縞群で利用した後に61号縞群で再利用したと考えられる。



第119図 23号・65号縞群位置図



第120図 接合資料No. 22実測図及び構成標块状況図



第122図 接合資料No. 23実測図及び横成礫検出状況図

(9) 65号・66号礫群間接合資料(No. 24、第123図・第124図)

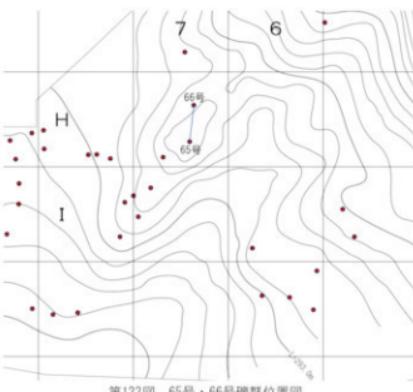
H-7区の65号礫群と66号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。道構間は約4m離れている。石材は頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱しているがあまり強いものではなく、接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 24(第124図)

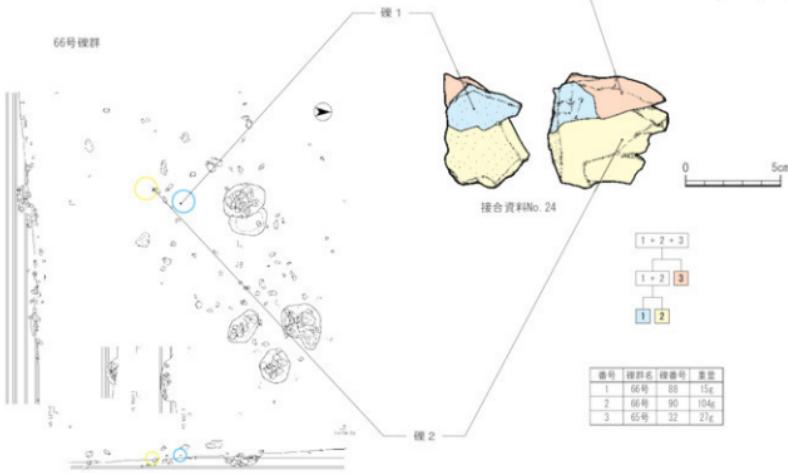
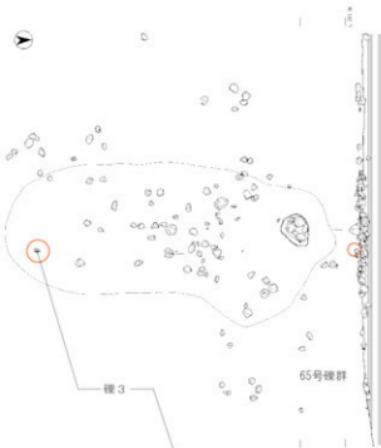
接合資料No. 24は礫1と礫2が66号礫群から、礫3が65号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1と礫2の接合礫と礫3が破損し、その後礫1と礫2が破碎している。

礫1と礫2は、66号礫群の掘り込み道構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、65号礫群の掘り込み道構を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料を観察すると、礫1～礫3の中に新たに接合する礫と、礫2から接合して全体を形成する他の礫が存在すると思われる。

接合資料No. 24では、礫1～礫3がいずれも礫群の掘り込み道構から離れた位置に飛散した状態で検出されており、礫群間の礫の移動については確認できなかった。



第123図 65号・66号礫群位置図



第124図 接合資料No. 24実測図及び構成礫検出状況図

4 接合資料第3群(第125図～第139図)

(1) 35号・36号・37号礫群間接合資料

(No. 25, 第125図～第127図)

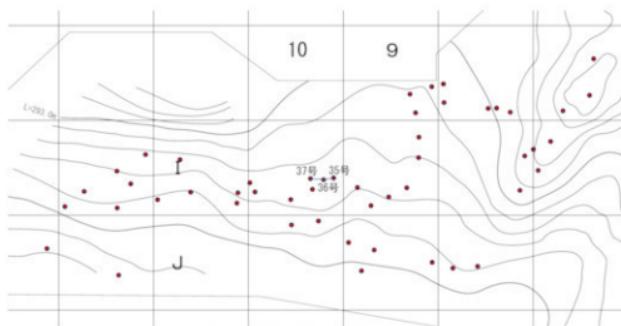
I-10区の35号礫群・36号礫群・37号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。造構間は端にある35号礫群と37号礫群間が約3mで、3つの礫群ともそれぞれ隣接している。石材は真岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱しているが、あまり強いものではなく接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 25(第126図・第127図)

接合資料No. 25は礫1が36号礫群から、礫2が35号礫群から、礫3と礫4が37号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1と礫3、礫2と礫4の二つに破損し、その後

それが破碎している。礫1は、36号礫群の掘り込み造構内の上位から、掘り込み造構内の構成礫として検出されている。礫2は、35号礫群の掘り込み造構内の構成礫として検出されている。礫3と礫4は、37号礫群のさらに周辺から検出されていてかなり散在した状態と思われる。接合資料No. 25はかなり破損が激しく、他にこの資料に接合する構成礫の存在については不明である。

35号礫群と36号礫群で、礫1と礫2がそれぞれ掘り込み造構内の構成礫として検出されたこと、礫の細片化順序から、37号礫群で破碎した礫を35号礫群と36号礫群で再利用したと考えられる。しかし、35号礫群と36号礫群の礫群形成順序については確認できなかった。



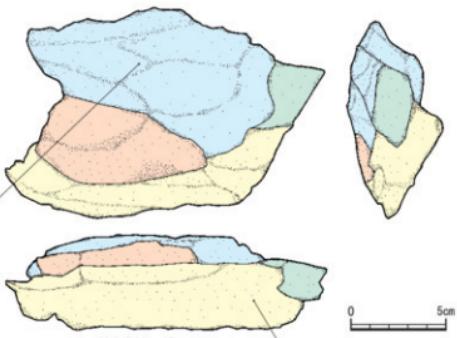
第125図 35号・36号・37号礫群位置図



第126図 接合資料No. 25構成礫検出状況図



番号	被群名	理番号	重量
1	36号	1	320g
2	35号	18	242g
3	37号	50s	75g
4	37号	2s	104g

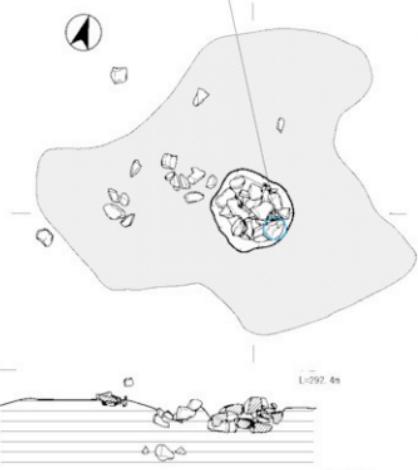


七

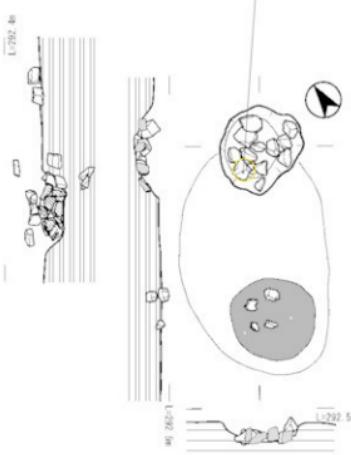
摺合資料No. 25

0 5cm

七



36号微群



35号碳群

第127図 接合資料No. 25実測図及び構成線検出状況図

(2) 18号・19号礫群間接合資料(No. 26、第128図、第129図)

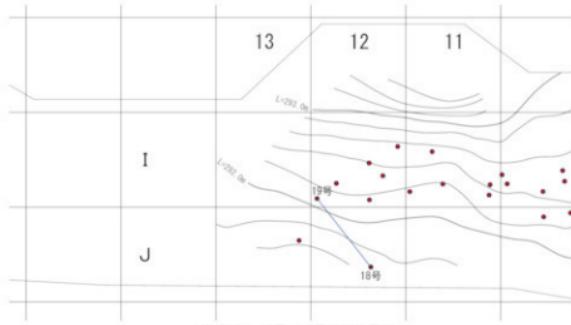
J-12区の18号礫群とI-12区の19号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。造模間は約10m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱しているが、あまり強いものではなく、接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 26(第129図)

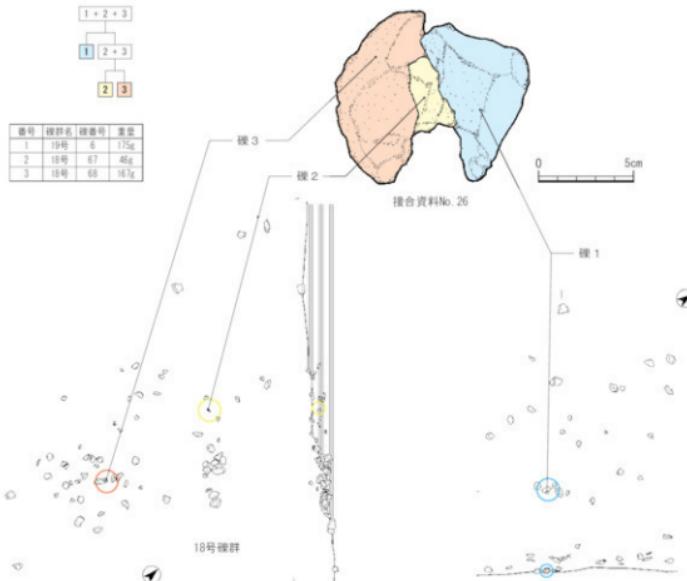
接合資料No. 26は礫1が19号礫群から、礫2と礫3が18号礫群から検出された。礫の細分化順序は、まず礫1が破損

し、その後礫2と礫3が破碎している。礫1は、19号礫群で礫のまとまりの中から、造模を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と礫3は、18号礫群で礫のまとまりから離れた位置から、造模を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料の観察からは、更に接合し全体を形成する他の礫が存在すると思われる。

接合資料No. 26では、礫1～礫3がいずれも飛散した状態で検出されているため、造模間の礫の移動については確認できなかった。



第128図 18号・19号礫群位置図



第129図 接合資料No. 26実測図及び横構造検出状況図

(3) 60号・62号礫群間接合資料(No. 27、第130図・第131図)

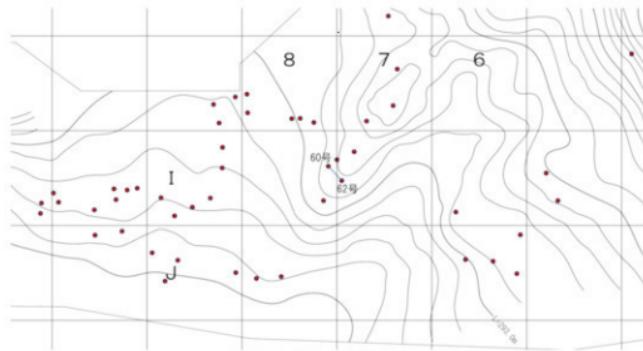
I-8区の60号礫群とI-7区の62号礫群間に接合した資料で、1点が確認できた。造構間は約2m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 27(第131図)

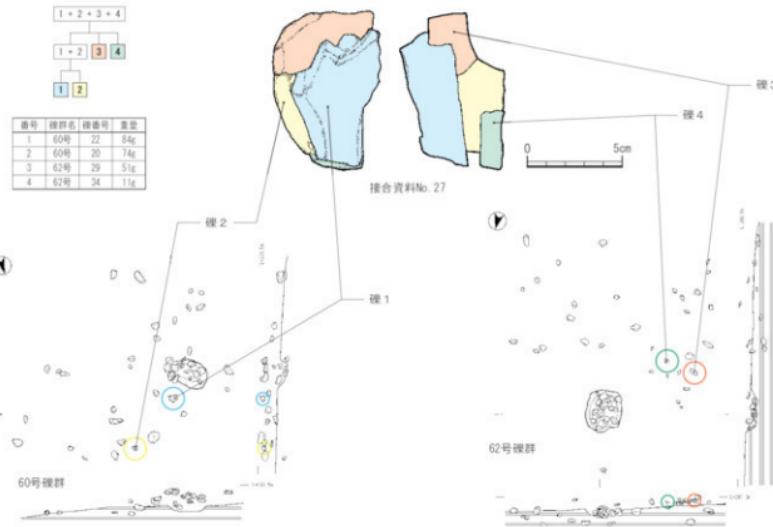
接合資料No. 27は礫1と礫2が60号礫群から、礫3と礫4が62号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3と礫4が破損し、その後礫1と礫2が破碎している。しかし、それぞれの破碎面に更に接合する他の礫が存在すると思われる。礫1が先に破損し、その後礫2から礫4が破碎した可能

性もある。礫1は60号礫群の掘り込み造構の近く、礫2は少し離れた位置に、それぞれ掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3と礫4は、62号礫群の掘り込み造構近くに掘り込み造構を取り巻く散在礫として検出されていて、お互いの位置もかなり近い。

60号礫群の掘り込み造構内の礫は、造構外へややばらけているのに対し、62号礫群の掘り込み造構内の礫は充実しているように見えるが、礫の再利用による礫群形成順序については確認できなかった。



第130図 60号・62号礫群位置図



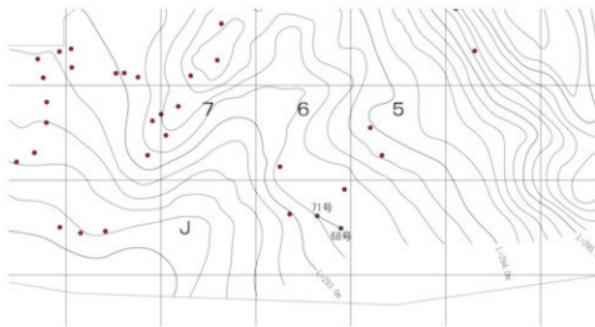
第131図 接合資料No. 27実測図及び構成礫検出状況図

(4) 68号・71号礫群間接合資料(No. 28、第132図・第133図)
J-6 区の68号礫群・71号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約3m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

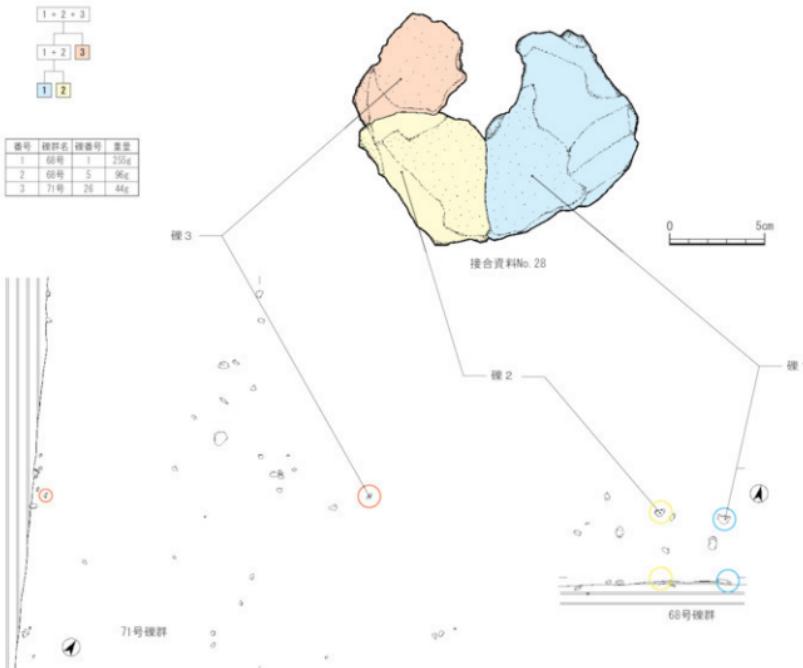
接合資料No. 28(第133図)

接合資料No. 28は礫1と礫2が68号礫群から、礫3が71号

礫群から検出された。礫の細分化順序は、まず礫3が破損しその後、礫1と礫2が破碎している。また、接合資料No. 28の裏面には、更に接合する可能性がある。しかし、68号礫群・71号礫群とともに散石状態に近く、礫も遺構を取り巻く散在礫として検出されていることから、遺構間の礫の移動については確認できなかった。



第132図 68号・71号礫群位置図



第133図 接合資料No. 28実測図及び構成礫検出状況図

(5) 82号・83号礫群間接合資料

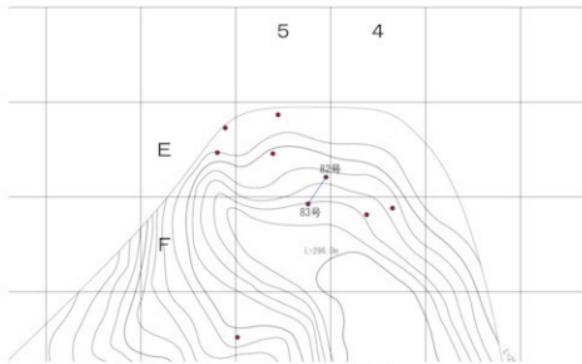
(No. 29・No. 30, 第134図~第137図)

E-5区の82号礫群・F-5区の83号礫群間で接合した資料で、2点が確認できた。遺構間は約4m離れている。石材は2点とも頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

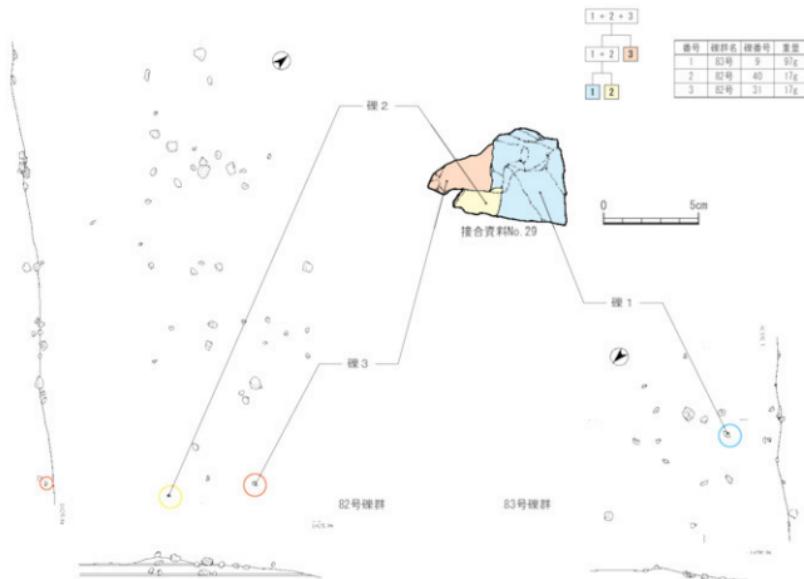
接合資料No. 29(第135図)

接合資料No. 29は礫1が83号礫群から、礫2と礫3が82号

礫群から検出された。礫の組み合せ順序は、まず礫3が破損しその後、礫1と礫2が破碎している。また、破碎面からは、更に接合する他の礫があると思われる。礫1は、83号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と礫3はと共に、82号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。被熱による接合面の色調は特に変化していない。



第134図 82号・83号礫群位置図

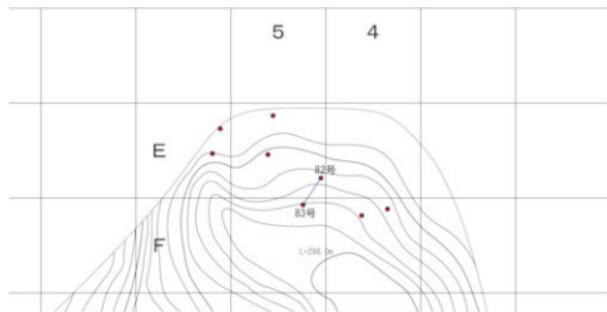


第135図 接合資料No. 29実測図及び構成礫検出状況図

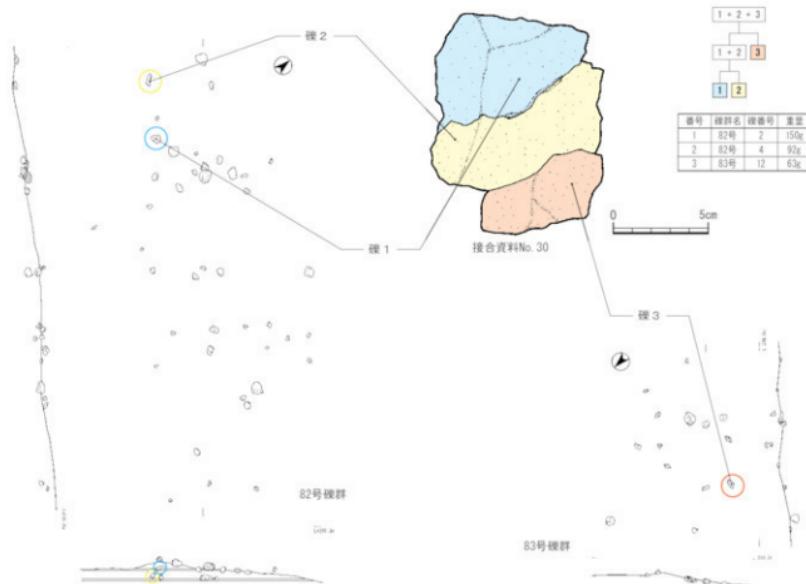
接合資料No. 30(第137図)

接合資料No. 30は礫1と礫2が82号礫群から、礫3が83号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3が破損しその後、礫1と礫2が破碎している。また、裏面には更に接合して全体を形成する他の礫があると思われる。礫1と礫2は共に、82号礫群の中央部から造構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、83号礫群の造構を取り巻く散在礫として検出されている。被熱による接合面の色調の変化は特にみられない。

これら2点の接合資料は、いずれも造構を取り巻く散在礫として検出されているので詳細はつかない。接合資料No. 29の7割以上の重さをしめる礫1が、83号礫群で検出されていることから、82号礫群で利用された礫が83号礫群で再利用された可能性もあるが、接合資料No. 30では大きい礫片である礫1と礫2が82号礫群で検出されていることから接合資料No. 29の仮説とは反対の可能性が出てくるので、造構間の礫の移動について、礫の検出状況からは確認できなかった。



第136図 82号・83号礫群位置図



第137図 接合資料No. 30実測図及び構成礫検出状況図

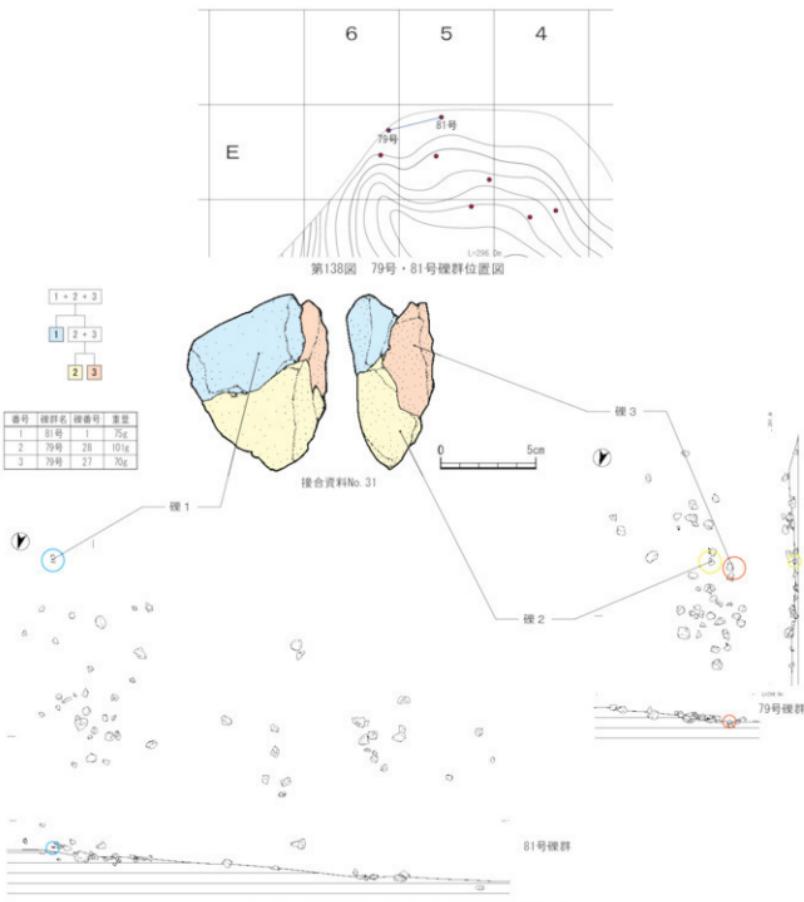
(6) 79号・81号礫群間接合資料(No. 31, 第138図・第139図)

E-6 区の79号礫群・E-5 区の81号礫群間に接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約 6 m 離れている。石材は真岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 31(第139図)

接合資料No. 31は礫 1 が 81 号礫群から、礫 2 と 磨 3 が 79 号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず 磫 1 が破損しその後、礫 2 と 磨 3 が破碎している。また、礫 1 と 磕 3 の間には、更に接合して全体を形成する他の礫があると思われる。礫 1 は、81 号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出さ

れている。礫 2 と 磨 3 は、79 号礫群の中心部から遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫 2 と 磨 3 はお互いすぐ近くで検出されていることから、散在した後で破碎した可能性もある。また、磨 3 が黒ずんだ色調であるのに対し、礫 1 と 磕 2 は若干明るい黄土色をしている。なお、礫 1 と 磕 2 の色調は変わらず、接合面も変化はみられない。このことから 磕 1 と 磕 2 は、磨 3 の破損後、更に別の場所で被熱したと思われる。しかし、81 号礫群で破損した礫が、79 号礫群で再利用されたのかについては検出状況からは確認できなかった。



5 接合資料第4群(第140図・第141図)

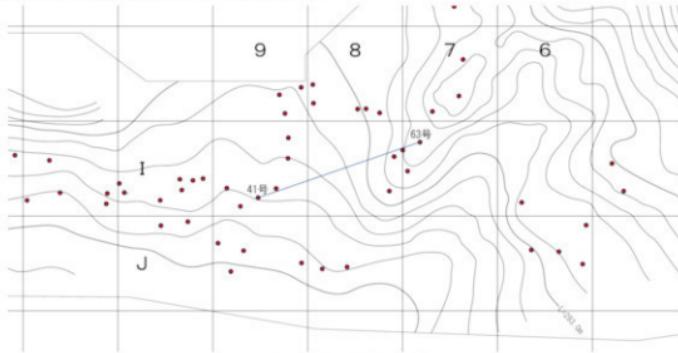
(1) 41号・63号礫群間接合資料(No. 32, 第140図・第141図)

I-9区の41号礫群とI-7区の63号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。造模間は約18m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 32(第141図)

接合資料No. 32は礫1が63号礫群から、礫2と礫3が41号礫群から検出された。礫の細分化順序は、まず礫1が破損

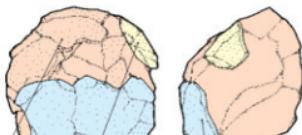
し、その後、礫2と礫3が破碎している。礫1は、63号礫群で堀り込み造模を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と接合資料の9割の重さを占める礫3は、41号礫群の掘り込み造模内の構成礫として堀り込み造模下部から、構成礫にきっちりはまっている状態で検出されている。なお、礫2は礫3の直上から検出されている。これらのことから、63号礫群で利用され破碎した礫を、41号礫群で再利用したと考えられる。



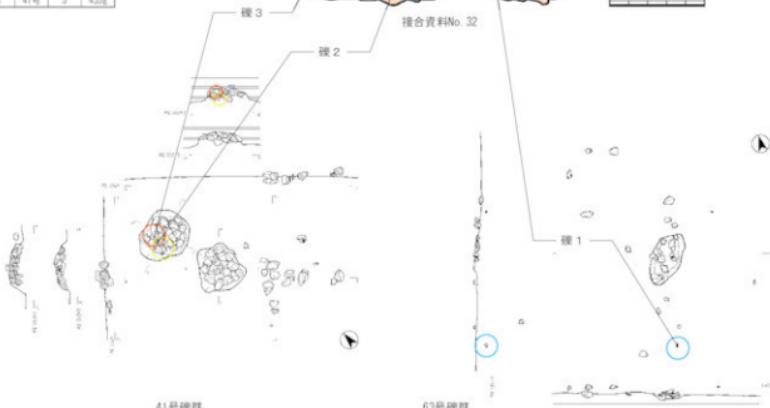
第140図 41号・63号礫群位置図



番号	礫名	礫番号	重量
1	63号	23	39g
2	41号	14	5g
3	41号	5	435g



0 5cm



第141図 接合資料No. 32 実測図及び構成礫検出状況図

第4節 遺物

1 石器群の概要

ナイフ形石器第I文化層に該当する石器群は、XVI層～XVII層の間に集中して出土した。一部、XIV層～XV層出土資料を含む。総数約2900点に達している。

本書で取り扱った器種は、剥片尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器、角錐状石器、搔器、削器、尖頭状石器、二次加工痕のある剥片、微細剝離痕のある剥片、楔形石器、石核、剥片、プランティングチップ、チップ、ハンマーストーン、敲石、細石核、細石刃、磨石、石皿である。ナイフ形石器については、切出形、台形様石器の細分を加え、刃剥し加工の部位により基部加工、部分加工、一側縁加工、二側縁加工、両側縁加工と呼んだ。

なお、微細剝離痕のある剥片については、従来使用痕のある剥片などと呼ばれたものと同義である。剥片の周縁に微細な剝離痕が連続的に観察されるものを包括したが、使用痕の認定に慎重を期す観點から、名称を分けて取り扱った。

石材については肉眼的特徴に基づく分類を基本とし、以下のような基準に基づいた。

黒曜石 I 類(OB1)

光を通さない漆黒色で、白色の斑晶を含む。茶色の流理が散見されるものもある。上牛鼻、平木塙、宇都、野下、八房側等の原産地資料に類似する。

黒曜石 II 類(OB2)

光を通し、不純物を多量に含む一群である。三船、日東、五女木、小川内、芳ヶ野、荒平、小浜、長谷、小国等の原産地資料に類似する。肉眼的な特徴に基づき、以下のように細分した。

OB2A：基調色は鉛色から黒色までを呈し、白色の不純物を均等に含むもの。

OB2B：ガラスが遺れたような不純物を含むもの。不純物の大きさにはばらつきがある。

OB2C：球状の不純物と黒色の角柱状の不純物を含む。基調がやや白濁したものも含まれる。

OB2D：基調がやや緑があり、灰色の流理がみられるものの。

白色で大きめの不純物を含む。

黒曜石 III 類(OB3)

不純物が少ない良質の黒曜石で鉛色～黒色を基調とする。まれに乳白色を基調とするものもある。自然面は擦りガラス状を呈するものが多く、小破が多い。上青木、桑ノ木津留の原産地資料やいわゆる霧島系の黒曜石に類似する。肉眼的特徴によって以下のように細分した。

OB3A：透明度が高く鉛色を基調としているもの。

OB3B：黒を基調とし、ほとんど光を通さないもの。

OB3C：乳白色を基調とするもの。

OB3D：梨肌を基調とするもの。

玉髓 I 類(CC1)

基調がおおむね白色を呈するもの。

玉髓 II 類(CC2)

基調がおおむね赤色を呈するもの。鉄石英を含む。

チャート I 類(OH1)

珪質が強く半透明で不純物は含まないもの。

チャート II 類(OH2)

珪質はやや弱く半透明な色調を呈するもの。

チャート III 類(OH3)

珪質がやや弱く不透明で節理が発達するもの。

水晶 I 類(OR1)

無色透明で不純物を含まないもの。

水晶 II 類(OR2)

白色でやや節理が発達するもの。

真岩 I 類(SH1)

黒色で節理が発達しない良質の硬質真岩を包括する。色調や光沢の有無によって以下のように細分した。

SH1A：粒状感が極めて弱く、全く光沢がないもの。

SH1B：粒状感が極めて弱く、やや光沢があるもの。

SH1C：粒状感が極めて弱く、風化面が白色または淡褐色を帯び、白色～暗褐色の斑文がみられるもの。

SH1D：粒状感が極めて弱く、やや光沢があり、風化面が暗茶褐色を呈するもの。

真岩 II 類(SH2)

珪質真岩を包括する。材質や光沢によって以下のように細分した。

SH2A：粒状感がなく、油脂光沢が強いもの。

SH2B：粒状感がなく、油脂光沢がほとんど無いもの。

SH2C：粒状感があり、油脂光沢がほとんど無いもの。

SH2D：やや粗雑で節理が発達するもの。

真岩 III 類(SH3)

いわゆるシリルト質真岩を包括する。

SH3A：節理が無く、風化面が白色～茶褐色の色調を呈するもの。

SH3B：節理が無く、白色の細かい流離がみられるもの。

真岩 IV 類(SH4)

節理が発達する粗雑な真岩を包括する。

SH4A：淡青灰色で風化面は純い赤褐色を帯びる。

SH4B：灰白色で粒状性が粗いもの。

SH4C：網目状の流理が見られるものの、粒状性は弱い。

SH4D：節理や流理が発達しブロック状に破碎するもの。

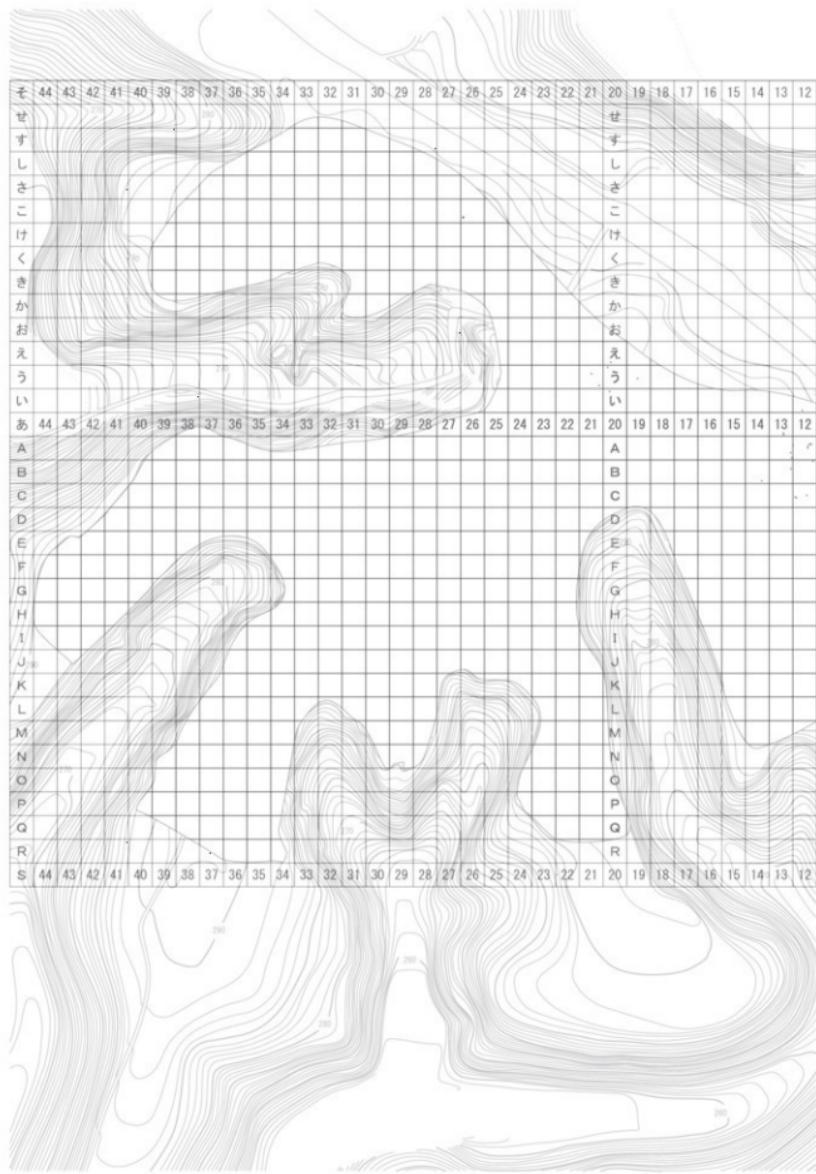
砂岩(SA)

やや明るめの黄褐色を呈するものが多く、粒子の粗いものから細かいものまで存在する。細分は行わなかった。

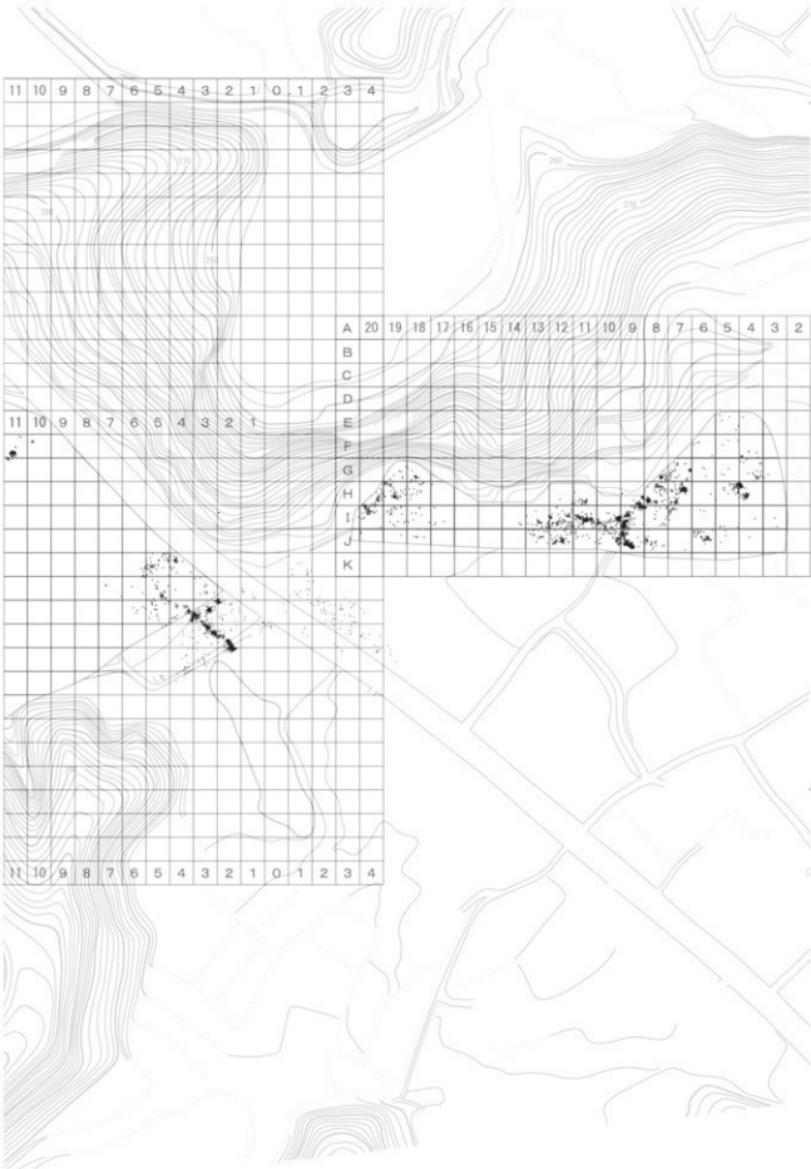
調査段階では、XIV層中にP-15、XVI層中にP-17の桜島起源のオレンジ軽石の分布が確認されている。

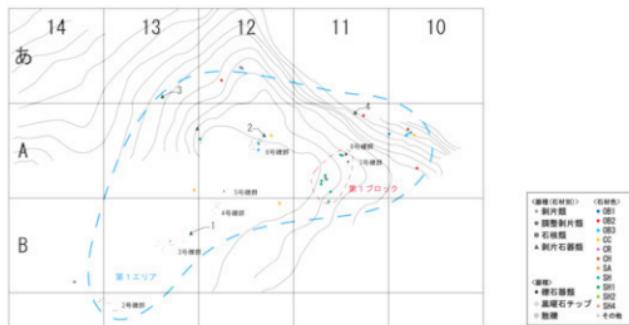
遺構は90基の礫群、遺物は剥片尖頭器、台形様石器を主体とするナイフ形石器群で、遺跡の西側に広がる谷を見下ろす台地の先端部で出土している。

出土遺物の分布状況は遺構群と密接な関係を示し、礫群と平面的に重複しながら展開する。なお、石器群の掲載にあたっては、石器群が集中して出土していることからその集中の最小単位を「ブロック」と呼び、相互に近接するブロック

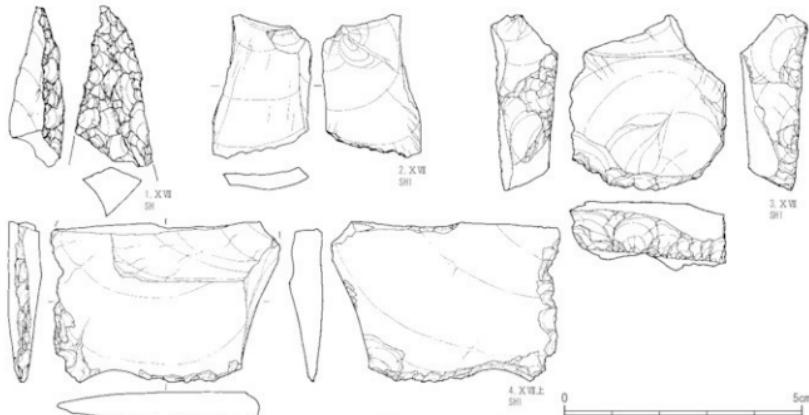


第142図 第I文化層遺物出土状況図

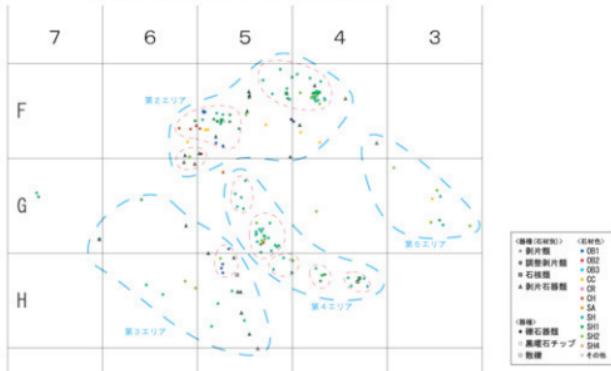




第143図 第I文化層第1エリア石器出土状況図



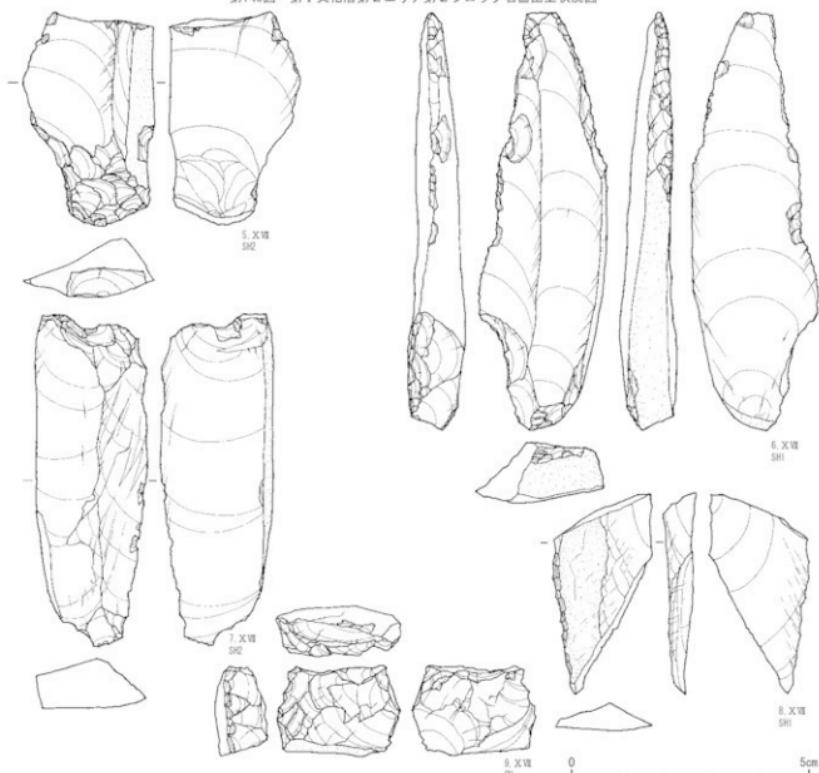
第144図 第I文化層第1エリア出土石器実測図



第145図 第I文化層第2エリア～第5エリア配置図



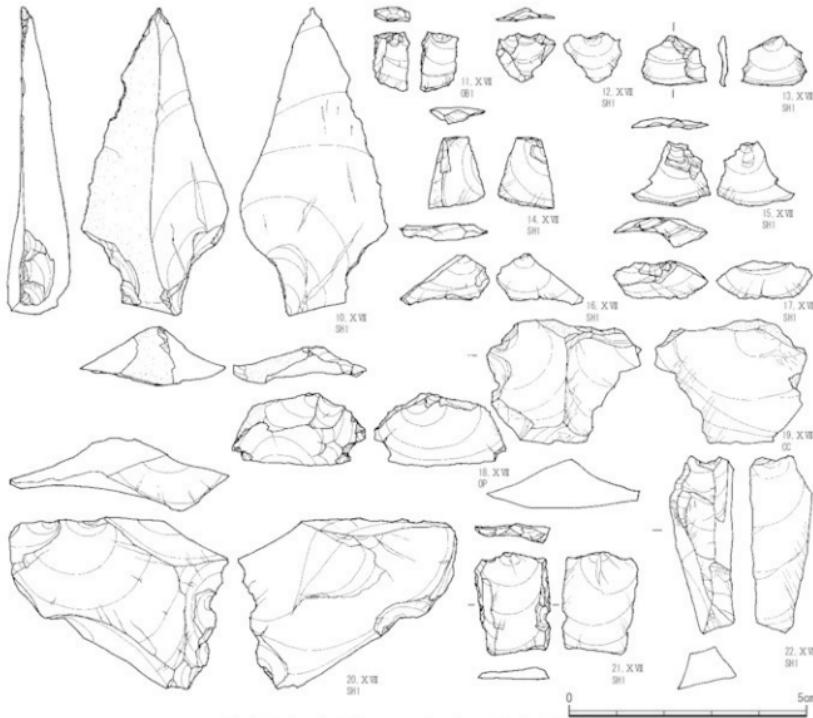
第146図 第I文化層第2エリア第2ブロック石器出土状況図



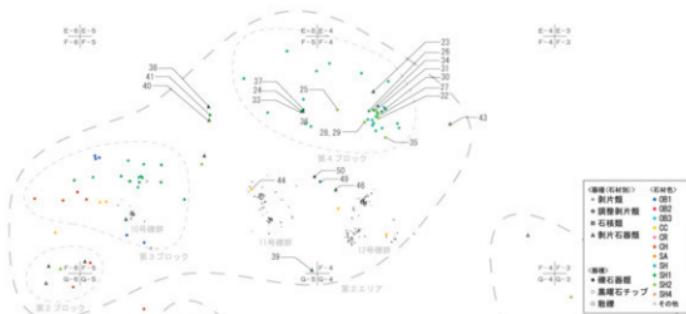
第147図 第I文化層第2エリア第2ブロック出土石器実測図



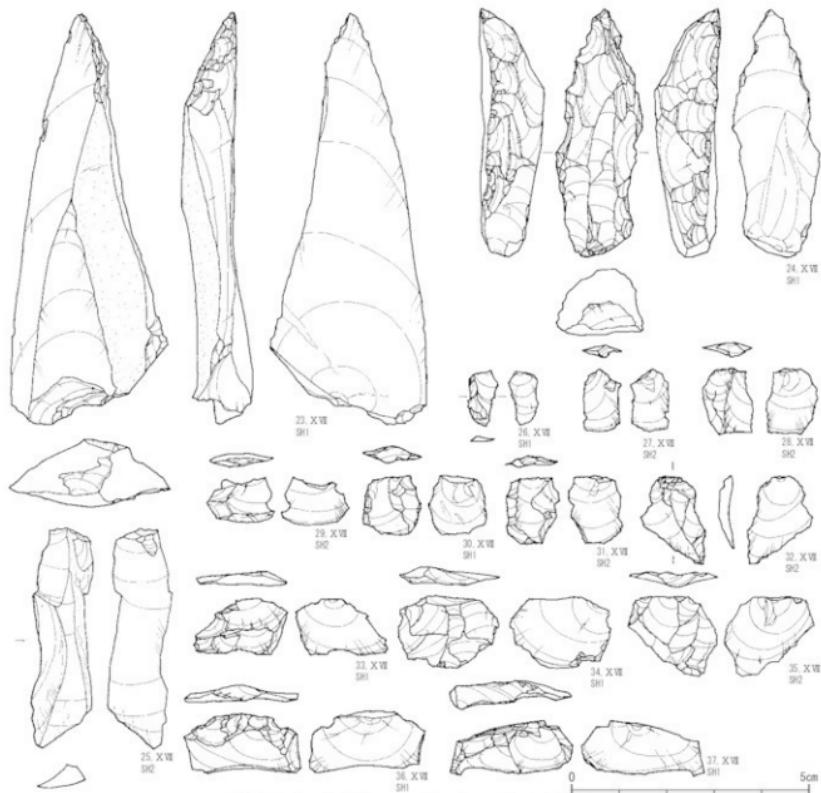
第148図 第Ⅰ文化層第2エリア第3ブロック石器出土状況図



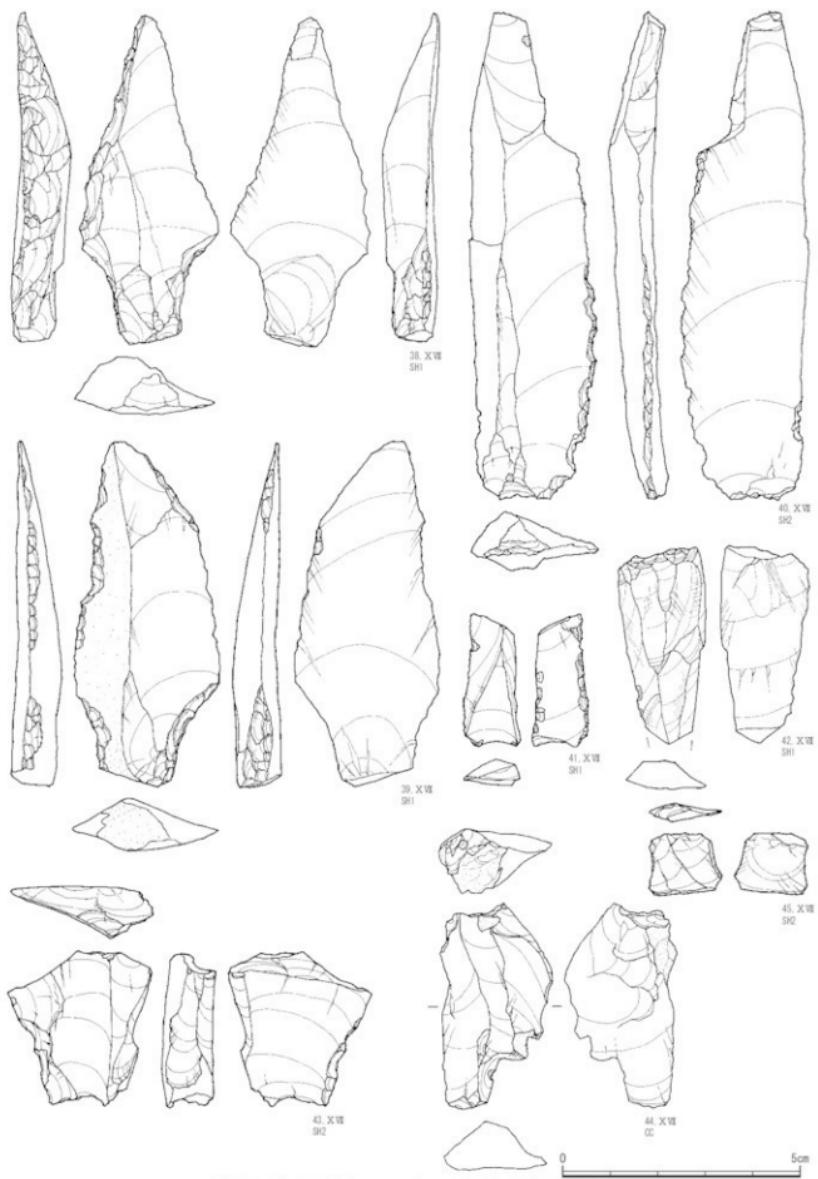
第149図 第Ⅰ文化層第2エリア第3ブロック出土石器実測図



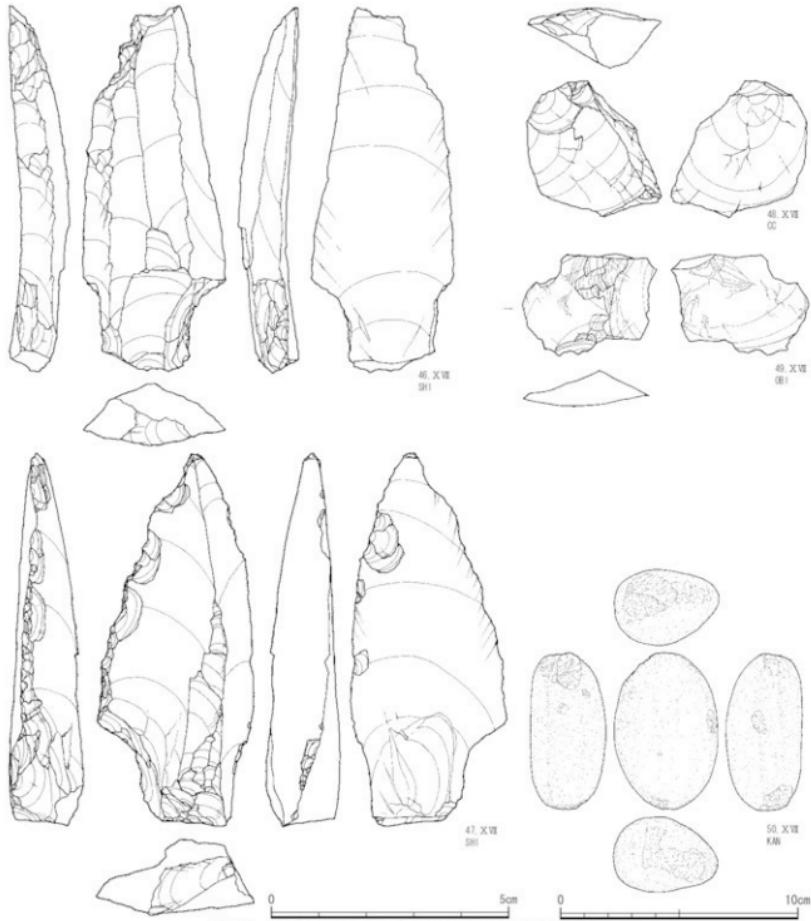
第150図 第I文化層第2エリア第4ブロック石器出土状況図



第151図 第I文化層第2エリア第4ブロック出土石器実測図



第152図 第1文化層第2エリヤブロック外出土石器実測図（1）



第153図 第Ⅰ文化層第2エリアプロック外出土石器実測図(2)

第24表 第Ⅰ文化層第1エリア出土石器観察表

番号	石種	厚さ	長さ	幅	重さ	形状	分類	石種	厚さ	長さ	幅	重さ	形状	分類
144 1	石片	0.5	48.6	3.8	—	石片	24.1	11.9	3.8	—	—	—	—	—
144 2	石片	—	58.1	21.1	5.4	2.0	石片	28.5	12.3	4.0	—	—	—	—
144 3	石片	—	27.3	20.3	14.9	16.8	石片	004229-A-12-X(8)	—	—	—	—	—	—
144 4	石片	—	24.1	40.5	7.3	14.8	石片	001240-B-1(X)8(2)	—	—	—	—	—	—

第25表 第Ⅰ文化層第2エリア出土石器観察表(1)

番号	石種	厚さ	長さ	幅	重さ	形状	分類	石種	厚さ	長さ	幅	重さ	形状	分類
147 5	石片	0.5	45.2	27.9	3.8	12.6	石片	000309-B-6-X(8)	—	—	—	—	—	—
147 6	石片	0.5	38.5	27.2	13.1	26.4	石片	000309-C-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
147 7	石片	0.5	26.2	74.1	9.3	18.6	石片	000309-D-6-X(8)	—	—	—	—	—	—
147 8	石片	0.5	42.3	21.0	7.4	4.2	石片	000309-E-7-X(8)	—	—	—	—	—	—
147 9	石片	0.5	19.3	26.3	7.9	4.6	石片	000309-F-6-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 10	石片	0.5	65.1	31.4	7.7	13.5	石片	000320-F-3-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 11	石片	0.5	13.0	8.3	3.4	2.7	石片	000407-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 12	石片	0.5	10.7	12.5	3.0	2.7	石片	000321-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 13	石片	0.5	10.9	14.1	2.0	2.7	石片	000324-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 14	石片	0.5	15.3	19.0	3.8	2.5	石片	000371-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 15	石片	0.5	12.0	16.5	2.6	2.3	石片	000325-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 16	石片	0.5	11.1	18.4	3.9	2.5	石片	000322-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—
149 17	石片	—	8.4	20.4	6.5	0.5	石片	000321-F-5-X(8)	—	—	—	—	—	—



第154図 第1文化層第3エリア石器出土状況図

の集中単位を「エリア」と呼称する。「エリア」の認定にあたっては石材別の分布や周辺の微地形、造構の分布状況、石器の接合状況等を総合的に勘案したが、「エリア」の認定については作業上の便宜的な設定であることを断つておく。

なお、各遺物の出土層位や所属ブロックは図番号や観察表に記載した。

2 遗物

第1エリア

桐木遺跡A～C-10～14区で、第1ブロックを取り巻く広いエリア(30m四方)で、第1ブロックの周辺からは、2号～8号の計7基の礫群が検出され、石器群と濃密な関係を示している。

頁岩Ⅰ類、玉髓等が確認できるが、掲載した石器は全て頁岩Ⅰ類を使用している。

第1エリアの1は角錐状石器の先端部で、背部は両方向から繰り返し整形した入念な加工が見られる。3は真岩I類を第26表 第1文化層第2エリア出土石器観察表(2)

使用し、板状の厚手の剥片の腹面を正面とした削器で3面に刃部を形成する。なお、左侧面では、逆方向の刃部が造られる。4も真岩I類を使用し、扁平な剥片の3面を削器として用いている。

第2エリア

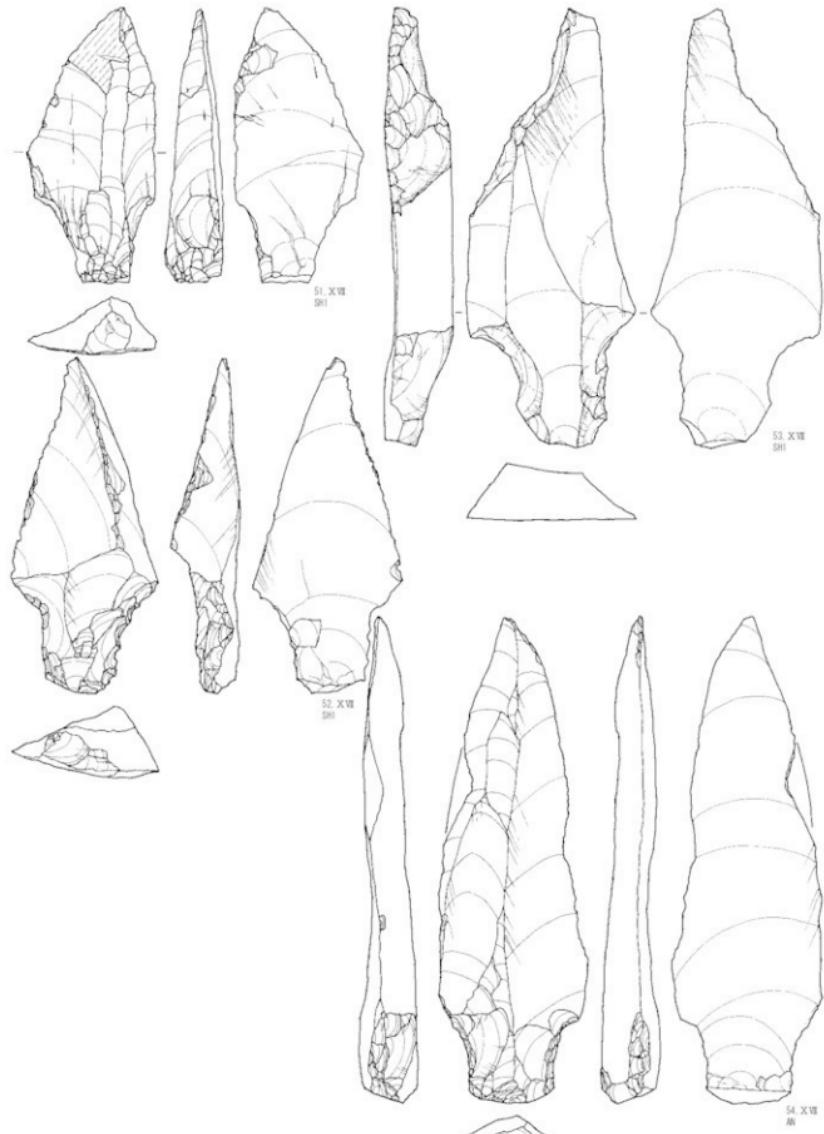
第2エリアから第5エリアは、桐木遺跡の北端に～H-3～7区に集中して分布し、9号～12号の4基の碑群と分布を一にする。10号碑群に接し、その中間部に第2・第3ブロックが、11号・12号碑群が、第4ブロック接する位置に形成される。地形からは、碑群より若干高い外側に石器群が残される状態で検出されている。第4エリアの第6～第10ブロックは弧状に並ぶ状況がみられるが、第6ブロックと第3エリアの中間部に9号碑群が設けられている。

石器群は第2～第4の3ブロックで構成され、使用石材は頁岩(頁岩I類、頁岩II類)を主体とし、黒曜石I類、玉髓等が数点含まれる。

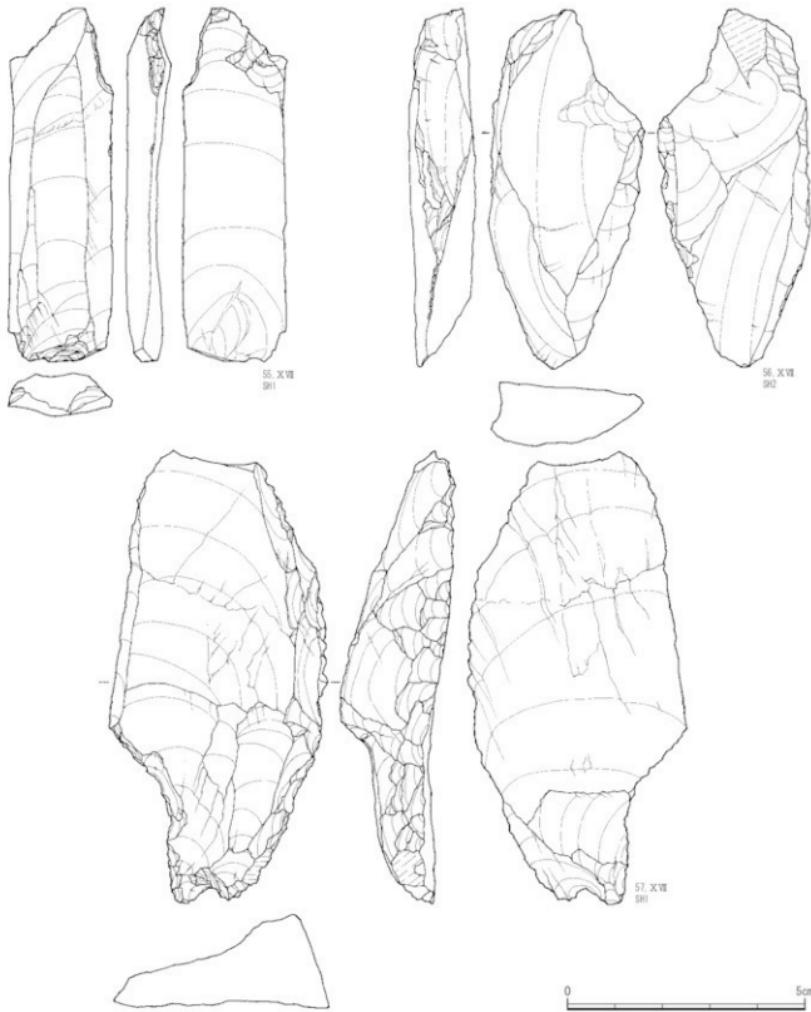
第2ブロックの2点の剥片尖頭器(5・6)と縦長剥片(7)
第27表 第1文化層第2エリア出土石器観察表(3)

品目	単位	数量	販売額	税込	税抜	税率	備考
10 10 AE 300	前角	30	16,000	17,680	16,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	26,400	28,224	12,156	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	26,400	28,224	12,156	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	22,000	23,600	11,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	22,000	23,600	11,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	31,700	33,884	16,850	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	前角	30	37,000	39,700	19,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	67,000	73,100	34,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	67,000	73,100	34,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	62,500	68,750	32,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	66,000	72,600	33,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	66,000	72,600	33,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	59,000	64,900	30,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	59,000	64,900	30,500	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	11,6 000	12,764	6,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	13,4 000	14,544	6,700	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	14,2 000	15,644	7,300	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	10,4 000	11,440	5,100	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	12,7 000	13,870	6,300	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	14,6 000	16,076	7,200	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	18,8 000	20,556	10,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	12,2 000	13,440	6,000	10.0%	(税込)
10 10 AE 300	アーバンエコ	30	15,2 000	16,640	7,100	10.0%	(税込)

品目	コード	区分	分類	名前	単位	数量	原価	販売額	差益	差益率	税率	税込	備考
101	25 400	400	測定	測定	台	102	17.0	18.0	3.0	16.7%	0.07	18.07	-4%減
106	36 400	400	測定	測定	台	133	24.4	24.4	0.0	0.0%	0.07	24.47	-5%減
101	27 400	400	測定	測定	台	981	11.9	26.8	6.4	24.0%	0.07	33.27	-5%減
102	38 400	400	測定	測定	台	981	69.7	72.9	12.4	17.1%	0.07	80.13	-5%減
102	39 400	400	測定	測定	台	731	30.0	31.4	1.4	4.7%	0.07	34.07	-5%減
102	40 400	400	測定	測定	台	140	3.7	12.8	25.4	125.0%	0.07	35.07	-5%減
101	41 400	400	測定	測定	台	281	27.1	52.9	1.8	16.0%	0.07	59.93	-5%減
102	42 400	400	測定	測定	台	41	9.9	18.9	8.4	54.5%	0.07	26.77	-5%減
103	43 400	400	測定	測定	台	302	30.5	11.3	4.8	14.0%	0.07	15.27	-5%減
102	44 400	400	測定	測定	台	43	4.9	12.9	8.9	5.5%	0.07	11.37	-5%減
102	45 400	400	測定	測定	台	133	5.9	4.2	4.2	64.0%	0.07	5.27	-5%減
102	46 400	400	測定	測定	台	711	37.4	34.0	25.7	70.0%	0.07	44.77	-4%減
102	47 400	400	測定	測定	台	79	9.2	22.6	16.3	35.1%	0.07	23.57	-5%減
102	48 400	400	測定	測定	台	29	29.8	13.0	6.3	44.0%	0.07	19.67	-6%減
103	49 400	400	測定	測定	台	21	2.5	2.7	2.1	7.4%	0.07	2.37	-4%減
102	50 400	400	バーマー	バーマー	台	603	65.5	65.5	0.0	0.0%	0.07	69.07	-5%減



第155図 第1文化層第3エリア出土石器実測図（1）



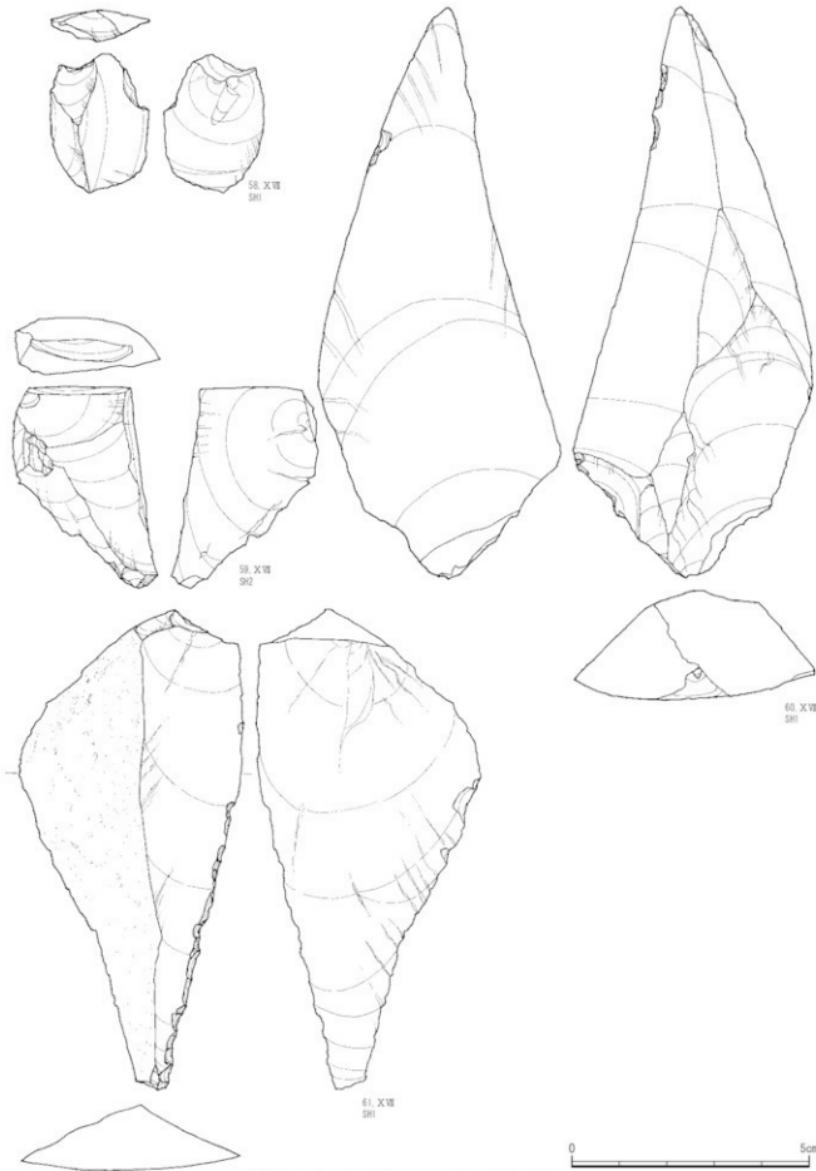
第156図 第I文化層第3エリア出土石器実測図（2）

は同一の石材を用い、共に側縁の一部に縦面を残すことから、石核を共有する可能性が高い。6は打面から右側縁に縦面をそのまま残し、先端部の両面に刃済し加工を行っている。なお、先端部を欠損するが、円錐素材の状態を良く残している。5の背面基部は、挿入を意図したとみられる打面方向からの小剥離が繰り返されている。9はチャートを使い、

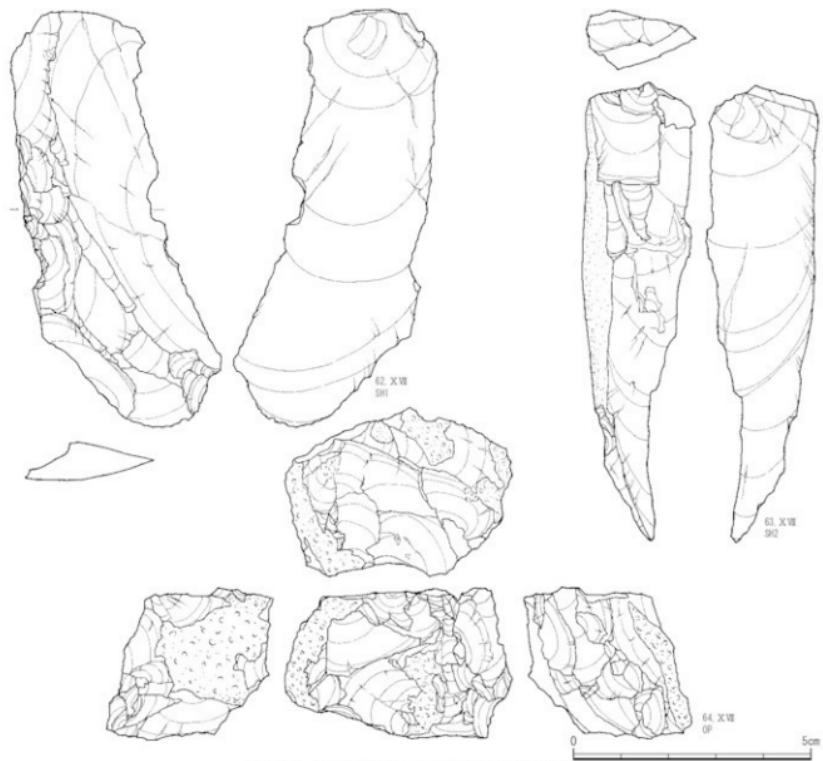
左側縁を削器に加工している。

第3ブロック10の剥片尖頭器も、打面から左側縁に連続した縦面を残し、加工は基部を中心に行い、左側縁先端部にわずかに刃済しがみられる。

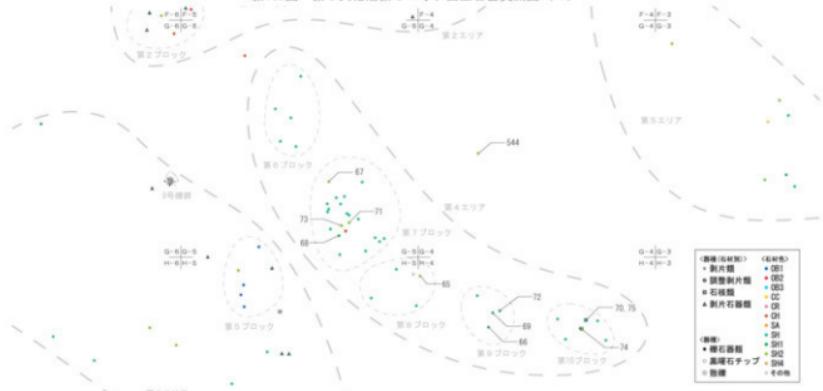
第4ブロックでは、先端部加工のナイフ形石器(23)と(24)の角錐状石器を確認でき、2点とも真岩I類を使用する。



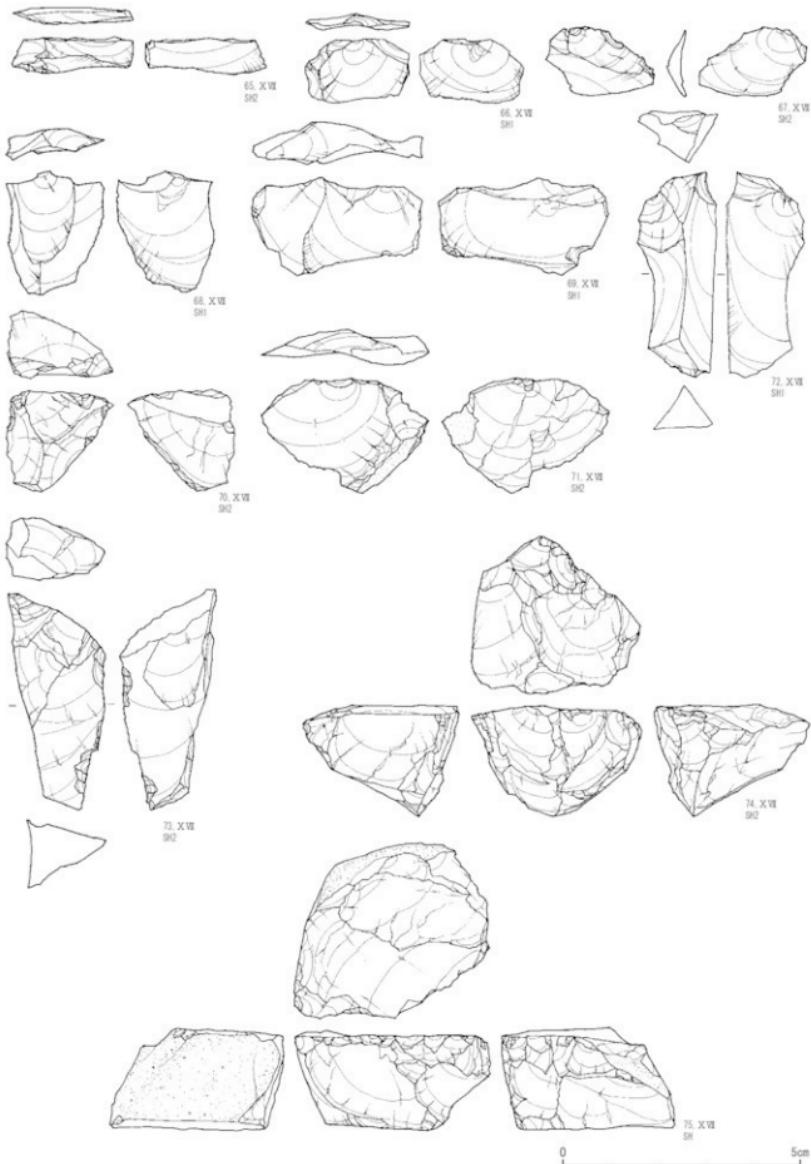
第157図 第1文化層第3エリア出土石器実測図（3）



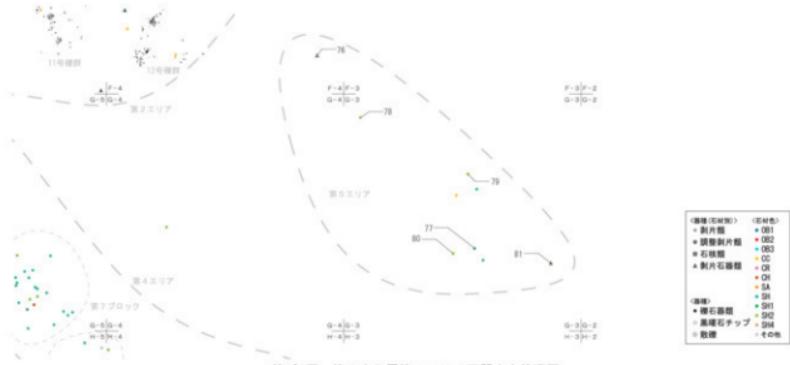
第158図 第I文化層第3エリア出土石器実測図(4)



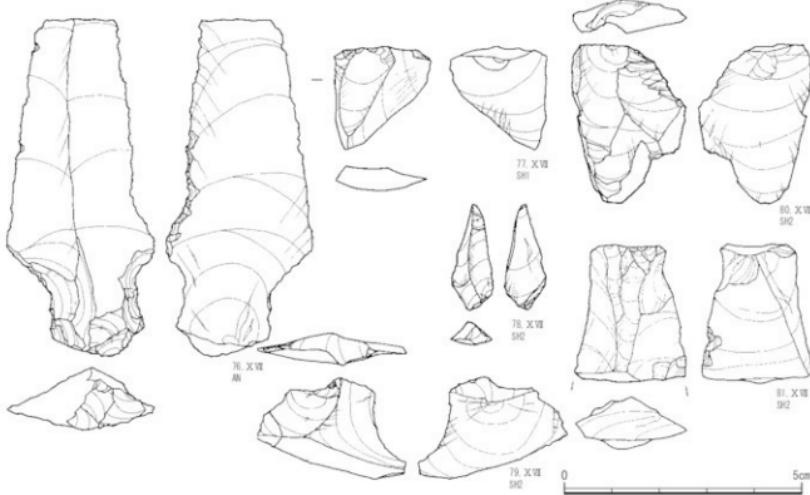
第159図 第I文化層第4エリア石器出土状況図



第160図 第Ⅰ文化層第4エリア出土石器実測図



第161図 第Ⅰ文化層第5エリア石器出土状況図



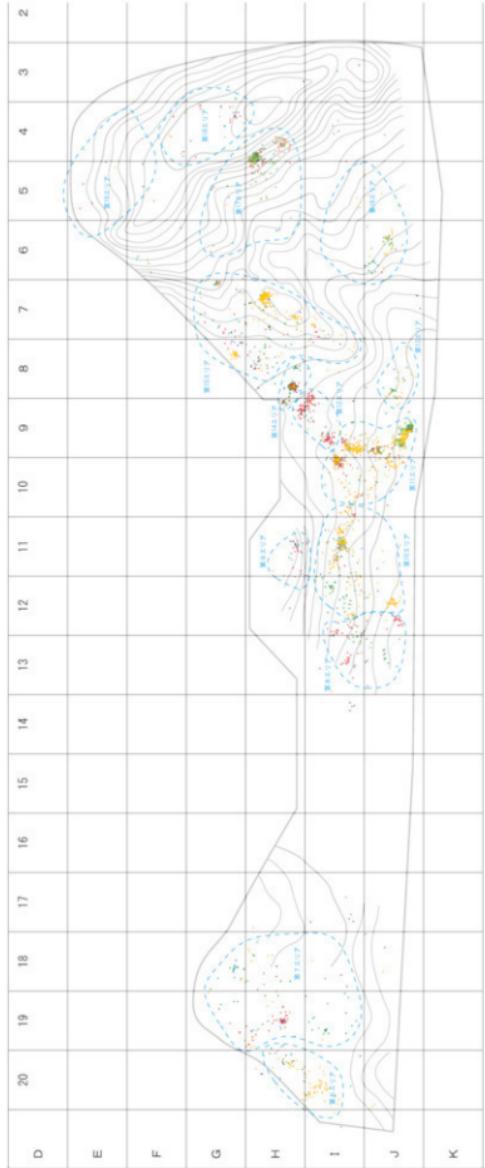
第162図 第I文化層第5エリア出土石器実測図

第28表 第Ⅰ文化層第3～第5エリア出土石器観察表（1）

品番	規格	寸法(単位: mm)	材質	形状	寸法	材質	形状	寸法	材質	形状	寸法	材質	形状
151	SD-AD-300	影片貼紙	-	-	58.4	27.5	12.5	1.5	SD-0010-H-5-X	-	-	-	-
152	SD-AD-300	影片貼紙	-	-	71.1	27.1	12.5	1.5	SD-0010-G-5-X	-	-	-	-
153	SD-AD-300	影片貼紙	-	-	69.3	26.4	14.9	2.8	SD-0010-H-5-Z	-	-	-	-
154	SD-AD-300	影片貼紙	-	-	88.1	20.1	12.5	2.0	SD-0011-H-5-Z	-	-	-	-
154	SD-AD-300	兩面	-	-	74.9	24.2	8.8	1.8	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
156	SD-AD-300	兩面	-	-	76.5	23.5	14.4	3.0	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
157	SD-AD-300	影片貼紙	-	-	95.6	40.4	24.7	6.7	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
157	SD-AD-300	兩面	-	-	29.8	21.4	6.5	3.5	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
157	SD-AD-300	兩面	-	-	42.5	21.3	12.2	3.2	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
157	SD-AD-300	兩面	-	-	101.3	31.2	23.3	6.4	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
157	SD-AD-300	兩面	-	-	101.4	41.6	16.5	3.9	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
158	SD-AD-300	兩面	-	-	86.5	42.3	14.6	2.3	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
158	SD-AD-300	兩面	-	-	94.6	28.3	12.7	2.1	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
158	SD-AD-300	兩面	-	-	94.6	28.3	12.7	2.1	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
159	SD-AD-300	兩面	-	-	32.1	42.2	26.0	3.8	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-
159	SD-AD-300	兩面	-	-	81.1	25.6	3.8	0.8	SD-0014-H-5-Z	-	-	-	-
159	SD-AD-300	兩面	-	-	91.3	22.2	3.7	0.7	SD-0014-H-5-X	-	-	-	-

第29表 第Ⅰ文化層第3～第5エリア出土石器観察表（2）

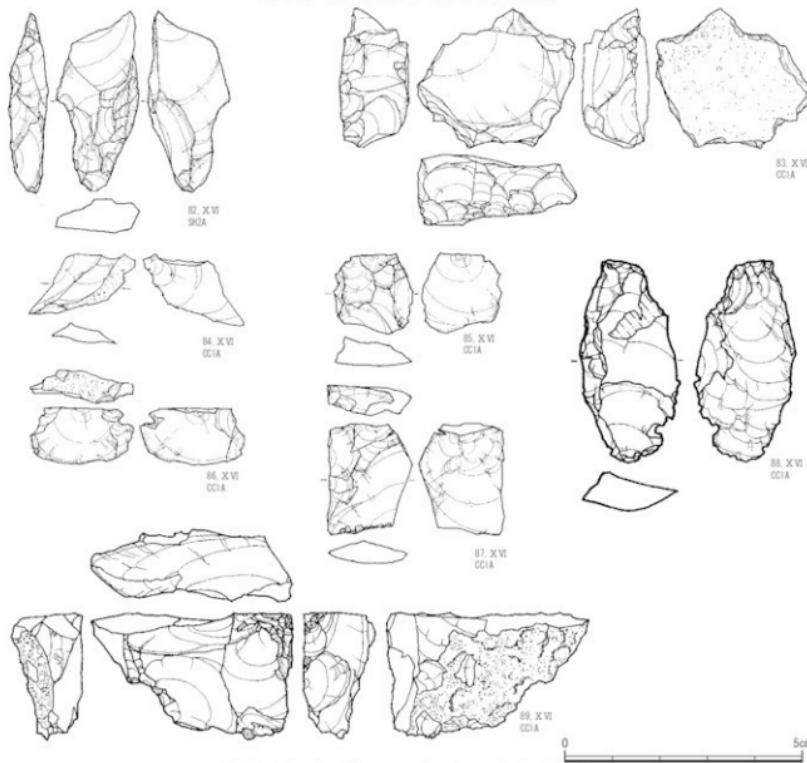
品名	規格	27/28	分類2	分類3	RFH	吸水性	吸油性	吸湿性	吸熱性	吸電性	吸光性	吸音性
65B	60%	27/28	制衣	制衣	-	39.2	22.8	3.0	6.0	C64949-5(5-5-X)	-	-
65D	67	AD	制衣	制衣	-	39.2	25.8	3.0	4.9	C64948-5(5-5-X)	-	-
65D	69	AD	制衣	制衣	-	39.2	20.8	3.2	4.3	C64978-4(4-X)	-	-
65D	70	AD	制衣	制衣	-	39.2	21.6	2.8	4.6	C64979-4(4-X)	-	-
65D	71	AD	制衣	制衣	-	39.2	24.7	2.8	7.3	C64999-5(5-5-X)	-	-
65D	72	AD	制衣	制衣	-	39.2	43.6	6.7	11.2	C64988-6(6-6-X)	-	-
65D	73	AD	制衣	制衣	-	39.2	46.8	20.7	13.5	C64961-5(5-5-X)	-	-
65D	74	AD	布料	布料	-	39.2	23.6	6.7	3.5	C64955-4(4-X)	-	-
65D	75	AD	布料	布料	-	39.2	21.4	41.4	27.3	C64979-4(4-X)	-	-
65D	76	AD	布料	布料	-	39.2	71.5	2.2	13.4	C64947-4(4-X)	-	-
65D	77	AD	布料	布料	-	39.2	22.0	6.4	2.3	C64533-3(3-X)	-	-
65D	78	AD	布料	布料	-	39.2	22.6	6.8	2.4	C64545-3(3-X)	-	-
65D	79	AD	布料	布料	-	39.2	21.7	2.7	7.3	C64547-3(3-X)	-	-
65D	80	AD	布料	布料	-	39.2	33.9	7.6	2.4	C64546-3(3-X)	-	-
65D	81	AD	布料	布料	-	39.2	29.7	23.3	11.3	C64510-3(3-X)	-	-



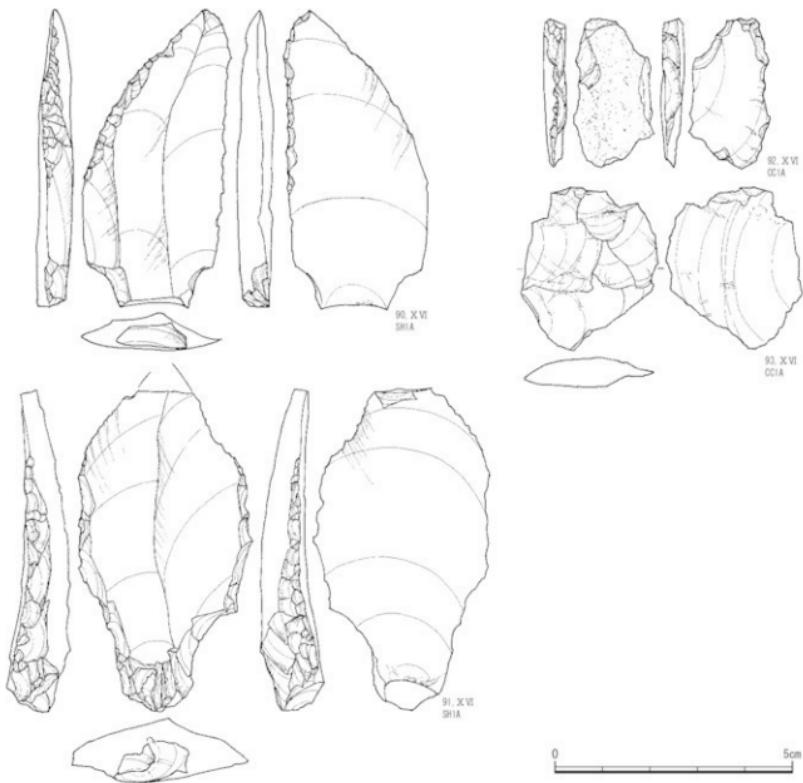
第63図 第1文化層第6～第19ワリア配図



第164図 第Ⅰ文化層第6エリア石器出土状況図



第165図 第1文化層第6エリア第11ブロック出土石器案測図



第166図 第I文化層第6エリア第12ブロック出土石器実測図

ナイフ形石器からは素材剥片の形状がよく観察できる。角錐

状石器は厚手の剥片素材を用い、基部を除き、両側縁から先端部に腹面からの加工に集中している。背面頂部への数回の剥離が側縁加工に先行しているが、素材剥片の形状及び剥離面を多く残している。特に、基部は素材剥片の打面をそのまま残している。25以外の剥片はその形状からプランティングチップとみられ、先の第3ブロックを含めて石器製作が行われた可能性を示している。

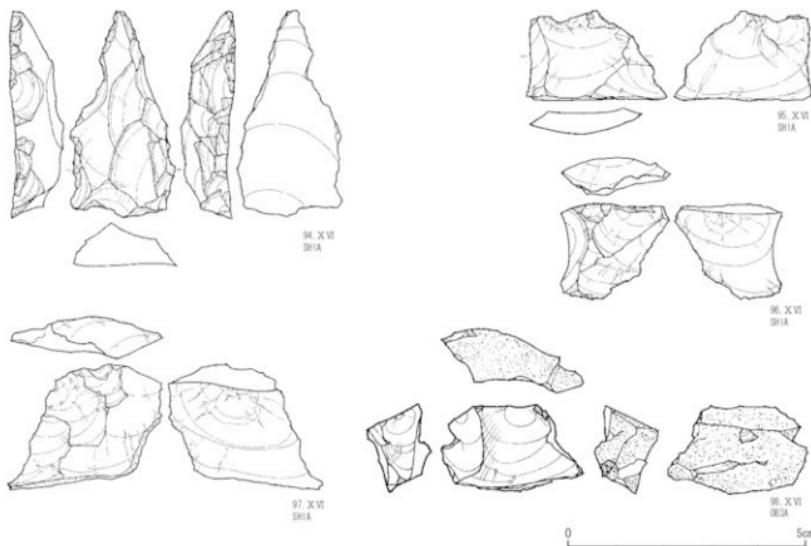
ブロック外出土の43は剥片尖頭器の基部と判断し、その他、剥片尖頭器(38・39・46・47)4点と綫長剥片をそのまま使用した削器(40)を確認できる。剥片尖頭器はいずれも左側縁部に刃済し加工を行い、基部の造り出しは明確で、47の基部は挿入を意識したと想定されるリッジ調整が認められる。基部加工はいずれも明瞭に行い、38の刃済し加工と46の先端部を急角度で行っている以外は、素材剥片の形状を活かしている。39の打面から左側縁は碌面が残り、第3ブロックの剥

片尖頭器(10)と同一母岩を共有する可能性が高い。
50のハンマーの存在は、二次加工の作業が想定でき興味深い。

第3エリア

5点の剥片尖頭器(51~54・57)と5点の素材剥片(56・60~63)、削器(55)、石核1点(64)を確認できる。

剥片尖頭器(57)は先端部を欠くが10.2cmと大型で、基部と先端部が加工されるが素材剥片の形状を留めている。打面は除去し、また基部の腹面加工は、挿入を意図したものであろう。53の基部と左側縁部は大きく急角度の加工が行われ、特に先端部は個性的な形状に仕上げている。54が最も素材剥片の形状を残し、シンメトリーな素材選択を見ることができる。52の稜線の小剥離は、他に例を見ない個性的なものである。51・52・54の背面基部の打面側から的小剥離は、挿入を意図したリッジ調整剥離とみられる。55は端正な形状の剥片を使用したもので、先端部にそれぞれ逆方向からの剥離が



第167図 第1文化層第6エリア第13ブロック出土石器実測図

認められる。二次加工のある剥片60は12cm、剥片61は10cmと、剥片尖頭器の素材要因を満たし、同一の石核から取り出されたと判断される。

第4エリア

第6～第10の5ブロックが弧状を成して構成し、石材は頁岩が占める。

定型的石器の出土は確認できないが、横長の不定形剥片が見られ、2点の石核(74・75)からは、66や71等の不定形剥片が取り出されたとみられる。

第5エリア

76の剥片尖頭器は安山岩を用い、素材剥片の形状を活かし、基部の造り出しに終始している。他の不定形剥片は、全て頁岩である。

第4エリアの66・67、第5エリアの79等の剥片は、プランティングチップの可能性もあり、これらのエリアでは、剥片尖頭器等の大型石器を製作していたことを想定しても良さそうである。

第6エリア

耳取道跡H・I-19～21区で、第11～第13の3ブロックで構成される。石材の主体は玉髓であり、大型石器は頁岩II類が中心となる。なお、第11ブロックに接し、3基の小縫群で構成される86号縫群が形成されている。

第11ブロックの82は個性的なナイフ形石器で、素材剥片の形状を活かし、一側縁に腹面方向からの刃済し加工と基部を造り出し、理谷型ナイフ形石器類似に仕上げている。83は円形状を呈す搖器とみられ、扁平な縫面を底面にほぼ全周に刃

部を形成している。

第12ブロックの90・91は剥片尖頭器、第13ブロックの94はドリルと判断している。剥片尖頭器(90)は素材の形状を活かしながら基部と左側縁に、同じく91は基部から両側縁下半部に加工を集中している。なお、91の背面基部の小剥離による調整はリッジ調整と見られる。94のドリルは破損した剥片尖頭器の先端部を再利用したもので、破損後、腹面方向から再加工を行っている。先端部と基部左端部に微細な剥離を施し突出させている。

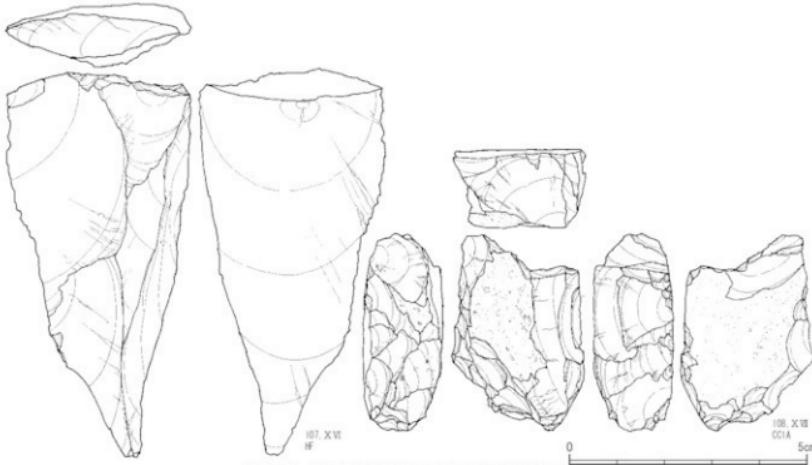
ブロック外出土の99は剥片を横方向に用いた台形様石器で、両側縁と底面に入念な刃済し加工が見られ、打面が入念に取り除かれる。101・102は先端部を欠くが10cmを越す大型の剥片尖頭器で、平坦打面の石核から剥ぎ取られている。101は厚手の剥片で素材に重量があり、先端部の両側縁に刃済し加工を行っているが、素材の形状を大きく変えていない。なお、基部背面はリッジ調整剥離が見られる。102も基部と先端部の一部を加工しただけで、素材の形状を活かした利用を行っている。106は欠損した剥片尖頭器の一部と見られる。100と107は、やや小振りな素材剥片で、100は均整のとれた縫長剥片である。

第7エリア

耳取道跡G～I-18・19区で、第14～第17の4ブロックで構成される。玉髓・頁岩・黒曜石II類等の石材使用がみられる。大型石器は頁岩が主体を占める。なお、このエリア内には、13号～16号、88号・89号の6基の縫群が形成され、87号縫群が隣接している。



第168図 第1文化層第6エリア出土石器実測図（1）



第169図 第I文化層第6エリア出土石器実測図(2)

第14ブロックの111は玉髓の石核で、分割標素材で不定形剥片を量産したとみられる。

第15ブロックの114とエリア出土6点の内の4点(128・130・131・134)の剥片尖頭器は、いずれも先端部を欠損しており、欠損率が高い。また、第15ブロックの112は欠損した剥片尖頭器の先端部とみられ、これまた欠損事例の多い傾向を補強する。

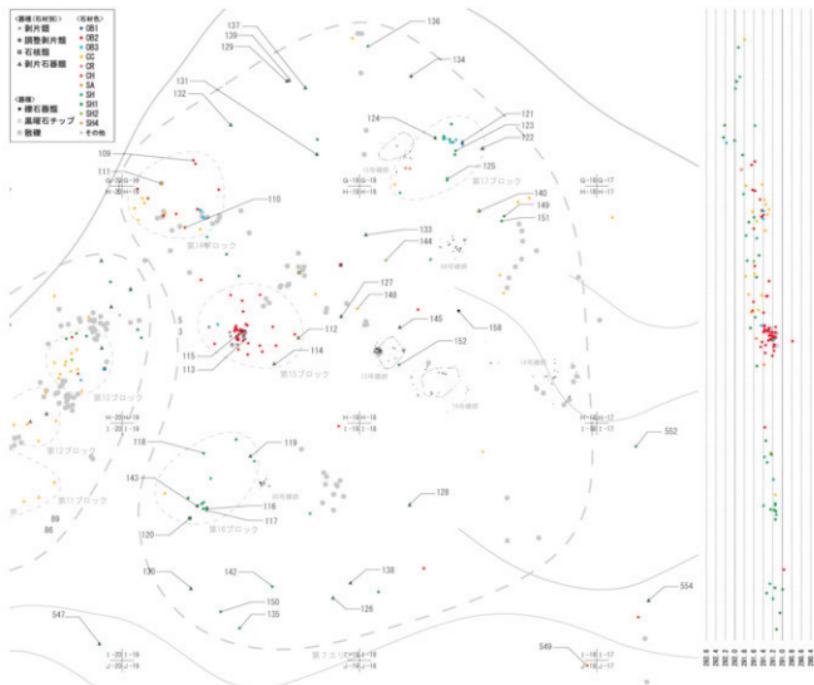
剥片尖頭器(126)は厚手の素材剥片を用い、重量のある製品を作り出している。130を始め、ほぼ全てに基部の挿入を意識したリッジ調整が背面に認められる。131の刃溝し加工は特に急角度で、基部と刃部とが直線状を成していない。127の基部方向は欠損しているが、左側縁部には明瞭な刃溝し加工が残される。134の基部は、打面部を完全に除去した数少ない事例である。

第17ブロックの121・122は角錐状石器としたが、121は小型ナイフ形石器の可能性も考えられ、判断が難しい。

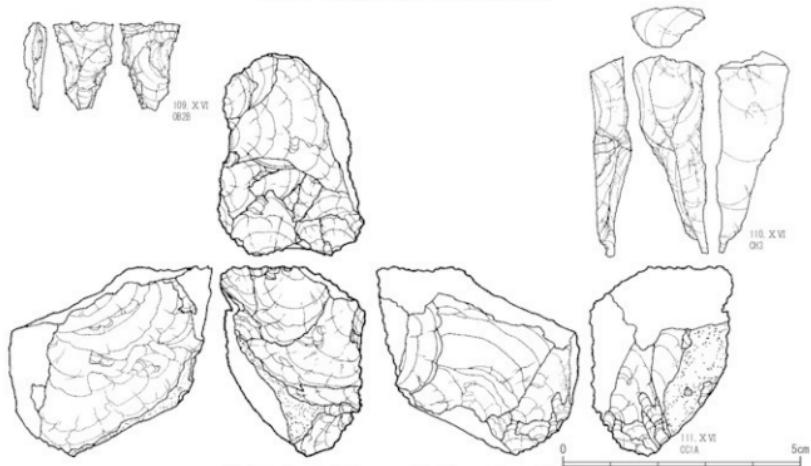
ブロック外出土の138は円形搔器である。127・132・137はナイフ形石器、129は二次加工のある剥片である。ナイフ形石器(127)は打面部を折断している。

第30表 第I文化層第6エリア出土石器観察表(1)

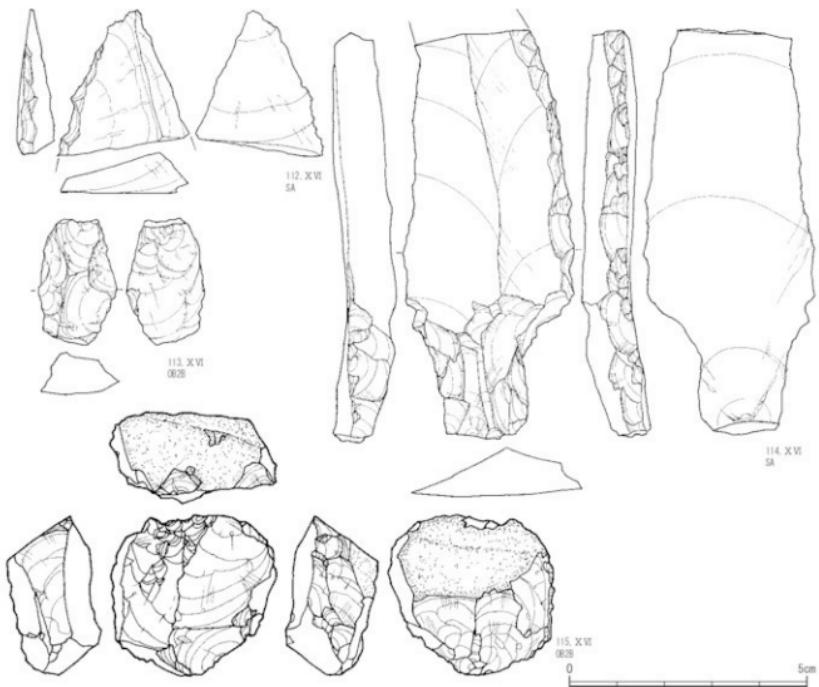
No.	BN	111	127	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167



第170図 第I文化層第7エリア石器出土状況図



第171図 第I文化層第7エリア第14ブロック出土石器実図



第172図 第1文化層第7エリア第15ブロック出土石器実測図

が、下半部が欠損し器種の認定が難しいが、黒曜石II類を石材とすることから、小型石器の可能性が考えられる。160はやや厚手の不定形剥片に加工を施す。

第9エリア

耳取遺跡H-11区で、第23ブロックを含むエリアである。エリア内には90号碑群が確認されている。

石材は黒曜石II類で構成するが、それ用いた石器は確認されない。剥片(180)は、玉髓である。

第10エリア

耳取遺跡I・J-9～11区で、第24～第31の8ブロックで構成し、石材は玉髓と頁岩が主体を占め、黒曜石II類と黒曜石III類も混じる。第24・25ブロックは玉髓主体、第26・27ブロックは頁岩主体、第28～31ブロックは、玉髓と頁岩が拮抗する。なお、18号・21号～29号、32号・33号の12基の碑群がエリア内に形成されている。

石器組成では台形様石器の比率が高く、第24ブロックの181、第27ブロックの189、第31ブロックの213、ブロック外の219、220の5点が出土している。181と220は素材剥片の右側縁の折断面を、213は打面をそのまま右側縁として利用し、左側縁部に刃溝し加工を施している。また、213の背面

には平坦剥離が観察される。189は扁平な剥片を素材とし、両側縁から基部にかけて入念に仕上げ、背面の平坦剥離は著しい。

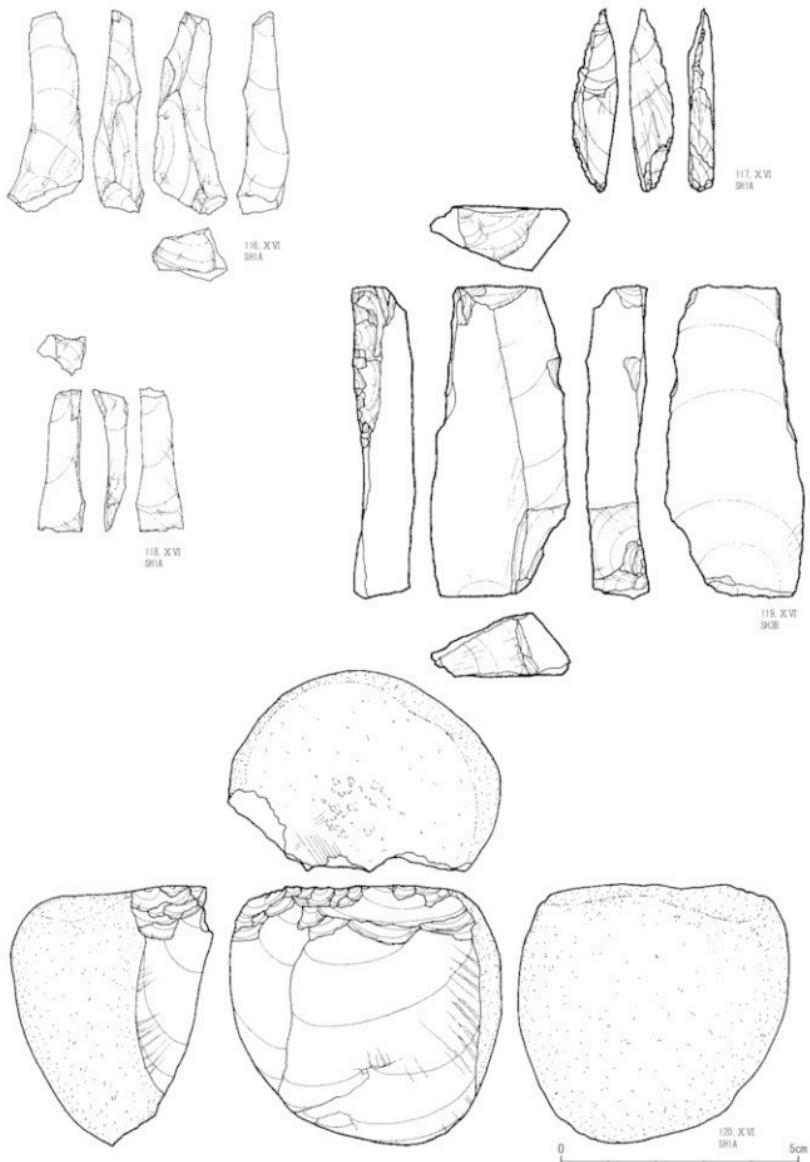
剥片尖頭器(201)は打面方向を刃部とし、抉りの浅い基部加工と、打面除去を目的とした入念な先端部加工が見られる。なお、基部底面の平坦な剥離面は、石核の素材面と見られる。第25ブロックの185は削器、ブロック外の221は円形の搔器と判断される。

石核の存在が注目され、チャート・玉髓・頁岩が使用され、232・234等の小型不定形剥片を取り出したことが想定される。これらのことから、台形様石器等の素材剥片剥ぎ取りから製品加工までの製作が行われた可能性がある。

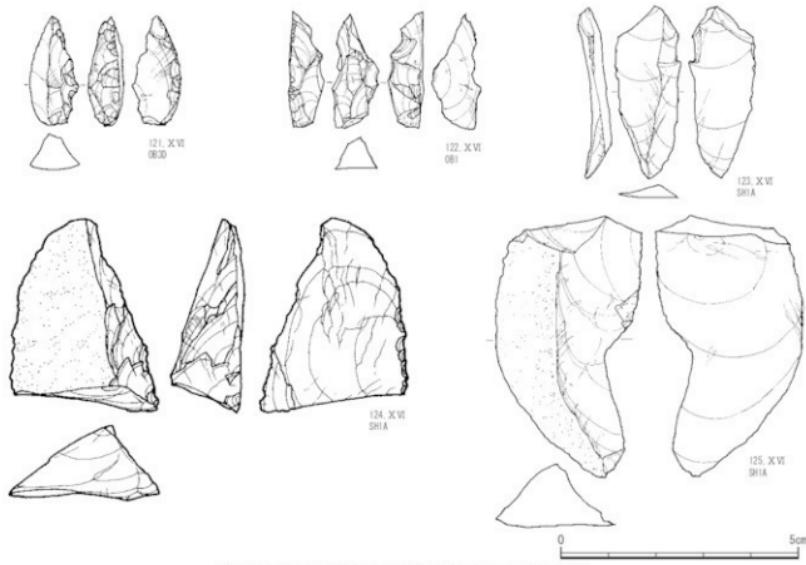
第11エリア

耳取遺跡I・J-9・10区で、第32～第37の6ブロックで構成され、石材は玉髓と頁岩が主体を占める。第33・第35ブロックは玉髓、第37ブロックは頁岩主体で、他の3ブロックは両者が拮抗して混在している。なお、30号・31号・34号～38号・41号～43号、45号の11基の碑群がエリア内に形成され、46号の1基の碑群が隣接する。

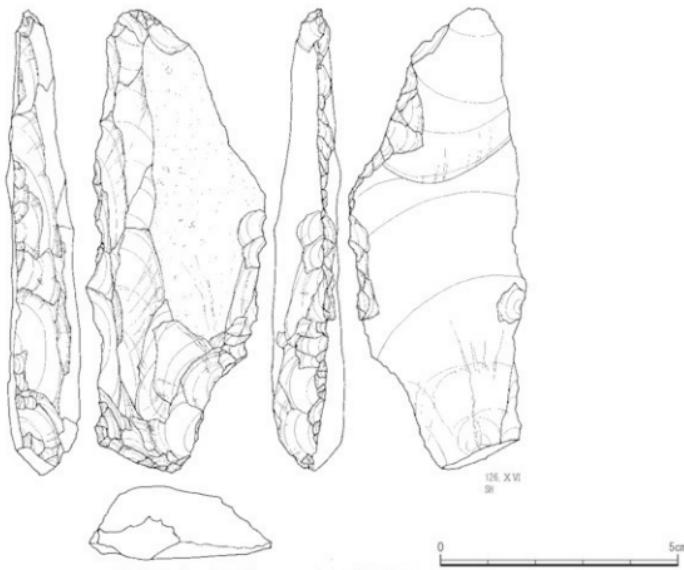
台形様石器の比率が高く、第34・35ブロックでは石器組成



第173図 第I文化層第7エリヤ第16ブロック出土石器実測図



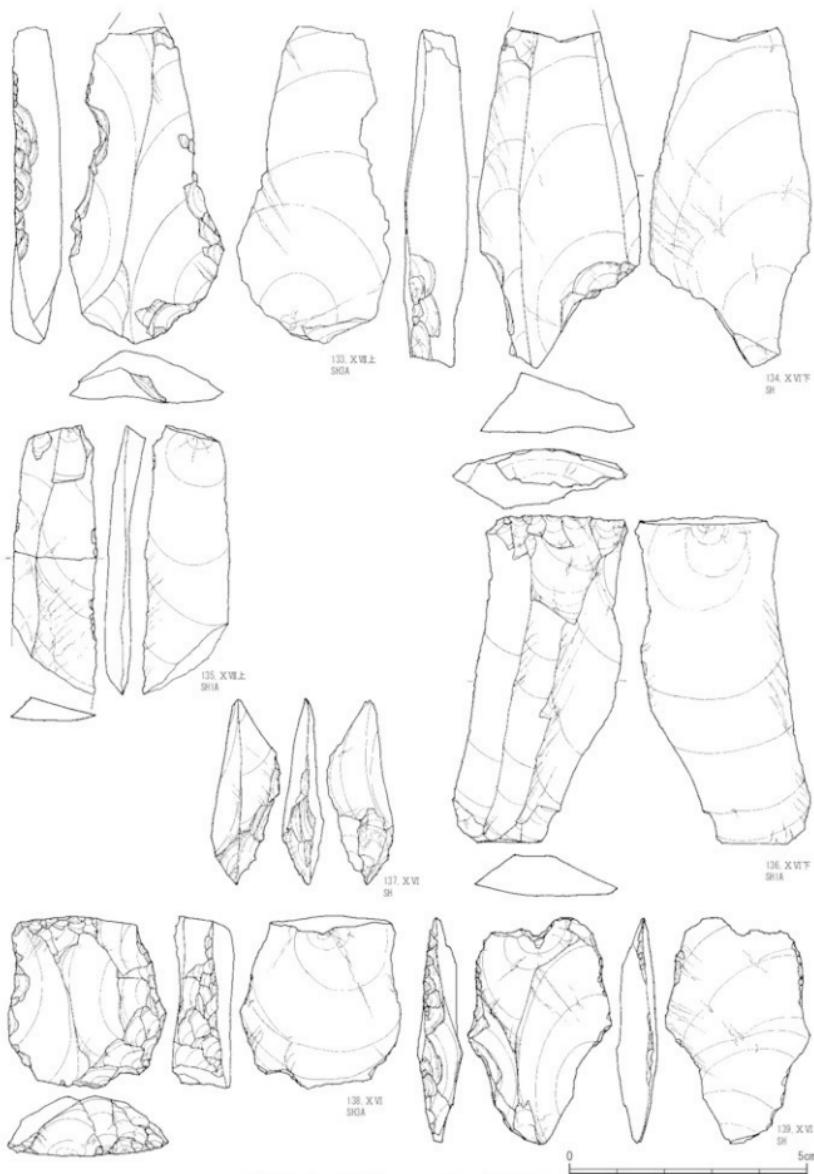
第174図 第I文化層第7エリア第17ブロック出土石器実測図



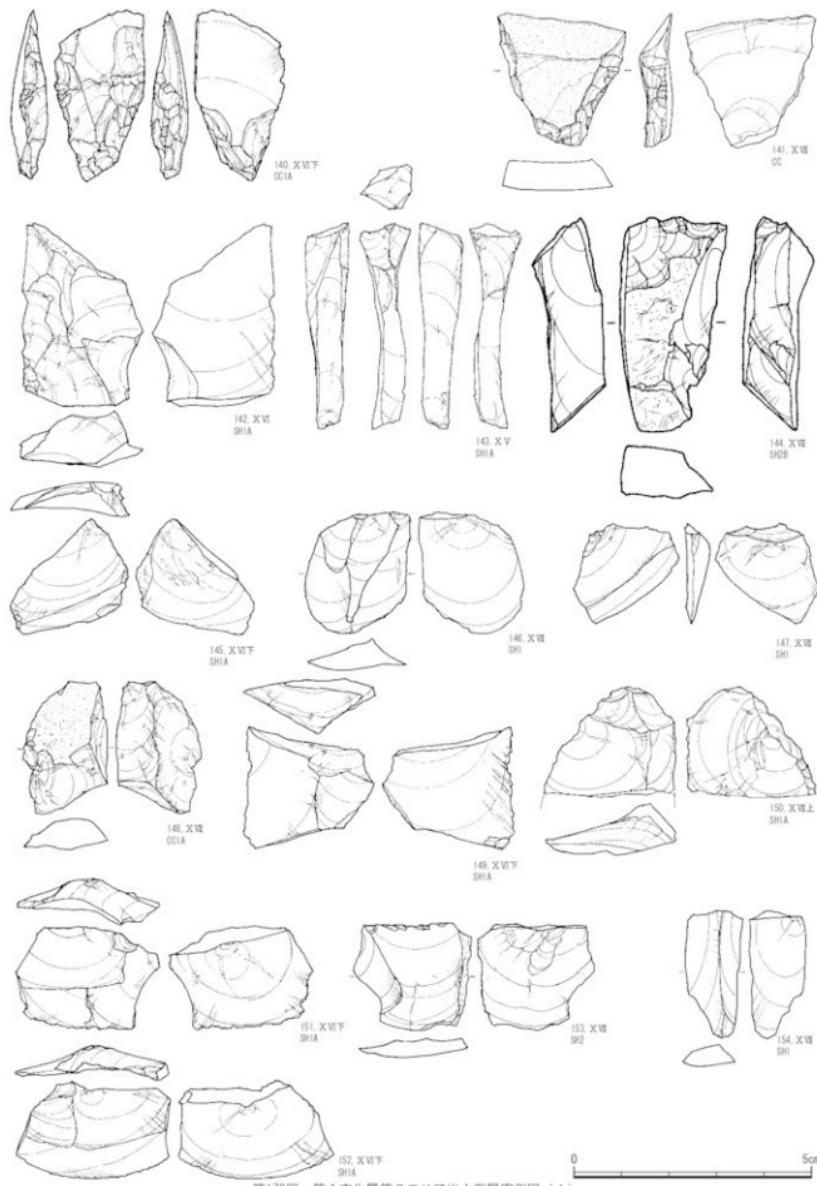
第175図 第I文化層第7エリア出土石器実測図（1）



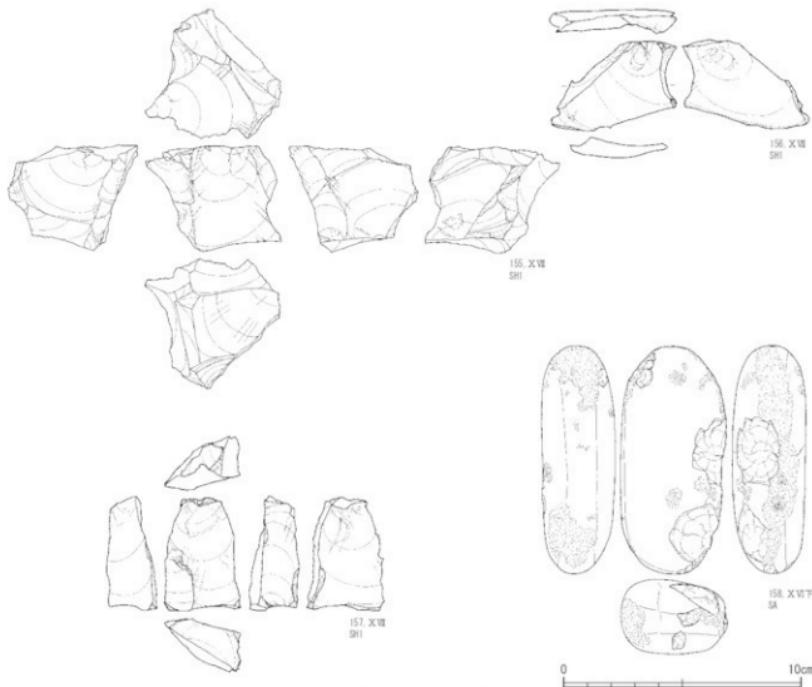
第176図 第1文化層第7エリア出土石器実測図(2)



第177図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(3)



第178図 第1文化層第7エリア出土石器実測図（4）



第179図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(4)

(標本名と記載)	
・刮削器	● OB1
・刮削剝片器	● OB2
■ 石核器	● OB3
△ 刮削石器	○ OB4
▲ 刮削石器	○ OB5
■ 鋸状器	● OB6
● 破片石器	● OB7
○ 磨石チップ	● OB8
○ 磨石チップ	● OB9
○ 脱離	● OB10

H-156-10
1-156-10

H-155-10
1-155-10

H-157-10
1-157-10

H-158-10
1-158-10

H-159-10
1-159-10

H-160-10
1-160-10

H-161-10
1-161-10

H-162-10
1-162-10

H-163-10
1-163-10

H-164-10
1-164-10

H-165-10
1-165-10

H-166-10
1-166-10

H-167-10
1-167-10

H-168-10
1-168-10

H-169-10
1-169-10

H-170-10
1-170-10

H-171-10
1-171-10

H-172-10
1-172-10

H-173-10
1-173-10

H-174-10
1-174-10

H-175-10
1-175-10

H-176-10
1-176-10

H-177-10
1-177-10

H-178-10
1-178-10

H-179-10
1-179-10

H-180-10
1-180-10

H-181-10
1-181-10

H-182-10
1-182-10

H-183-10
1-183-10

H-184-10
1-184-10

H-185-10
1-185-10

H-186-10
1-186-10

H-187-10
1-187-10

H-188-10
1-188-10

H-189-10
1-189-10

H-190-10
1-190-10

H-191-10
1-191-10

H-192-10
1-192-10

H-193-10
1-193-10

H-194-10
1-194-10

H-195-10
1-195-10

H-196-10
1-196-10

H-197-10
1-197-10

H-198-10
1-198-10

H-199-10
1-199-10

H-200-10
1-200-10

H-201-10
1-201-10

H-202-10
1-202-10

H-203-10
1-203-10

H-204-10
1-204-10

H-205-10
1-205-10

H-206-10
1-206-10

H-207-10
1-207-10

H-208-10
1-208-10

H-209-10
1-209-10

H-210-10
1-210-10

H-211-10
1-211-10

H-212-10
1-212-10

H-213-10
1-213-10

H-214-10
1-214-10

H-215-10
1-215-10

H-216-10
1-216-10

H-217-10
1-217-10

H-218-10
1-218-10

H-219-10
1-219-10

H-220-10
1-220-10

H-221-10
1-221-10

H-222-10
1-222-10

H-223-10
1-223-10

H-224-10
1-224-10

H-225-10
1-225-10

H-226-10
1-226-10

H-227-10
1-227-10

H-228-10
1-228-10

H-229-10
1-229-10

H-230-10
1-230-10

H-231-10
1-231-10

H-232-10
1-232-10

H-233-10
1-233-10

H-234-10
1-234-10

H-235-10
1-235-10

H-236-10
1-236-10

H-237-10
1-237-10

H-238-10
1-238-10

H-239-10
1-239-10

H-240-10
1-240-10

H-241-10
1-241-10

H-242-10
1-242-10

H-243-10
1-243-10

H-244-10
1-244-10

H-245-10
1-245-10

H-246-10
1-246-10

H-247-10
1-247-10

H-248-10
1-248-10

H-249-10
1-249-10

H-250-10
1-250-10

H-251-10
1-251-10

H-252-10
1-252-10

H-253-10
1-253-10

H-254-10
1-254-10

H-255-10
1-255-10

H-256-10
1-256-10

H-257-10
1-257-10

H-258-10
1-258-10

H-259-10
1-259-10

H-260-10
1-260-10

H-261-10
1-261-10

H-262-10
1-262-10

H-263-10
1-263-10

H-264-10
1-264-10

H-265-10
1-265-10

H-266-10
1-266-10

H-267-10
1-267-10

H-268-10
1-268-10

H-269-10
1-269-10

H-270-10
1-270-10

H-271-10
1-271-10

H-272-10
1-272-10

H-273-10
1-273-10

H-274-10
1-274-10

H-275-10
1-275-10

H-276-10
1-276-10

H-277-10
1-277-10

H-278-10
1-278-10

H-279-10
1-279-10

H-280-10
1-280-10

H-281-10
1-281-10

H-282-10
1-282-10

H-283-10
1-283-10

H-284-10
1-284-10

H-285-10
1-285-10

H-286-10
1-286-10

H-287-10
1-287-10

H-288-10
1-288-10

H-289-10
1-289-10

H-290-10
1-290-10

H-291-10
1-291-10

H-292-10
1-292-10

H-293-10
1-293-10

H-294-10
1-294-10

H-295-10
1-295-10

H-296-10
1-296-10

H-297-10
1-297-10

H-298-10
1-298-10

H-299-10
1-299-10

H-300-10
1-300-10

H-301-10
1-301-10

H-302-10
1-302-10

H-303-10
1-303-10

H-304-10
1-304-10

H-305-10
1-305-10

H-306-10
1-306-10

H-307-10
1-307-10

H-308-10
1-308-10

H-309-10
1-309-10

H-310-10
1-310-10

H-311-10
1-311-10

H-312-10
1-312-10

H-313-10
1-313-10

H-314-10
1-314-10

H-315-10
1-315-10

H-316-10
1-316-10

H-317-10
1-317-10

H-318-10
1-318-10

H-319-10
1-319-10

H-320-10
1-320-10

H-321-10
1-321-10

H-322-10
1-322-10

H-323-10
1-323-10

H-324-10
1-324-10

H-325-10
1-325-10

H-326-10
1-326-10

H-327-10
1-327-10

H-328-10
1-328-10

H-329-10
1-329-10

H-330-10
1-330-10

H-331-10
1-331-10

H-332-10
1-332-10

H-333-10
1-333-10

H-334-10
1-334-10

H-335-10
1-335-10

H-336-10
1-336-10

H-337-10
1-337-10

H-338-10
1-338-10

H-339-10
1-339-10

H-340-10
1-340-10

H-341-10
1-341-10

H-342-10
1-342-10

H-343-10
1-343-10

H-344-10
1-344-10

H-345-10
1-345-10

H-346-10
1-346-10

H-347-10
1-347-10

H-348-10
1-348-10

H-349-10
1-349-10

H-350-10
1-350-10

H-351-10
1-351-10

H-352-10
1-352-10

H-353-10
1-353-10

H-354-10
1-354-10

H-355-10
1-355-10

H-356-10
1-356-10

H-357-10
1-357-10

H-358-10
1-358-10

H-359-10
1-359-10

H-360-10
1-360-10

H-361-10
1-361-10

H-362-10
1-362-10

H-363-10
1-363-10

H-364-10
1-364-10

H-365-10
1-365-10

H-366-10
1-366-10

H-367-10
1-367-10

H-368-10
1-368-10

H-369-10
1-369-10

H-370-10
1-370-10

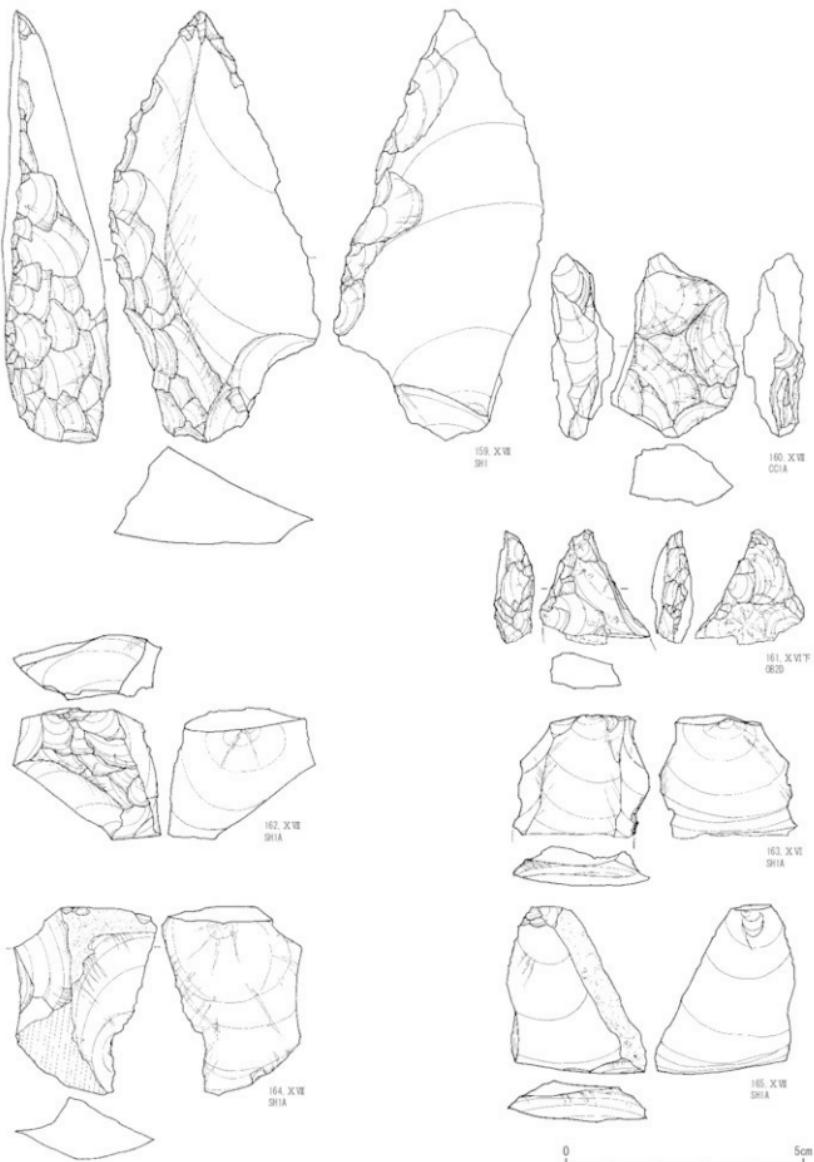
H-371-10
1-371-10

H-372-10
1-372-10

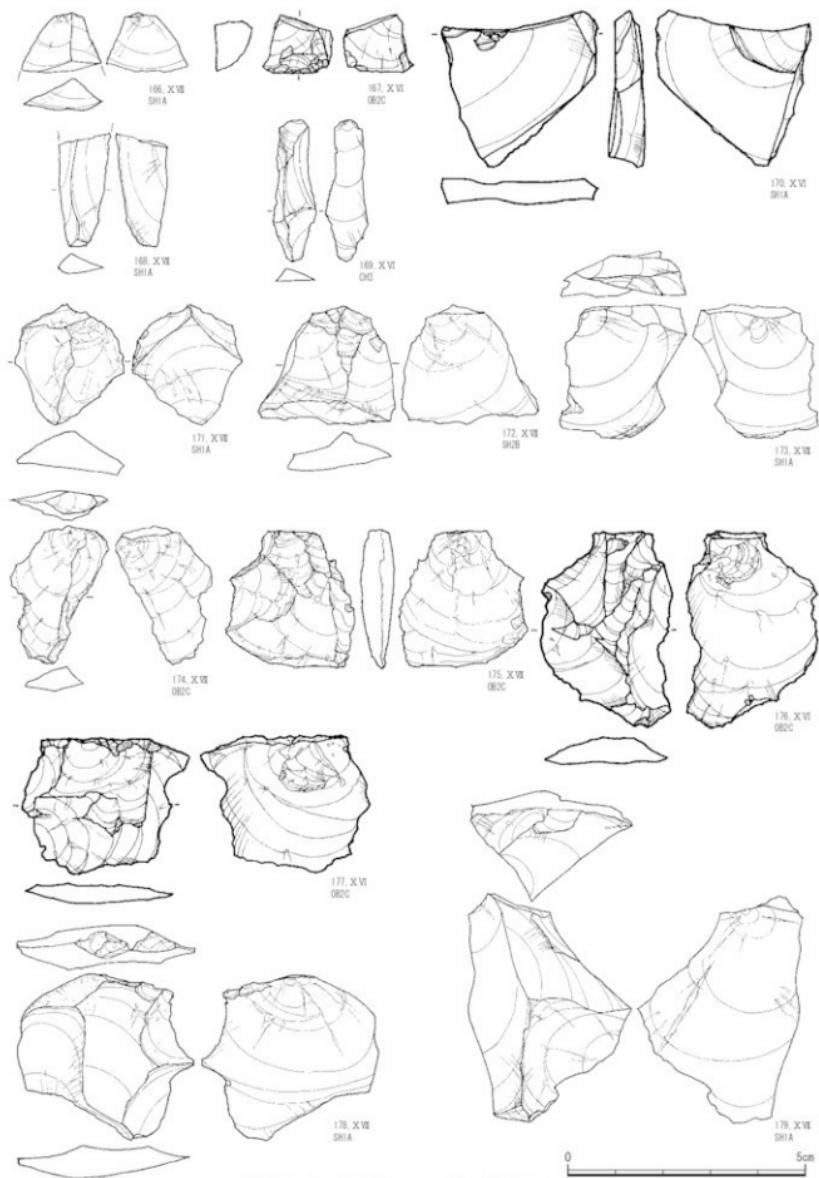
H-373-10
1-373-10

H-374-10
1-374-10

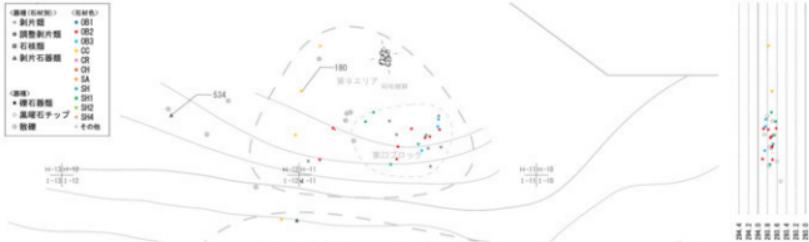
H-375-10<br



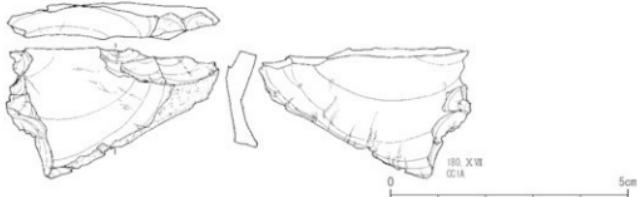
第181図 第I文化層第8エリア出土石器実測図(1)



第182図 第I文化層第8エリア出土石器実測図（2）



第183図 第I文化層第9エリア石器出土状況図



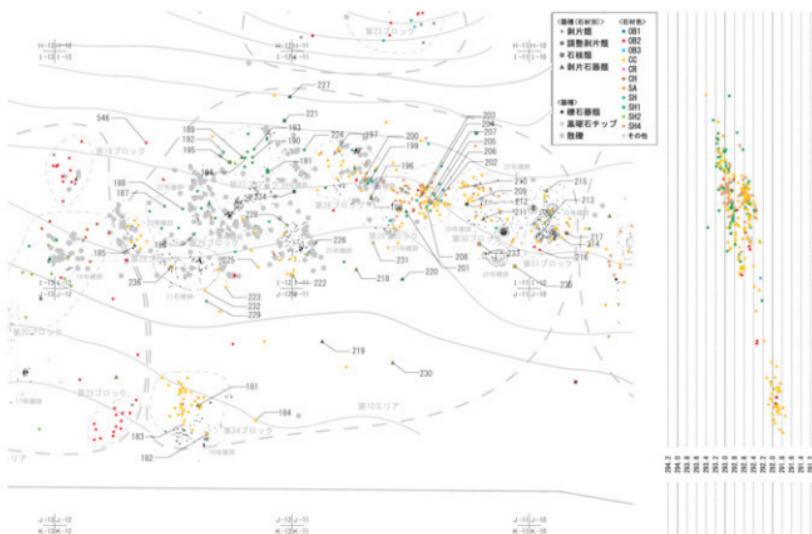
第184図 第I文化層第9エリア出土石器実測図

第32表 第I文化層第7～第9エリア出土石器観察表（1）

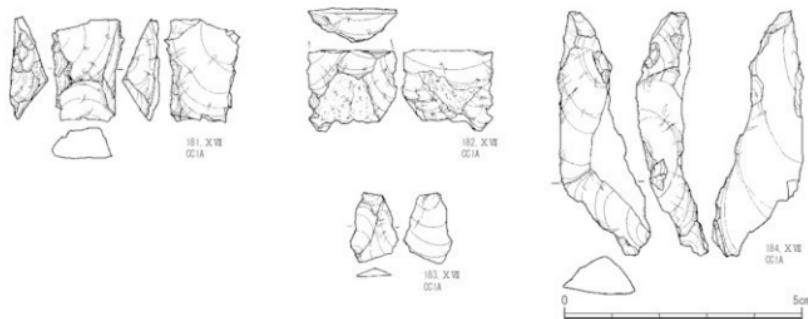
	地名	層位	分類	石材	大きさ	厚さ	重量	主な加工記号	特徴
171	100	A07	石片	-	38.9	13.0	3.3	0.9	▲(0.6-1.0) X面
172	100	A07	石片	DK	49.1	5.7	9.1	3.9	▲(0.6-1.0) X面
173	111	A07	石片	DK	49.1	5.7	9.1	3.9	▲(0.6-1.0) X面
174	112	A07	石片	-	21.0	27.0	8.8	4.1	▲(0.6-1.0) X面
175	114	A07	石片	-	27.1	16.7	9.1	3.6	▲(0.6-1.0) X面
176	115	A07	石片	-	30.9	26.4	10.7	3.6	▲(0.6-1.0) X面
177	116	A07	石片	SH	43.0	11.2	11.1	4.5	▲(0.6-1.0) X面
178	117	A07	石片	SH	38.4	21.3	5.7	2.2	▲(0.6-1.0) X面
179	118	A07	石片	SH	20.6	8.2	8.8	1.6	▲(0.6-1.0) X面
180	119	A07	二次加工剥離石片	石核	63.3	29.7	14.0	9.8	▲(0.6-1.0) X面
181	120	A07	石片	SH	55.2	57.7	42.9	7.5	▲(0.6-1.0) X面
182	121	A07	角形石石器	-	23.3	3.0	7.8	1.4	▲(0.6-1.0) X面
183	122	A07	角形石石器	SH	41.4	21.6	7.8	1.3	▲(0.6-1.0) X面
184	123	A07	石片	SH	28.4	4.3	7.4	2.2	▲(0.6-1.0) X面
185	124	A07	石片	SH	41.4	21.7	16.3	12.8	▲(0.6-1.0) X面
186	125	A07	石片	SH	55.4	21.3	14.8	8.8	▲(0.6-1.0) X面
187	126	A07	石片	SH	37.6	27.7	15.9	5.3	▲(0.6-1.0) X面
188	127	A07	石片	SH	57.6	26.4	7.8	0.5	▲(0.6-1.0) X面
189	128	A07	石片	SH	49.6	36.2	10.1	3.8	▲(0.6-1.0) X面
190	129	A07	二次加工剥離石片	石核	24.3	21.1	9.5	5.7	▲(0.6-1.0) X面
191	130	A07	石片	SH	41.7	36.6	25.6	8.5	▲(0.6-1.0) X面
192	131	A07	石片	SH	83.3	29.9	18.8	15.2	▲(0.6-1.0) X面
193	132	A07	石片	SH	69.3	34.3	17.2	7.4	▲(0.6-1.0) X面
194	133	A07	石片	SH	33.2	25.5	11.2	4.4	▲(0.6-1.0) X面
195	134	A07	石片	SH	71.9	34.4	13.1	7.9	▲(0.6-1.0) X面
196	135	A07	石片	SH	54.9	38.7	11.8	4.1	▲(0.6-1.0) X面
197	136	A07	石片	SH	69.4	37.3	12.9	7.6	▲(0.6-1.0) X面
198	137	A07	石片	SH	28.2	4.3	9.0	2.2	▲(0.6-1.0) X面
199	138	A07	石片	SH	36.7	26.6	12.0	5.2	▲(0.6-1.0) X面
200	139	A07	石片	SH	47.9	30.5	9.7	2.1	▲(0.6-1.0) X面
201	140	A07	石片	SH	28.2	3.2	8.0	4.9	▲(0.6-1.0) X面
202	141	A07	石片	SH	22.3	21.7	7.2	4.3	▲(0.6-1.0) X面
203	142	A07	石片	-	39.4	26.1	12.1	5.2	▲(0.6-1.0) X面
204	143	A07	石片	-	39.4	31.2	11.0	9.9	▲(0.6-1.0) X面
205	144	A07	石片	-	39.5	22.9	15.9	4.5	▲(0.6-1.0) X面

第33表 第I文化層第7～第9エリア出土石器観察表（2）

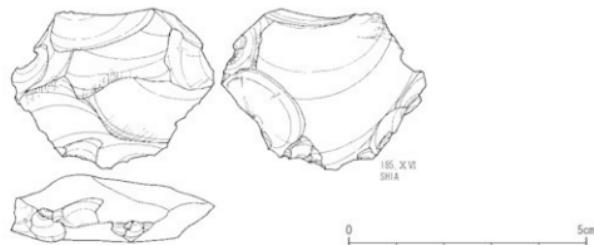
	地名	層位	分類	石材	大きさ	厚さ	重量	主な加工記号	特徴
196	129	A07	石片	-	39.4	24.7	25.1	2.6	▲(0.6-1.0) X面
197	130	A07	石片	-	38.5	23.1	21.6	4.0	▲(0.6-1.0) X面
198	131	A07	石片	-	38.5	23.1	21.6	4.0	▲(0.6-1.0) X面
199	132	A07	石片	-	21.4	22.1	1.5	2.0	▲(0.6-1.0) X面
200	133	A07	石片	-	26.1	18.7	2.1	2.4	▲(0.6-1.0) X面
201	134	A07	石片	-	26.0	28.0	0.9	6.2	▲(0.6-1.0) X面
202	135	A07	石片	-	23.5	27.1	5.1	5.2	▲(0.6-1.0) X面
203	136	A07	石片	-	22.1	30.1	0.6	4.2	▲(0.6-1.0) X面
204	137	A07	石片	-	21.0	2.0	0.3	2.7	▲(0.6-1.0) X面
205	138	A07	石片	-	27.7	34.9	4.5	2.1	▲(0.6-1.0) X面
206	139	A07	石片	-	27.2	2.2	4.1	1.7	▲(0.6-1.0) X面
207	140	A07	石片	-	45.7	57.1	29.9	9.5	▲(0.6-1.0) X面
208	141	A07	石片	-	38.1	52.7	20.7	12.6	▲(0.6-1.0) X面
209	142	A07	石片	-	40.3	33.2	23.7	26.4	▲(0.6-1.0) X面
210	143	A07	石片	-	36.6	45.5	2.3	3.0	▲(0.6-1.0) X面
211	144	A07	石片	-	91.1	44.5	27.2	7.8	▲(0.6-1.0) X面
212	145	A07	石片	-	28.3	27.1	2.4	1.1	▲(0.6-1.0) X面
213	146	A07	石片	-	24.6	33.2	4.7	3.3	▲(0.6-1.0) X面
214	147	A07	石片	-	30.0	31.7	2.4	2.3	▲(0.6-1.0) X面
215	148	A07	石片	-	26.0	31.7	2.4	2.3	▲(0.6-1.0) X面
216	149	A07	石片	-	26.3	29.4	4.5	6.2	▲(0.6-1.0) X面
217	150	A07	石片	-	40.1	29.7	4.4	11.7	▲(0.6-1.0) X面
218	151	A07	石片	-	36.0	28.0	4.9	7.8	▲(0.6-1.0) X面
219	152	A07	石片	-	12.8	15.5	1.7	1.0	▲(0.6-1.0) X面
220	153	A07	石片	-	47.0	37.7	2.1	2.4	▲(0.6-1.0) X面
221	154	A07	石片	-	24.0	31.1	3.8	1.3	▲(0.6-1.0) X面
222	155	A07	石片	-	30.2	9.2	2.1	0.6	▲(0.6-1.0) X面
223	156	A07	石片	-	32.2	33.0	0.7	0.5	▲(0.6-1.0) X面
224	157	A07	石片	-	25.6	23.3	0.7	4.4	▲(0.6-1.0) X面
225	158	A07	石片	-	25.5	29.1	0.7	5.1	▲(0.6-1.0) X面
226	159	A07	石片	-	28.5	26.0	0.9	9.9	▲(0.6-1.0) X面
227	160	A07	石片	-	29.5	29.5	0.5	2.2	▲(0.6-1.0) X面
228	161	A07	石片	-	29.5	21.9	0.7	2.0	▲(0.6-1.0) X面
229	162	A07	石片	-	42.0	28.2	3.8	6.1	▲(0.6-1.0) X面
230	163	A07	石片	-	37.7	29.1	0.7	2.0	▲(0.6-1.0) X面
231	164	A07	石片	-	29.4	36.0	0.7	3.5	▲(0.6-1.0) X面
232	165	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
233	166	A07	石片	-	36.8	46.2	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
234	167	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
235	168	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
236	169	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
237	170	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
238	171	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
239	172	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
240	173	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
241	174	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
242	175	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
243	176	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
244	177	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
245	178	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
246	179	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
247	180	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
248	181	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
249	182	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
250	183	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
251	184	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
252	185	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
253	186	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
254	187	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
255	188	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
256	189	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
257	190	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
258	191	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
259	192	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
260	193	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
261	194	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
262	195	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
263	196	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
264	197	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
265	198	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
266	199	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
267	200	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
268	201	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
269	202	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
270	203	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
271	204	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
272	205	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
273	206	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
274	207	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
275	208	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
276	209	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
277	210	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
278	211	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
279	212	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
280	213	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
281	214	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
282	215	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
283	216	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面
284	217	A07	石片	-	35.2	31.5	0.7	4.9	▲(0.6-1.0) X面



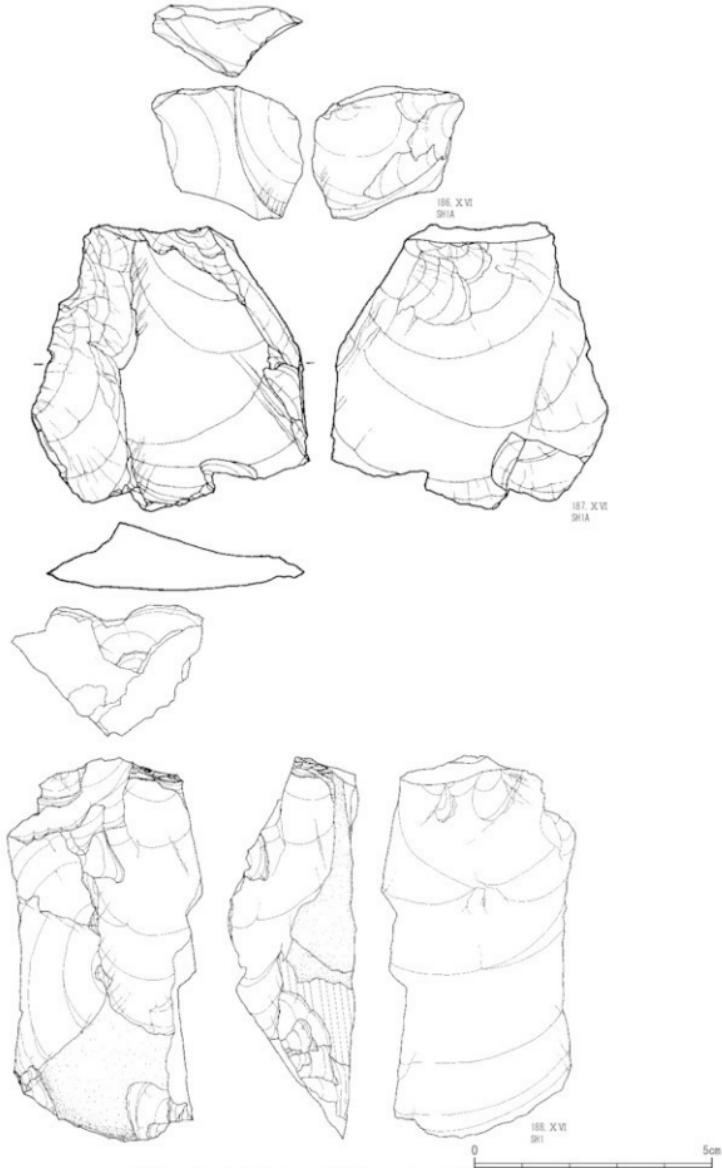
第185図 第I文化層第10エリア石器出土状況図



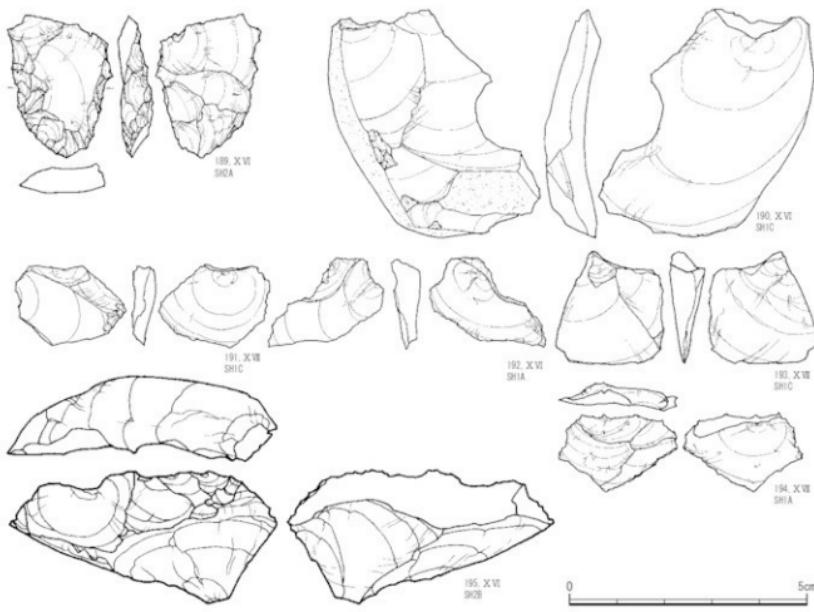
第186図 第I文化層第10エリア第24ブロック出土石器実測図



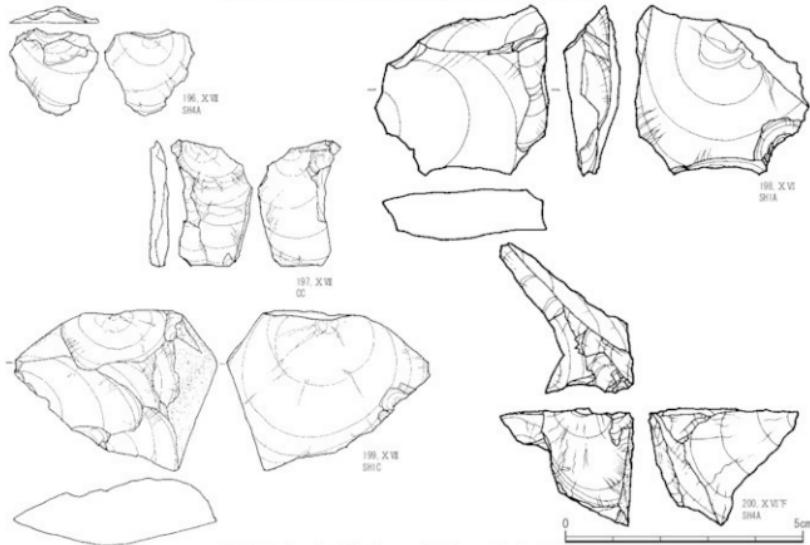
第187図 第I文化層第10エリア第25ブロック出土石器実測図



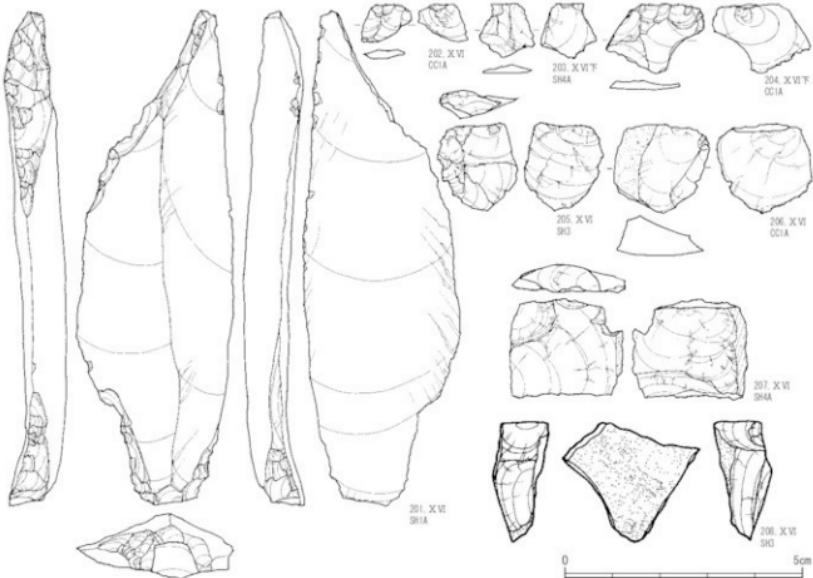
第188図 第I文化層第10エリア第26ブロック出土石器実測図



第189図 第I文化層第10エリア第27ブロック出土石器実測図



第190図 第I文化層第10エリア第28ブロック出土石器実測図



第191図 第I文化層第10エリア第29ブロック出土石器実測図

の主体を成す。

第32ブロックの237は背面に縦面を残し、不定形剥片の両側縁に粗い剥離を加えている。240は底面を含む3面に刃溝し加工を行い、246は打面をそのまま右側縁に、背面は左側縁から平坦剥離を繰り返している。

第33ブロックの255はやや強引であるが、台形様石器に含めた。分厚い背面を接線に沿って小剥離を繰り返し、削平に努めている。

第34ブロックの262は節理面を右側縁に、263では先行した剥離面を活かし、左側縁にプランティングが集中する。

第35ブロックには7点の台形様石器が集中し、277・278では打面を底面に、他の5点(274~276・279・280)は打面を側縁に設けている。274・276・280の打面は折断で除去し、275では丁寧な加工、277では打点部分の除去が認められる。281も第34表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(1)

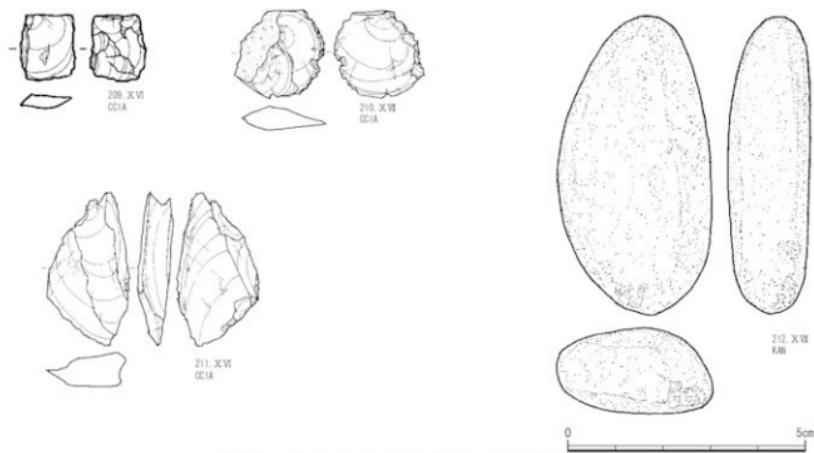
台形様石器を指向したとみられる。278の側縁加工は背面は腹面から、腹面は背面から入念に行い、底面の3面に及んでいる。

第32ブロックの247は軸が長く造られるが、台形様石器に帰属する可能性が高い。

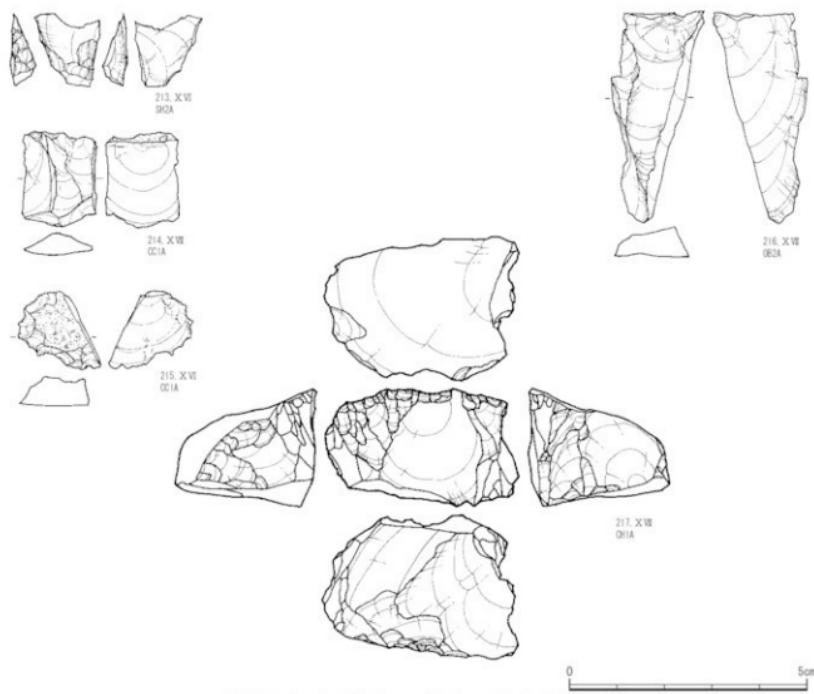
第36ブロックの284・287、第37ブロックの294も台形様石器で、284では背面基部に、287では刃部に削平調整が認められる。

ブロック外出土の312の右側縁は節理面で構成し、右側縁下位から基部。左側縁は腹面から入念に整形され、背面の整形は体部中央部まで達している。なお、この資料は石核との接合が確認され、左側縁にプランティングチップ1点の接合も確認されている。313も第37ブロック308との接合が確認され、308の背面と313の腹面が接合している。両側縁及び底面第35表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(2)

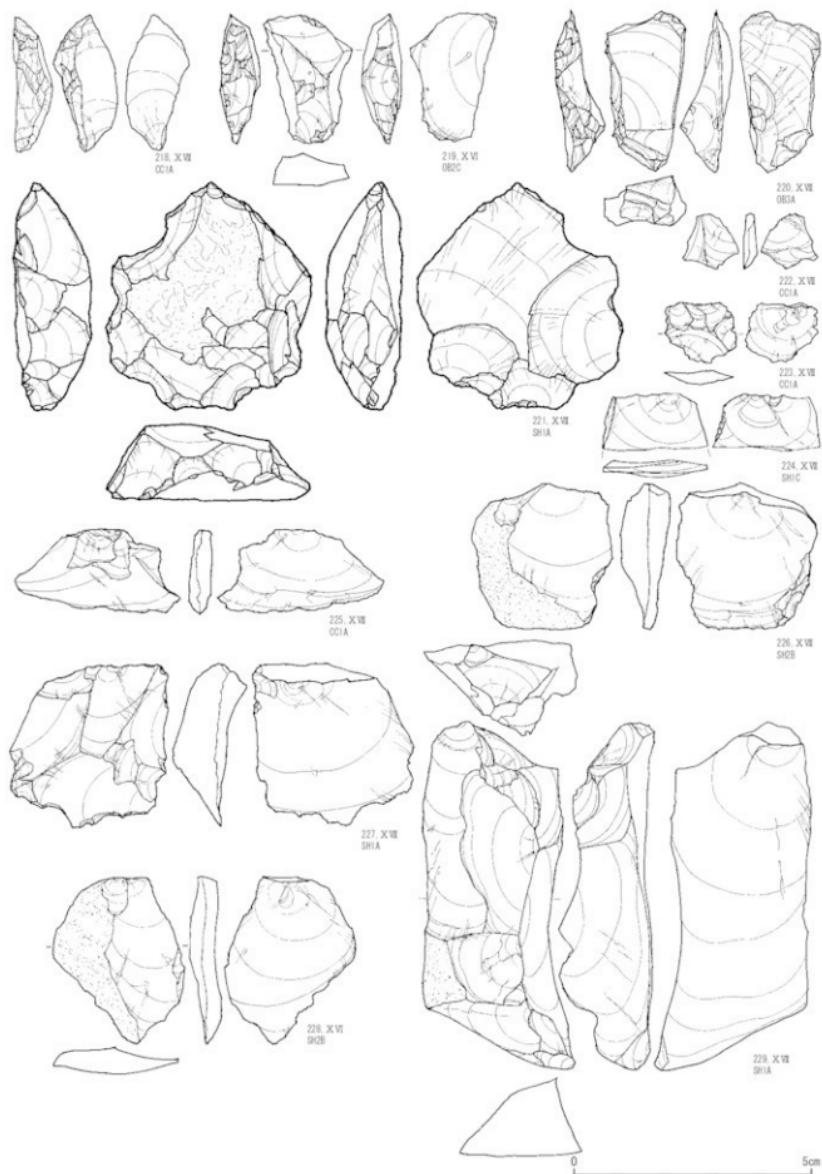
番号	層位	217	217	分類	石材	大きさ	厚さ	形状	特徴	接合	備考
001	141	A10	B14	台形石器	石片	23.0	8.0	0.2	▲(748-1-12-X面)	-	-
002	141	A10	B14	剥片	-	13.1	18.4	7.5	▲(460-1-12-X面)	-	-
003	141	A10	B14	剥片	-	13.4	15.5	2.0	▲(478-1-12-X面)	-	-
004	141	A10	B14	剥片	-	12.1	15.5	0.2	▲(478-1-12-X面)	-	-
005	141	A10	B14	剥片	-	12.1	15.5	0.2	▲(478-1-12-X面)	-	-
006	141	A10	B14	剥片	-	12.1	15.5	0.5	▲(478-1-12-X面)	-	-
007	141	A10	B14	剥片	-	12.4	12.7	14.5	29.2	▲(903-1-12-X面)	-
008	141	A10	B14	剥片	-	19.1	23.1	2.0	▲(944-1-12-X面)	-	-
009	141	A10	B14	剥片	-	10.8	16.8	12.4	46.6	▲(4929-1-12-X面)	-
010	141	A10	B14	剥片	-	28.1	30.9	0.6	27.9	75.5	▲(430-1-12-X面)
011	141	A10	B14	台形石器	石片	25.9	22.4	4.2	▲(452-1-12-X面)	No. 28	-
012	141	A10	B14	剥片	-	10.0	40.7	0.5	12.1	15.9	▲(490-1-12-X面)
013	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	5.0	1.2	▲(490-1-12-X面)
014	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	5.0	1.2	▲(490-1-12-X面)
015	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
016	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
017	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
018	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
019	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
020	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
021	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
022	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
023	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
024	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
025	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
026	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
027	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
028	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
029	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
030	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
031	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
032	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
033	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
034	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
035	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
036	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
037	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
038	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
039	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
040	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
041	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
042	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
043	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
044	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
045	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
046	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
047	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
048	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
049	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
050	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
051	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
052	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
053	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
054	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
055	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
056	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
057	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
058	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
059	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
060	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
061	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
062	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
063	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
064	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
065	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
066	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
067	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
068	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
069	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
070	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
071	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
072	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
073	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
074	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
075	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
076	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
077	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
078	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
079	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
080	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
081	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
082	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
083	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
084	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
085	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
086	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
087	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
088	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
089	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
090	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
091	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
092	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
093	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
094	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
095	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
096	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
097	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
098	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
099	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
100	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
101	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
102	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X面)
103	141	A10	B14	剥片	-	10.0	12.9	22.1	7.7	2.9	▲(490-1-12-X



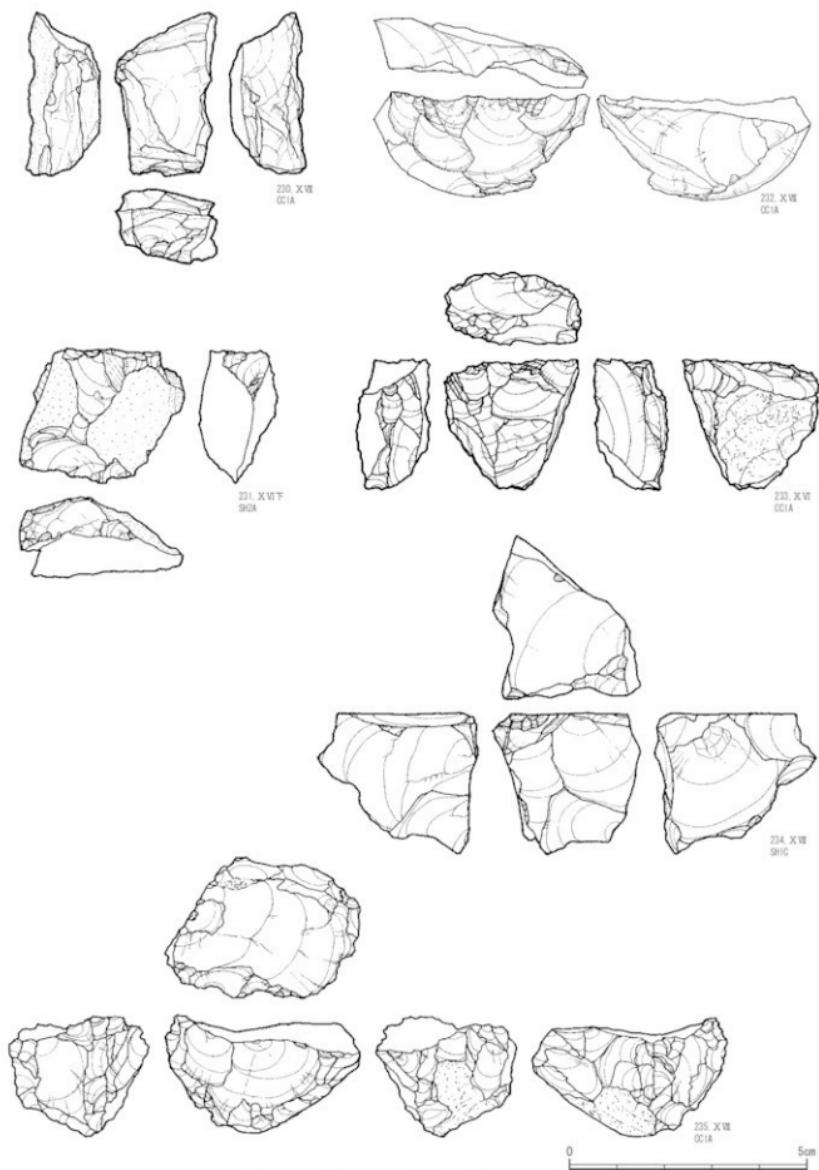
第192図 第1文化層第10エリア第30ブロック出土石器実測図



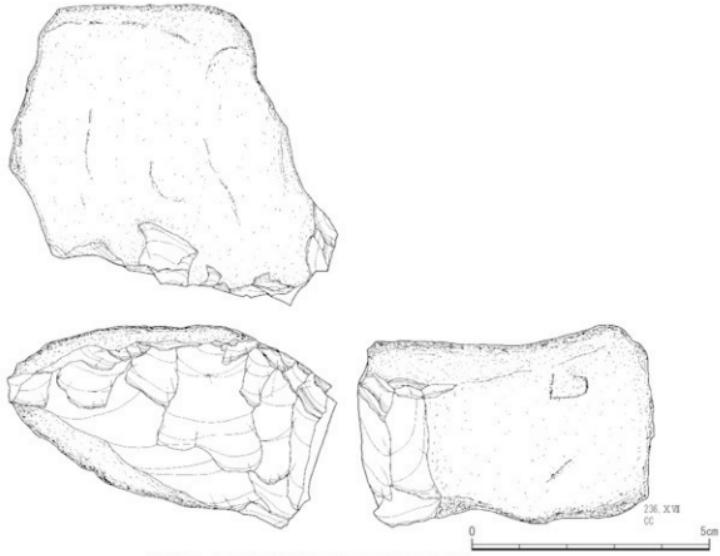
第193図 第1文化層第10エリア第31ブロック出土石器実測図



第194図 第I文化層第10エリア出土石器実測図（1）



第195図 第I文化層第10エリア出土石器実測図（2）



第196図 第I文化層第10エリア出土石器実測図（3）

第12エリア

耳取遺跡H. I-8・9区で、第38・第39の2ブロックで構成され、黒曜石II類が多用されている。なお、47号～49号の3基の碑群を含み、50号碑群が隣接する。

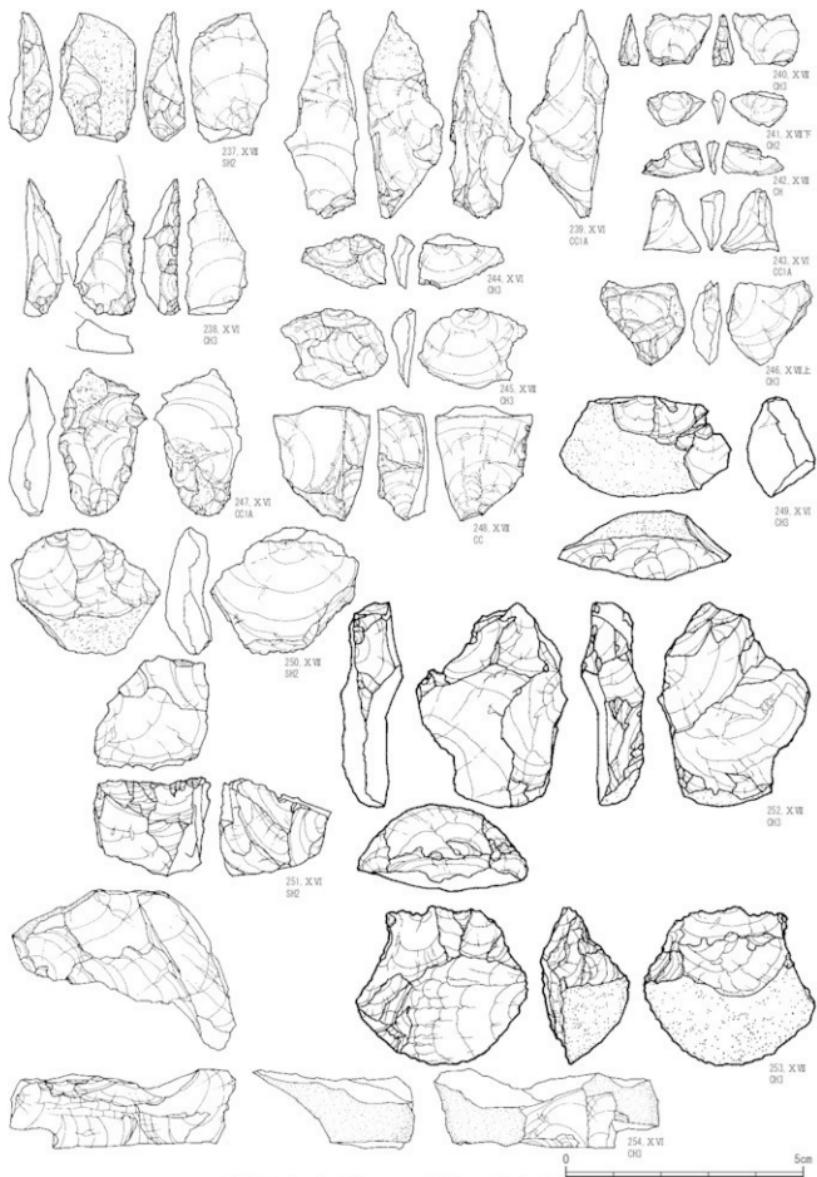
7点(325～327・332～334・336)の規格性のあるナイフ形石器が主体を占める。いずれもノ字形の剥片を素材とし、刃溝し加工は基部付近に集中している。台形様石器を主体とした第11エリアに隣接しているが、台形様石器は1点も含まれず、石材構成にも違いがみられる。

7点のナイフ形石器は平坦面で構成する打面をそのまま残し、基部加工と共に背面基部のリッジ調整に徹し、顎面への調整剥離は皆無である。また、336以外の刃溝し加工は全て腹面からのみ実施されている。なお、335・336は接合する。

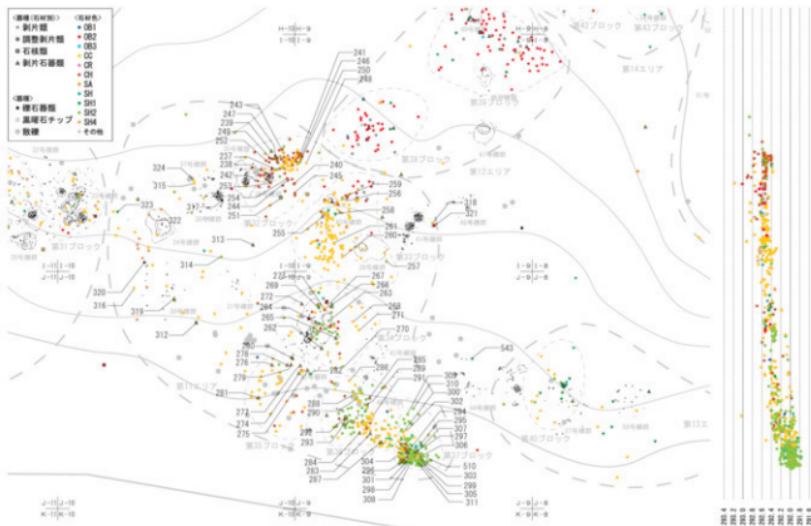
331・346の石柱からは、ナイフ形石器のノ字形剥片の剥離技術は想定されず、素材剥片の持ち込みが想定される。

第37表 第I文化層第10エリア出土石器観察表（4）

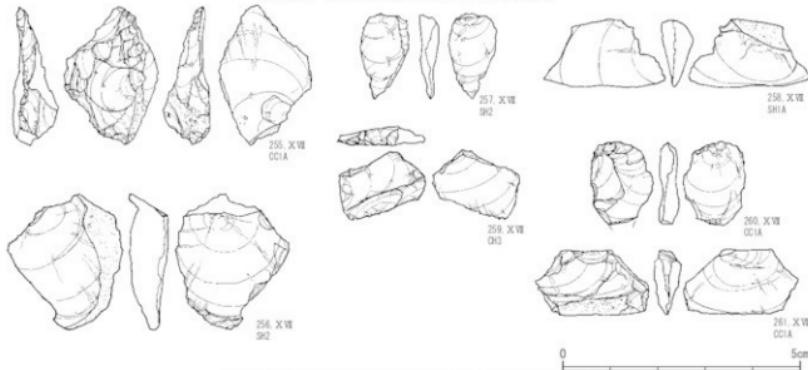
番号	層番	217	217	分類	石核	直角長	直角幅	厚さ	直角×ブリット率%	直角%	分類	石核	直角長	直角幅	厚さ	直角×ブリット率%	直角%	分類		
192	259	A10	800	剥片	-	0.21A	10.5	12.2	4.5	0.6	▲196(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	210	A10	800	剥片	-	0.21A	18.7	18.1	6.7	1.5	▲480(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	211	A10	800	複数剥離剥片	-	0.21A	22.5	17.6	7.8	2.2	▲196(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	212	A10	800	剥片	-	0.21A	23.6	22.0	18.5	5.2	▲800(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	213	A10	800	ハンマー	-	0.21A	33.3	14.4	5.6	0.8	▲150(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	213	A10	800	台形様石器	-	0.21A	29.4	5.1	6.5	1.8	▲480(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	214	A10	800	剥片	-	0.21A	18.2	18.0	6.9	1.7	▲150(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	No.14	
192	215	A10	800	二次加工剥離片	-	0.21A	44.7	20.1	8.8	4.4	▲100(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	216	A10	800	剥片	-	0.21A	25.3	41.2	20.8	28.7	▲480(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
192	217	A10	800	石核	-	0.21A	29.9	13.6	8.5	2.4	▲800(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
194	218	A10	800	ナイフ形石器	-	0.21A	29.9	13.6	8.5	2.4	▲800(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
194	219	A10	800	台形様石器	-	0.21C	27.4	18.5	8.8	3.7	▲470(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
194	220	A10	800	台形様石器	-	0.21A	32.4	17.1	10.9	3.6	▲470(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	No.12	
194	221	A10	800	剥片	-	0.21A	40.1	40.8	16.0	22.2	▲980(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
194	222	A10	800	剥片	-	0.21A	11.9	12.1	3.2	0.4	▲870(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	223	A10	800	剥片	-	0.21D	11.0	8.0	3.5	0.5	▲170(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	224	A10	800	剥片	-	0.21E	12.2	22.7	2.9	0.9	▲130(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	225	A10	800	剥片	-	0.21F	17.9	25.1	3.2	2.3	▲170(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	226	A10	800	剥片	-	0.21G	21.2	29.9	9.0	0.8	▲130(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	227	A10	800	剥片	-	0.21H	34.5	34.2	5.9	12.9	▲170(I-12/XV)	No.14	-	-	-	-	-	-	-	-
195	228	A10	800	剥片	-	0.21I	35.7	27.9	7.0	4.4	▲140(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	229	A10	800	剥片	-	0.21J	72.7	33.2	20.4	26.4	▲170(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	230	A10	800	二次加工剥離片	-	0.21K	35.0	21.0	8.3	4.2	10.2	▲170(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-
195	231	A10	800	剥片	-	0.21L	28.2	17.0	7.4	11.2	▲130(I-11/XV)	No.18	-	-	-	-	-	-	-	-
195	232	A10	800	剥片	-	0.21M	22.4	45.2	4.9	7.4	▲170(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	233	A10	800	石核	-	0.21N	27.9	29.1	15.7	13.7	▲150(I-11/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	234	A10	800	石核	-	0.21O	30.2	31.6	9.4	28.4	▲170(I-11/XV)	No.12	-	-	-	-	-	-	-	-
195	235	A10	800	石核	-	0.21P	25.2	41.5	24.2	20.1	▲160(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	
195	236	A10	800	石核	-	0.21Q	43.1	68.7	43.7	19.1	▲140(I-12/XV)	-	-	-	-	-	-	-	-	



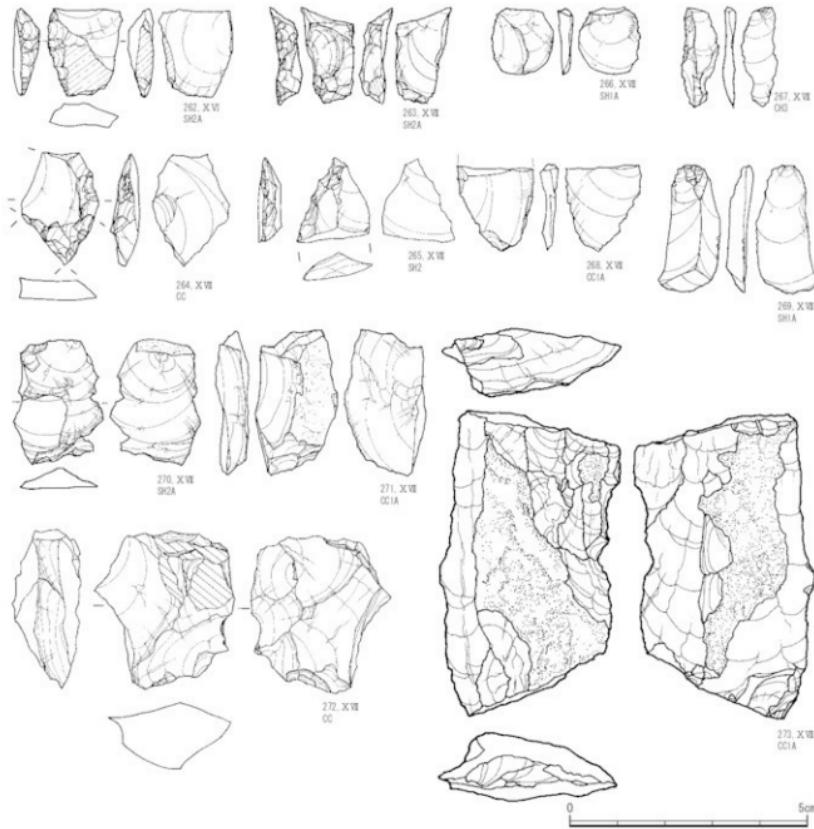
第197図 第I文化層第11エリア第32ブロック出土石器実測図



第198図 第Ⅰ文化層第11エリア石器出土状況図



第199図 第Ⅰ文化層第11エリア第33ブロック出土石器実測図

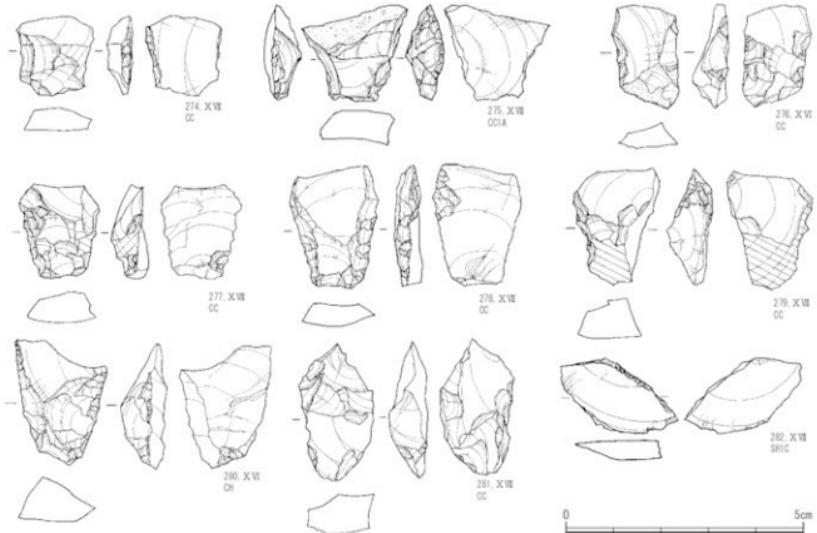


第200図 第1文化層第11エリア第34ブロック出土石器実測図

第38表 第Ⅰ文化層第11エリア出土石器観察表（1）

第39表 第Ⅰ文化層第11エリア出土石器観察表（2）

品番	規格	寸法	仕様	部品	取扱い	備考	規格	寸法	仕様	部品	取扱い	備考
009-255	001-A03	台脚用樹脂	-	G14	29.3	10.1	1.0	4.0	150(9.9)×9.2	-	-	-
009-256	001-A03	製版	-	G14	29.3	26.2	8.1	4.0	154(9.9)×9.2	-	Nom.28	-
009-257	001-A03	製版	-	G14	38.2	2.0	4.2	4.0	154(7.1)×9.2	-	Nom.28	-
009-258	001-A03	製版	-	G14	14.5	25.3	8.1	4.0	150(7.1)×9.2	-	-	-
009-259	001-A03	製版	-	G14	14.5	5.3	4.2	4.0	150(7.1)×9.2	-	-	-
009-260	001-A03	製版	-	G14	18.0	13.4	4.3	4.0	150(7.1)×9.2	-	-	-
009-261	001-A03	製版	-	G14	14.5	24.0	5.9	5.1	150(4.1)×9.2	-	-	-
009-262	001-A03	台脚用樹脂	-	G14A	18.6	15.9	4.3	4.0	150(4.1)×9.2	-	-	-
009-263	001-A04	台脚用樹脂	-	G14A	26.0	12.1	7.3	1.0	150(4.1)×9.2	-	Nom.25	-
009-264	001-A04	ナット用樹脂	-	G14	22.9	16.4	6.1	2.0	157(4.1)×9.2	-	-	-
009-265	001-A04	ナット用樹脂	-	G14	17.6	11.8	5.2	2.0	157(4.1)×9.2	-	-	-
009-266	001-A04	ナット	-	G14	14.5	1.2	3.5	0.6	159(4.1)×9.2	-	Nom.29	-
009-267	001-A04	ナット	-	G14	21.2	17.8	3.9	0.3	159(4.1)×9.2	-	-	-
009-268	001-A04	ナット	-	G14A	18.5	12.3	4.9	0.8	159(4.1)×9.2	-	-	-
009-269	001-A04	ナット	-	G14A	27.4	12.3	6.9	1.4	159(4.1)×9.2	-	-	-
009-270	001-A04	ナット	-	G14A	26.8	12.3	7.2	2.4	157(4.1)×9.2	-	Nom.16	-
009-271	001-A04	ナット	-	G14	31.1	17.4	7.3	2.2	159(4.1)×9.2	-	-	-
009-272	001-A04	二重式遮光板	-	G14	33.5	29.6	14.6	2.0	157(4.1)×9.2	-	-	-



第201図 第Ⅰ文化層第11エリア第35ブロック出土石器実測図

第13エリア

耳取遺跡J-8・9区で、第40ブロックを中心構成し、頁岩と玉髓が主体を占める。エリア内には44号・57号・58号の礫群が含まれている。

第40ブロック349の台形様石器1点とブロック外出土の357のナイフ形石器が確認できる。台形様石器(349)の左側縁は先行する剥離面で、右側縁は調整剥離が縁り返され、基部では両面に調整剥離が加えられている。また、石核が確認
第40表 第I文化層第IIエリア出土石器観察表(3)

され、354は分割縁の分割面を打面に、355は頂部を挟み交互に、356も類似の剥片剥離が観察される。また、355・356では剥片の接合が確認されている。

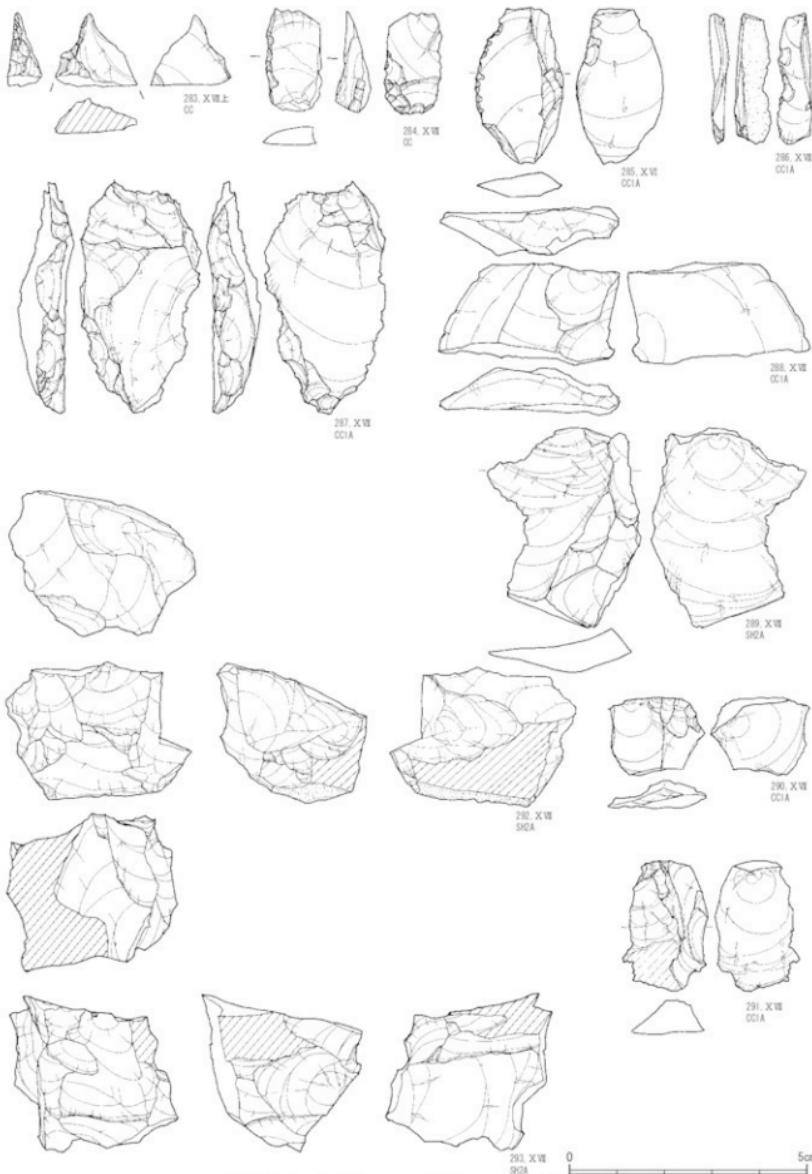
第40ブロックの350・351はその形状から、プランティングチップの可能性が高い。

第14エリア

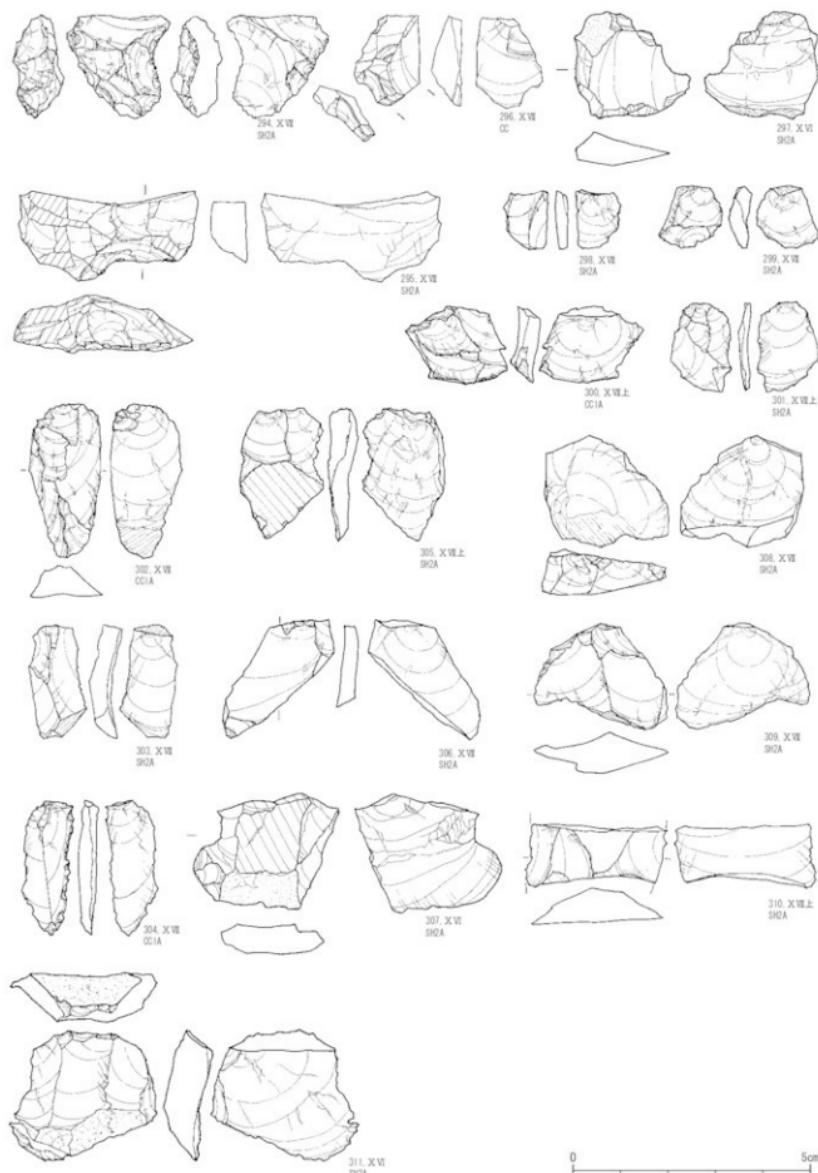
耳取遺跡H・I-8区で、第41～第43の3ブロックで構成される。石材は頁岩を主体とする。なお、51号～55号の櫛群が

第41表 第I文化層第11エリア出土石器觀察表（4）

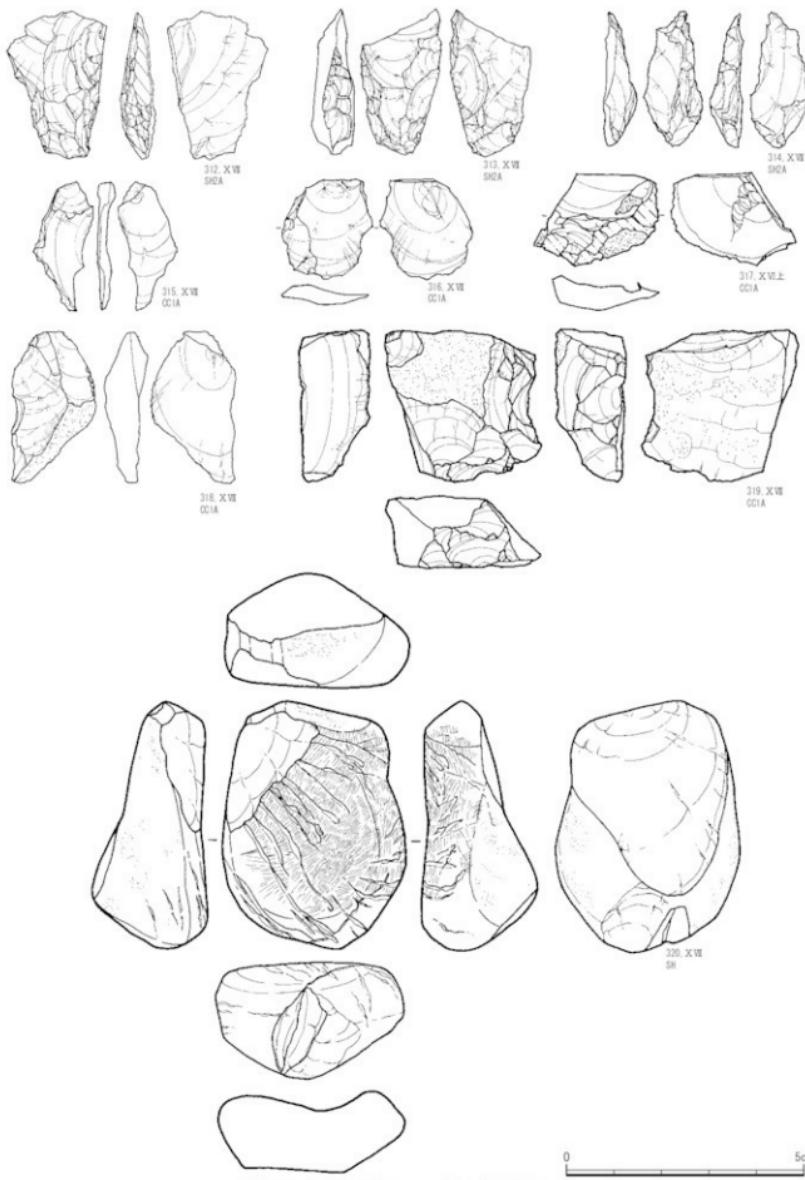
品目	品番	規格	21T	20T	分類1		石4石	最大高	最高幅	底面高	底面幅	底面厚	上部高さ	上部幅	上部厚	壁厚	接合部	
					分類2	分類3												
200	273	101 A04	無脚	SD14	25.0	26.0	14.8	3.0	14940	14.8	14.8	1.0	14940	14.8	1.0	1.0	1.0	
200	274	101 A04	台形脚石板	-	CD	17.1	16.3	5.6	1.4	13034	17.1	16.3	1.0	13034	17.1	1.0	1.0	1.0
200	275	101 A05	台形脚石板	SD14	20.4	22.1	16.2	2.6	17010	17.1	16.3	1.0	17010	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	276	101 A05	台形脚石板	-	CD	21.8	14.9	1.9	0.4	17980	17.1	16.3	1.0	17980	17.1	1.0	1.0	1.0
200	277	101 A05	台形脚石板	SD14	20.1	17.1	12.0	2.6	17420	17.1	16.3	1.0	17420	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	278	101 A05	台形脚石板	-	CD	26.9	16.8	6.2	4.4	18000	17.1	16.3	1.0	18000	17.1	1.0	1.0	1.0
200	279	101 A05	台形脚石板	SD14	25.7	18.2	7.0	3.0	17470	17.1	16.3	1.0	17470	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	280	101 A05	台形脚石板	-	CH	26.0	19.7	1.9	0.4	17440	17.1	16.3	1.0	17440	17.1	1.0	1.0	1.0
200	281	101 A05	台形脚石板	SD14	26.9	15.0	6.4	2.0	18030	17.1	16.3	1.0	18030	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	282	101 A05	無脚	SH10	16.7	24.3	6.4	1.7	14037	17.1	16.3	1.0	14037	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	283	101 A06	ナットフット	SD14	15.1	17.1	7.5	1.0	18031	17.1	16.3	1.0	18031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	284	101 A06	ナットフット	-	SD14	21.6	14.2	4.7	1.7	17170	17.1	16.3	1.0	17170	17.1	1.0	1.0	1.0
200	285	101 A06	無脚脚踏面直角	SD14	33.1	16.3	5.1	2.6	14567	17.1	16.3	1.0	14567	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	286	101 A06	無脚	SD14	27.9	7.6	4.3	0.7	17170	17.1	16.3	1.0	17170	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	287	101 A06	台形脚石板	SD14	49.3	25.1	12.0	3.0	13551	17.1	16.3	1.0	13551	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	288	101 A06	無脚	SD14	21.7	30.4	6.0	1.7	14037	17.1	16.3	1.0	14037	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	289	101 A06	無脚	SD14	42.3	22.0	12.0	9.9	14039	17.1	16.3	1.0	14039	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	290	101 A06	無脚	SD14	16.7	17.1	6.1	1.1	17201	17.1	16.3	1.0	17201	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	291	101 A06	無脚	SD14	27.8	16.1	8.0	3.0	14089	17.1	16.3	1.0	14089	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	292	101 A06	石板	SK24	29.7	26.5	30.9	3.2	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	293	101 A06	石板	SK24	33.4	25.2	27.3	3.7	17170	17.1	16.3	1.0	17170	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	294	101 A07	台形脚石板	SK24	22.0	17.6	11.1	3.3	14996	17.1	16.3	1.0	14996	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	295	101 A07	無脚	SK24	19.3	20.2	17.6	6.7	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	296	101 A07	人字木	SK24	19.4	14.2	6.4	1.6	14032	17.1	16.3	1.0	14032	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	297	101 A07	無脚	SK24	22.9	24.2	7.6	4.8	14041	17.1	16.3	1.0	14041	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	298	101 A07	無脚	SK24	12.7	9.8	2.9	0.4	14065	17.1	16.3	1.0	14065	17.1	1.0	1.0	1.0	
400	200	217	20.7	20.7	分類1	石4石	最大高	最高幅	底面高	底面幅	底面厚	上部高さ	上部幅	上部厚	壁厚	接合部	接合部	
200	299	101 A07	無脚	SK24	34.4	12.5	9.3	0.7	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	300	101 A07	無脚	SK24	31.5	22.3	5.5	4.4	14033	17.1	16.3	1.0	14033	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	301	101 A07	無脚	SK24	32.0	13.2	9.9	0.5	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	302	101 A07	無脚	SK24	31.4	18.5	4.3	2.8	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	303	101 A07	無脚	SK24	24.1	14.1	7.4	1.2	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	304	101 A07	無脚	SK24	23.0	11.0	4.4	1.1	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	305	101 A07	無脚	SK24	23.3	15.7	4.2	5.5	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	306	101 A07	無脚	SK24	26.5	23.7	7.0	2.1	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	307	101 A07	無脚	SK24	24.5	21.2	6.4	4.9	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	308	101 A07	無脚	SK24	23.0	26.2	9.0	5.1	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	309	101 A07	無脚	SK24	27.7	28.5	9.0	4.3	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	310	101 A07	無脚	SK24	31.7	30.0	8.0	2.8	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	311	101 A07	無脚	SK24	27.6	21.3	10.7	6.8	14031	17.1	16.3	1.0	14031	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	312	101 A07	無脚	SD14	31.6	21.4	7.0	4.2	15066	17.1	16.3	1.0	15066	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	313	101 A07	無脚	SD14	31.3	17.3	9.3	4.7	15070	17.1	16.3	1.0	15070	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	314	101 A07	無脚	SD14	28.9	12.7	7.4	1.5	15071	17.1	16.3	1.0	15071	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	315	101 A07	無脚	SD14	27.5	12.7	4.0	0.7	15066	17.1	16.3	1.0	15066	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	316	101 A07	無脚	SD14	21.5	19.8	5.2	1.6	14070	17.1	16.3	1.0	14070	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	317	101 A07	無脚	SD14	20.0	26.7	8.2	3.3	15030	17.1	16.3	1.0	15030	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	318	101 A07	無脚	SD14	32.4	16.1	9.3	3.4	15071	17.1	16.3	1.0	15071	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	319	101 A07	二段式工具表座	SD14	32.3	23.6	15.7	18.4	15057	17.1	16.3	1.0	15057	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	320	101 A07	無脚	SD14	38.0	26.6	24.7	5.6	15072	17.1	16.3	1.0	15072	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	321	101 A07	石板	SD14	16.8	24.9	20.3	3.2	14032	17.1	16.3	1.0	14032	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	322	101 A07	無脚	SD14	28.9	52.2	20.7	22.3	14050	17.1	16.3	1.0	14050	17.1	1.0	1.0	1.0	
200	323	101 A07	無脚	SD14	34.5	53.5	26.9	7.0	14030	17.1	16.3	1.0	14030	17.1	1.0	1.0	1.0	



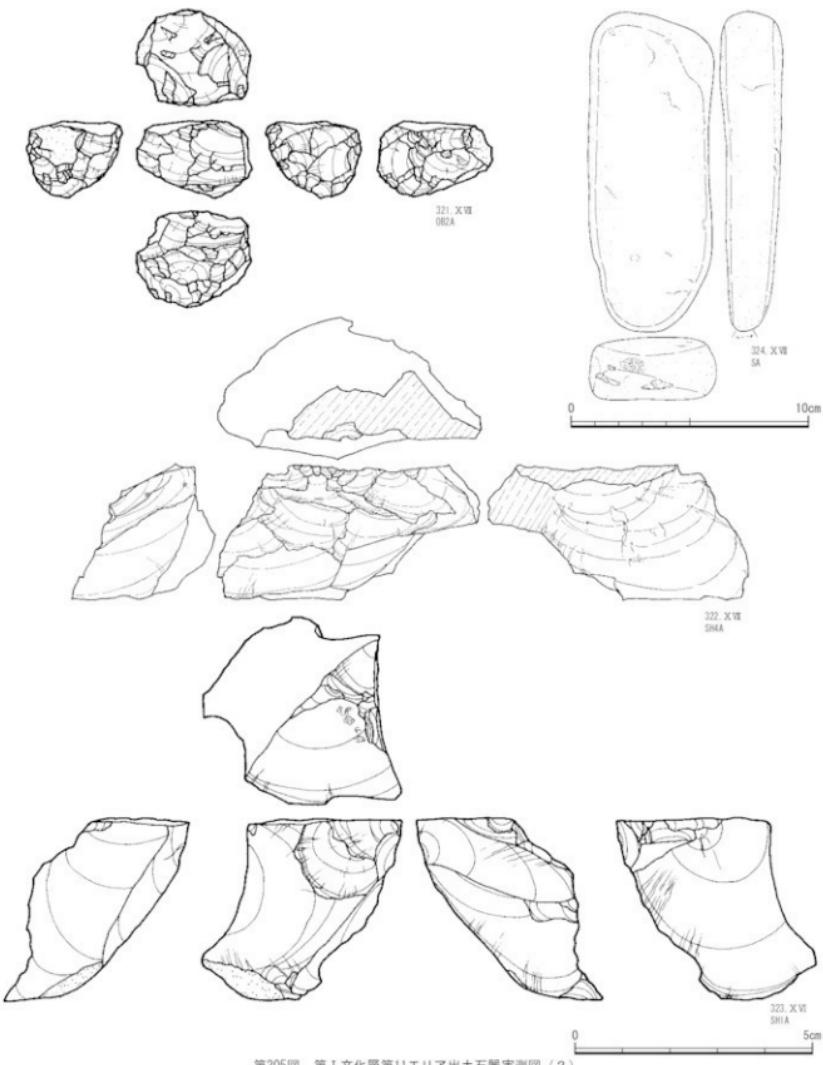
第202図 第I文化層第11エリア第36ブロック出土石器実測図



第203図 第I文化層第IIエリア第37ブロック出土石器実測図



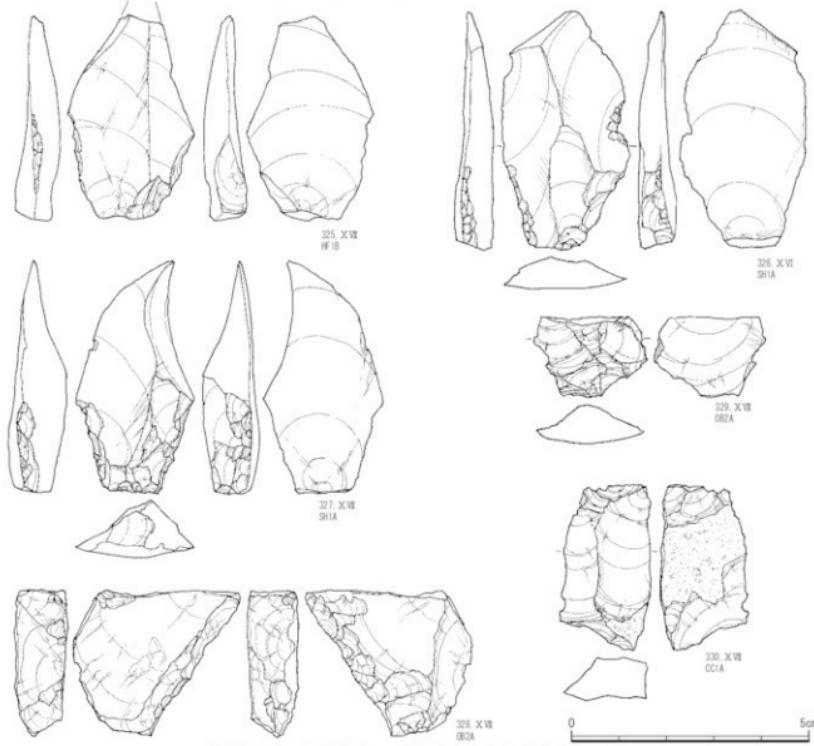
第204図 第I文化層第IIエリア出土石器実測図(1)



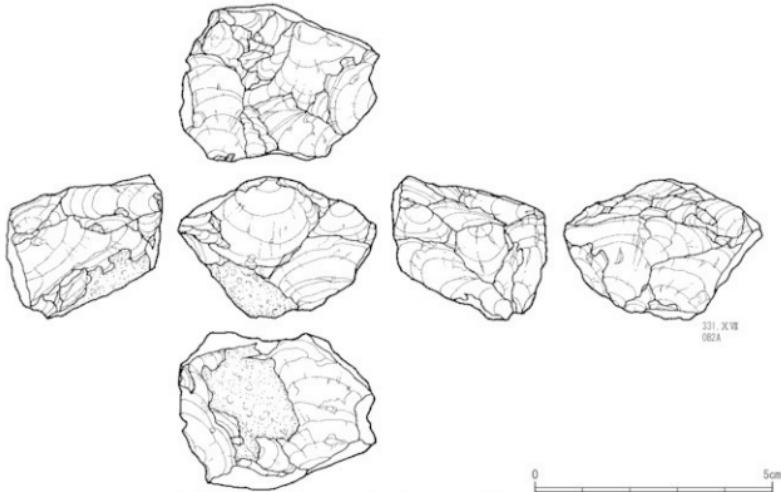
第205図 第I文化層第IIエリア出土石器実測図(2)



第206図 第Ⅰ文化層第12エリア石器出土状況図



第207図 第Ⅰ文化層第12エリア第38ブロック出土石器実測図（1）



第208図 第1文化層第12エリア第38ブロック出土石器実測図（2）

エリア内に形成されている。

第42ブロックの369がナイフ形石器の基部、370が台形様石器の破損品、第41ブロックの364が削器の可能性がある以外は明確な石器は確認できない。389・392等の安定した石核の存在、365・366等の類型化した剥片の存在、374・375等のプランティングチップの可能性が存在することから、定型的石器の確認は少ないが石器製作が行われた可能性は高いと判断できる。

第15エリヤ

耳取遺跡6～I-6～8区で、第44～第47の4ブロックで構成する。第47ブロックが頁岩、他は玉髓で構成される。なお、56号、59号～64号、66号、67号の9基の複数群、エリア内に形成されている。

台形様石器4点（395・396・421・422）、剥片尖頭器11点（410・428～437）、基部加工ナイフ形石器3点（423～425）、削器6点（426・427・440・442・443・444）と豊富な石器を含んでいる。

第46ブロックの395の台形様石器は、接合が確認されている。ブロック外出土の422は、右側縁は両面から細かい調整第42表 第1文化層第12エリア出土石器観察表（1）

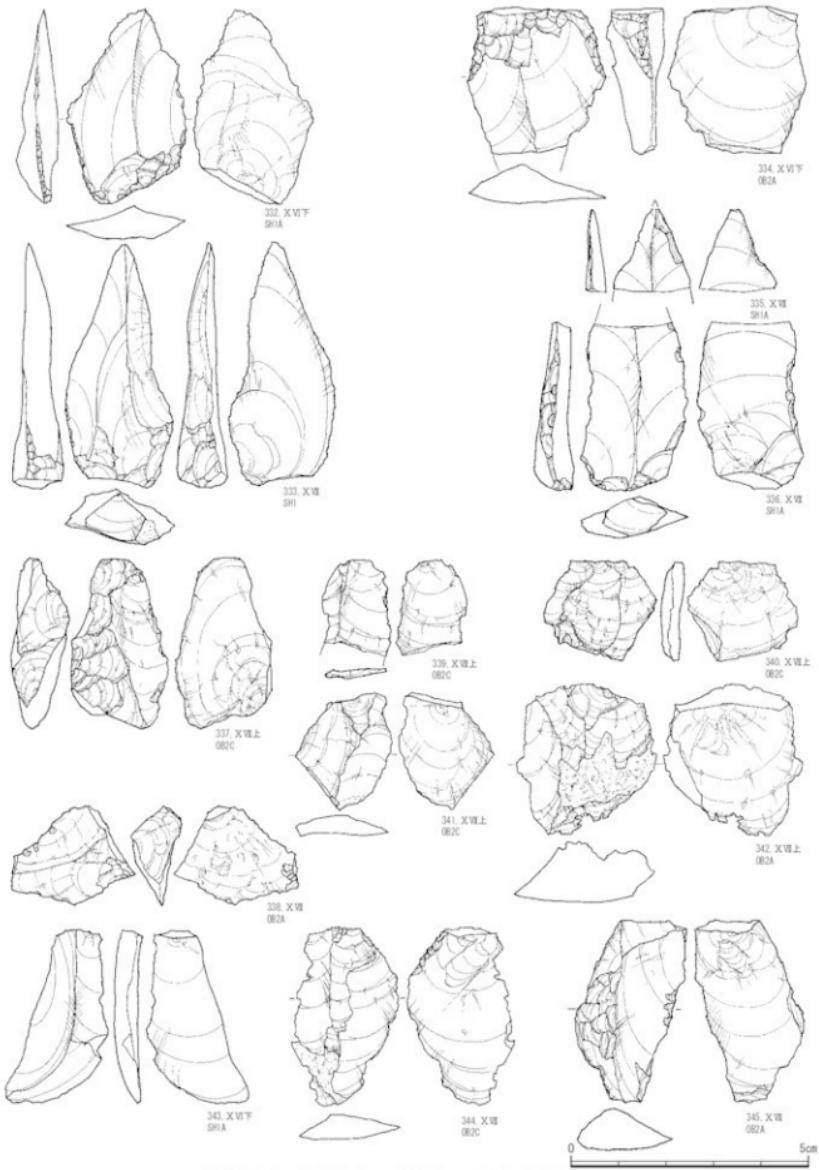
石器	石種	分類	石核	基部(名)	厚さ(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	重量	発上(No.)	グリッド(番号)	保存%
369	A12	石核	-	-	15	42.4	27.0	9.4	0.8	▲3430(1-6X4E)	-
370	A12	石核	-	-	19	48.2	27.0	8.5	0.9	▲3431(1-6X4E)	-
371	A12	石核	-	-	19	50.4	28.7	8.5	0.9	▲3432(1-6X4E)	-
372	A12	石核	-	-	19	49.4	25.4	12.4	0.8	▲3433(1-6X4E)	-
373	A12	石核	-	-	21	0	35.5	11.1	1.1	▲3577(1-6X4E)	No. 22
374	A12	石核	-	-	17.3	22.6	8.6	2.5	▲3446(1-6X4E)	No. 21	
375	A12	石核	-	-	32.1	26.1	18.9	10.0	0.7	▲3447(1-6X4E)	-
376	A12	石核	-	-	30.2	21.2	42.1	23.6	28.6	▲3448(1-6X4E)	No. 21
377	A12	石核	-	-	30.4	21.2	42.1	23.6	28.6	▲3449(1-6X4E)	No. 21
378	A12	石核	-	-	42.7	25.5	9.0	5.5	0.8	▲3450(1-6X4E)	-
379	A12	石核	-	-	53.0	22.8	12.1	8.5	0.8	▲3451(1-6X4E)	-
380	A12	石核	-	-	32.2	29.4	12.5	8.0	0.8	▲3452(1-6X4E)	-
381	A12	石核	-	-	17.7	16.5	4.5	0.7	▲3453(1-6X4E)	No. 33	
382	A12	石核	-	-	25.6	22.7	9.0	5.9	0.8	▲3454(1-6X4E)	No. 33

剥離が加えられ、左側縁は背面にのみ整形が見られ、打面が大きく変わることはない。

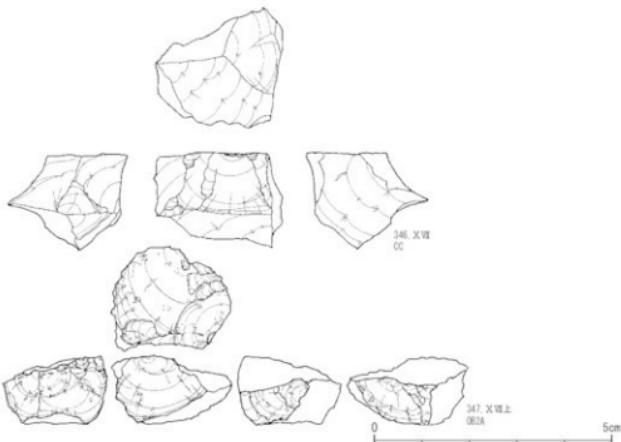
大型剥片尖頭器の存在が特徴で、基部のみの410と先端部を欠く436を含み、435・437は10cmを越し重量もある。410は厚手の剥片を素材に、基部作出は腹面からを専らとし、最終的には背面基部の削平を行っている。428は先端の一端と、基部の抉りだけは左側縁に終始し、右側は腹面に2回の剥離で留めている。429・430は素材剥片の形状及び加工状況が類似し、仕上がりも相似形を成している。431の基部は、尖り気味に打面方向からの調整剥離で仕上げている。434の基部の抉りは浅い。435の背部は右側縁に設け、急角度の加工が見られる。436の先端部の剥離は先行する剥離面で、基部から左側縁に急角度の加工を行っている。437に関しては、横割ぎの剥片を素材に、特に腹面に周辺から整形剥離を繰り返し、形状の調整を行なうながら仕上げている。基部は両面及び底面からも実施し、鋭利に仕上げている。

426・427は削器と判断しているが個性的な形状を呈している。2点とも腹面からの整形で、基部の背面にリッジ調整が見られることから、挿入されていた可能性も高い。基部加工第43表 第1文化層第12エリア出土石器観察表（2）

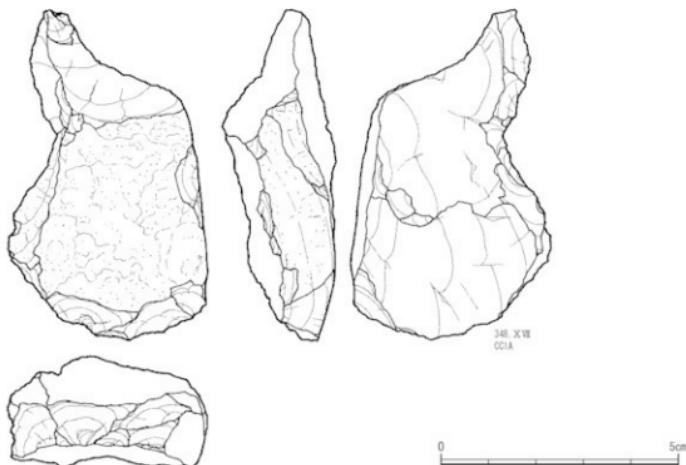
石器	石種	分類	石核	基部(名)	厚さ(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	重量	発上(No.)	グリッド(番号)	保存%
379	A12	石核	所蔵	-	36.2	20.6	12.7	7.4	▲3462(1-6X4E)	-	
380	A12	石核	所蔵	-	21.0	38.5	9.9	2.1	▲3474(1-6X4E)	-	
381	A12	石核	所蔵	-	20.2	15.2	2.6	0.9	▲3475(1-6X4E)	-	
382	A12	石核	所蔵	-	21.4	23.5	3.1	2.1	▲3486(1-6X4E)	-	
383	A12	石核	所蔵	-	24.9	20.2	2.9	0.9	▲3487(1-6X4E)	-	
384	A12	石核	所蔵	-	32.2	29.3	1.8	11.7	▲3487(1-6X4E)	-	
385	A12	石核	所蔵	-	36.8	21.0	4.2	2.8	▲3488(1-6X4E)	-	
386	A12	石核	所蔵	-	37.8	22.9	9.3	3.7	▲3489(1-6X4E)	-	
387	A12	石核	所蔵	-	38.9	23.3	8.6	7.0	▲3492(1-6X4E)	-	
388	A12	石核	所蔵	-	20.3	37.5	25.4	11.4	▲3493(1-6X4E)	-	
389	A12	石核	所蔵	-	14.7	35.6	23.2	7.0	▲3494(1-6X4E)	-	
390	A12	石核	所蔵	-	70.0	42.6	24.0	58.6	▲3495(1-6X4E)	-	



第209図 第I文化層第12エリア第39ブロック出土石器実測図(1)



第210図 第I文化層第12エリア第39ブロック出土石器実測図(2)



第211図 第I文化層第12エリア出土石器実測図

の3点(423～425)のナイフ形石器も特徴的で、423は、石核480との接合が確認されている。この3点についても、基部の背面への調整剥離が実施されている。石核や剥片も存在し、接合資料も確認できることから、小型石器の製作が行われたと判断できる。

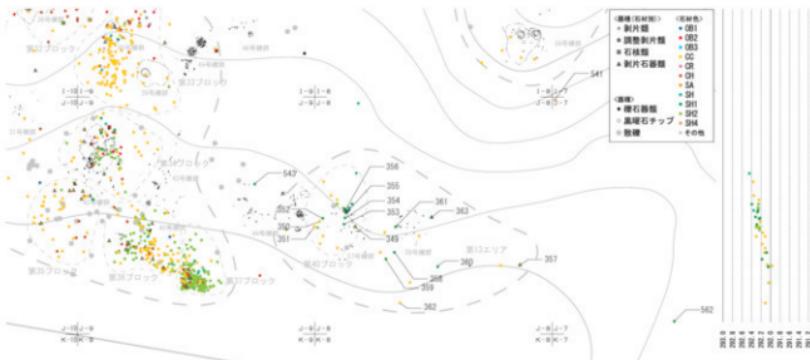
418・420・438の縦長剥片が散見されるが、その規格から剥片尖頭器の素材から除かれたものと思われる。442・443は削器と判断している。

481は最大長16.2cm、最大幅7.6cm、左側面の先端部に極

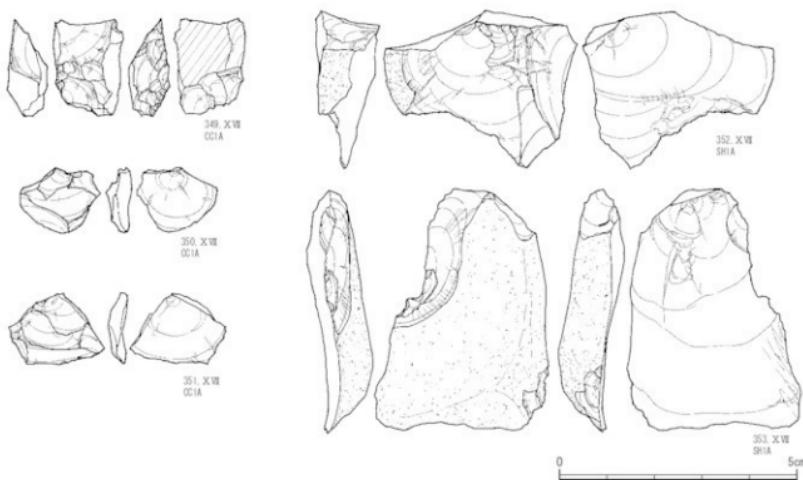
状剥離と見られる上方向から下方向の剥離面が観察できる。あまりにも大型となることから、彫器との認定に苦慮するところである。

479・480の石核の存在、448・450・451等の不定形剥片の存在やナイフ形石器423と石核480の接合例から、基部加工ナイフ形石器等の石器製作が行われていたと考えられる。

第16エリア
耳取遺跡I・J-5・6区で、第48・第49の2ブロックで構成される。主要石材は頁岩である。なお、68号～74号の7基



第212図 第Ⅰ文化層第13エリア石器出土状況図



第213図 第Ⅰ文化層第13エリア第40ブロック出土石器実測図（1）

の礫群がエリア内に形成されている。

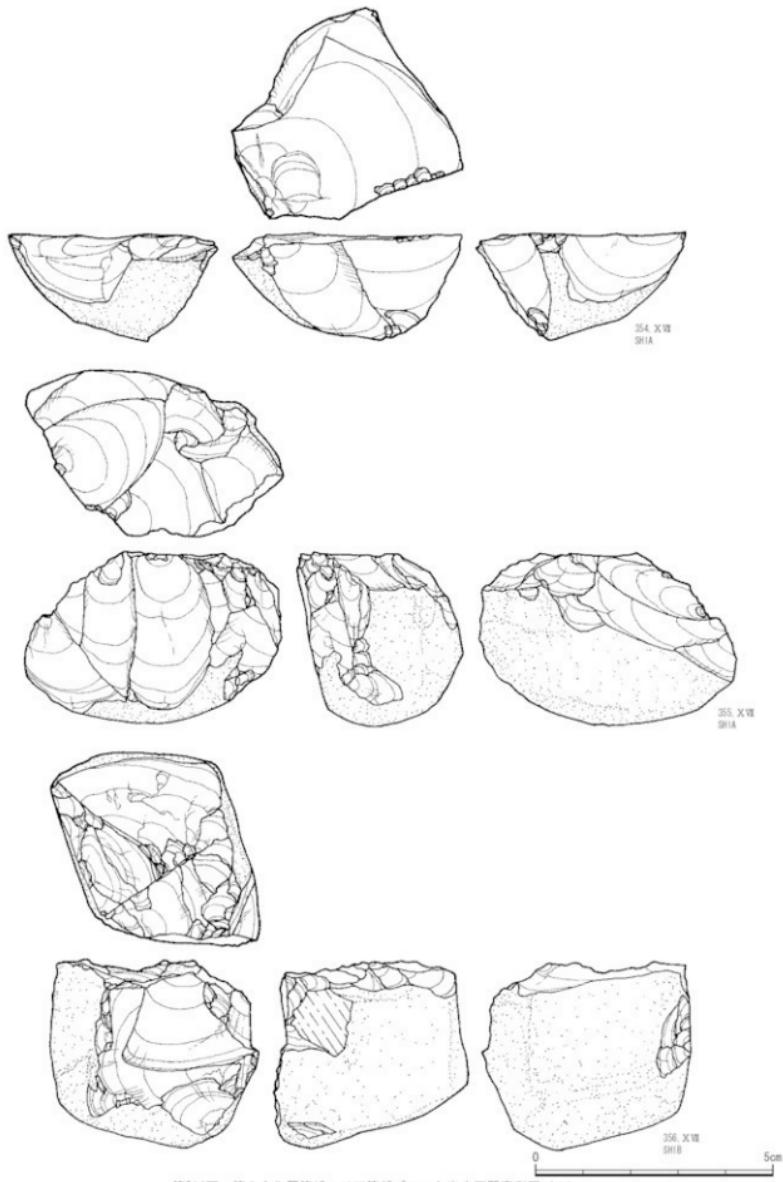
3点の台形様石器(482・485・486)と492のナイフ形石器が抽出できる。台形様石器482は素材剥片のバルブ除去と右側縁の調整剝離が目立つ。485は素材を横模に486は縦位に用い、軸の長い形状に仕上げている。ナイフ形石器(492)は、ノ字状の剥片の基部と先端部に強烈剝離が識別されている。

493は二次加工のある剥片とした。

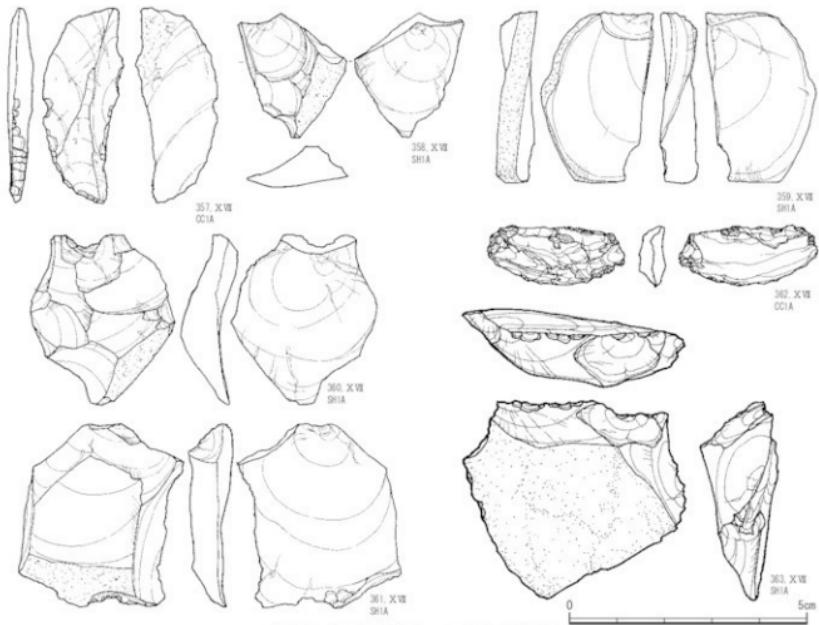
第17エリア

耳取遺跡G・H-4～6区で、第50・第51の2ブロックで構成される。石材は、頁岩を主体に玉髓と黒曜石Ⅱ類が若干含まれる。なお、75号～77号碑群がエリア内に含まれる。

第50ブロックの台形様石器(501)は打面方向を刃部に設定



第214図 第1文化層第13エリア第40ブロック出土石器実測図（2）



第215図 第I文化層第13エリア出土石器実測図

し、右側縁を大きく抉り出している。ブロック外出土の520は不定形剥片の底面と右側縁に、腹面から急角度の刃部形成が認められる。514・523等の石核や504・509等の存在からは台形様石器等の小型石器が製作された可能性がある。

第18エリア

耳取道跡F~H-3~5区で、第52ブロックを中心に構成する。

2点の台形様石器(524・525)と剥片等で構成される。524は剥片を横位に用い、端部は折断除去し、腹面からの細かい剥離で仕上げている。525は分厚い剥片を素材とし、腹面から加工を加えている。

第19エリア

ブロック等の集中は見られない。エリア内に78号~85号の8基の穂群が形成されている。

534の剥片尖頭器は基部の造り出しと、先端部の加工が特徴的で、基部は腹面からの整形剥離で鋭く整形され、先端部第4表 第I文化層第13エリア出土石器観察表(1)

No.	No.	217	217(?)	分類1	分類2	石核	直径(Φ)	最大(Φ)	腹斜面	裏斜面	底面	壁厚	底面(ブリット)	厚さ	総合
212	517	A12	E40	骨移植石器	-	OCIA	20.4	15.2	3.0	2.0	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	519	A12	E40	剥片	-	OCIA	12.9	17.2	3.5	0.8	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	520	A12	E40	剥片	-	OCIA	15.1	20.5	4.4	1.1	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	522	A12	E40	剥片	-	SRIA	23.5	40.6	13.7	11.7	▲	502(レ-エ)XRI	No.29	-	
212	523	A12	E40	剥片	-	SRIA	15.3	36.9	14.2	20.7	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	524	A12	E40	石核	-	SRIA	23.0	40.7	45.5	41.0	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	525	A12	E40	石核	-	SRIA	26.7	34.5	26.6	26.7	▲	502(レ-エ)XRI	No.29	-	
212	526	A12	E40	石核	-	SRIA	40.2	44.4	41.3	38.1	▲	502(レ-エ)XRI	No.30	-	

も同様な加工を行っている。

エリア外

538は二側縁加工ナイフ形石器、539は台形様石器、540は削器と見られる。550の石核からは打面転移を読みとれ、不定形剥片及び小石刃が取り出され、553・554等の剥片に残る先行する剝離面からは、計画的な剥片剥離が読みとれる。547からは、計画的な剥片剥離技術の存在も考えられる。

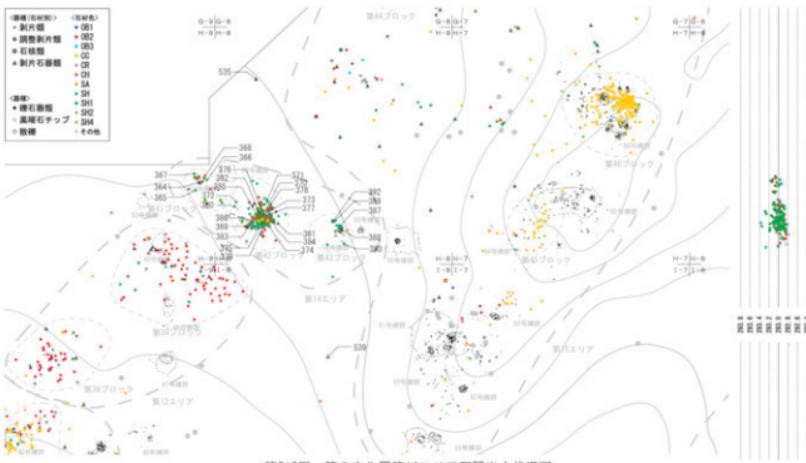
555の棒状ハンマーは、頭部と底面に敲打痕や押圧痕が明瞭に残されている。

556は基部加工ナイフ形石器である。

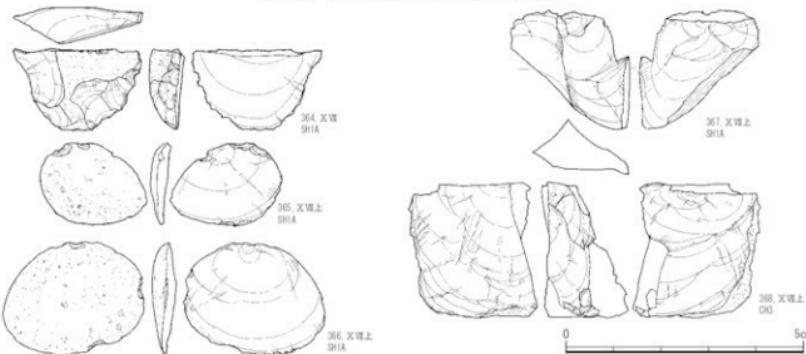
剥片尖頭器557・559の背面は2枚の剥離面で構成され、三角形の横断面を形成する。557は基部と右先端部の調整が特に入念で、腹面からと棟上からを行い、559は入念な基部整形と先端部を僅かに整形する。558は基部のみの加工で、剥片尖頭器を意識したと思われる。560は基部と先端部を僅かに整形するが、剥片尖頭器のもたらした結果と思われる。562

第45表 第I文化層第13エリア出土石器観察表(2)

No.	No.	217	217(?)	分類1	分類2	石核	直径(Φ)	最大(Φ)	腹斜面	裏斜面	底面	壁厚	底面(ブリット)	厚さ	総合
212	537	A12	E80	ナイフ形石器	-	SRIA	41.4	17.5	5.8	2.1	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	538	A12	E80	剥片	-	SRIA	26.4	22.2	11.7	2.2	▲	502(レ-エ)XRI	No.29	-	
212	539	A12	E80	剥片	-	SRIA	36.1	23.5	8.8	6.0	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	540	A12	E80	剥片	-	SRIA	36.2	21.1	12.2	6.0	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	541	A12	E80	剥片	-	SRIA	38.1	24.6	9.5	11.3	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	542	A12	E80	剥片	-	SRIA	32.0	29.6	5.8	2.0	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	
212	543	A12	E80	剥片	-	SRIA	41.2	47.2	16.9	20.8	▲	502(レ-エ)XRI	-	-	



第216図 第I文化層第14エリア石器出土状況図

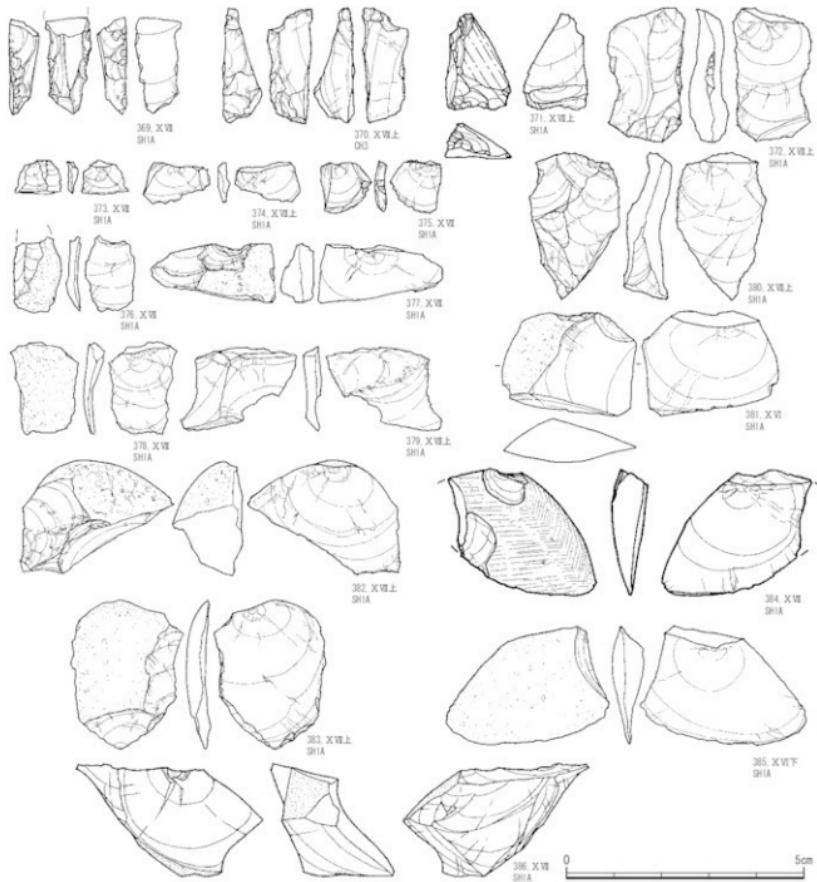


第217図 第I文化層第14エリア第41ブロック出土石器実測図

は素材剥片、564は破損品を再加工した小型の剥片尖頭器で

あるが、先端部の形状は彫器としての特徴を呈している。

561は剥片尖頭器の破損品で、表面の色調から被熱した印象を受ける。563は砂岩を用いた素材剥片である。566は台形様石器。567は基部加工ナイフ形石器とみられる。



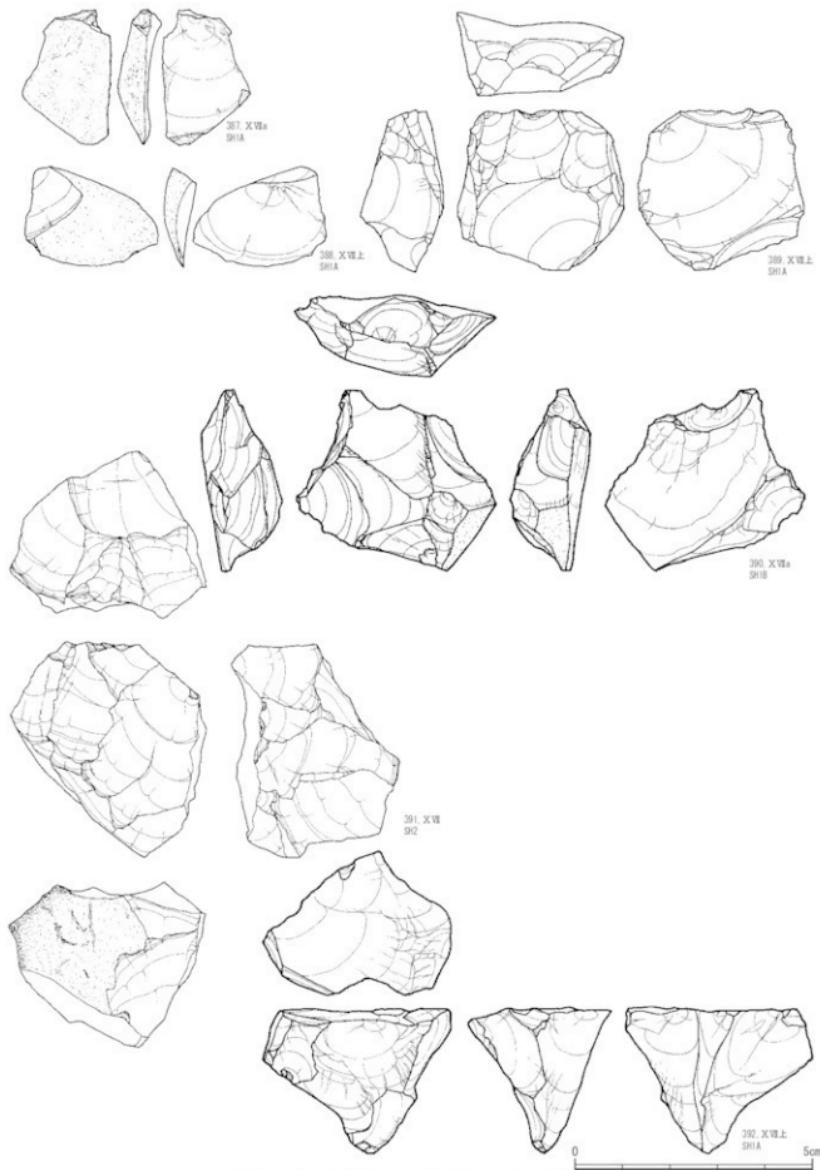
第218図 第I文化層第14エリア出土石器実測図

第46表 第I文化層第14エリア出土石器観察表(1)

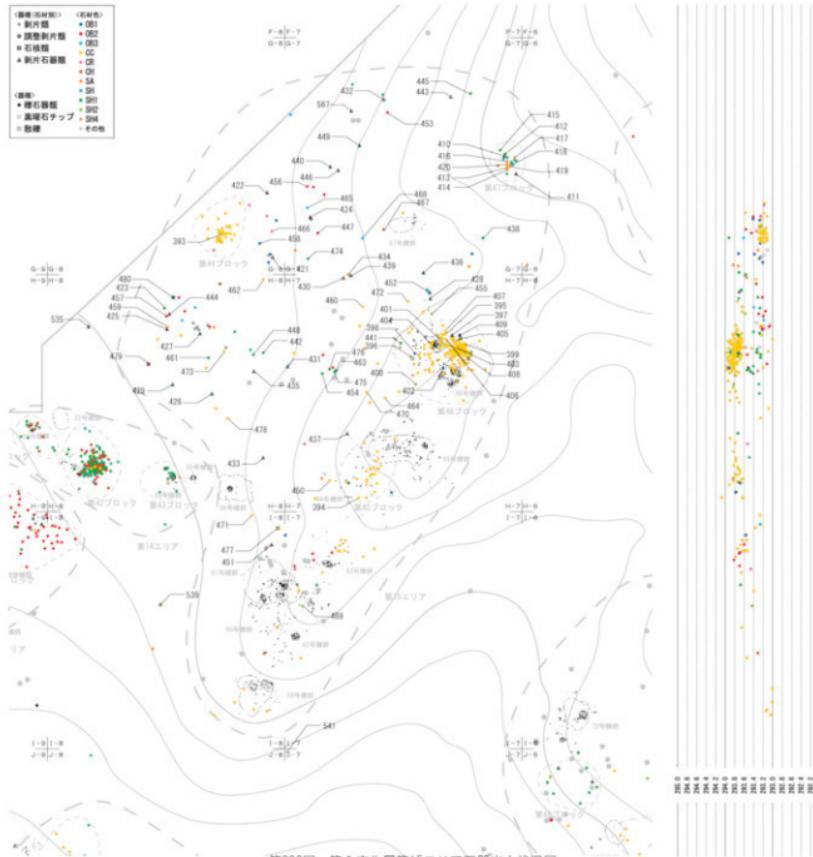
品番	形態	分類1	分類2	長軸	横軸	厚さ	重さ	取扱い	備考
212.154	A14	SHIA	解體	SHIA	17.4	27.3	0.9	3.1	▲367(手内-X面)、X面
212.155	A14	解體	-	SHIA	17.7	23.9	0.5	1.4	▲367(手内-X面)、X面
212.156	A14	解體	-	SHIA	24.1	30.9	0.5	4.1	▲368(手内-X面)、X面
212.157	A14	解體	-	SHIA	25.7	25.4	1.1	5.0	▲368(手内-X面)、X面
212.158	A14	解體	-	SHIA	26.7	37.1	1.1	8.8	▲369(手内-X面)、X面
212.159	A14	解體	-	SHIA	20.4	9.9	0.5	1.4	▲370(手内-X面)、X面
212.160	A14	ダイヤモンド	-	SHIA	24.5	9.9	0.5	1.4	▲370(手内-X面)、X面
212.161	A14	台形研磨器	-	SHIA	22.0	21.0	0.5	1.4	▲370(手内-X面)、X面
212.162	A14	解體	-	SHIA	20.6	13.0	0.7	2.7	▲370(手内-X面)、X面
212.163	A14	解體	-	SHIA	24.4	16.9	0.5	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.164	A14	解體	-	SHIA	7.5	18.1	0.5	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.165	A14	解體	-	SHIA	8.7	14.2	0.5	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.166	A14	解體	-	SHIA	11.4	11.1	0.5	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.167	A14	解體	-	SHIA	16.7	11.1	0.5	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.168	A14	解體	-	SHIA	12.9	26.4	1.2	2.1	▲368(手内-X面)、X面
212.169	A14	解體	-	SHIA	18.9	14.4	0.5	2.9	▲368(手内-X面)、X面

第47表 第I文化層第14エリア出土石器観察表(2)

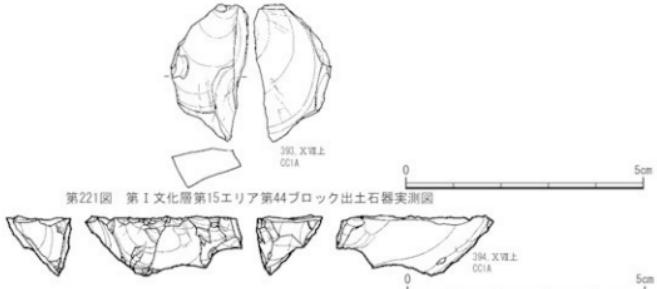
品番	形態	分類1	分類2	長軸	横軸	厚さ	重さ	取扱い	備考
212.170	A14	SHIA	解體	SHIA	17.8	24.7	4.1	0	▲369(手内-X面)、X面
212.180	A14	解體	-	SHIA	20.4	20.4	0.5	10.2	▲369(手内-X面)、X面
212.181	A14	解體	-	SHIA	22.4	29.7	0.5	6.6	▲369(手内-X面)、X面
212.182	A14	解體	-	SHIA	24.5	24.5	0.5	1.1	▲369(手内-X面)、X面
212.183	A14	解體	-	SHIA	27.7	23.9	0.4	7.7	▲369(手内-X面)、X面
212.184	A14	解體	-	SHIA	27.2	2.6	0.1	5.0	▲371(手内-X面)、X面
212.185	A14	解體	-	SHIA	25.4	27.2	0.9	4.3	▲369(手内-X面)、X面
212.186	A14	解體	-	SHIA	26.7	20.2	0.5	10.2	▲369(手内-X面)、X面
212.187	A14	解體	-	SHIA	26.9	20.2	0.4	7.5	▲369(手内-X面)、X面
212.188	A14	解體	-	SHIA	25.2	26.2	0.2	2.1	▲369(手内-X面)、X面
212.189	A14	石核	-	SHIA	24.7	25.2	1.7	17.6	▲369(手内-X面)、X面
212.190	A14	石核	-	SHIA	26.6	42.4	11.5	22	▲369(手内-X面)、X面
212.191	A14	石核	-	SHIA	40.5	41.6	25.4	91.7	▲369(手内-X面)、X面
212.192	A14	石核	-	SHIA	31.0	41.4	30.7	20	▲369(手内-X面)、X面



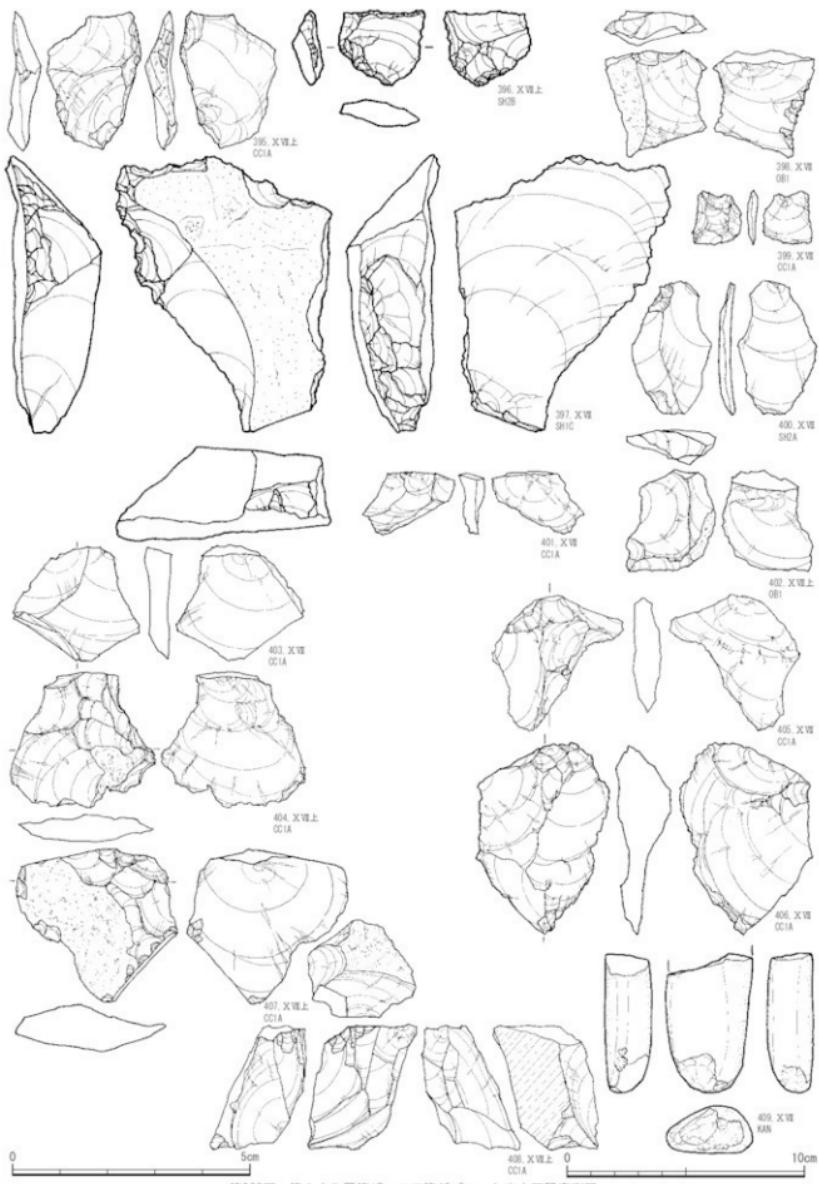
第219図 第I文化層第14エリア第43ブロック出土石器実測図



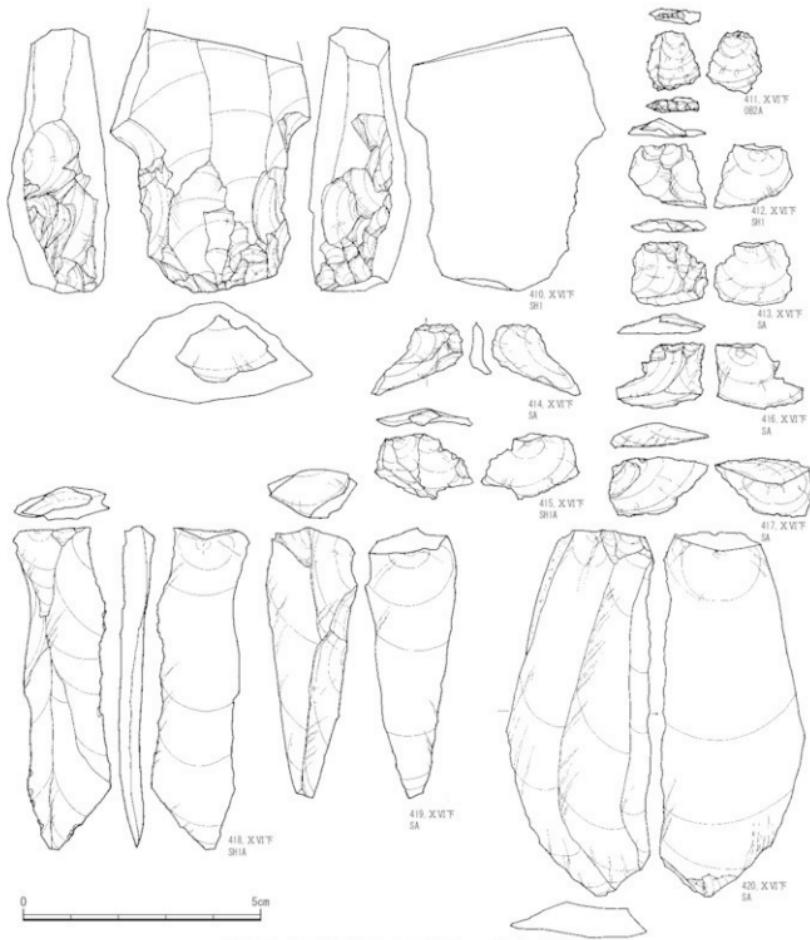
第220図 第I文化層第15エリア石器出土状況図



www.ijerpi.org



第223図 第I文化層第15エリア第46ブロック出土石器実測図



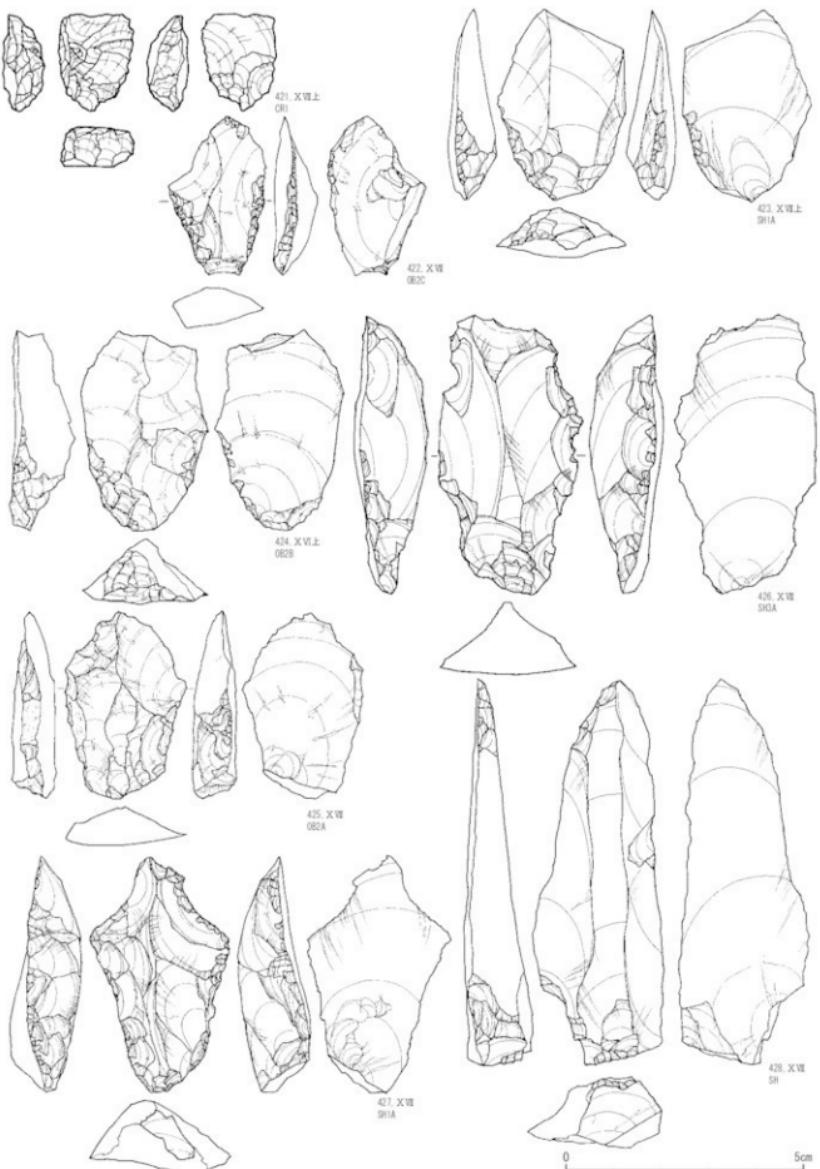
第224図 第I文化層第15エリア第47ブロック出土石器実測図

第48表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(1)

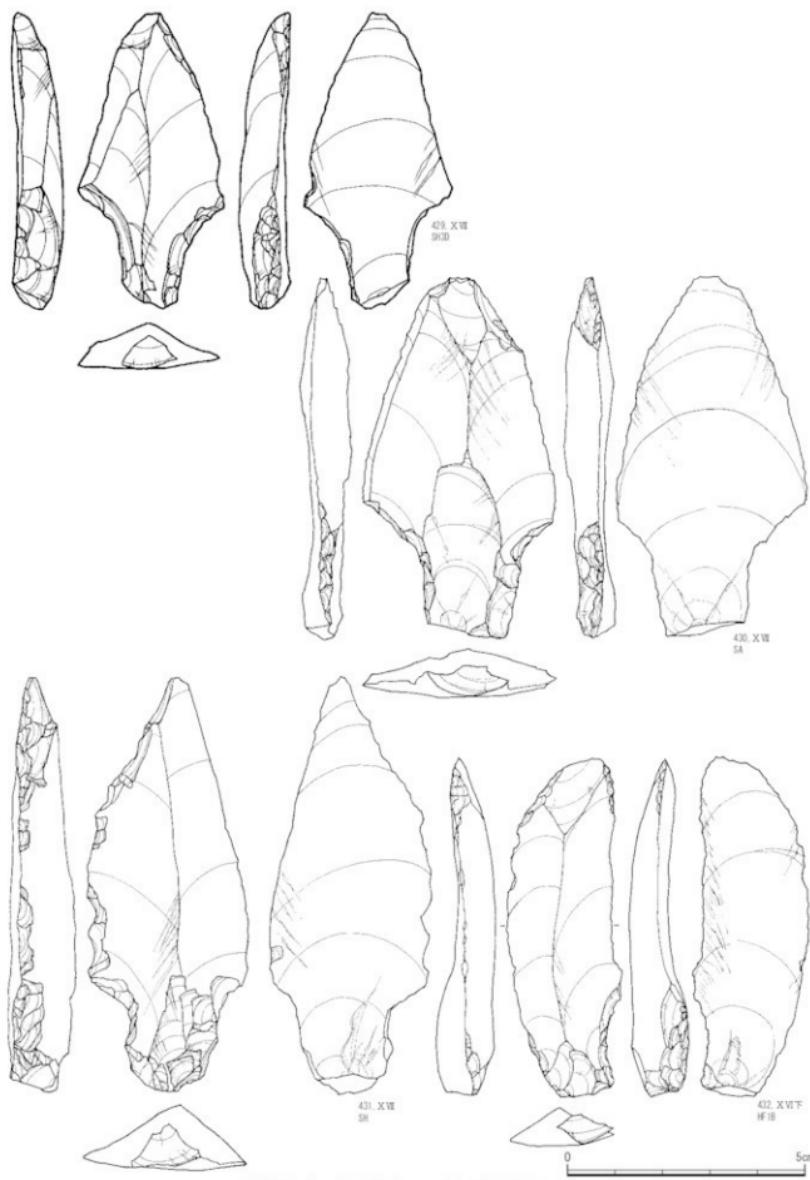
品番	形態	寸法	分類	形態	寸法	重さ	厚さ	断面	基盤
221 150 A15 844	flakes	OCIA	26.5 16.5 4.5	3.7	▲ 404-9-8-XVII下	-	-	-	-
222 154 A15 845	flakes	OCIB	13.0 32.2 14.3	4.3	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
223 155 A15 846	台形石器	OCIA	29.4 20.6 7.7	2.3	▲ 404-9-7-XVII上	No. 39	-	-	-
224 156 A15 847	台形石器	SBP	16.4 18.3 7.9	1.3	▲ 404-9-7-XVII上	-	-	-	-
225 157 A15 848	砕片	SVC	58.7 45.6 22.0	42.5	▲ 407-9-7-XVII上	No. 15	-	-	-
226 158 A15 849	砕片	SBP	23.0 21.6 7.6	2.4	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
227 159 A15 850	砕片	OCIA	11.4 18.6 2.5	0.2	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
228 160 A15 851	砕片	SBP	28.5 16.5 7.5	1.0	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
229 161 A15 852	砕片	OCIA	12.5 18.2 3.8	0.5	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
230 162 A15 853	砕片	OCIA	21.5 19.4 7.7	2.6	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
231 163 A15 854	砕片	OCIA	24.7 18.2 6.8	3.7	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-
232 164 A15 855	砕片	OCIA	28.8 30.6 7.9	4.7	▲ 407-9-7-XVII上	-	-	-	-

第49表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(2)

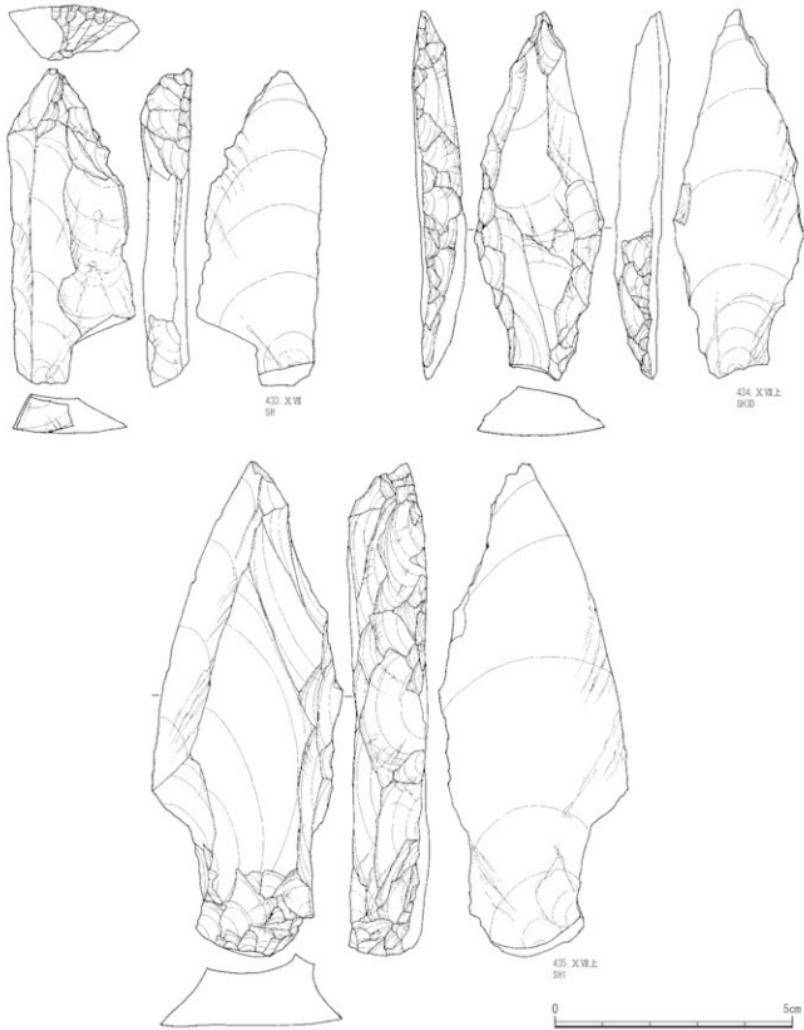
品番	形態	寸法	分類	形態	寸法	重さ	厚さ	断面	基盤
233 455 A15 846	flakes	-	-	-	2214	29.5	27.7	4.7	3.3
234 456 A15 847	flakes	-	-	-	2214	40.0	39.2	12.5	9.3
235 457 A15 848	flakes	-	-	-	2214	22.0	24.2	3.9	7.1
236 458 A15 849	砕片	-	-	-	2214	26.5	22.4	20.9	7.1
237 459 A15 850	ハンマー	-	-	-	2214	38.5	37.2	20.9	36.6
238 460 A15 851	砕片	-	-	-	2214	35.0	34.4	2.1	14.4
239 461 A15 852	二次加工石片	-	-	-	2214	13.5	9.9	2.3	6.6
240 462 A15 853	砕片	-	-	-	2214	29.0	14.5	4.2	6.6
241 463 A15 854	砕片	-	-	-	2214	14.0	14.8	2.3	6.6
242 464 A15 855	砕片	-	-	-	2214	15.2	15.9	2.3	6.6
243 465 A15 856	砕片	-	-	-	2214	14.2	21.0	4.0	6.7
244 466 A15 857	砕片	-	-	-	2214	14.2	18.7	4.3	6.7



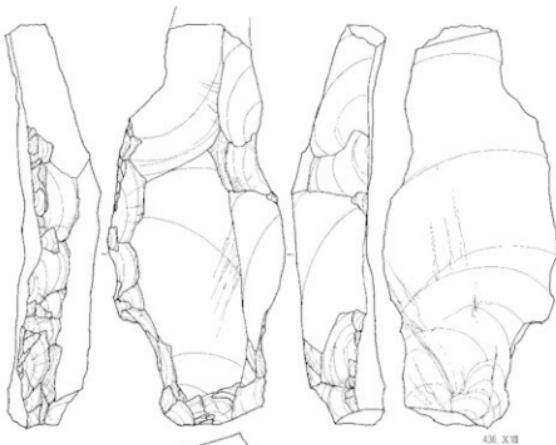
第225図 第1文化層第15エリア出土石器実測図（1）



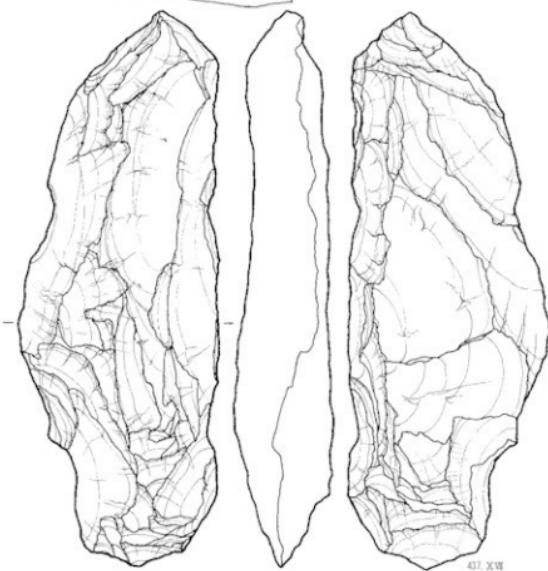
第226図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(2)



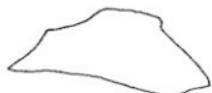
第227図 第I文化層第15エリア出土石器実測図（3）



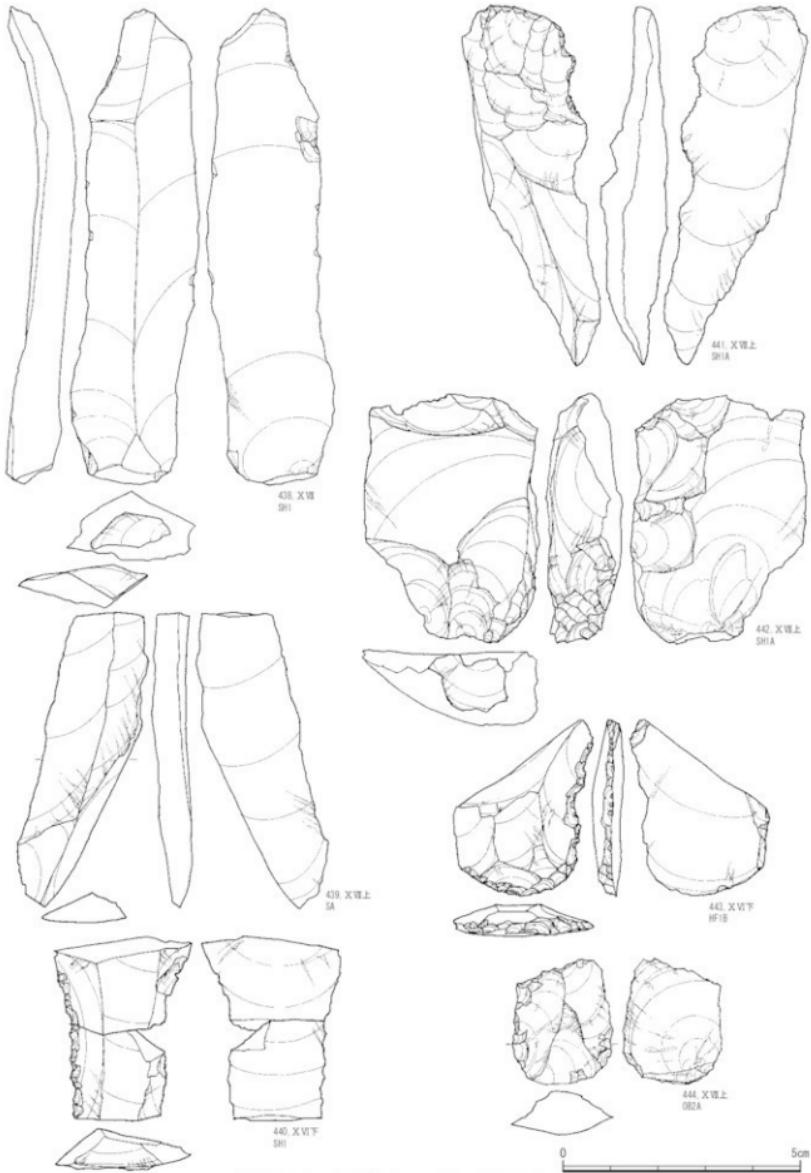
437-XVII
5H1



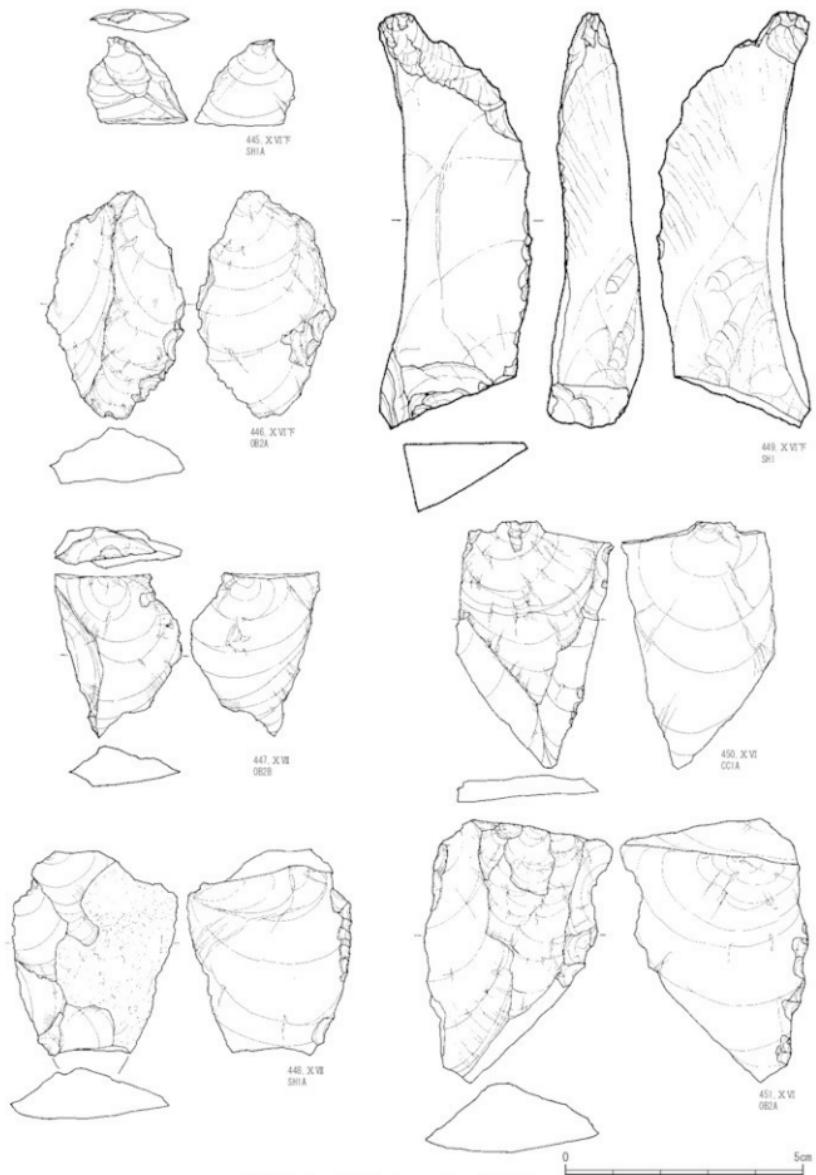
437-XVII
5H1



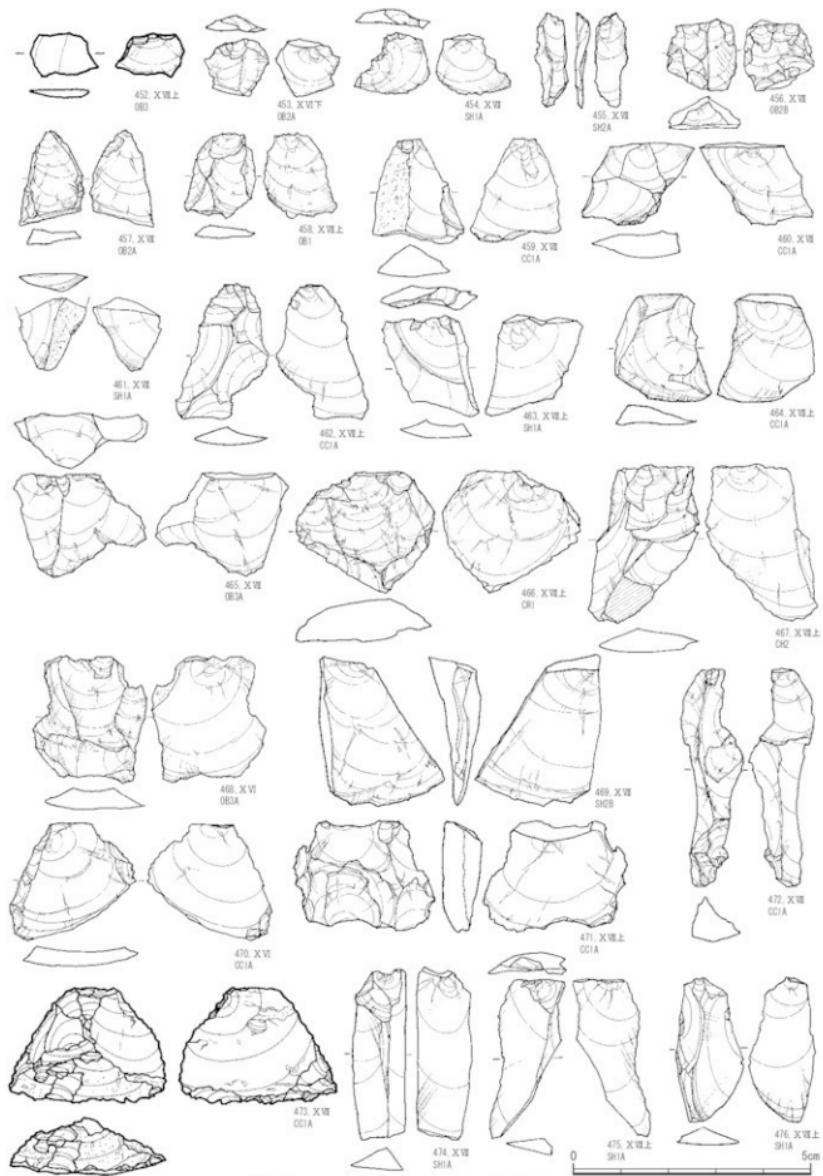
第228図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(4)



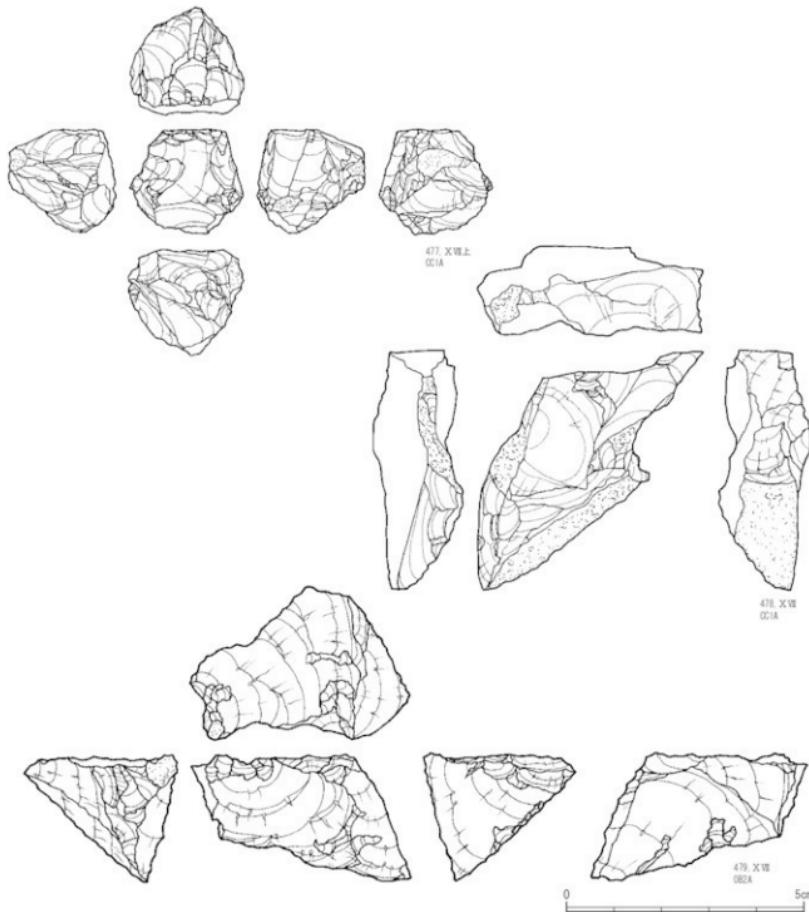
第229図 第I文化層第15エリア出土石器実測図（5）



第230図 第I文化層第15エリア出土石器実測図（6）



第231図 第I文化層第15エリア出土石器実測図（7）



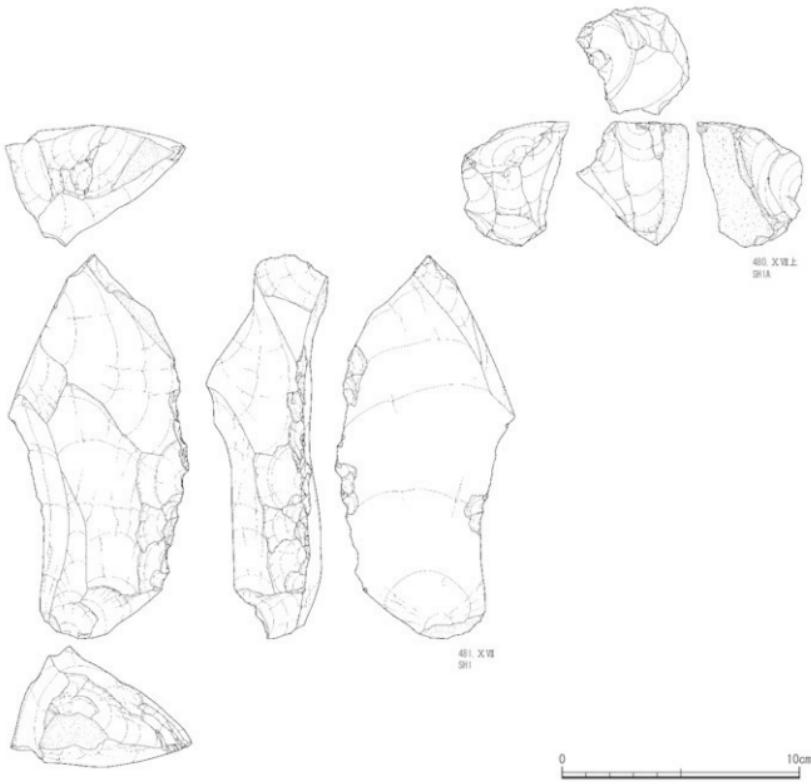
第232図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(8)

第50表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(3)

石器番号	石器名	分類	石材	表面名	裏面名	厚さ	重量	加工記	埋位置	結合形
224-417	A15-847	刮削	-	SA	12.8	21.1	3.5	0.7	▲480(9-7-XVII)	-
224-418	A15-847	縦長削片	-	SMA	68.2	20.9	6.1	7.7	▲480(9-7-XVII)	-
224-419	A15-847	縦長削片	-	SA	57.2	19.4	10.5	8.5	▲480(9-7-XVII)	-
224-420	A15-847	縦長削片	-	SA	77.2	30.6	-	25.2	▲480(9-7-XVII)	-
225-421	A15-850	台形石器	CB	20.8	16.2	5.9	2.1	▲481(9-8-XVI上)	-	
225-422	A15-850	台形石器	OSB	23.8	21.7	5.5	-	▲481(9-8-XVI)	-	
225-423	A15-850	ナイフ形石器	SMA	40.7	27.4	5.7	9.2	▲482(9-8-XVI)	No.38	
225-424	A15-850	ナイフ形石器	OSB	42.6	27.4	5.0	10.9	▲482(9-8-XVI)	-	
225-425	A15-850	ナイフ形石器	OSB	28.2	25.1	5.6	8.1	▲424(10-8-XIV)	-	
225-426	A15-850	ナイフ形石器	SMA	58.7	30.1	10.0	21.2	▲421(10-8-XIV)	-	
225-427	A15-850	削器	重板状	SMA	50.4	30.4	15.8	10.2	▲423(9-8-XIV)	-
225-428	A15-850	剥片尖頭器	-	SA	81.6	27.7	14.8	26.8	▲427(9-7-XVII)	-
225-429	A15-850	剥片尖頭器	-	SMD	62.9	31.6	11.4	16.7	▲428(9-8-XIV)	-
225-430	A15-850	剥片尖頭器	-	SA	76.1	40.5	11.3	22.5	▲427(9-7-XVII)	-

第51表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(4)

石器番号	石器名	分類	石材	表面名	裏面名	厚さ	重量	加工記	埋位置	結合形
226-431	A15-852	對片尖頭器	-	SA	38.4	24.4	14.5	34.4	▲425(9-7-XIV)	-
226-432	A15-852	ナイフ形石器	-	OSB	72.0	24.7	12.7	15.5	▲426(9-7-XVII)	-
227-431	A15-852	對片尖頭器	-	SA	38.6	27.6	11.9	25.5	▲425(9-7-XIV)	-
227-432	A15-852	對片尖頭器	-	OSB	31.1	27.8	11.6	25.5	▲421(9-7-XVII)	-
227-433	A15-852	對片尖頭器	-	SA	59.4	40.6	17.6	82.1	▲422(9-7-XVII)	-
228-436	A15-852	對片尖頭器	-	SA	35.2	37.2	20.5	32.4	▲427(9-7-XVII)	-
229-437	A15-852	對片尖頭器	-	SA	18.1	42.1	21.5	94.1	▲426(9-7-XVII)	-
229-438	A15-852	縦長削片	-	SA	38.0	27.2	14.9	22.1	▲418(9-7-XVII)	-
229-439	A15-852	縦長削片	-	SA	42.8	28.1	9.4	8.6	▲421(9-7-XVII)	-
229-440	A15-852	削器	重板狀	SA	39.2	29.6	9.6	8.1	▲439(9-7-XVII)	-
229-441	A15-852	縦長削片	-	SMA	75.6	30.5	14.4	12.1	▲423(9-7-XVII)	-
229-442	A15-852	削器	-	SMA	32.6	27.2	16.2	23.1	▲424(9-8-XIV)	-
229-443	A15-852	削器	-	OSB	31.4	29.6	7.1	6.4	▲439(9-7-XVII)	-



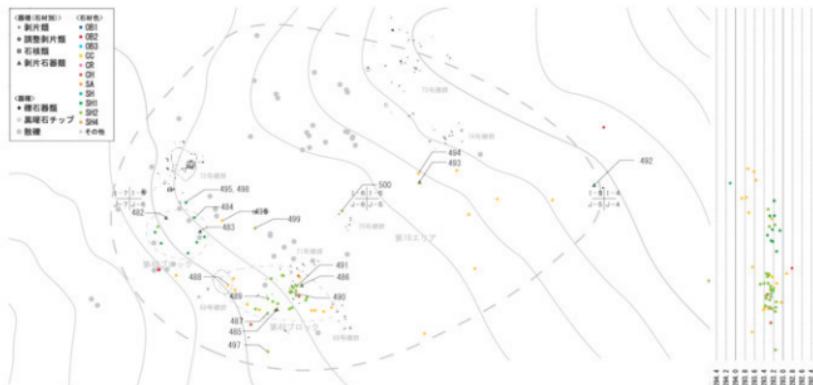
第233図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(9)

第52表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(5)

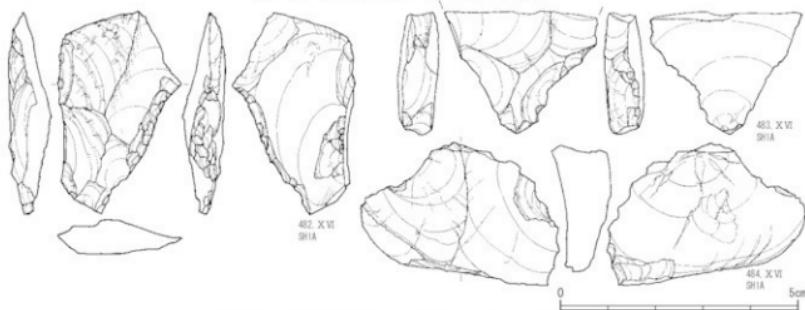
石種	石形	分類	石刃	基底	側面	厚さ	側面	第3側面	頂部	備考
石英	手斧	-	0118	20.3	21.0	0.4	▲	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0118	19.5	21.3	5.1	1.2	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	二次加工剥離片	0118	40.7	36.9	14.2	1.8	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	20.0	27.3	9.5	5.9	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	43.6	36.9	17.1	4.4	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0118	33.2	32.7	20.6	4.4	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0118	53.5	30.0	17.4	4.4	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0118	53.8	26.8	18.2	2.0	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0118	8.7	4.9	3.6	0.7	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	12.4	13.6	2.8	0.3	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	13.7	15.5	4.2	0.3	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	20.2	17.2	3.4	0.2	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	25.7	15.9	7.0	1.5	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	26.7	12.5	5.4	1.9	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	29.3	13.2	7.7	0.7	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	32.1	18.2	7.1	0.7	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	37.6	24.0	5.0	1.6	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	39.9	14.7	4.0	0.6	▲	▲	(手斧) [手斧下]
石英	手斧	-	0118	20.7	18.6	4.2	1.4	▲	▲	(手斧) [手斧下]

第53表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(6)

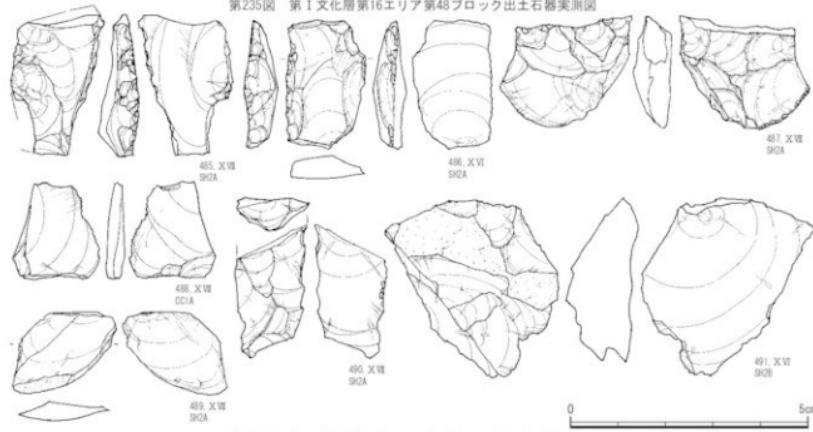
石種	石形	分類	石刃	基底	側面	厚さ	側面	第3側面	頂部	備考
石英	手斧	-	0119	21.6	20.0	1.2	1.3	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	22.0	20.7	7.5	2.2	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	22.1	28.3	9.0	4.4	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	26.0	29.3	9.9	6.7	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	33.4	23.9	9.4	3.1	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	26.9	24.2	5.7	2.1	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	32.3	36.9	1.3	6.1	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	24.8	36.5	4.9	3.3	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	23.7	30.5	8.7	3.5	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	46.4	14.1	9.9	2.1	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	25.0	30.7	7.5	1.8	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0119	36.7	0.0	5.5	2.1	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0119	33.6	16.5	4.8	1.8	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	单面瓣槽剥離片	0119	36.9	14.2	4.3	1.7	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	22.4	24.7	22.7	10.9	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	50.6	61.0	9.3	26.2	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	27.1	46.7	22.8	22.6	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	-	0119	52.7	47.3	45.6	39.9	▲	▲	(手斧) [手斧上]
石英	手斧	二次加工剥離片	0119	102.1	76.1	57.4	40.5	▲	▲	(手斧) [手斧上]



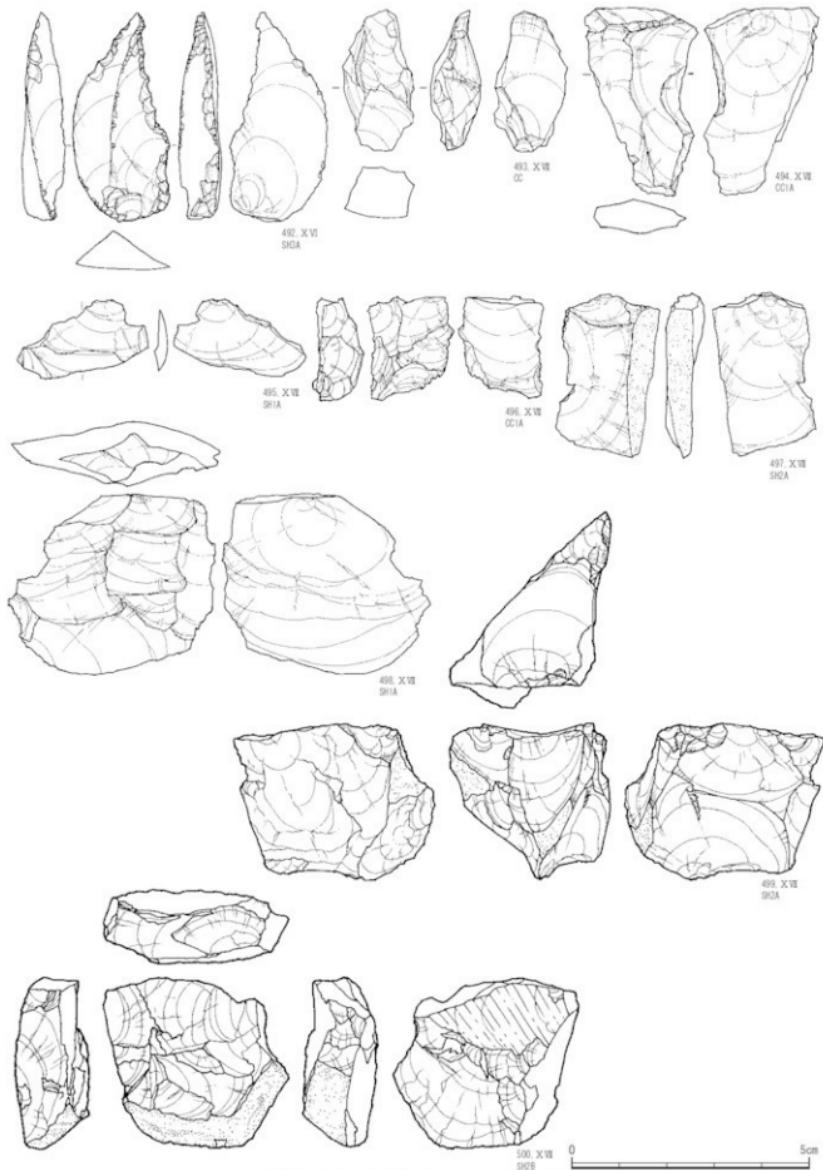
第234図 第Ⅰ文化層第16エリア石器出土状況図



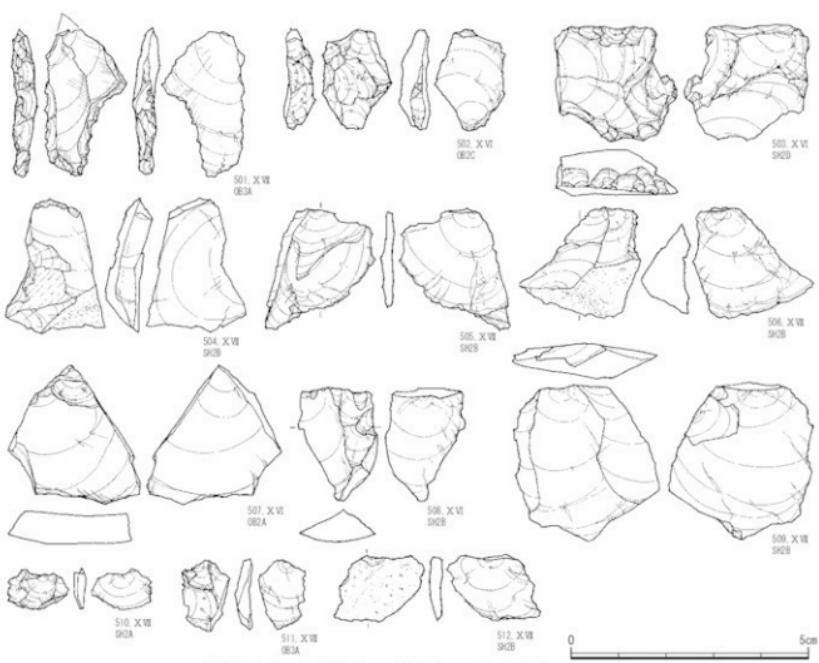
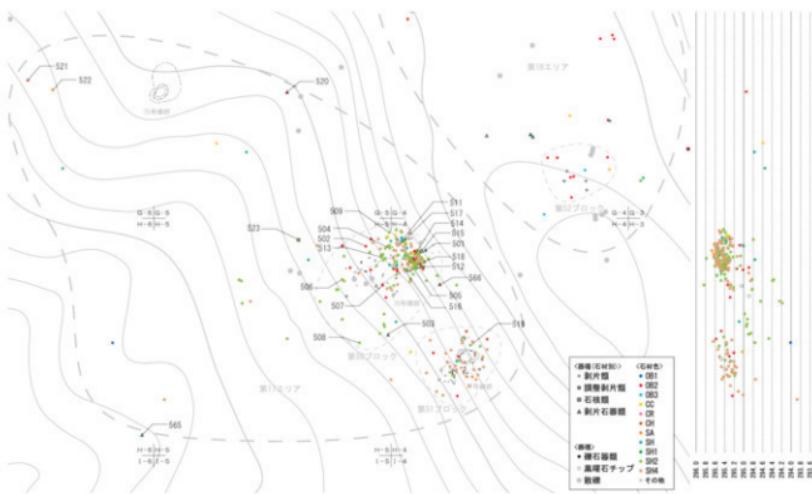
第235図 第Ⅰ文化層第16エリア第48ブロック出土石器実測図

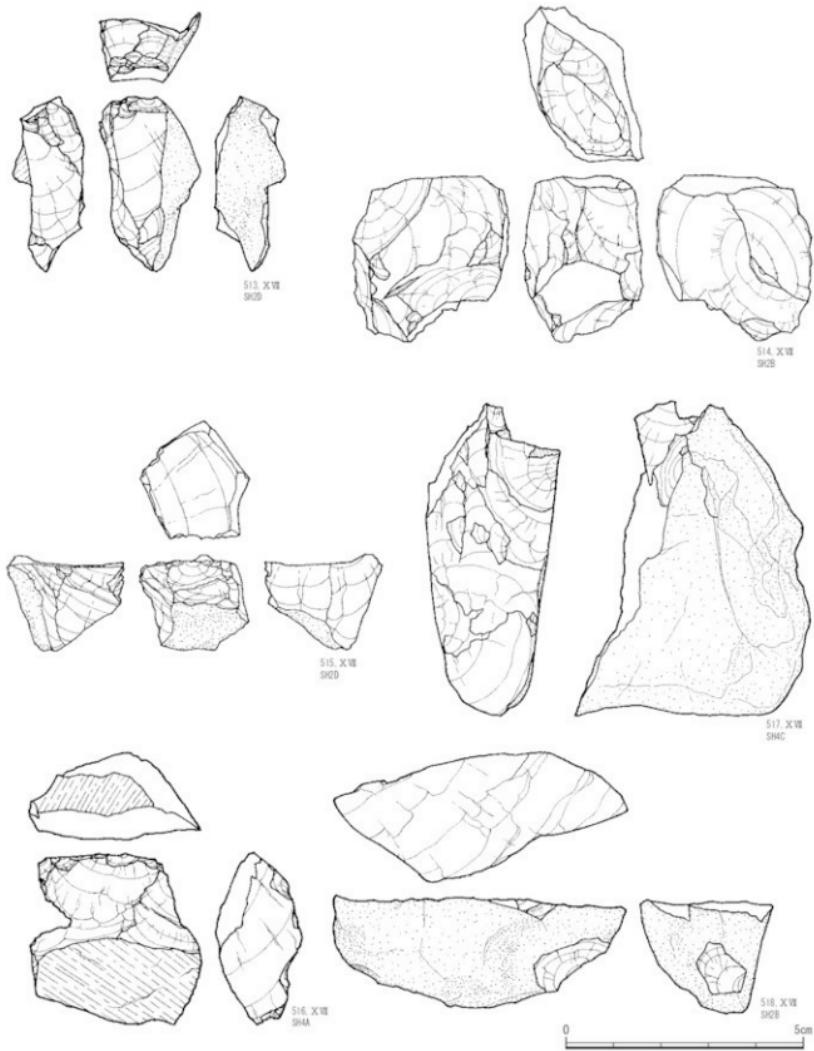


第236図 第1文化層第16エリア第49ブロック出土石器案測図



第237図 第Ⅰ文化層第16エリア出土石器実測図

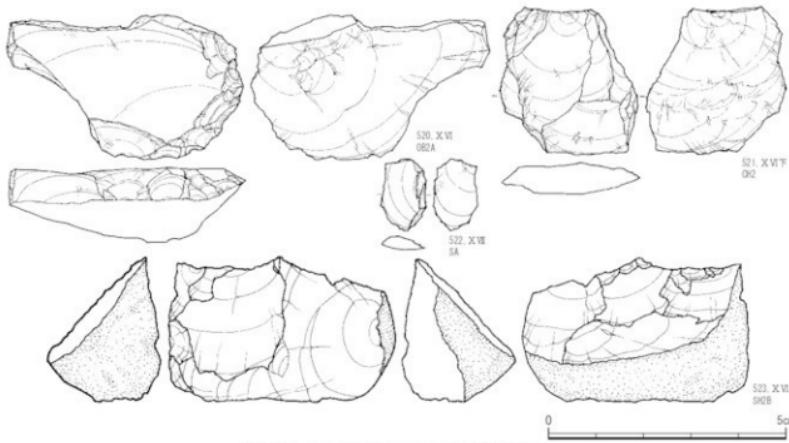




第240図 第I文化層第17エリア第50ブロック出土石器実測図（2）



第241図 第I文化層第17エリア第51ブロック出土石器実測図



第242図 第I文化層第17エリア出土石器実測図

第54表 第I文化層第16~19エリア出土石器観察表(1)

番号	品目	形態	分類2	分類3	石種	大きさ	厚さ	重量	加工記	発見場所	集合名
225	A10	石刀	台形石刀	-	SHKA	42.0	26.1	3.2	8.1	▲(2011-I-XVII)	No. 44
226	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	26.0	12.0	8.9	3.1	▲(2011-I-XVII)	-
227	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	30.2	12.0	10.6	1.7	▲(2011-I-XVII)	-
228	A10	石刀	台形石刀	-	SHKA	28.9	12.0	7.9	3.1	▲(2011-I-XVII)	-
229	A10	石刀	台形石刀	-	SHKA	27.5	17.0	7.4	3.1	▲(2011-I-XVII)	-
230	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	24.3	27.0	8.4	3.1	▲(2011-I-XVII)	No. 43
231	A10	石刀	直角石刀	-	CCIA	20.7	18.0	14.2	3.1	▲(2011-I-XVII)	-
232	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	17.8	22.5	4.5	3.1	▲(2011-I-XVII)	No. 43
233	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	28.5	15.5	7.4	2.1	▲(2011-I-XVII)	-
234	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	37.9	36.7	16.1	1.5	▲(2011-I-XVII)	-
235	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	44.4	20.0	3.4	3.1	▲(2011-I-XVII)	-
236	A10	石刀	直角石刀	-	CCIA	29.9	17.1	8.1	4.2	▲(2011-I-XVII)	-
237	A10	石刀	直角石刀	-	CCIA	38.0	24.5	3.1	5.4	▲(2011-I-XVII)	-
238	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	16.6	28.1	2.7	3.1	▲(2011-I-XVII)	No. 44
239	A10	石刀	直角石刀	-	CCIA	21.9	18.2	2.1	2.4	▲(2011-I-XVII)	-
240	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	34.8	22.0	5.0	4.3	▲(2011-I-XVII)	-
241	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	38.4	44.2	14.0	15.9	▲(2011-I-XVII)	-
242	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	33.4	34.2	4.1	2.9	▲(2011-I-XVII)	No. 43
243	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	36.4	39.3	2.0	2.5	▲(2011-I-XVII)	-
244	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	30.9	17.1	5.7	2.4	▲(2011-I-XVII)	-
245	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	21.7	15.7	7.0	1.5	▲(2011-I-XVII)	-
246	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	24.7	26.5	5.0	5.1	▲(2011-I-XVII)	No. 42
247	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	28.6	17.2	10.0	2.1	▲(2011-I-XVII)	-
248	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	26.9	20.5	4.9	1.8	▲(2011-I-XVII)	-
249	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	23.7	27.5	9.5	2.7	▲(2011-I-XVII)	-
250	A10	石刀	直角石刀	-	SHKA	26.7	38.1	7.4	3.9	▲(2011-I-XVII)	No. 40

第55表 第I文化層第16~19エリア出土石器観察表(2)

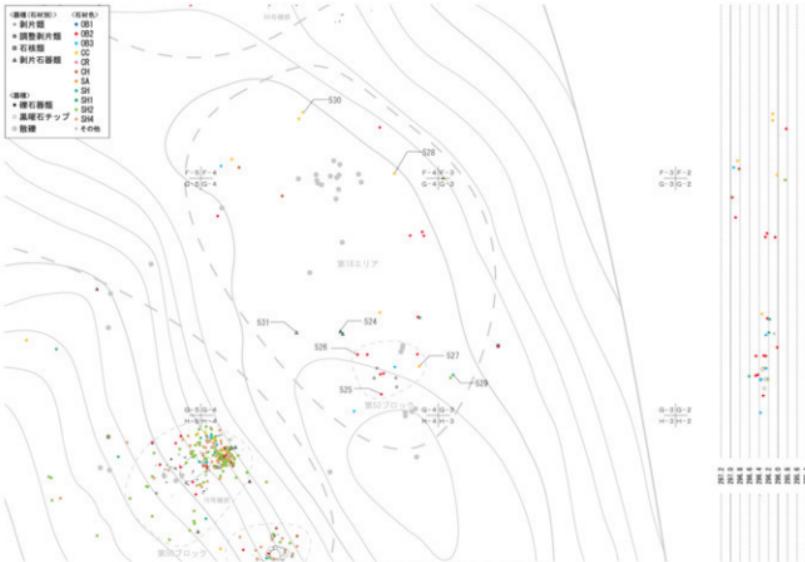
番号	品目	形態	分類2	分類3	石種	大きさ	厚さ	重量	加工記	発見場所	集合名
251	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	24.1	17.1	7.3	2.1	▲(2011-I-XVII)	-
252	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	30.5	30.8	7.7	6.7	▲(2011-I-XVII)	No. 42
253	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	8.8	12.9	2.7	0.2	▲(2011-I-XVII)	No. 20
254	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	14.8	10.0	4.3	0.4	▲(2011-I-XVII)	-
255	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	14.2	20.1	3.4	0.8	▲(2011-I-XVII)	-
256	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	37.3	21.6	15.1	9.5	▲(2011-I-XVII)	-
257	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	35.4	25.7	23.1	1.2	▲(2011-I-XVII)	No. 41
258	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	30.4	23.0	25.2	1.2	▲(2011-I-XVII)	-
259	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	36.5	36.5	18.7	1.2	▲(2011-I-XVII)	-
260	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	36.6	49.8	26.7	9.0	▲(2011-I-XVII)	-
261	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	24.1	62.1	27.8	3.6	▲(2011-I-XVII)	-
262	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	15.7	12.5	5.8	1.2	▲(2011-I-XVII)	-
263	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	30.8	50.6	16.2	2.0	▲(2011-I-XVII)	-
264	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	31.2	29.9	7.9	6.5	▲(2011-I-XVII)	-
265	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	15.4	8.7	3.3	0.5	▲(2011-I-XVII)	-
266	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	30.8	49.1	30.9	2.2	▲(2011-I-XVII)	-
267	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	15.9	13.0	5.3	1.1	▲(2011-I-XVII)	-
268	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	19.0	15.0	9.3	2.2	▲(2011-I-XVII)	-
269	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	52.7	79.2	6.1	1.4	▲(2011-I-XVII)	-
270	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	22.4	11.0	3.1	0.4	▲(2011-I-XVII)	-
271	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	24.4	33.4	10.5	6.1	▲(2011-I-XVII)	-
272	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	38	35.0	12.8	1.0	▲(2011-I-XVII)	-
273	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	26.5	14.6	7.9	2.3	▲(2011-I-XVII)	-
274	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	40.2	55.0	14.5	2.8	▲(2011-I-XVII)	-
275	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	30.6	22.0	17.2	1.1	▲(2011-I-XVII)	-
276	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	40.2	22.5	9.3	2.4	▲(2011-I-XVII)	-
277	石刀	直角石刀	分類2	分類3	SHKA	31.2	17.0	3.6	1.1	▲(2011-I-XVII)	-

第56表 第I文化層エリア外出土石器観察表(1)

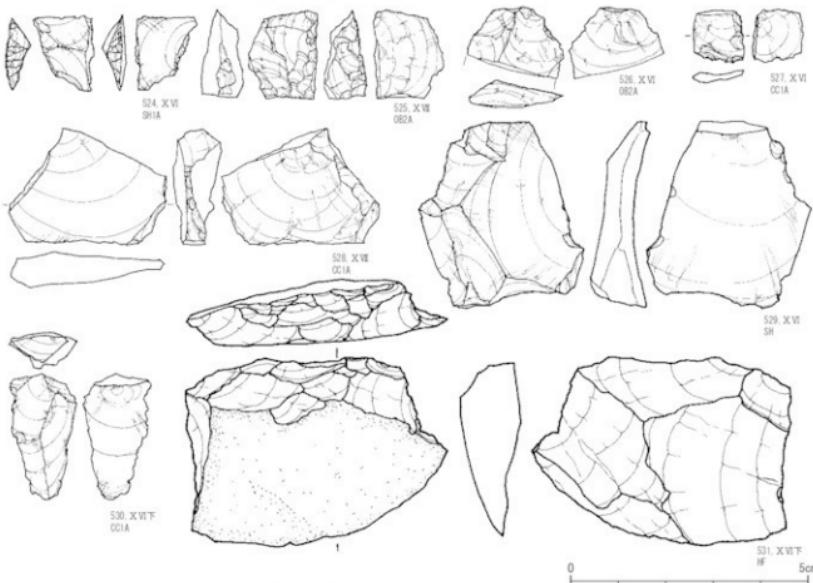
番号	品目	形態	分類2	分類3	石種	大きさ	厚さ	重量	加工記	発見場所	集合名
278	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	18.1	30.3	21.1	2.9	▲(2011-I-XVII)	-
279	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	16.7	25.7	5.1	6.5	▲(2011-I-XVII)	-
280	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	20.2	17.0	6.2	2.0	▲(2011-I-XVII)	-
281	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	18.8	15.9	4.5	4.0	▲(2011-I-XVII)	-
282	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	12	24.3	10.4	6.2	▲(2011-I-XVII)	-
283	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	24.2	15.6	5.7	2.8	▲(2011-I-XVII)	-
284	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	21.7	27.7	6.1	2.3	▲(2011-I-XVII)	-
285	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	25.6	30.0	8.2	4.2	▲(2011-I-XVII)	-
286	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	19.4	31.7	3.1	2.2	▲(2011-I-XVII)	-
287	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	22.4	27.6	6.6	2.1	▲(2011-I-XVII)	-
288	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	18.5	21.7	4.4	2.4	▲(2011-I-XVII)	-
289	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	18.6	20.5	1.0	1.1	▲(2011-I-XVII)	-
290	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	20.7	18.7	3.2	1.3	▲(2011-I-XVII)	-
291	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	41.1	34.6	11.4	16.8	▲(2011-I-XVII)	-
292	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	20.9	27.7	26	12.4	▲(2011-I-XVII)	-
293	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	20.7	29.2	11.9	7.1	▲(2011-I-XVII)	-
294	A10	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	37.7	41.5	21	38.5	▲(2011-I-XVII)	No. 40

第57表 第I文化層エリア外出土石器観察表(2)

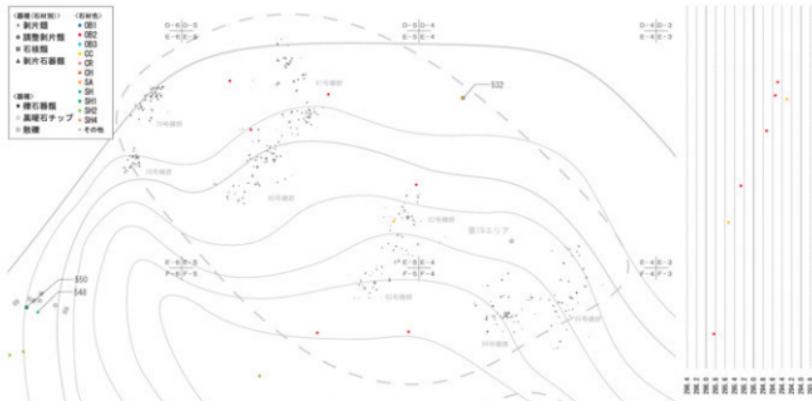
番号	品目	形態	分類2	分類3	石種	大きさ	厚さ	重量	加工記	発見場所	集合名	
295	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	24.5	24	8.2	4.8	▲(2011-I-XVII)	-	
296	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	47.2	44.5	9.7	15.1	▲(2011-I-XVII)	-	
297	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	34.1	34	18.4	8.5	▲(2011-I-XVII)	-	
298	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.2	20.0	57.9	6.5	▲(2011-I-XVII)	-	
299	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	34.6	34.7	27	8.2	▲(2011-I-XVII)	-	
300	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	42	22.5	3.7	4.4	▲(2011-I-XVII)	-	
301	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	27	29	10.5	3.0	▲(2011-I-XVII)	-	
302	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	32.0	10.4	17.4	2.0	▲(2011-I-XVII)	-	
303	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	37	42	15.8	5.4	▲(2011-I-XVII)	-	
304	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	68.4	21	12.5	12.1	▲(2011-I-XVII)	-	
305	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.1	29	10.5	12.1	▲(2011-I-XVII)	-	
306	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	49.1	38.8	19.0	2.1	▲(2011-I-XVII)	-	
307	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	32	17.0	3.6	▲(2011-I-XVII)	-	
308	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	41	21	8.4	6.1	▲(2011-I-XVII)	-	
309	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	40	23	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-	
310	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
311	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
312	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
313	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
314	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
315	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
316	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
317	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
318	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
319	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
320	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
321	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3	11.5	9.4	▲(2011-I-XVII)	-
322	石刀	直角石刀	直角石刀	-	SHKA	30.7	41	23.3</				



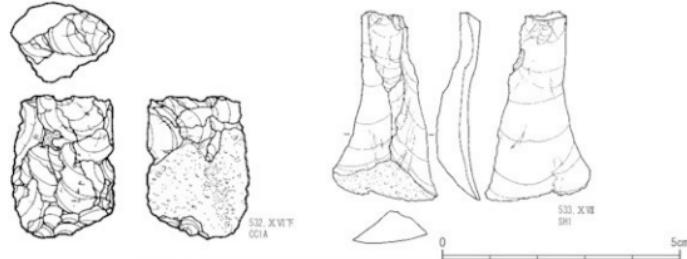
第243図 第Ⅰ文化層第18エリア石器出土状況図



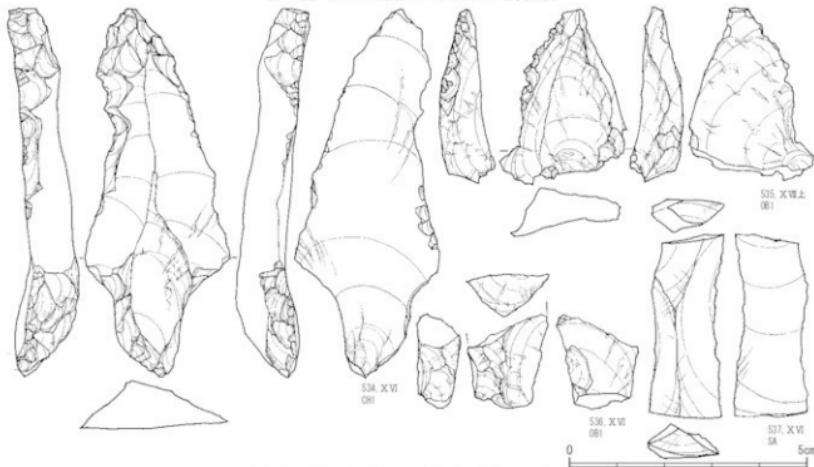
第244図 第Ⅰ文化層第18エリア出土石器実測図



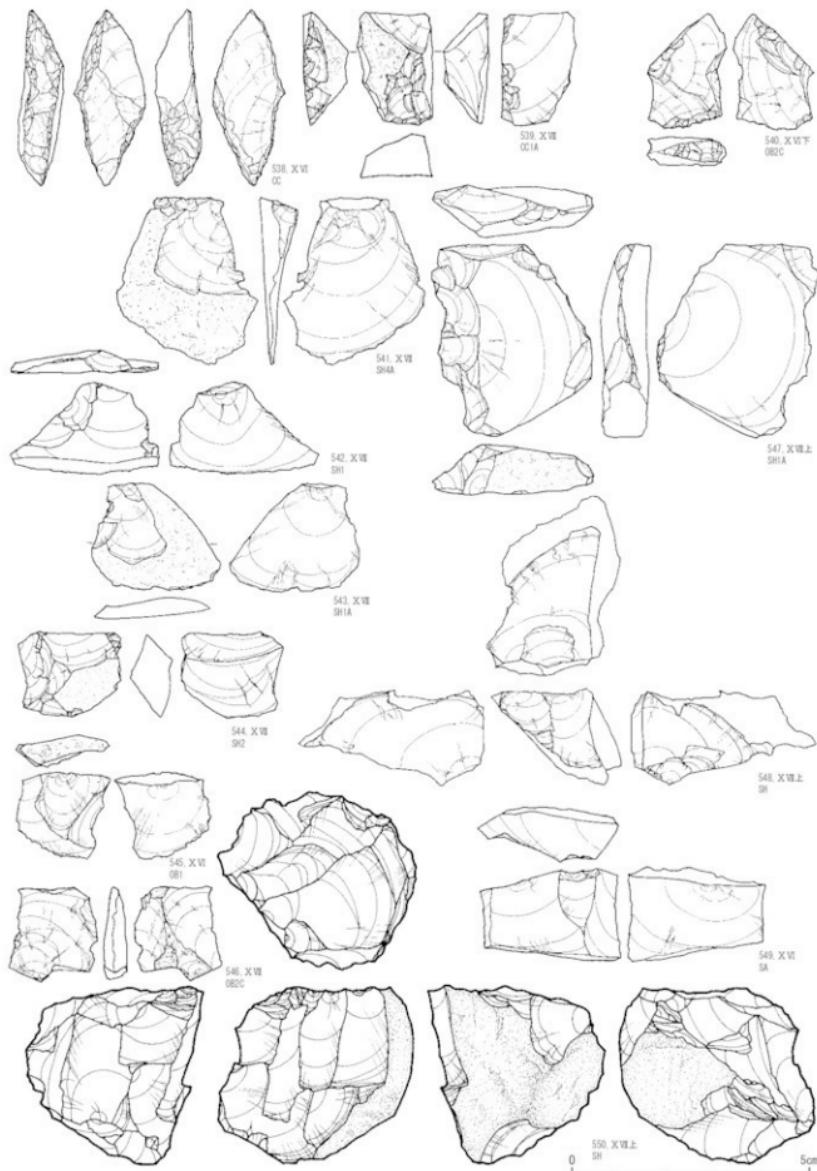
第245図 第I文化層第19エリア石器出土状況図



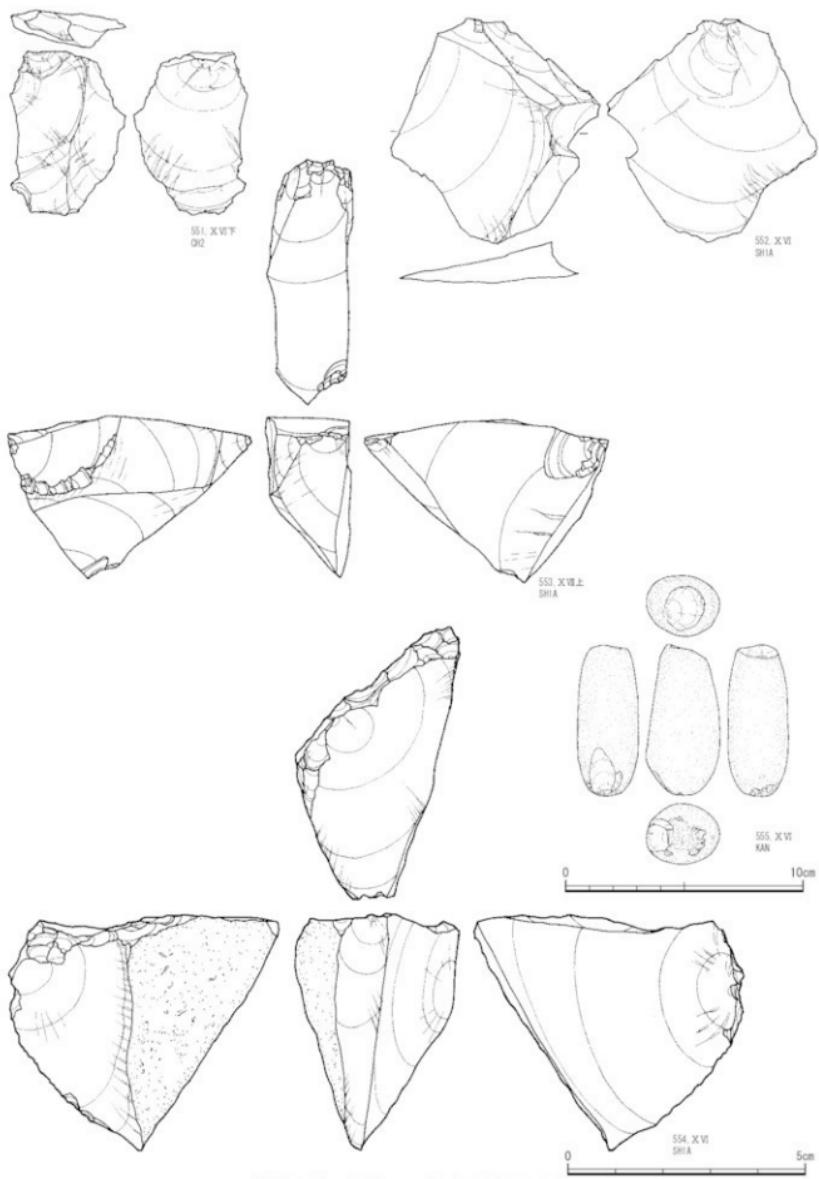
第246図 第I文化層第19エリア出土石器実測図



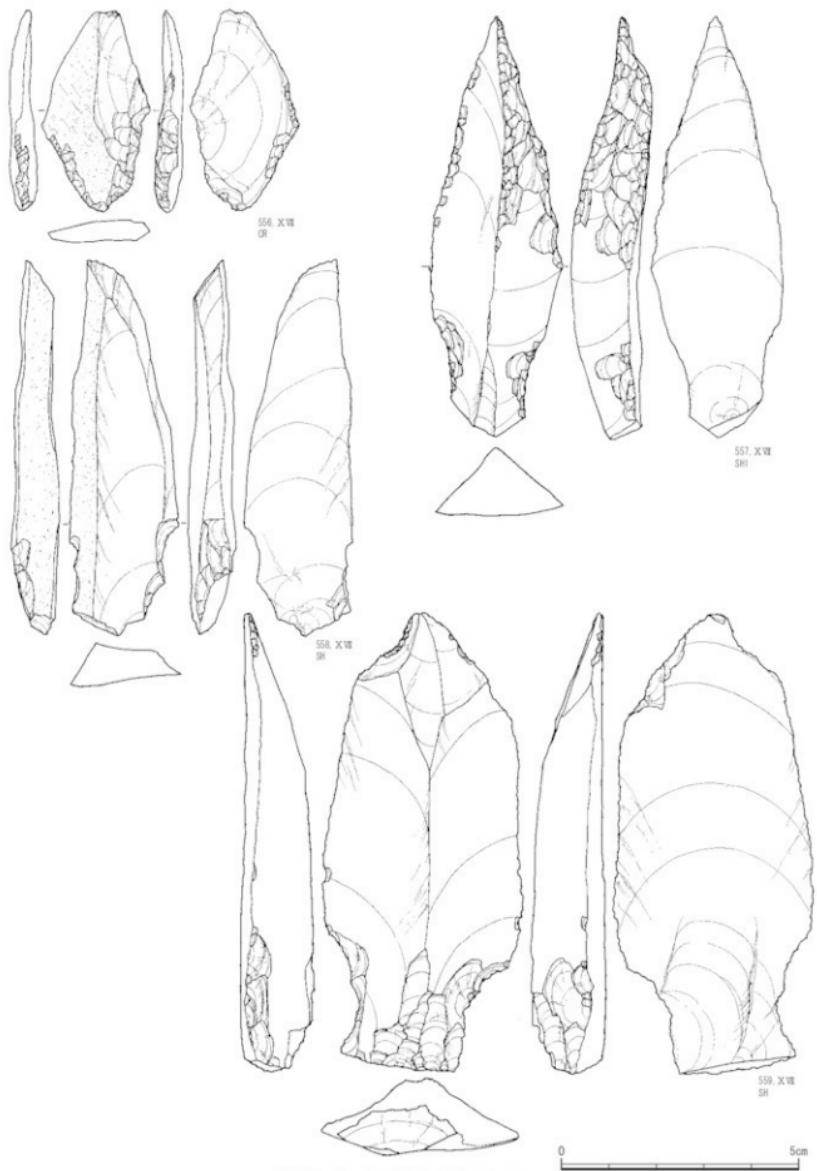
第247図 第I文化層エリア外出土石器実測図（1）



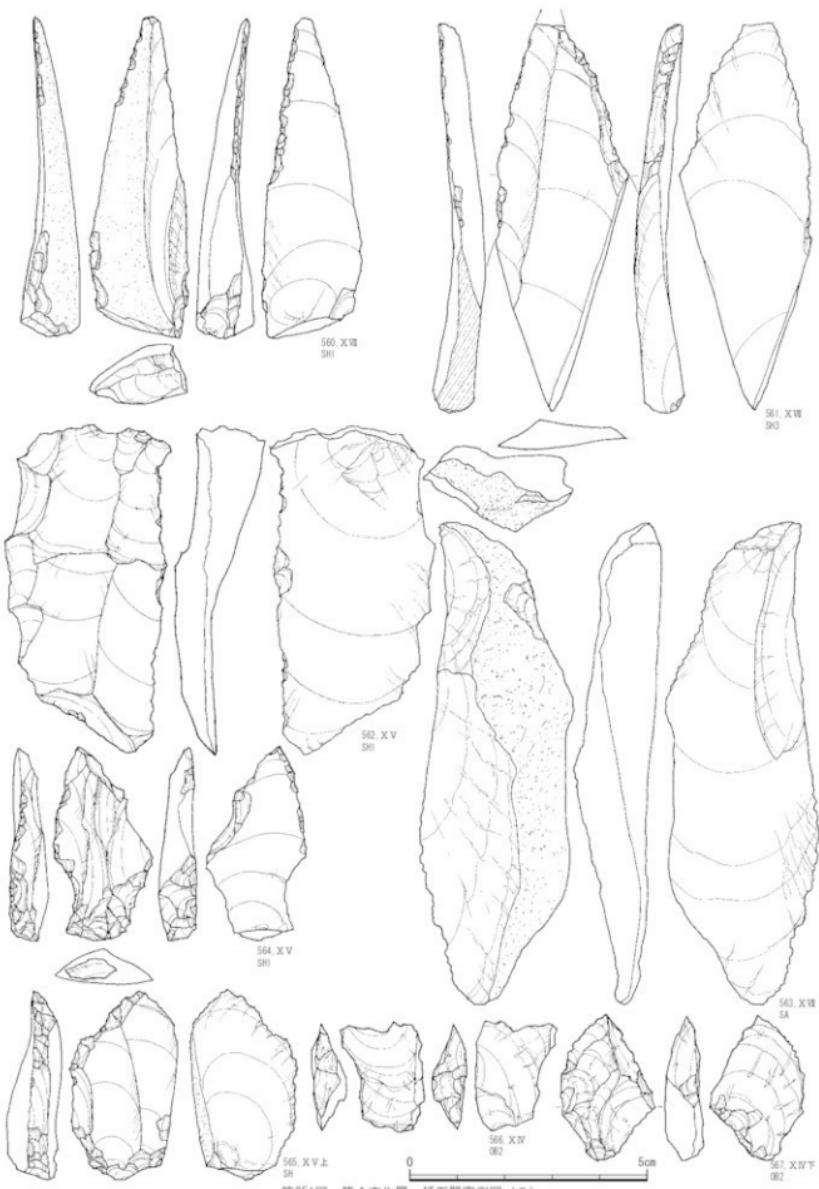
第248図 第Ⅰ文化層エリア外出土石器実測図 (2.)



第249図 第I文化層エリア外出土石器実測図（3）



第250図 第I文化層一括石器実測図 (1)



第251図 第I文化層一括石器実測図(2)

第5節 接合資料(第252図~297図)

1 石材別接合状況(第252図)

接合作業を行った結果、163個体の接合資料を確認し、剥離過程の検討可能な資料が得られた。

接合の相関関係を検証した結果、XVII層からXIV層の4層間の接合、ブロック間の接合が確認された。これらの接合関係は、同一母岩接合、破損石器接合で具体的に示している。なお、石材別接合状況は第252図に示した。

接合状況から石器の器種毎の特徴が現れている。剥片尖頭器の接合資料が乏しいのに対し、台形様石器製作を示す具体的な接合、剥片剥離工程を示す石核と剥片の接合が確認されている。取り出された剥片の多くが不定型な横広剥片で、台形様石器の素材剥片獲得を目的としたことが想定できる内容である。したがって、台形様石器を主体とした小型石器の製作資料が接合資料の大半を占めると言える。

石材は玉髓・真岩が大半を占め、黒曜石・チャートと、極少数だが水晶・砂岩がみられる。出土区域によって石器製作技術に特徴がみられるが、石材によっても限定される可能性がある。以下、石材別の分布状況を述べる。

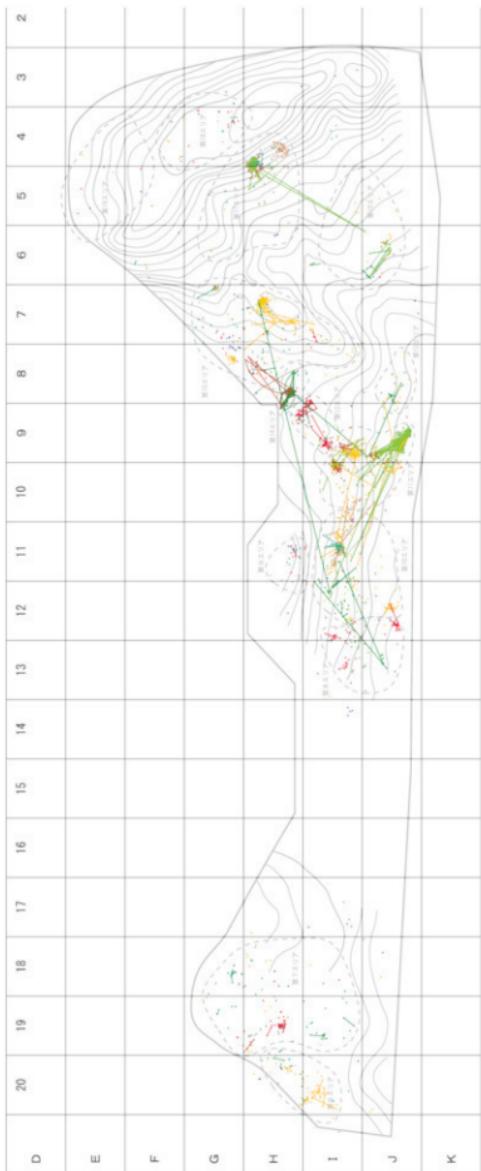
玉髓は50個の接合資料が確認されたが、接合状況はエリアによって異なる。第6エリアの第11ブロックから第13ブロック、および第7エリアの第14ブロック、第10エリアから第11エリアの第24・25・28~36ブロック、第13エリアの第40ブロック、第15エリアの第44ブロックではブロック内接合に限定される。それに対して、第15エリアでは第45ブロックと第46ブロックにおいてブロック間接合がみられる。

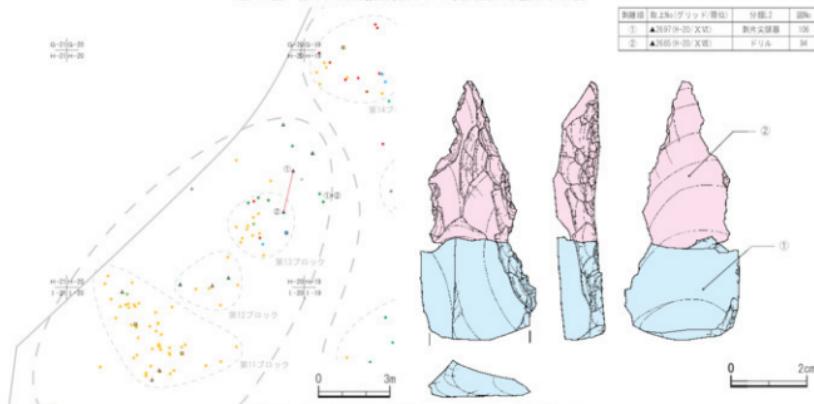
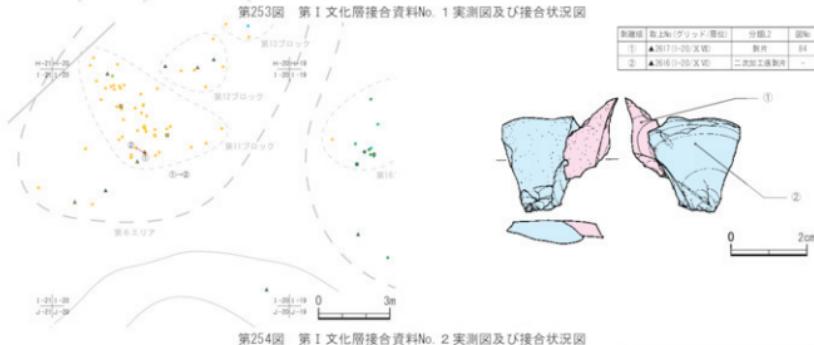
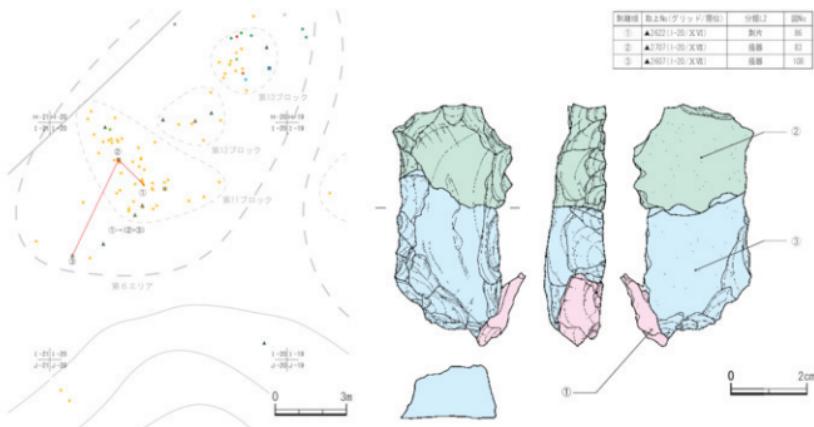
真岩はI類(硬質真岩)とII類(珪質真岩)の2種において、分布状況が大きく異なる。

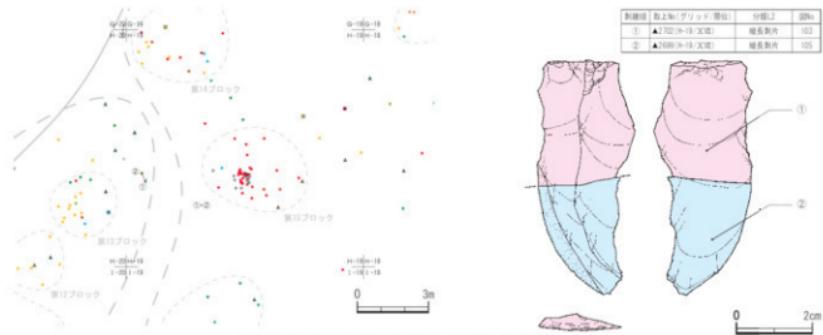
真岩I類は29個体を確認した。主に第7エリアと第16エリアに分布し、このうち第41~43ブロックでは、接合資料No.37により、ブロック間での石材移動についての関係が窺える。

真岩II類は、ブロック間の接合資料が数多く確認できた。このうち第11エリアの第34・36・37ブロック間では、同一母岩による台形様石器製作目的の接合資料が多く確認できた。

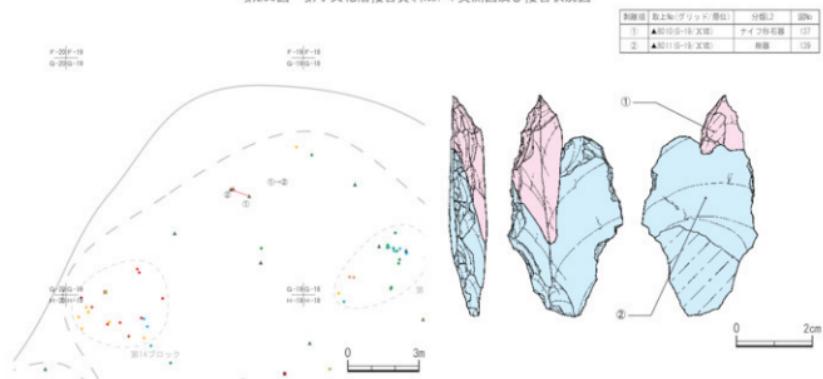
特に接合資料No.16は、2点の石核を含む30点もの接合資料であるが、資料は第34・36・37の3ブロックに分布し、同一母岩と思われる接合資料No.17もブロックを共有する。また、接合資料No.18・20・21も同じく3ブロックを共有するが、資料に含まれる台形様石器が、ともに剥離作業が行われたと思われる第36ブロックから約20m離れた第10エリアの第27・29ブロックで出土して



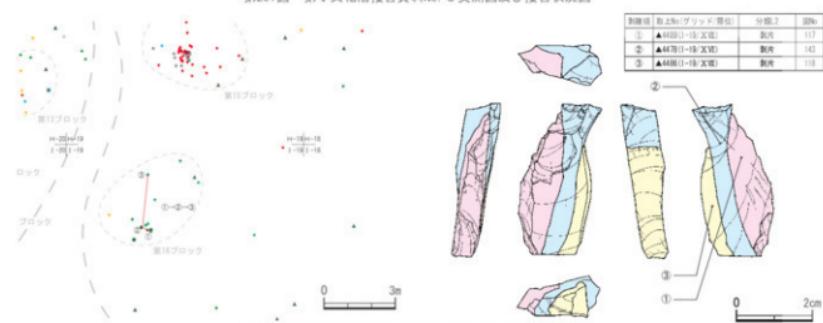




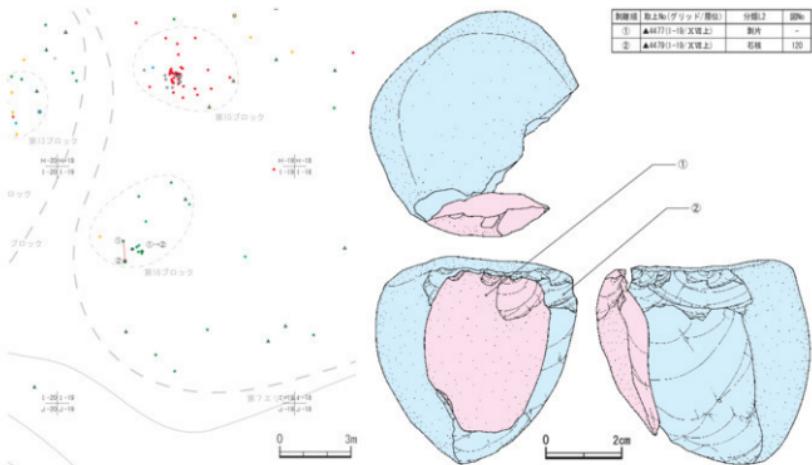
第256図 第1文化層接合資料No. 4 実測図及び接合状況図



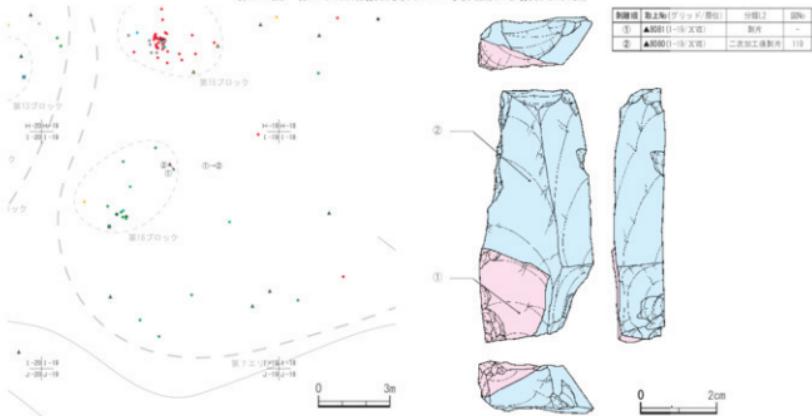
第257図 第1文化層接合資料No. 5 実測図及び接合状況図



第258図 第1文化層接合資料No. 6 実測図及び接合状況図



第259図 第I文化層接合資料No. 7 実測図及び接合状況図



第260図 第I文化層接合資料No. 8 実測図及び接合状況図

いる。

そのほか、節理に富む粗雑な頁岩が、主に耳取遺跡4・5区に第50ブロックを形成している。接合資料No. 41では縦面を打面に設定し、未調整のまま剥片剥離作業を重ねているが、個体によっては節理に沿った分割面を打面とした剥離作業が認められる。

チャートは4個体で接合を確認した。そのうち接合資料No. 36は、3カ所に渡って石材の移動がみられた。第42ブロックで剥片剥離作業が行われたと思われるが、ブロック内からの出土遺物にくらべて、比較的大きく破碎した剥片

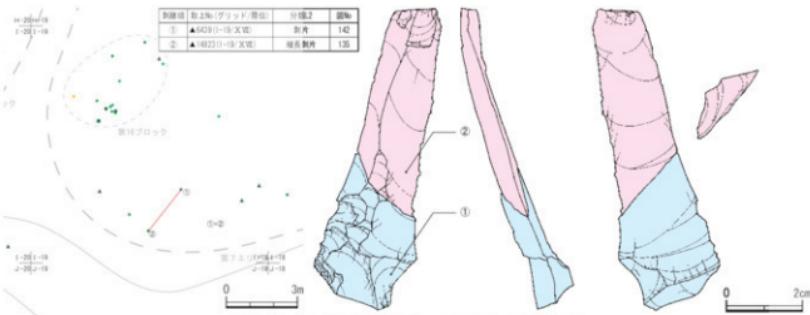
(③・④・⑧・⑪)はブロック外やエリア外から出土している。また接合資料No. 36と頁岩1類の接合資料No. 33・34・37は第41・42・43ブロックを共有している。

黒曜石は23個体の接合資料を確認した。規模の小さいブロックを形成し、石材の分布がその中で終始するため、石材の移動が極めて少ないのが特徴である。

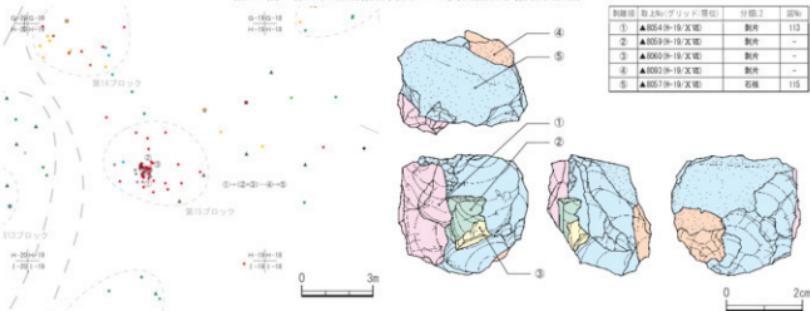
2 接合資料(第253図～第297図)

接合資料No. 1(第253図) [001A]

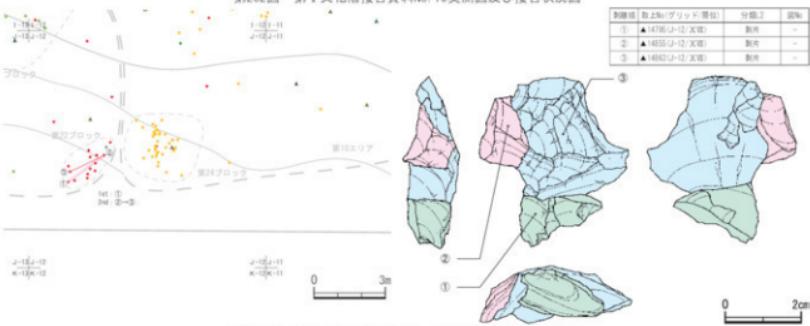
(②+③)を搔器すると①は刃形整形剥片、(②+③)を石核とすると①は剥片となる。本遺跡の事例ではこの規格の剥片



第261図 第1文化層接合資料No. 9実測図及び接合状況図



第262図 第1文化層接合資料No. 10実測図及び接合状況図



第263図 第1文化層接合資料No. 11実測図及び接合状況図

を素材とする石核は抽出しづらいことから、搔き器作出の刃部整形剥片と判断したい。②と③の破断面には流理による空洞がみられ、左側縁の剥離の際に破断したらしい。②には破断面に剥離がみられることから、再加工を試みたと思われる。

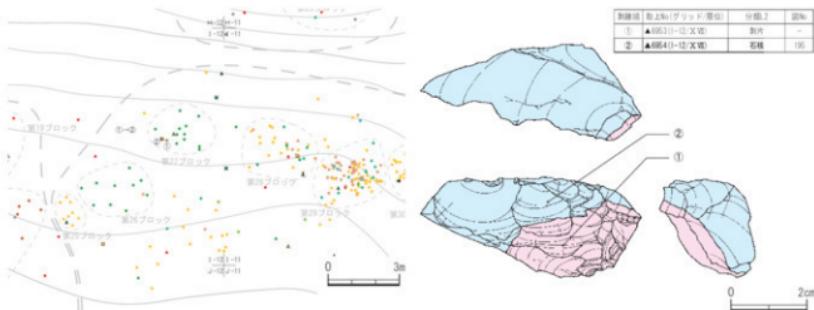
接合資料No. 2(第254図) [001A]

二次加工痕剥片と剥片の接合資料である。①は先行する剥片で二次加工痕剥片②は右側縁と基部、左側縁の一部に加工

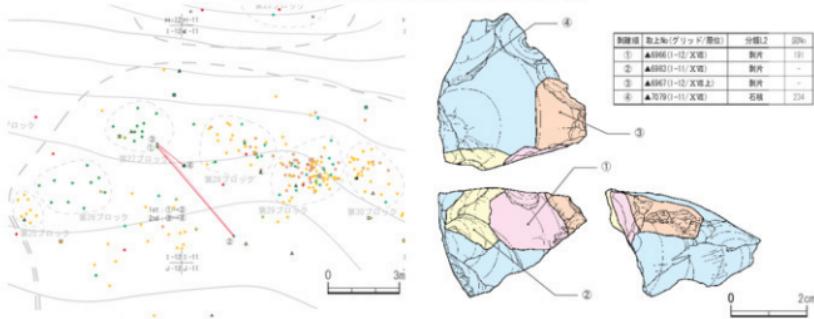
が施されるが、目的とした器種は明らかでない。

接合資料No. 3(第255図) [SH1A]

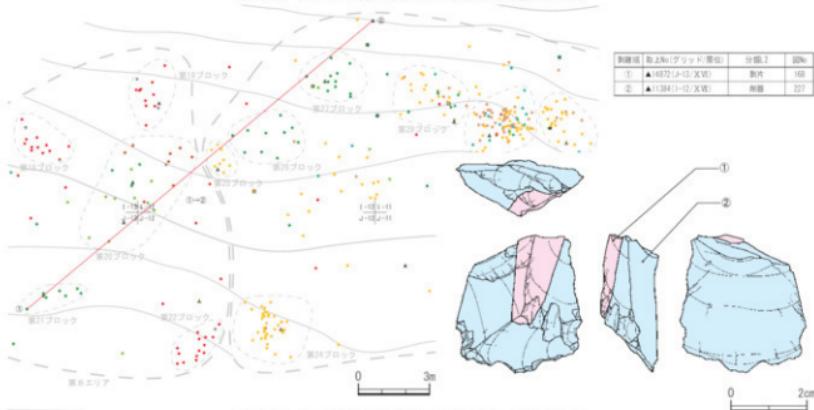
剥片尖頭器のリダクションを示す資料である。腹面からの刃済し加工を行っている途中で三分割以上に破断したものとみられ、その後、どちらの破断面にも調整が加えられ、②はドリルと再生している。



第264図 第I文化層接合資料No.12実測図及び接合状況図



第265図 第I文化層接合資料No.13実測図及び接合状況図



第266図 第I文化層接合資料No.14実測図及び接合状況図

接合資料No. 4(第256図) [SH1A]

中心部からの加撃で折断されている。

折断された縦長剥片の接合資料である。同一打面からの連続した縦長剥片採取の際に得られた剥片と思われるが、背面

接合資料No. 5(第257図) [SH]

二側縁加工ナイフ形石器製作過程でのリダクションを示す



第267図 第1文化層接合資料No. 15実測図及び接合状況図

資料である。縦長剥片の側縁部の刃済し加工段階で、節理に沿って破壊したものと思われる。②は破壊後、先端部に調整剥離を加え削器として再生している。

接合資料No. 6 (第258図) [SHIA]

縦状剥離状の剥片の接合資料である。剥片の下縁を打面にして連続剥離を行っているが、底面は偶発的な破壊の可能性もある。どの剥片も剥離後の調整はみられない。

接合資料No. 7 (第259図) [SHIA]

円錐の平滑な縦面を打面にした石核の接合資料である。①は初期の段階の剥離による剥片であり、それ以降の剥片剥離作業を続けるうちに剥離が伸びなくなつたため、廃棄されたと思われる。

接合資料No. 8 (第260図) [SH3B]

先行する剥片①と二次加工痕剥片②の接合資料である。平坦打面の石核から剥ぎ出された縦長剥片である。②の二次加工剥片は、ナイフ形石器あるいは剥片尖頭器を目指した二次加工痕が両側縁に残されているが、先端部の欠落で放棄したと思われる。

接合資料No. 9 (第261図) [SHIA]

切断された縦長剥片の接合資料である。背面に、打点を上下に移しながら連結して縦長剥片を得ていた痕跡を残す。切斷面から、節理に圧力がかかる結果の破壊と考えられる。

接合資料No. 10 (第262図) [OB2B]

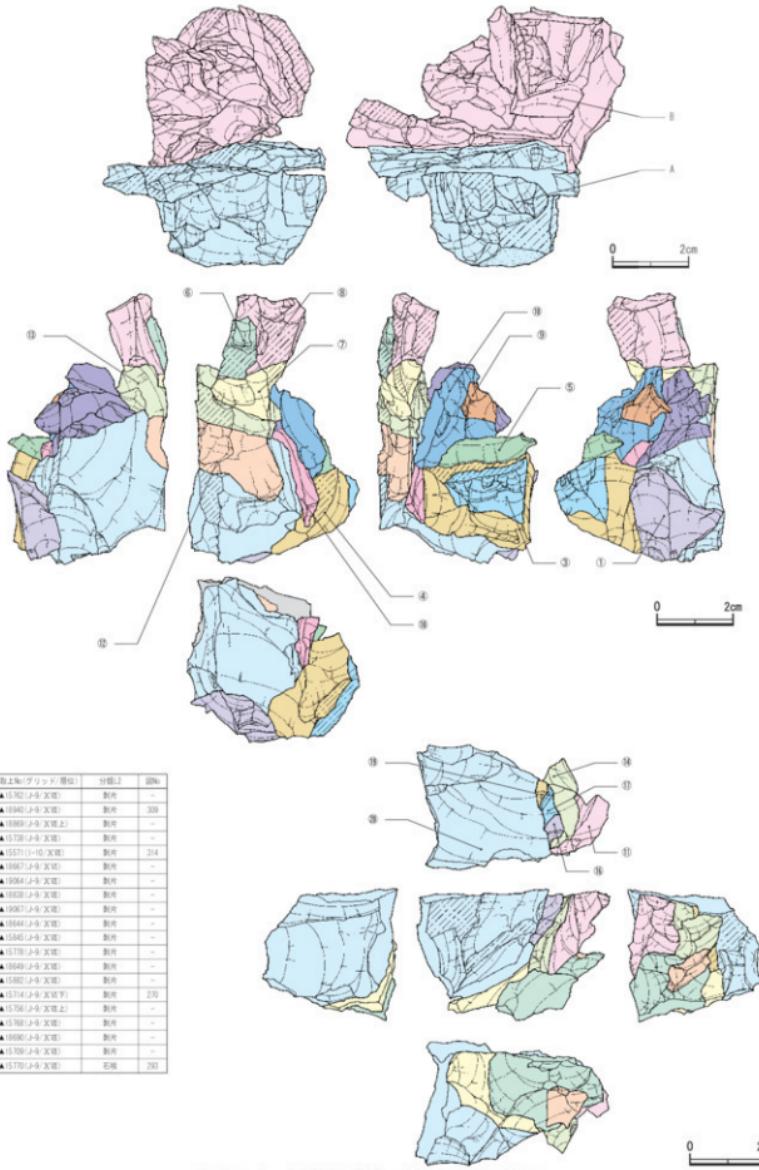
平坦な縦面を打面にした石核と剥片の接合資料である。素材は不純物を多く含む黒曜石である。①→(②+③)と連続剥離しているが、そのうち(②+③)は腹面からの圧力で折断されている。④は晶子のため剥離が伸びていない。その後も剥片剥離は行われているが、良好な剥片は得られなかったとみられる。

接合資料No. 11 (第263図) [OB2C]

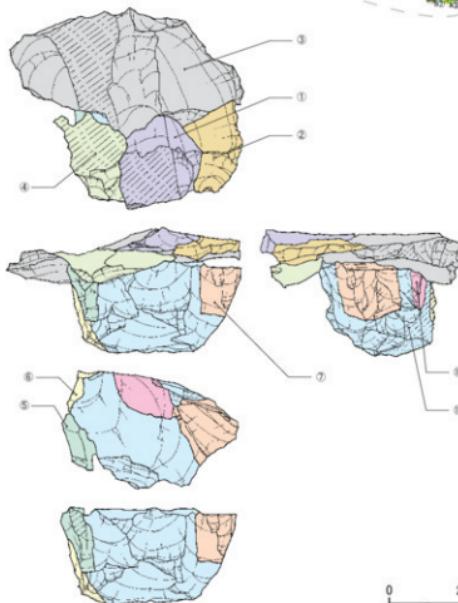
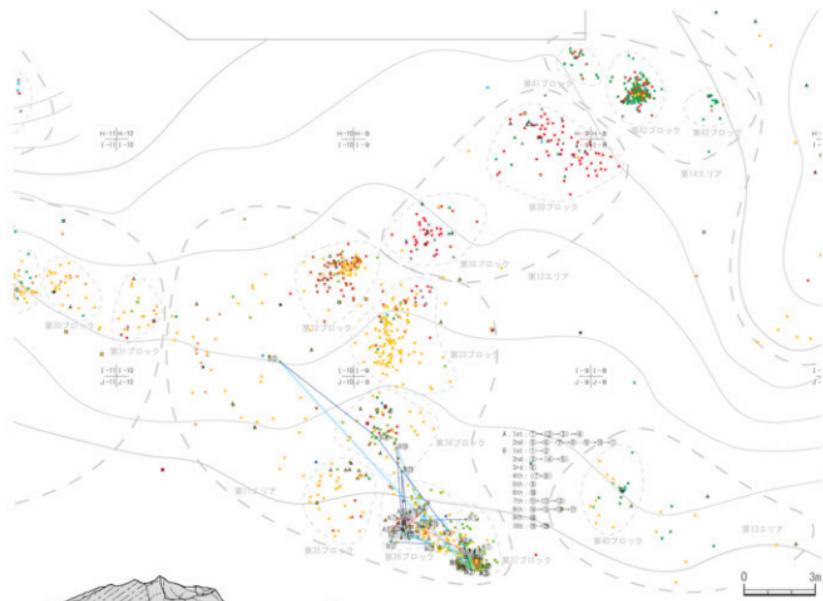
剥片素材の石核に剥片剥離を行った接合資料である。①は③の背面を打面として剥離されているのに対して②は腹面の下部を打面に剥離され、背面からの圧力で折断された部分である。折断が偶発的なものであるかは不明である。

接合資料No. 12 (第264図) [SH2B]

剥片素材の石核の平坦面を打面に①を剥離しているが、それ以前は、上方からの連続剥離が行われていたことが窺え

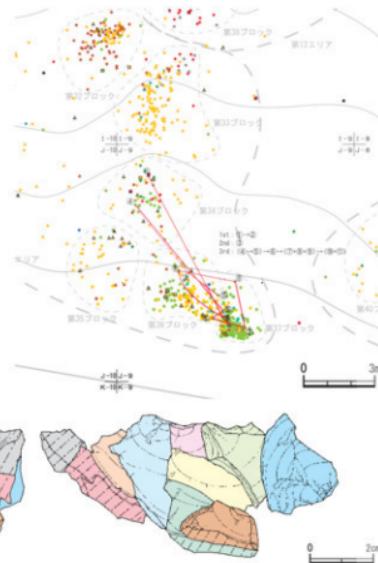


第268図 第I文化層接合資料No. 16実測図及び接合状況図



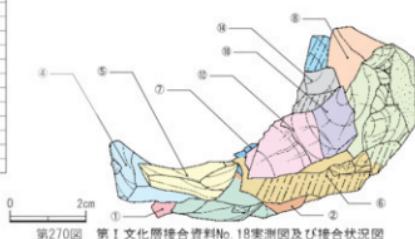
新規番	取上地(グリッド/標位)	分類	面積
A1	▲1870(ジナフX面)	割れ	-
A2	▲1880(ジナフX面)	割れ	305
A3	▲1890(ジナフX面)	割れ	-
A4	▲1900(ジナフX面)	割れ	-
A5	▲1910(ジナフX面)	割れ	-
A6	▲1970(ジナフX面)	割れ	-
A7	▲1970(ジナフX面)	割れ	-
A8	▲1970(ジナフX面)	割れ	-
A9	▲1970(ジナフX面)	割れ	-
A10	▲1980(ジナフX面)	石組	292

剖面名	地図上No./グリッド・層位	分類	回数
①	▲1886(J-9)実測上	剖面	-
②	▲1886(J-9)実測	剖面	-
④	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑤	▲1887(J-9)実測	剖面	-
⑥	▲1888(J-9)実測	剖面	-
⑦	▲1889(J-9)実測	剖面	-
⑧	▲1890(J-9)実測	剖面	306
⑨	▲1891(J-9)実測	剖面	310
⑩	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑪	▲1905(J-9)実測	剖面	-
⑫	▲1553(J-9)実測	剖面	-

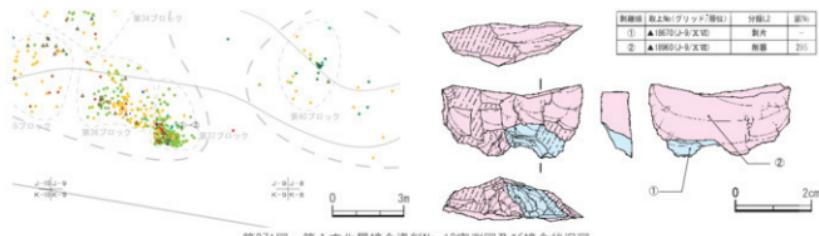


第269図 第I 文化層接合資料No. 17実測図及び接合状況図

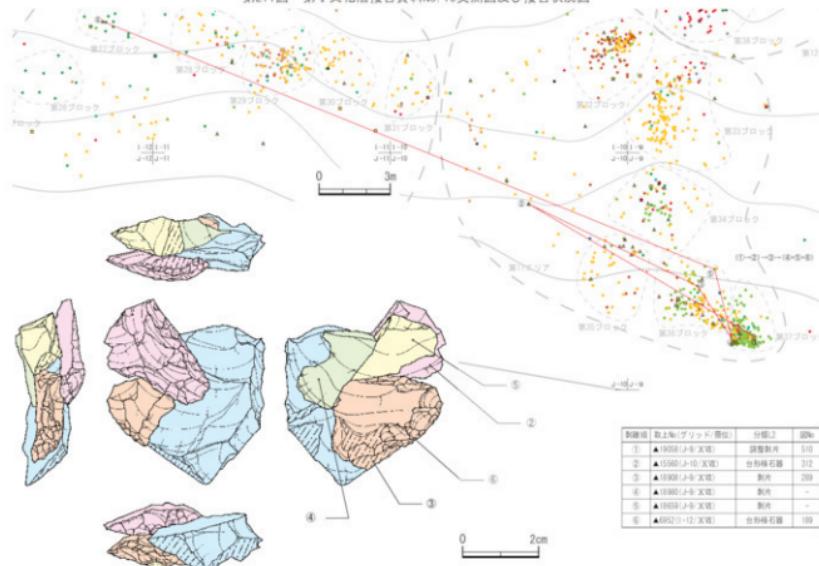
剖面名	地図上No./グリッド・層位	分類	回数
①	▲1898(J-9)実測上	剖面	-
②	▲1898(J-9)実測	剖面	-
③	▲1570(J-9)実測	剖面	-
④	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑤	▲1900(J-9)実測	剖面	-
⑥	▲1575(J-9)実測	剖面	-
⑦	▲1580(J-9)実測	剖面	-
⑧	▲1898(J-9)実測上	剖面	-
⑨	▲1898(J-9)実測	剖面	221
⑩	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑪	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑫	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑬	▲1570(J-9)実測	剖面	-
⑭	▲1570(J-9)実測	剖面	-



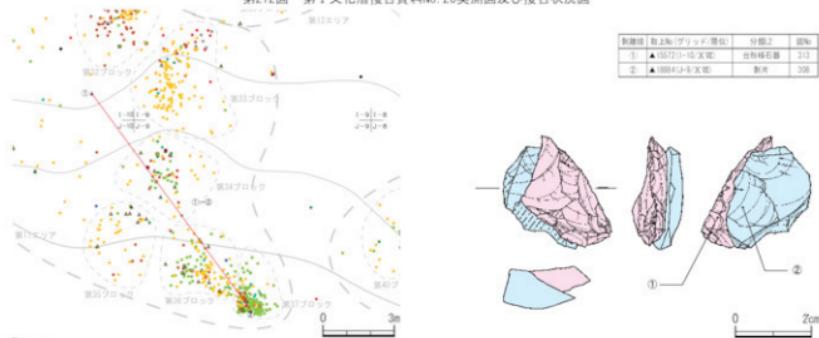
第270図 第I 文化層接合資料No. 18実測図及び接合状況図



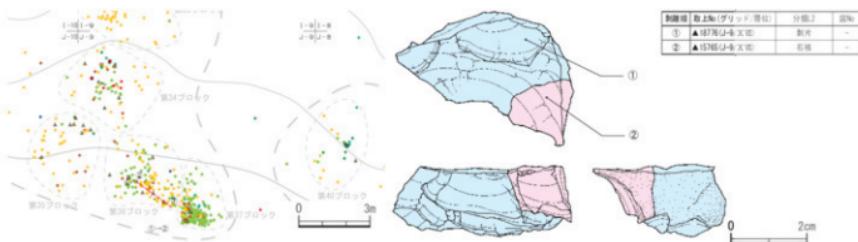
第271図 第1文化層接合資料No.19実測図及び接合状況図



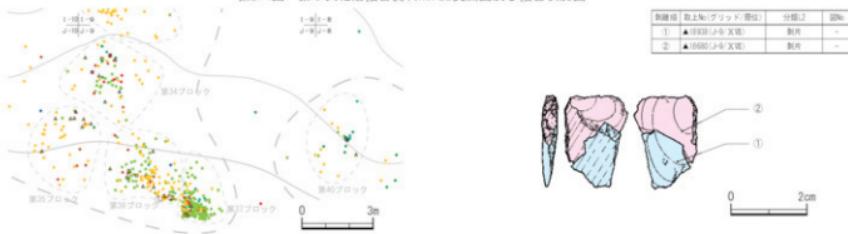
第272図 第1文化層接合資料No.20実測図及び接合状況図



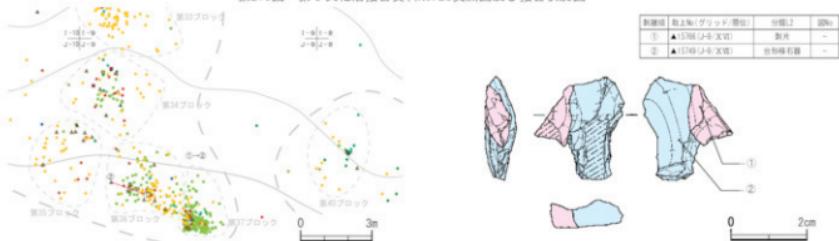
第273図 第1文化層接合資料No.21実測図及び接合状況図



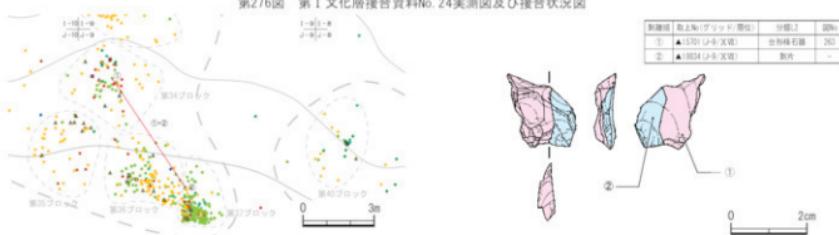
第274図 第I文化層接合資料No. 22実測図及び接合状況図



第275図 第I文化層接合資料No. 23実測図及び接合状況図



第276図 第I文化層接合資料No. 24実測図及び接合状況図



第277図 第I文化層接合資料No. 25実測図及び接合状況図

る。①は作業面再生剥片の可能性もあるが、それ以後の剥片剥離は行われていない。

接合資料No. 13(第265図) [SH1C]

打面転移を繰り返した石核の接合資料である。①・②の作業面を打面に移して③を剥離している。剥片はほぼ同じ形状で先行の剥離痕もそれに等しいことから、横広不定形剥片獲

得を目的とした一連の剥片剥離作業の過程といえる。

接合資料No. 14(第266図) [SH1A]

削器②と先行する剥片①の接合資料である。

接合資料No. 15(第267図) [SH1C]

削器と剥片の接合資料である。2点は、①が先行した剥離で②が後続する。②の打面は平坦面で石核素材の分割面とみ